

社会デザイン学特殊研究1

Special Study:Social Design 1
(社会学原論)

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM101
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、社会学の基礎を修得することを目標に講義を行う。具体的には、①社会学の基本的な理論や概念を理解する、②社会学の多様な研究分野の概要を知る、③社会学の視座を用いて具体的な社会現象を捉えることができるようになる、の三点の目標に受講者が到達することを目指す。

The aims of this course are for students to master the foundations of sociology. Specifically, the aim is that students reach three goals: 1) understanding the basic theories and concepts of sociology, 2) obtaining overviews of various research fields in sociology, and 3) becoming able to grasp concrete social phenomena from the viewpoint of sociology.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、以下の三段階のステップを踏む。まず、M・ヴェーバーやE・デュルケームの古典理論や、役割や権力といった基本概念について説明する。次に、メディアや都市、ジェンダー論など社会学の各分野を紹介する。最後に、リスクや公共性といったいくつかのキー概念を通して、受講生とともに現代や未来の社会について議論・構想する。なお、授業は主に講義形式で行うが、適宜、グループワークなど実習の形式も取り入れる。

This course is divided into the following three steps: (1) explain the classical theories of M. Weber and E. Durkheim, and basic concepts such as role and power; (2) introduce each field of sociology, such as media, city, and gender; and (3) discuss present and future society with students through some key concepts, such as risk and publicness. The course format is mainly lecture, but as appropriate, incorporates practical training such as group work.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:社会学とは何か
- 【2】:グループワーク①——社会のイメージを描く
- 【3】:社会学前史
- 【4】:ヴェーバーとデュルケームの社会学
- 【5】:ジンメルと相互作用論
- 【6】:自己とアイデンティティ
- 【7】:権力
- 【8】:ジェンダー
- 【9】:文化と再生産
- 【10】:都市と階級
- 【11】:メディア論の基礎
- 【12】:グループワーク②——「より良い社会」について考える

【13】:リスクと現代社会

【14】:公共性とコミュニケーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

特に自らが関心を持った回のテーマについては、関連書籍を調べるなどして、理解を深めておくが良い。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内で指示する提出物(リアクションペーパーなど):40%

テキスト / Textbooks

資料を授業時に毎回配布する。

参考文献 / Readings

奥井智之 社会学 第2版 東京大学出版会 2014 9784130520256

奥井智之 社会学の歴史 東京大学出版会 2010 9784130520232

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究3

Special Study:Social Design 3
(自然科学の方法)

大熊 玄(OKUMA GEN)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM103
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

(1)「自然」に関する“哲学的”文章を読み、多様な「自然」についての基礎知識と思考方法を身につけること。(2)各々の思想について簡単に説明・批評ができるようになること。また、(3)それらを援用または批判することで、自らの問題意識に合わせた説得力のある意見を述べる技能を身につけること。

(1) To acquire basic knowledge and thinking about various types of “shizen(nature)” by reading “philosophical” texts on “shizen(nature)”. (2) To become able to briefly explain and comment on each thought. Also, (3) To acquire the skills to express persuasive opinions in line with the student’s own awareness of problems by using or criticizing other theories on “shizen(nature)”.

授業の内容 / Course Contents

私たちの社会は、人と人との関わりだけでなく、人と自然との関わりの中かで成り立っていると言える。しかし、そもそも自然は、人と「と」で結ばれるような「別の何か」なのだろうか。自然を「人とは別の利用対象や周囲環境」とみなす前提それ自体を検討する必要はないだろうか。自然は、人を含めた生物が生活する「居場所」でもあり、あるいは人を含むすべてであるかもしれない。授業を通してさまざまな視点による「自然」を学び、講師および他の参加者の考えも検討することで、人間と現代社会について考える。

学生は、事前に指定の文章を読み、授業内で講師による解説を聞いて質疑・討議を行い、授業後に簡単なコメントを書く。そのコメントを次回の授業でフィードバックし、参加者全員で共有することで、授業を、循環する複方向型の「対話の場」、「知的探求の共同体」としたい。

It can be said that our society is made up not only of human-human relationships but also of human-nature relationships. But is nature, in the first place, “something else” that connects “with” people? Isn’t it necessary to consider the premise itself that nature is “a different object for use or the surrounding environment”? Nature is also the “place to live” where living things including people live, or it may be everything including people. Students will learn about “nature” from various viewpoints through the classes and think about human beings and modern society by examining the thoughts of the lecturer and other participants.

Students must read the designated texts in advance, listen to the commentary by the lecturer in the classes, ask questions and debate, and write brief comments after the classes. By feeding back the comments in the next class and sharing them with all the participants, we hope to make the class a multi-directional and circulatory “place of dialogue” and “community of intellectual inquiry”.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 星野道夫／本当の野生
- 【3】: 寺田寅彦／天災と日本人
- 【4】: 桑子敏雄／原生自然と空間の履歴
- 【5】: アルド・レオポルド／環境倫理(ランドエシックス)
- 【6】: 討議1
- 【7】: 日高敏隆／ユクスキュルの環世界・イリュージョン
- 【8】: 上野誠／日本人の聖なる自然
- 【9】: 鈴木大拙／機心と自然
- 【10】: 竹内整一／「おのずから」と「みずから」のあわい
- 【11】: 討議2
- 【12】: 西岡常一／木のいのち木のころ
- 【13】: 内山節／自然と人間の哲学
- 【14】: 山尾三省／アニミズムという希望

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習／指定した文章を読んでおき、自らの興味・疑問を整理しておく。

復習／授業を振り返り、コメント(客観＋主観)を送る。

次回の授業で扱う箇所についての事前学修、授業後に送付するコメント作成、最終の授業内レポート作成、その他授業内容に関わる自学等によって、授業外に全体で計 60 時間(各回平均4時間)以上の学修を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回の出席とコメント:70% 授業内レポート(最終コメント):30%

テキスト / Textbooks

CanvasLMS 上にアップする。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

対面参加者も、zoom 接続可能な機器(ノートパソコン・タブレット)持参が望ましい。

その他 / Others

第一回目授業「ガイダンス」にて、授業の方針・進め方を説明します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究6

Special Study:Social Design 6
(社会デザイン学への招待)

中村 陽一 (NAKAMURA YOUICHI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM106
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

この科目は、本研究科が一貫して追究し続けてきた社会デザイン(学)の思想的・学問的含意から実践的な社会技術としてのありようまで、分野・領域横断的に提示し、その見取図を描いていこうとするものである。社会デザイン(学)の世界を受講者とともに「回遊」することをめざしたい。

This course is presented across fields and disciplines from the philosophical and academic implications of social design (studies) that the Graduate School has consistently pursued, to the state as a practical social technology, and attempts to draw a sketch of this field. We would like to aim at "walking" with students in the world of social design (studies).

授業の内容 / Course Contents

「野生の社会デザイン(学)」を探究したい。ちょっといいアイデアといった social design が流行り出すなか、ソリューション(問題解決)を志向する社会デザインから、さらには構造的なイノベーション(社会を変える)を実現する大文字の Social Design へと進むためにどうしても必要な姿勢だと考えるからである。他者と出会い、交信し、その関係性のなかで当事者性にも出くわす。そんな更新作業(対象化)の連続こそダイアログとしてのデザインであり、デザインをデザインし直すこと＝野生の社会デザインなのではないだろうか。

We want to explore "wild social design (studies)". Amid the emergence of social design as a somewhat good idea, this is because we believe that this attitude is necessary to move from social design for solutions (problem-solving) to upper case Social Design for realizing structural innovation (changing society). Meet other people, communicate with them, and in these relationships also come across the parties. Such a series of renewal work (targeting) is design as a dialog, and is it not redesigning the design = wild social design?

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:なぜ社会デザインなのかー映像『みんなのための資本論』から、「知の回遊」へ向け問題関心を共有してみる
- 【2】:社会デザイン(学)とはー社会課題に取り組むくデザイン>
- 【3】:社会デザイン(学)を考える 4 冊①『姿勢としてのデザイナー「デザイン」が変革の主体となるとき』
- 【4】:社会デザイン(学)を考える 4 冊②『世界を変えるデザイン 2 スラムに学ぶ生活空間のイノベーション』
- 【5】:社会デザイン(学)を考える 4 冊③『グラフィックデザインで世界を変える』
- 【6】:野生の社会デザイン(学)を考える 4 冊④『ワーク・シフト 孤独と貧困から自由になる働き方の未来図<2025>』
- 【7】:社会デザイン曼荼羅①ネットワーキング・ソーシャルキャピタル・サードプレイスー一人では背負えない課題を皆でシェアする
- 【8】:社会デザイン曼荼羅②NPO/NGOー社会に影響を与える市民活動の組織デザイン
- 【9】:社会デザイン曼荼羅③ソーシャルビジネス/コミュニティビジネスー社会と向き合うビジネスのデザイン

- 【10】:社会デザイン 曼荼羅④社会イノベーターとの共感・信頼・協働が人びとの行動を変える
 【11】:社会学の<デザインと方法>への旅①SOCIOLOGY:ACADEMIC OUTLINEー社会デザインの物語としての「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」(M・ウェーバー)
 【12】:社会学の<デザインと方法>への旅②大衆社会論(E・フロム、D・リースマン)、<1968年>と新しい社会運動論
 【13】:社会学の<デザインと方法>への旅③新たな空間デザインと社会デザインービルディングタイプ学入門
 【14】:21.5世紀の社会デザインへ向けて:「知の回遊」から well-being な関係性の編み直しとパーパスの探究へ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、毎回の授業終了時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% 授業と討議への参加:20%

テキスト / Textbooks

アリス・ローソーン 『姿勢としてのデザイン』 フィルムアート社 2019 9784845918324
 シンシア・スミス編 『世界を変えるデザイン 2 スラムに学ぶ生活空間のイノベーション』 英治出版 2015
 9784862761705
 アンドリュー・シー 『グラフィックデザインで世界を変える』 ビー・エヌ・エヌ新社 2013 9784861008542
 リンダ・グラットン 『ワーク・シフト 孤独と貧困から自由になる働き方の未来図<2025>』 プレジデント社 2012
 9784833420167
 中村陽一監修 『社会デザインをひらく』 ミネルヴァ書房 2024 9784623097852

参考文献 / Readings

レスリー・R・クラッチフィールド 『世界を変える偉大なNPOの条件ー圧倒的な影響力を発揮している組織が実践する6つの原則』 ダイアモンド社 2012 9784478007280
 ロバート・D・パットナム 『孤独なボウリングー米国コミュニティの崩壊と再生』 柏書房 2006 9784760129034
 レイ・オルデンバーク 『サードプレイスーコミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』 みすず書房 2013
 9784622077800
 中村陽一他編著 『21.5世紀の社会と空間のデザイナーー変容するビルディングタイプ』 誠文堂新光社 2022
 9784416521014

授業の性格上多岐にわたるため、他は授業内および毎回の準備学習指示時に紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

社会デザインは広範なテーマを含むため、幅広い分野への多様な知的好奇心を持って授業に臨むことが求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料配布、課題提示などに「Canvas LMS」を使用するので、授業にPCを持参すること。

その他 / Others

関連する公開講演会、研究会、自主ゼミ等について、授業で随時紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究7

Special Study:Social Design 7
(人間の安全保障と社会デザイン)

長 有紀枝 (OSA YUKIE)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM107
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

社会をデザインする試みは、多種多様である。構成員の一部を排除、あるいは破壊してきたのも社会デザインである。本授業では社会をデザインする歴史的あるいは現代的取り組み・試みを、「人間の安全保障」の視点から分析し、設計者・企図者にとっての成功例・失敗例は構成員にとって何を意味するのか、検討を加えながら、社会デザインについて、理解を深めることを目的とする。

Social design projects are multifaceted. This course aims to deepen understanding of social design by analysing historical and contemporary attempts to design society from the perspective of 'human security'.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、まず、分析の切り口とする人間の安全保障概念について、その成り立ちや背景、概念そのものについて検討を加える。次に、1) 国家、2) 国際社会、3) 市民社会、4) 企業や財団、といったさまざまな主体による社会デザインの取り組みを紹介し、人間の安全保障の視点から検討を加えていく。

授業後半では、受講生による社会デザイン事例の発表を予定している。

The concept of human security, the basis for the analysis, will first be examined in terms of its origins, background and the concept itself. Next, social design initiatives by various actors, including 1) the state, 2) the international society, 3) civil society, and 4) corporations and foundations, will be presented and examined from the perspective of human security.

In the second half of the course, students will present case studies of social design.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 導入: 本講座における社会デザインの射程

社会デザインの失敗学(あるいは成功事例)としての紛争

【2】: 人間の安全保障概念とは何か: その成り立ちと背景

【3】: 国際社会の社会デザイン: 国際連盟と戦間期の不戦の取り組み

【4】: 国際社会の社会デザイン: 第2次世界大戦と国際連合憲章

【5】: 国家による社会デザイン: ジェノサイドや大量殺害、強制移送、強制移住、強制労働という社会デザイン(アルメニア人虐殺、ホロコースト、スターリンの粛清、毛沢東と文化大革命、ポルポト派によるカンボジア支配)

【6】: 国家による社会デザイン: 大規模人権侵害、軍部の独走、戦時下の統制(日本、ナチスドイツ、ミャンマー、アルゼンチンほか)

【7】: ノーベル財団による社会デザイン: ノーベル平和賞と社会デザイン

【8】: 企業や財団にみる社会デザイン

- 【9】: 市民社会による社会デザイン(軍縮):核兵器、地雷、クラスター爆弾の(被害の)ない世界
- 【10】: 市民社会による社会デザイン(人権):国際刑事裁判所の設立、貧困、人権侵害への対応
- 【11】:その他の主体による社会デザイン:行政による取り組み、社会起業家、規範起業家としての市民社会
- 【12】:学生発表
- 【13】:学生発表
- 【14】:学生発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストおよび配布資料の講読

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%
 平常点割合 :50% 授業への積極的参加:25% 授業内での発表:25%

テキスト / Textbooks

長 有紀枝 増補改訂版『入門 人間の安全保障 恐怖と欠乏からの自由を求めて』 中央公論新社 2021
 9784121921956
 石田淳・長 有紀枝・山田哲也編 『国際平和論―驚異の認識と対応の模索』 有斐閣 2024 9784641149533

参考文献 / Readings

東大作・峯陽一他 『人間の安全保障と平和構築』 日本評論社 2017
 野田真理他編 『SDGs を問い直す: ポスト/ウィズ・コロナと人間の安全保障』 法律文化社 2023

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究14

Special Study:Social Design 14
(社会デザイン学の可能性1)

川本 彩花(KAWAMOTO AYAKA)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM114
授業形態	オンデマンド(全回オンデマンド)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	SDS5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

21 世紀に入り、環境や地域紛争など前世紀からの課題に加えて、新しい形の貧困や社会的排除(social exclusion)が大きな課題となっている。その解決のため、政府行政・民間企業・NGO/NPO 等の組織はそれぞれどのような役割を担えるのか。また、近年、重視されることの多いセクターの垣根を越えた「協働」は、どこまでの有効性と可能性を期待できるのか。いずれにしても、その際、従来の発想と方法論を超え、社会の仕組みや人々の参画の仕方を変革し具体的に実現していくことが必要になってくる。そのような思考と実践を「社会デザイン」と呼びたい。

この科目は、本研究科が一貫して追究し続けてきた社会デザイン(学)に関し、その思想的含意から実践的な社会技術としてのありように至るまで、分野・領域横断的に明示することで、まずはその見取り図を描いていこうとするものである。それにより、社会デザイン(学)の可能性を受講者とともに切り拓くことを目指したい。

As we enter the 21st century, new forms of poverty and social exclusion have become major issues in addition to the issues from the last century such as the environment and regional conflicts. What kind of role can each organization such as government, private enterprises, and NGOs/NPOs take to solve these problems? Also, what kind of effectiveness and potential can be expected from "collaboration" that crosses the boundaries of sectors that is often emphasized in recent years? In any case, it will be necessary to go beyond conventional ideas and methodologies and reform and specifically realize social mechanisms and ways for people to participate. I would like to call such thinking and practice "social design".

This course attempts to draw a sketch of social design (studies) that the Graduate School has consistently pursued by presenting the philosophical and academic implications across fields and disciplines. In this way, we aim to open up the possibilities of social design (studies) together with the students.

授業の内容 / Course Contents

本研究科の専任講師によるオムニバス講義である。各回で扱われるテーマは、社会デザイン(学)とは何か、その思想的背景と意味、組織・ネットワーク・マネジメント、コミュニティデザイン、危機管理、NGO/NPO、平和(学)、国際関係、CSR、社会貢献、ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス・社会的企業、社会的排除と包摂、アートと社会デザイン(インクルーシブデザイン)、社会調査等多岐にわたり、対象となる事業や活動の範囲・分野も多様なものとなる。

本科目は研究科で学ぶ院生のための社会デザイン(学)案内であり、個別具体的な研究分野とテーマを選択していく際の導入科目である。それと同時に、本科目は社会デザインを考えるためにいかに多様で具体的な分析資料(データ)を加えていくのかを検討する科目としても重要な意味をもつ。以上、本科目は、今後の研究活動のなかで社会デザイン(学)の可能性をどのように拓いていくのか、その方法論とともに考え抜く契機を提供するための内容で計画されている。

This is the omnibus lectures given by the department's faculty members. Each class will cover a wide range of themes such as: What is social design (studies)?, its philosophical background and meaning, organization/network management,

community design, crisis management, NGOs/NPOs, peace (studies), international relations, CSR, social contribution, social business, community business, social enterprises, social exclusion and inclusion, art and social design (inclusive design), and social research, and the scope and fields of target businesses and activities will also be diverse.

This course is social design (studies) guidance for graduate students studying at the Graduate School, and is an introductory course for selecting specific individual research fields and themes. At the same time, this course also has an important meaning of considering how to add as many various specific analysis materials (data) as possible to think about social design. As described above, this course is planned to provide an opportunity to consider how to open up the possibilities of social design (studies) in future research activities.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: はじめに
- 【2】: グローバルリスクガバナンスと社会デザイン学 1
- 【3】: コミュニティデザイン学と社会デザイン学 1
- 【4】: 社会組織理論と社会デザイン学 1
- 【5】: グローバルリスクガバナンスと社会デザイン学 2
- 【6】: コミュニティデザイン学と社会デザイン学 2
- 【7】: 社会組織理論と社会デザイン学 2
- 【8】: グローバルリスクガバナンスと社会デザイン学 3
- 【9】: コミュニティデザイン学と社会デザイン学 3
- 【10】: 社会組織理論と社会デザイン学 3
- 【11】: グローバルリスクガバナンスと社会デザイン学 4
- 【12】: コミュニティデザイン学と社会デザイン学 4
- 【13】: 社会組織理論と社会デザイン学 4
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、授業の終わりに指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業時の質疑への参加:30%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

使用しない。

その他 / Others

平常は、毎回のオンデマンド動画を視聴し、コメントすること。期末には、重要だと思った講義に関するレポート課題をこなすこと。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究15

Special Study:Social Design 15
(宗教と社会デザイン)

大熊 玄(OKUMA GEN)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM115
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

(1) マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を通して、宗教と社会・個人にかかわる基礎的な知識や思考力・読解力を身につけること。(2) ウェーバーの思想を「社会デザイン」に結合するべく、フロムや فرانクルの文章を読み、それらについて客観的な説明・批評ができるようになること。(3) 上記の二点をふまえ、学生自身が主体的に説得力のある意見を述べる技能を身につけること。

(1) To acquire basic knowledge, thinking and reading skills related to religion, society and individuals through Max Weber's "The Protestant Ethic and the Spirit of Capitalism". (2) In order to combine Weber's ideas with "social design", read the texts of Fromm and Frankl and become able to objectively explain and critique them. (3) Based on the above two points, students should acquire the skills to express their opinions independently and persuasively.

授業の内容 / Course Contents

いわゆる「宗教」が、社会とどのように関わっているのか。講義全体は、ガイダンスをのぞき、おおまかに前半と後半に分かれる。前半は、宗教と社会について考える上で必須と言えるウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』に関する解説書を通して、やや難解な文章の読解方法を学びつつ、単一テーマについて複数の文献を重ね合わせながら読む手法も学ぶ。後半は、そのつながりから、フロム、フランクルの文章を読み、宗教を通した個人と社会のあり方について考える。

学生は、事前に指定の文章を読み、授業内で講師による解説を聞いて質疑・討議を行い、授業後に簡単なコメントを書く。そのコメントを次の授業でフィードバックし、参加者全員で共有することで、授業を、循環する複方向型の「対話の場」、「知的探求の共同体」としたい。

How is so-called "religion" related to society? The whole course will be divided into the first half and the second half roughly except for the guidance. In the first half, students will learn the method of reading multiple sources on a single subject while learning how to read somewhat difficult text through the explanatory book on Weber's "The Protestant Ethic and the Spirit of Capitalism" which can be said to be essential in thinking about religion and society. In the second half, leading on from this, students will read the texts of Fromm and Frankl, and think about the ideal state of individuals and society through religion.

Students must read the designated texts in advance, listen to the commentary by the lecturer in the classes, ask questions and dialogue, and write brief comments after the classes. By feeding back the comments in the next class and sharing them with all the participants, we hope to make the class a multi-directional and circulatory "place of dialogue" and "community of intellectual inquiry".

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス、見田宗介『社会学入門』a — 関係の絶対性
 【2】: 見田宗介『社会学入門』b — 魔(呪術・魅力)のない世界
 【3】: 大塚久雄『社会科学における人間』a — 資本主義の精神
 【4】: 大塚久雄『社会科学における人間』b — プロテスタンティズムの倫理
 【5】: 討議
 【6】: 仲正昌樹『マックス・ウェーバーを読む』a — 宗教的個人と社会的労働
 【7】: 仲正昌樹『マックス・ウェーバーを読む』b — 神の摂理と資本の蓄積
 【8】: 山之内靖『マックス・ヴェーバー入門』a — 非合理性による合理性
 【9】: 山之内靖『マックス・ヴェーバー入門』b — 不連続性と意図せざる結果
 【10】: 討議
 【11】: 安田一郎『フロム』a — 自由からの逃走、権威主義とナチズム
 【12】: 安田一郎『フロム』b — パーソナリティと権威、人道主義的宗教
 【13】: フランクル『夜と霧』a — 絶望との戦い
 【14】: フランクル『夜と霧』b — 不正をする権利

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習／指定した文章を読んでおき、自らの興味・疑問を整理しておく。

復習／授業を振り返り、コメントメール(客観＋主観)を送る。

次回の授業で扱う箇所についての事前学修、授業後に送付するコメント作成、最終の授業内レポート作成、その他授業内容に関わる自学等によって、授業外に全体で計 60 時間(各回平均4時間)以上の学修を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回の出席とコメント:70% 授業内レポート(最終コメント):30%

テキスト / Textbooks

CanvasLMS 上にアップする。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

人文系の比較的難解(硬質)な文章を読解し、その内容に関連して自ら思考し、自身の意見を述べる能力。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

対面参加者も、zoom 接続可能な機器(ノートパソコン・タブレット)持参が望ましい。

その他 / Others

第一回目授業「ガイダンス」にて、授業の方針・進め方を説明します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究17

Special Study:Social Design 17
(リスク学原論)

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM117
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

社会デザインの視点から、リスク学に隣接する哲学・思想、倫理学、社会疫学、障害学、社会学、歴史学、行動経済学、防災学に関する理論や知見、議論の状況について俯瞰的に学び、現代社会を取り巻くリスクの分析方法や新たなリスクガバナンスのフレームワークについて考究する。

The aim of this course is to understand theories in philosophy, ethics, social epidemiology, disability studies, sociology, history studies, behavioral economics, disaster prevention science, related to risk from the perspective of social design in order to build a new risk governance framework.

授業の内容 / Course Contents

授業では、政治・公共・科学・法哲学、生命・医療・公衆衛生倫理、社会疫学、障害学、社会学、歴史学、行動経済学、防災学に関する文献を講読し、受講生による課題の発表と討論を通じて、現代社会のリスクに関する事件や社会的な論争の事例を分析する。

In class, we will read literature related to political science, public philosophy, legal philosophy, bioethics, medical ethics, public health ethics, social epidemiology, disability studies, sociology, behavioral economics, history, disaster prevention science and will discuss social issues of risk.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション:リスク学と社会デザイン

リスク学:リスク学理論

【2】:社会学:リスク社会論

歴史学:歴史的事実、歴史修正主義、半ポリティカルコレクトネス

【3】:政治哲学・公共哲学・法哲学

功利主義

【4】:防災学:自己責任、モラルハザード、パターンナリズム

【5】:倫理学:生命・医療・福祉(1)

・自己決定権、卵子凍結の社会的適用、AID(提供精子を用いた人工授精)、出自を知る権利

・デザインベビー、ドナーベビ、代理母ツーリズム

・出生前診断と堕胎、臓器移植

【6】:倫理学:生命・医療・福祉(2)

・命の選択、命の価値、死ぬ権利

・安楽死、尊厳死、自殺ツアー、ACP

- 【7】:倫理学:生命・医療・福祉(3)
 ・成年後見、意思決定支援と代行決定、権利擁護
 ・無益な治療;障がいのある生、すべり坂、パーソン論、優生思想
- 【8】:災害トリアージ、パンデミック下の医療資源配分
- 【9】:社会疫学:健康・命の格差
- 【10】:行動経済学:レバタリアパターナリズム、ナッジ
- 【11】:科学哲学・環境哲学
- 【12】:発表と討論(1)
- 【13】:発表と討論(2)
- 【14】:総括と総合討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド ^(ハワボ等) の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各授業前に Canvas LMS にアップするレジュメと参考文献に基づき予習して授業に臨むことが望ましい。参考文献に利用し発展的に学習することを期待する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的参加:80% 授業内小レポート:20%

テキスト / Textbooks

なし。授業内にレジュメ、資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究18

Special Study:Social Design 18
(論文作成法 I)

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM118
授業形態	オンデマンド(全回オンデマンド)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	SDS5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2 年次以上対象。2 年次以上で「社会デザイン学特殊研究18」の履修を希望する場合は、「VM118 社会デザイン学特殊研究18」を科目コード登録により履修登録すること。1年次は「VM119 社会デザイン学特殊研究18」が自動登録されるため、各自で登録する必要はない。		

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、論文作成の基本的なプロセスを理解するとともに、優良な論文を作成する基礎を習得することを目指します。

The aims of the course are for students to understand the basic process of writing a dissertation and to acquire the basics of producing a good dissertation.

授業の内容 / Course Contents

受講生一人一人のレポート・論文作成歴を前提に、修士論文・研究報告等の執筆の基礎となる基本技能を習得してもらうために、実際に作業しながら授業を受けてもらいます。特に本授業では、研究の背景の執筆や問いの立て方、引用・参照の方法などについて重点的に取り上げます。また、論文を執筆する際に欠かせない資料となる、先行研究を検索・収集する練習も行います。なお、講義の計画・内容は受講生の希望等に沿って若干変更することもあります。

Based on each student's report and dissertation writing background, in order to have them acquire the basic skills that are the basis of writing a master's thesis or research report, etc., classes will take a practical training format. In particular, this lesson focuses on writing the background of the research, make the research question, and quoting and referencing methods. In addition, students will also practice searching for and collecting prior research, which is an essential resource for writing a dissertation. Note that the plans and content of the course may be slightly changed depending on the students' wishes.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 学術論文の構成
- 【3】: 論文の種類と収集法
- 【4】: 研究の背景の執筆・各種資料の収集
- 【5】: リサーチクエスションの立て方
- 【6】: 仮説について(仮説検証型の研究と仮説生成型の研究)
- 【7】: レジюмеを作成する
- 【8】: 先行研究の検討
- 【9】: 引用・参考の方法
- 【10】: 文献リストの作成

- 【11】: 研究方法の執筆／研究成果と図表の掲載／注・付記等の書き方
【12】: 研究倫理の重要性／生成 AI とオーサーシップ
【13】: 文章作成法①——パラグラフライティング
【14】: 文章作成法②——論理的構成を考える

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自が関心のある学術書や論文を読むことで、本授業で得た知識を確認すると良い。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指示する提出物:60% 成果報告:40%

テキスト / Textbooks

資料を授業時に毎回配布する。

参考文献 / Readings

上野千鶴子 情報生産者になる 筑摩書房 2018 9784480071675
齋藤 早苗 社会人のための文系大学院の学び方 青弓社 2022 9784787235077
阿部幸大 まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書 光文社 2024 4334103804
ほか、講義中に紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

最低限の PC 操作スキル

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC またはデスクトップ PC

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究18

Special Study:Social Design 18
(論文作成法 I)

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM119
授業形態	オンデマンド(全回オンデマンド)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	SDS5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	1 年次自動登録科目。2 年次以上で「社会デザイン学特殊研究18」の履修を希望する場合は、「VM118 社会デザイン学特殊研究18」を科目コード登録により履修登録すること。		

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、論文作成の基本的なプロセスを理解するとともに、優良な論文を作成する基礎を習得することを目指します。

The aims of the course are for students to understand the basic process of writing a dissertation and to acquire the basics of producing a good dissertation.

授業の内容 / Course Contents

受講生一人一人のレポート・論文作成歴を前提に、修士論文・研究報告等の執筆の基礎となる基本技能を習得してもらうために、実際に作業しながら授業を受けてもらいます。特に本授業では、研究の背景の執筆や問いの立て方、引用・参照の方法などについて重点的に取り上げます。また、論文を執筆する際に欠かせない資料となる、先行研究を検索・収集する練習も行います。なお、講義の計画・内容は受講生の希望等に沿って若干変更することもあります。

Based on each student's report and dissertation writing background, in order to have them acquire the basic skills that are the basis of writing a master's thesis or research report, etc., classes will take a practical training format. In particular, this lesson focuses on writing the background of the research, make the research question, and quoting and referencing methods. In addition, students will also practice searching for and collecting prior research, which is an essential resource for writing a dissertation. Note that the plans and content of the course may be slightly changed depending on the students' wishes.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 学術論文の構成
- 【3】: 論文の種類と収集法
- 【4】: 研究の背景の執筆・各種資料の収集
- 【5】: リサーチクエスションの立て方
- 【6】: 仮説について(仮説検証型の研究と仮説生成型の研究)
- 【7】: レジューメを作成する
- 【8】: 先行研究の検討
- 【9】: 引用・参考の方法
- 【10】: 文献リストの作成
- 【11】: 研究方法の執筆／研究成果と図表の掲載／注・付記等の書き方
- 【12】: 研究倫理の重要性／生成 AI とオーサーシップ

- 【13】:文章作成法①——パラグラフライティング
【14】:文章作成法②——論理的構成を考える

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自が関心のある学術書や論文を読むことで、本授業で得た知識を確認すると良い。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業内で指示する提出物:60% 成果報告:40%

テキスト / Textbooks

資料を授業時に毎回配布する。

参考文献 / Readings

上野千鶴子 情報生産者になる 筑摩書房 2018 9784480071675
齋藤 早苗 社会人のための文系大学院の学び方 青弓社 2022 9784787235077
阿部幸大 まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書 光文社 2024 4334103804
ほか、講義中に紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

最低限の PC 操作スキル

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC またはデスクトップ PC

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究20

Special Study:Social Design 20
(論文作成法Ⅱ)

川本 彩花(KAWAMOTO AYAKA)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM120
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、論文の基本的な考え方や書き方、作成の進め方について理解し、実践的な技法を習得することを目標とします。

The goal of this class is to help students understand the basic concepts, writing methods, and creation process of a thesis, and to master specific techniques.

授業の内容 / Course Contents

受講者のこれまでのレポート・論文作成経験をふまえたうえで、これからの学位論文等の作成に向けて、研究テーマの決め方から論文の完成に至るまでのプロセスについて講義します。適宜、先行研究の収集の練習や具体的な論文の講読(輪読)など、実習形式も取り入れる予定ですので、授業への積極的な参加を期待します。なお、受講者の人数等により、授業計画の内容・順序等を一部変更する場合があります。

Based on the students' past experience in writing reports and papers, the course will cover the process from deciding on a research theme to completing a dissertation in preparation for writing a dissertation or the like. The class will also incorporate practical exercises such as collecting previous research and reading specific papers as appropriate, so active participation in class is expected. Please note that the content and order of the class plan may be changed depending on the number of students, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス: 授業のねらいと進め方
- 【2】: 論文とはなにか
- 【3】: 研究テーマについて
- 【4】: 先行研究の収集・整理方法①
- 【5】: 先行研究の収集・整理方法②
- 【6】: リサーチ・クエスションについて
- 【7】: 中間総括①
- 【8】: 研究方法と資料・データ
- 【9】: 研究結果の分析・考察について: 文献講読①
- 【10】: 研究結果の分析・考察について: 文献講読②
- 【11】: 研究結果の分析・考察について: 文献講読③
- 【12】: 中間総括②
- 【13】: 論文作成におけるルールと自己点検

【14】:授業のまとめ**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各講義で指示された課題に取り組むこと。また、レジュメや配布資料等を用いて授業内容を整理・復習し、各自の論文作成に向けてさらに理解を深めておくこと(各回約 4 時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指示する提出物:60% 成果発表:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

明石芳彦『社会科学系論文の書き方』ミネルヴァ書房 2018 9784623083794

外山滋比古『思考の整理学』筑摩書房 1986 9784480020475

その他の文献は、授業内で適宜紹介します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究20

Special Study:Social Design 20
(論文作成法Ⅱ)

川本 彩花(KAWAMOTO AYAKA)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM121
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、論文の基本的な考え方や書き方、作成の進め方について理解し、実践的な技法を習得することを目標とします。

The goal of this class is to help students understand the basic concepts, writing methods, and creation process of a thesis, and to master specific techniques.

授業の内容 / Course Contents

受講者のこれまでのレポート・論文作成経験をふまえたうえで、これからの学位論文等の作成に向けて、研究テーマの決め方から論文の完成に至るまでのプロセスについて講義します。適宜、先行研究の収集の練習や具体的な論文の講読(輪読)など、実習形式も取り入れる予定ですので、授業への積極的な参加を期待します。なお、受講者の人数等により、授業計画の内容・順序等を一部変更する場合があります。

Based on the students' past experience in writing reports and papers, the course will cover the process from deciding on a research theme to completing a dissertation in preparation for writing a dissertation or the like. The class will also incorporate practical exercises such as collecting previous research and reading specific papers as appropriate, so active participation in class is expected. Please note that the content and order of the class plan may be changed depending on the number of students, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス: 授業のねらいと進め方
- 【2】: 論文とはなにか
- 【3】: 研究テーマについて
- 【4】: 先行研究の収集・整理方法①
- 【5】: 先行研究の収集・整理方法②
- 【6】: リサーチ・クエスションについて
- 【7】: 中間総括①
- 【8】: 研究方法と資料・データ
- 【9】: 研究結果の分析・考察について: 文献講読①
- 【10】: 研究結果の分析・考察について: 文献講読②
- 【11】: 研究結果の分析・考察について: 文献講読③
- 【12】: 中間総括②
- 【13】: 論文作成におけるルールと自己点検

【14】:授業のまとめ**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各講義で指示された課題に取り組むこと。また、レジュメや配布資料等を用いて授業内容を整理・復習し、各自の論文作成に向けてさらに理解を深めておくこと(各回約 4 時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指示する提出物:60% 成果発表:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

明石芳彦『社会科学系論文の書き方』ミネルヴァ書房 2018 9784623083794

外山滋比古『思考の整理学』筑摩書房 1986 9784480020475

その他の文献は、授業内で適宜紹介します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究24

Special Study:Social Design 24
(プラットフォームと社会デザイン)

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM124
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

成熟化、多様化、個人化、不平等格差化が進展する現代社会において協働・共生社会を実現するソーシャルプラットフォームへの期待が高まりつつある。授業では、ビジネスモデルとしてのプラットフォームや情報共有基盤としてのプラットフォームの動向を踏まえつつ、社会デザインの視点から、社会的課題を解決し協働・共生社会を支えるソーシャルプラットフォームの概念と戦略・方法、ガバナンスについて理解する。

New platforms are emerging for collaboration between diverse actors. The aim of this course is to understand concepts and practices of collaborative platforms including information-sharing platforms in business and social domains. In this course, students are expected to be able to analyze the relationship between national and local governments and public-private partnerships on proactive measures and disaster responses.

授業の内容 / Course Contents

講義では、ビジネスモデルとしてのプラットフォームと、協働・共生社会を支えるソーシャルプラットフォームの戦略と方法について比較考察する。また、社会的な仕組みや場、関係性としてのプラットフォームおよび情報共有基盤としてのプラットフォームについて、社会デザインの視点から事例分析を通じてソーシャルプラットフォームに求められる機能や要件、要素を明らかにする。授業参加者は、ソーシャルプラットフォームの概念を自ら定義し、ソーシャルプラットフォームと考えられる事例を選定し、分析・評価し授業内で発表・討論する。

This course deals with the following case studies: social business, crowdfunding, disaster volunteering, peer support, and digital archiving. Students are expected to design, present, and discuss on new platforms, with a view toward a collaborative and inclusive society.

授業計画 / Course Schedule

[1]:総説:社会の協働・共生を支えるプラットフォームー社会デザインの視点から**[2]:**ビジネスモデルにおけるプラットフォームの戦略と方法

[キーワード]市場、場、インフラ、仲介、交換、協業、アライアンス、クラスター、マッチング、ネットワーク、ハブ、ノード、サービス連携、サプライチェーン、ワンストップ、競争優位、価値創造、インキュベーション、e コマース、電子決済、マイレージ、共同仕入れ、ライセンス

[3]:協働・共生社会を支えるソーシャルプラットフォームの戦略と方法

[キーワード]シェア、ナレッジマネジメント、課題解決、専門知と市民知、市民活動、参加、協働、公民パートナーシップ、社会的起業、コミュニティ、ネットワーク、ソーシャルキャピタル、社会資源の開発と関係性の構築、社会的備蓄、自治、ガバナンス、補完性、当事者性、共生、支援、相互支援、中間支援、ボランティア、プロボノ、多職種連携、救済、検証、共助、ピアサポート、サードプレイス、コモンズ、地域ポータル、ファンドレイジング、クラウドファンディング、ふるさと納税、

GAFA 規制

【4】: 情報ネットワーク社会と情報共有基盤としての情報プラットフォーム

[キーワード] オープンデータ、相互作用性、公共性、官民連携、Webサービス連携、マッシュアップ、オープンデータ、ビッグデータ、API、標準インタフェース、メタデータとクリアリングハウス、ポータルサイト、地域メディア、アグリゲーター、アーカイブ、権利処理、パブリックドメイン、SNS、Web-GIS、位置情報サービス、動画共有サイト、Webラジオ、寄付サイト、IoT、ネットゲーム

【5】: 事例研究:

- ・e コマース
- ・宿泊システム(OTA、PMS、サイトコントローラー)
- ・オークションサイト、フリマサービス

【6】: 事例研究:

- ・GAFA
- ・ポータルサイト、ニュースサイト
- ・SNS

【7】: 事例研究:

- ・地理空間情報の相互運用プラットフォーム
- ・Google マップ、ストリートビュー

【8】: 事例研究:

- ・クラウドファンディング
- ・寄付サイト
- ・ふるさと納税による寄付

【9】: 事例研究:

- ・司法ソーシャルワーク(公共訴訟支援)
- ・政治参加支援
- ・環境 NGO、政策提言
- ・障がい者の意思決定支援・権利擁護

【10】: 事例研究:

- ・オーラルヒストリー
- ・デジタルアーカイブ
- ・ピアサポートのプラットフォーム
- ・データシェア
- ・ナラティブシェア(難病やがん患者サバイバー等)

【11】: 事例研究:

- ・シェアリングエコノミー
- ・ライドシェア

【12】: 事例研究:

- ・中小企業、フリーランス、個人クリエイター支援
- ・協業、兼業
- ・著作権管理団体、協同組合、ボランタリーチェーン、知財や技術のオープン化
- ・BPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)

【13】: 事例研究:

- ・災害ボランティアセンター、中間支援組織
- ・プロボノ

【14】: 総括: 社会デザインから見たプラットフォーム: 分析枠組み、関係概念

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

上記の項目を相互に関連づけて理解を深めるため順序を変更する場合がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 授業への積極的参加・小レポート: 100%

授業内小レポートの発表によって評価する。

テキスト / Textbooks

なし。授業内にレジュメ、資料を配布する。また、授業に授業内に必要な Web サイトを指示する。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

その他 / Others

研究科の行事と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることがある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究25

Special Study:Social Design 25

(オーラルヒストリーとデジタルアーカイブ)

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM125
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	【夏季集中講義日程】8月6日(水)2～6時限、8月7日(木)2～6時限、8月8日(金)2～5時限 春学期中に事前オンライン学習あり。「授業時間外(予習・復習等)の学習」欄参照のこと。 【教室】D603 教室
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	SDS5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

オーラル・ヒストリーとデジタル・アーカイブの戦略と方法について理論と事例から学び、ボーンデジタル時代における歴史の記録と保存、利活用、後世への伝承の方法について考察する。それらを踏まえ、オーラル・ヒストリーとデジタル・アーカイブを実践する学術的・実務的な知見を習得する。

The goal of the lesson is to learn the theory, strategies and methods of oral history and digital archiving. We consider how to record and archive history in a era of born-digital and acquire academic and practical knowledge to practice oral history and digital archiving.

授業の内容 / Course Contents

オーラル・ヒストリーは、意思決定過程を分析する研究手法として政治学(政治家や官僚など)や経営学(企業経営者)の分野において、1990年代以降実践され、それまでブラックボックスとなってきた政府や企業の実態を明らかにする上で大きな成果をあげてきている。しかしそれは性質上、聞き手と語り手の相互作用によって強く規定されるものであるために、その方法は聞き手の個人技とされ、普及が立ち後れてきた。このような状況を打破すべく本科目では、基礎的知見の習得と事例分析を通して、「オーラル・ヒストリー&デジタル・アーカイブ」の課題と方法を解明する。

Oral history has been practiced since the 1990s in the fields of political science (politicians, bureaucrats, etc.) and business administration (business managers) as a research method for analyzing decision-making processes, and has made great achievements in clarifying the actual situation of governments and companies that had been a "black box" until then. However, since oral history is characterized as being strongly defined by the interaction between the listener and the storyteller, its method has been regarded as the individual skill of the listener, and its spread has been delayed. In order to overcome this situation, in this course, we will clarify the issues and methods of "Oral History & Digital Archive" through the acquisition of basics, case analysis, and practice.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション:

- ・社会デザインから見たオーラルヒストリーとデジタルアーカイブ
 - ・オーラルヒストリーの方法論: エリート・ノンエリート、マイノリティー
 - ・市井の人々の語りと人類史
 - ・ライフヒストリーとオーラルヒストリ
 - 【2】:オーラルヒストリーの事例研究: 東日本大震災(1)**
 - ・民生委員による避難行動と避難生活の語り
 - ・学校教員による避難行動の語り
 - 【3】:オーラルヒストリーの事例研究: 東日本大震災(2)**
 - ・被災市町村の首長、行政職員の語り
 - ・復興に関わった専門家の語り
 - 【4】: 大川小学校津波被害のドキュメンタリー**
 - ・検証と教訓
 - 【5】: 戦争体験の語りとドキュメンタリー**
 - 【6】: パンデミック(新型コロナウイルス)の記録のアーカイブと語り**
 - 【7】: コミュニティのアーカイブ**
 - ・思い出のお裾分け
 - ・記録映画のアーカイブと公開
 - 【8】: がんサバイバー、統合失調症など患者と家族の語り**
 - ・ピアサポート
 - 【9】: ひきこもり当事者と家族の語り**
 - 【10】: 病院ラジオとシェア**
 - 【11】: 災害デジタルアーカイブ: 311まるとアーカイブの事例**
 - ・メディア、図書館、行政、研究機関等の役割
 - ・現物とデジタル、コレクション、ボーンデジタル
 - ・震災前の映像
 - ・災害遺構の記憶の伝承
 - 【12】: デジタルアーカイブ: 権利処理と保存公開**
 - ・著作権、肖像権、プライバシー権、パブリシティ権、疑似著作権(所有権)
 - ・オフファンワークス、ダークアーカイブ、マスキング
 - ・メタデータ、意味づけ、対価、ガイドライン、2次利用
 - 【13】: 発表と総合討論(1)**
 - 【14】: 発表と総合討論(2)**
- 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

CANVASLMS にアップするレジュメ、参考文献、参考映像等を参照しながら指示された課題に取り組むこと。
夏季集中講義であるが春学期中に映像教材などによる事前オンライン学習あり。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指示する課題提出:80% 授業内での討論への参加:20%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

御厨貴 オーラル・ヒストリー入門 岩波書店 2007 4000280465

御厨貴 オーラル・ヒストリー 中公新書 2002 412101636

長坂俊成 記憶と記録 : 311 まるとアーカイブス 岩波書店 2012 9784000285247

福井健策監修 デジタルアーカイブ・ベーシック第1巻権利処理と法の実務 勉誠出版 2019 9784585202813

多数あるため、他は授業内で随時紹介する

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究26

Special Study:Social Design 26
(社会デザイン学の可能性2)

川本 彩花(KAWAMOTO AYAKA)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM126
授業形態	オンデマンド(全回オンデマンド)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	SDS5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

21 世紀に入り、環境や地域紛争など前世紀からの課題に加えて、新しい形の貧困や社会的排除(social exclusion)が大きな課題となっている。その解決のため、政府行政・民間企業・NGO/NPO 等の組織はそれぞれどのような役割を担えるのか。また、近年、重視されることの多いセクターの垣根を越えた「協働」は、どこまでの有効性と可能性を期待できるのか。いずれにしても、その際、従来の発想と方法論を超え、社会の仕組みや人々の参画の仕方を変革し具体的に実現していくことが必要になってくる。そのような思考と実践を「社会デザイン」と呼びたい。

この科目は、本研究科が一貫して追究し続けてきた社会デザイン(学)に関し、その思想的含意から実践的な社会技術としてのありように至るまで、分野・領域横断的に明示することで、まずはその見取り図を描いていこうとするものである。それにより、社会デザイン(学)の可能性を受講者とともに切り拓くことを目指したい。

As we enter the 21st century, new forms of poverty and social exclusion have become major issues in addition to the issues from the last century such as the environment and regional conflicts. What kind of role can each organization such as government, private enterprises, and NGOs/NPOs take to solve these problems? Also, what kind of effectiveness and potential can be expected from "collaboration" that crosses the boundaries of sectors that is often emphasized in recent years? In any case, it will be necessary to go beyond conventional ideas and methodologies and reform and specifically realize social mechanisms and ways for people to participate. I would like to call such thinking and practice "social design".

This course attempts to draw a sketch of social design (studies) that the Graduate School has consistently pursued by presenting the philosophical and academic implications across fields and disciplines. In this way, we aim to open up the possibilities of social design (studies) together with the students. The subject will be tackled by all faculty with effort appropriate for the size of its aims.

授業の内容 / Course Contents

本研究科の兼任講師によるオムニバス講義形式である。各回で扱われるテーマは、社会デザイン(学)とは何か、その思想的背景と意味、組織・ネットワーク・マネジメント、コミュニティデザイン、危機管理、NGO/NPO、平和(学)、国際関係、CSR、社会貢献、ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス・社会的企業、社会的排除と包摂、アートと社会デザイン(インクルーシブデザイン)、社会調査等多岐にわたり、対象となる事業や活動の範囲・分野も多様なものとなる。

本科目は研究科で大学院生のための社会デザイン(学)案内であり、個別具体的な研究分野とテーマを選択していく際の導入科目である。それと同時に、本科目は社会デザインを考えるためにいかに多様で具体的な分析資料(データ)を加えていくのかを検討する科目としても重要な意味をもつ。以上、本科目は、今後の研究活動のなかで社会デザイン(学)

の可能性をどのように拓いていくのか、その方法論とともに考え抜く契機を提供するための内容で計画されている。

Assistant Professor Nakamori will be the overall facilitator for the omnibus lectures given by the department's faculty members. In the first class, the aims of the subject and the meaning of social design (studies) in the Graduate School are introduced. From the next class, the lecturer in charge will give a presentation and ask questions, and conclude with a presentation on reflections and issues and preparation learning for the next class.

Each class will cover a wide range of themes such as: What is social design (studies)?, its philosophical background and meaning, organization/network management, community design, crisis management, NGOs/NPOs, peace (studies), international relations, CSR, social contribution, social business, community business, social enterprises, social exclusion and inclusion, art and social design (inclusive design), and social research, and the scope and fields of target businesses and activities will also be diverse.

This course is social design (studies) guidance for graduate students studying at the Graduate School, and is an introductory course for selecting specific individual research fields and themes. At the same time, this course also has an important meaning of considering how to add as many various specific analysis materials (data) as possible to think about social design. As described above, this course is planned to provide an opportunity to consider how to open up the possibilities of social design (studies) in future research activities.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: はじめに
- 【2】: グローバルリスクガバナンスと社会デザイン学 1
- 【3】: コミュニティデザイン学と社会デザイン学 1
- 【4】: 社会組織理論と社会デザイン学 1
- 【5】: グローバルリスクガバナンスと社会デザイン学 2
- 【6】: コミュニティデザイン学と社会デザイン学 2
- 【7】: 社会組織理論と社会デザイン学 2
- 【8】: グローバルリスクガバナンスと社会デザイン学 3
- 【9】: コミュニティデザイン学と社会デザイン学 3
- 【10】: 社会組織理論と社会デザイン学 3
- 【11】: グローバルリスクガバナンスと社会デザイン学 4
- 【12】: コミュニティデザイン学と社会デザイン学 4
- 【13】: 社会組織理論と社会デザイン学 4
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、授業の終わりに指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 : 70%

平常点割合 : 30% 授業時の質疑への参加: 30%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

使用しない。

その他 / Others

平常は、毎回のオンデマンド講義への感想を入力してください。期末には重要だと思った講義を選択してレポートを執筆してください。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特講1

Advanced Seminar on Social Design 1
(音楽と社会デザイン)

川本 彩花(KAWAMOTO AYAKA)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM127
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、音楽をめぐる様々な事象・現象に関する知識を身につけ、音楽について広く社会との関係のなかで考察するとともに、音楽文化を通して社会のありようを読み解く視点を習得することを目標とします。

The goal of this class is to acquire knowledge of various events and phenomena surrounding music in modern society, to be able to consider music in its broader relationship to society, and to develop a perspective for interpreting the state of society through music.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、音楽作品やアーティストそのものではなく、音楽をめぐる様々な事象や現象——音楽をテーマにした映画と観光現象、まちづくり、音楽フェスティバルなど——について取り上げます。そして、音楽と人間／社会との関係、およびその変容について考察し、音楽文化を通して社会のありようを読み解く視点を提示します。ここでは、ポピュラー音楽や芸術音楽(クラシック音楽)など、幅広い音楽文化を対象にします。なお、受講者の人数等により、授業計画の内容・順序等を一部変更する場合があります。

This class will focus on various events and phenomena surrounding music in modern society, such as music-themed films and tourism, urban development, and music festivals. Students will also consider the relationship between music and society, as well as its transformation, and learn how to interpret society through music. In doing so, a wide range of music culture will be covered, including popular music and classical music. Please note that the content and order of the lesson plan may change depending on the number of students, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス: 授業のねらいと進め方
- 【2】: 音楽と社会を考える
- 【3】: 音楽をテーマにした映画について
- 【4】: 映画・観光・まちづくり①
- 【5】: 映画・観光・まちづくり②
- 【6】: 映画・観光・まちづくり③
- 【7】: 中間総括①
- 【8】: 音楽フェスティバルに集う人びと①
- 【9】: 音楽フェスティバルに集う人びと②
- 【10】: 音楽フェスティバルに集う人びと③
- 【11】: 中間総括②

【12】:コミュニケーションについて

【13】:災害と音楽

【14】:授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各講義で指示された課題に取り組むこと。また、レジュメや配布資料等を用いて授業内容を整理・復習し、各自の興味・関心を深めること(各回約4時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への積極的参加:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

遠藤英樹・寺岡伸悟・堀野正人編 『[シリーズ]メディアの未来4 観光メディア論』 ナカニシヤ出版 2014
9784779508554

南田勝也・辻泉編 『文化社会学の視座——のめりこむメディア文化とそこにある日常の文化』 ミネルヴァ書房 2008
9784623051588

宮入恭平 『ライブカルチャーの教科書——音楽から読み解く現代社会』 青弓社 2019 9784787274229

その他の文献は、授業内で適宜紹介します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習1

Practical Application:Social Organization 1
(社会デザインと社会学の方法)

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM201
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5210
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

社会デザインと社会学の異同を整理し、両者の関係性を理解する。そのうえで、社会学的視点を、社会デザインに活用するための方法を、テキストや実践例を通して受講者と検討してゆく。最終的には、受講生各自が社会課題に対して創造的かつ実現可能な提案を行うことを目標とする。

We will sort out the differences between social design and sociology, and understand the relationship between the two. Then, we will discuss ways to apply sociological perspectives to social design through texts and practical examples. The final goal is for each student to come up with creative and feasible proposals to address social issues.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、受講者による発表(輪読・事例検討)を中心とした演習形式で行う。具体的には、以下の3つのフェーズに分けて授業を進めてゆく。まず、社会デザインと社会学のそれぞれの視点の特徴について、科目担当教員が基本的な解説を行う(講義フェーズ)。次に、社会学の基礎となるテキストを輪読し、各回のテーマと社会デザインとの関連性についてディスカッションする(輪読フェーズ)。そして、社会デザインの諸事例・実践例を取り上げることで、それらに社会学の視点や方法がどのように活かされているのかを検討する(事例検討フェーズ)。

This class will be conducted in the form of exercises with presentations (readings and case studies) by the participants. Specifically, the class will be divided into the following three phases. First, the course instructor will give a basic explanation of the characteristics of the respective perspectives of social design and sociology (lecture phase). Next, we will read basic sociological literature, and discuss the relevance of each theme to social design (round-reading phase). Then, by taking up various examples and practices of social design, we will examine how sociological perspectives and methods are applied to them (Case Study Phase).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 社会学の基礎
- 【3】: 社会デザインとは何か
- 【4】: 文献講読① 社会学的想像力と社会デザイン
- 【5】: 文献講読② 社会学の理論と社会デザイン
- 【6】: 文献講読③ 現代社会と社会デザイン
- 【7】: 文献講読④ 社会学史と社会デザイン
- 【8】: 文献講読⑤ 社会学の問いと社会デザイン

- 【9】: 文献講読⑥ リサーチメソッドと社会デザイン
 【10】: 文献講読⑦ 社会問題と社会デザイン
 【11】: 文献講読⑧ 社会学から社会デザインへ
 【12】: 事例検討① 市民運動／社会的排除／居場所とサードプレイス
 【13】: 事例検討② アートと文化／学びと教育／ケアと福祉
 【14】: 事例検討③ メディアとコミュニケーション／組織とネットワーク／企業と価値／公共政策と制度設計

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

輪読・事例検討の際には、テキストの各回の範囲を、発表者以外の受講者も読んでくること(予習)。また、授業後には、各回で取り上げた社会学の発想や社会デザインの事例を、どのようにリバイスできるかを考えるとよい(復習)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加状況:30% プレゼンテーションの内容:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

ケン・プラマー 21世紀を生きるための社会学の教科書 筑摩書房 2021 9784480510310

中村陽一(監修) 志塚昌紀・川中大輔・菅井薫・川田虎男(編著)『社会デザインをひらく』ミネルヴァ書房 2024
 9784623097852

参考文献 / Readings

レイ・オルデンバーグ サードプレイス——コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」 みすず書房 2013
 9784622077800

荻上チキ 社会問題のつくり方 困った世界を直すには? 翔泳社 2023 9784798174488

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

社会学の基礎的な文献を読解するために必要な、最低限の知識と能力を有すること。具体的には、「何らかの社会学の授業を受けたことがある」または「社会学の学術書を一冊でも読んだことがある」などの経験を有していることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

学生が作成したプレゼン資料を閲覧可能な端末(ノートPC やタブレット PC)を持参することが望ましい。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習3

Practical Application: Social Organization 3
(社会的人間存在論)

大熊 玄(OKUMA GEN)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM203
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5210
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

現代日本において「人間」を社会的存在として考察するときの基礎を、和辻哲郎に学ぶ。具体的な目標は、(1)和辻の考えを客観的に説明・批評ができるようになること。(2)それを踏まえて、自らの問題意識に合った「自らの考え」を作り出し、説得力をもって表現できるようになること。

Students will learn the basics of considering "Nin-gen(humans)" as social beings in contemporary Japan from Tetsuro Watsuji. The specific goals are, (1) To become able to objectively explain and criticize the ideas of Watsuji (2) Based on this, to become able to create "one's own ideas" in line with one's own problem awareness and become able to express them with persuasiveness.

授業の内容 / Course Contents

私たち人間は、なんらかの「しくみ」(社会・組織)のなかで生きている。たとえそれが、政治的・経済的・生態的・宗教的という、どのような「しくみ」であったとしても、個人は、その中での関わり(間柄)によって生きていくしかない。和辻によれば、人間とは、社会であるとともにまた個人であり、「世の中」「世間」であるとともに「人」である。では、個人でもあり社会でもある私たち「人間」は、その「人間」であることをどう考えればよいのか。和辻の著作の中でも、独りで読むには比較的むずかしい『人間の学としての倫理学』をとりあげ、一緒に理解を深めながら“哲学的”な思考力を養っていく。

学生は、事前に指定の文章を読み、授業内で講師による(可能なかぎりやさしい)解説を聞いて質疑・討議を行い、授業後に簡単なコメントを書く。そのコメントを次回の授業でフィードバックし、参加者全員で共有することで、授業を、循環する複方向型の「対話の場」、「知的探求の共同体」としたい。

We humans live in some kind of “mechanism” (society and organization). Whatever kind of “mechanism” we consider, such as political, economic, ecological or religious, individuals have no choice but to live through their relationships within these mechanisms. According to Watsuji, a “Nin-gen(human being)” is both a society and an individual, and is a “Yononaka(World)” as well as a “Hito(person)”. If so, how should we think as “Nin-gen” who are both individuals and societies. We will read Watsuji’s book “Nin-gen no gaku toshiteno Rinrigaku(Ethics As the Study of Man)” which is relatively difficult to read on one’s own even among the writings of Watsuji and cultivate “philosophical” thinking while deepening understanding together.

Students must read the designated text in advance, listen to the (simple as possible) commentary by the lecturer in the classes, ask questions and dialogue, and write brief comments after the classes. By feeding back the comments in the next class and sharing them with all the participants, we hope to make the class a multi-directional and circulatory “place of dialogue” and “community of intellectual inquiry”.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 「倫・理」
- 【3】: 「人・間」
- 【4】: 「世間」あるいは「世の中」
- 【5】: 「存在」
- 【6】: 人間の学としての倫理学の構想
- 【7】: アリストテレスのポリティケー(1)
- 【8】: アリストテレスのポリティケー(2)
- 【9】: カントのアントロポロジー(1)
- 【10】: カントのアントロポロジー(2)
- 【11】: 人間の問い(1)
- 【12】: 人間の問い(2)
- 【13】: 学としての目標(1)
- 【14】: 学としての目標(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習／指定した文章を読んでおき、自らの興味・疑問を整理しておく。

復習／授業を振り返り、毎回コメントを送る。

次回の授業で扱う箇所についての事前学修、授業後に送付するコメント作成、最終の授業内レポート作成、その他授業内容に関わる自学等によって、授業外に全体で計 60 時間(各回平均4時間)以上の学修を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回の出席とコメント:70% 授業内レポート(最終コメント):30%

テキスト / Textbooks

和辻哲郎『人間の学としての倫理学』岩波書店 2007 9784003811047

参考文献 / Readings

授業内で別途指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

人文系の比較的難解(硬質)な文章を読解し、その内容に関連して自ら思考し、自身の意見を述べる能力。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

対面参加者も、zoom 接続可能な機器(ノートパソコン・タブレット)持参が望ましい。

その他 / Others

・第一回目授業「ガイダンス」にて、授業の方針・進め方を説明します。

・研究科の学事・行事(報告会、進学相談会等)と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習4

Practical Application: Social Organization 4
(対話と社会デザイン)

亀井 善太郎 (KAMEI ZENTARO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM204
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5210
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

社会課題を巡ってはさまざまな見方が社会に存在しているが、すべてのステークホルダーから見た真の課題認識とその解決はきわめて困難なのが現代の実情だ。

しばしば「対話」の重要性が説かれるが、私たちは「対話」の本当の意味を理解しているだろうか。そして、その意味を我が身のものとして日々実践できているだろうか。日本人は対話を重ねるのが苦手だというのが本当だろうか。対話と議論の違いは具体的になんだろうか。

「対話」をテーマとした古今東西のテキストを題材に、実際に「対話」を体験することを通じて、現代の社会課題に向き合うために不可欠な「対話」とは何か、その本質を探り、身体感覚としての「対話」を自分のものにするプロセスを経ることを目的とする。

There are various views regarding social issues in society, but it is the reality of today that it is extremely difficult to realize the real issues and solutions from the perspective of all stakeholders.

Although the importance of "dialog" is often described, do we understand the true meaning of "dialog"? And can we practice that meaning in our own everyday lives? It is true that Japanese people are not good at building up dialogs? What is the difference between dialog and discussion specifically?

Based on texts from all times and places on the theme of "dialog" as the subject, the aim of the course is to ask what is the essential "dialog" to face contemporary social problems by actually experiencing "dialog", search for the essence, and go through the process of making "dialog" one's own via the physical senses.

授業の内容 / Course Contents

「対話」をめぐる古今東西のテキストを一緒に読みながら、対話に求められること、対話の本質等を明らかにする。なにより、「対話」は、ある種の身体感覚を伴うものであり、自ら体験するしかない。

また、「対話」を通じた社会課題解決についても考える機会を設け、現代社会における課題の本質を明らかにすると共に、「対話」をもって臨む社会課題への向き合い方についても考えていきたい。

While reading texts on "dialog" from all times and places together, we will clarify what is required for dialog and the essence of dialog, etc. Above all, "dialog" involves some kind of physical sensation, and you have to experience it for yourself.

In addition, we would like to provide opportunities to consider about social problem solution cases through "dialog", clarify the essence of the problems in modern society, and think about how to deal with social issues through "dialog".

授業計画 / Course Schedule

【1】: 総論(いまなぜ「対話」が求められているのか、小さくなる社会と分断・・・)

- 【2】: 考えること、感じること(小林秀雄『美を求める心』から)
 【3】: 対話とは何か(猪木武徳『自由をめぐる思想史』から)
 【4】: 対話とは何か(猪木武徳『自由をめぐる思想史』から)
 【5】: 対話のエッセンス、作法等(モンテーニュ『エッセー』から)
 【6】: よく「聴く」ことを考える(鷺田清一『「聴く」ことの力』から)
 【7】: よく「聴く」ことを考える(鷺田清一『「聴く」ことの力』から)
 【8】: 日本における対話の源泉(宮本常一「忘れられた日本人」から)
 【9】: コミュニケーションとは(デヴィッド・ボーム『ダイアログ: 対立から共生へ、議論から対話へ』)
 【10】: 対話とは(デヴィッド・ボーム『ダイアログ: 対立から共生へ、議論から対話へ』)
 【11】: 自己との対話、考え続けることの意味(映画『ハンナ・アーレント』、アーレントの著作から)
 【12】: 対話とは何だろうか①、対話を社会課題の解決に活かすとはどういうことだろう
 【13】: 対話とは何だろうか②、対話を社会課題の解決に活かすとはどういうことだろう
 【14】: 対話とは何だろうか③、対話を社会課題の解決に活かすとはどういうことだろう

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定	○				

授業のタイトルのとおり、「対話」を実践する。いわゆるディスカッションやディベートとは異なる。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。対話で用いるテキスト(上記文献の抜粋、各回 20～30 ページ程度)は PDF ファイルの形で Canvas LMS にアップする。

文献・テキストについては、対話において積極的に発言できるよう、事前に熟読しておくことが求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業・演習における発表や他の発言者への貢献等:100%

3/4以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

授業計画のとおり。

参考文献 / Readings

採り上げる文献は上記授業計画にあるものを予定している。小林秀雄『美を求める心』、猪木武徳『自由の思想史』、鷺田清一『聴くことの力』、モンテーニュ『エッセー』、宮本常一『忘れられた日本人』、デヴィッド・ボーム『ダイアログ: 対立から共生へ、議論から対話へ』、ハンナ・アーレントを扱った映画等を採り上げる。対話の材料とするテキストについては、PDF ファイルで事前に授業支援システムにアップする。

その他 / Others

研究科の学事・行事(報告会、進学相談会等)と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる場合がある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習6

Practical Application: Social Organization 6
(非営利法人制度論)

若林 朋子 (WAKABAYASHI TOMOKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM206
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5210
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

いまや、よりよい社会の実現に、非営利・市民セクターの働きは不可欠である。本演習では、非営利法人のなかで、特に特定非営利活動法人(NPO 法人)にかかわる制度(法制、税制等)を把握し、実際に自ら非営利法人を運用したり、支援したりできるレベルまで理解を深めることを目標とする。あわせて、公益法人や労働者協同組合など他の非営利法人制度についても概観する。

The work of the nonprofit and civic sectors is now essential to the realization of a better society. In this course, the aim is that students will understand the systems (legal system, taxation system, etc.) related to specified nonprofit corporations (NPO corporation) in particular among not-for-profit organizations and will deepen their understanding to the level where they could actually operate or support a nonprofit corporation. Public interest corporations are also overviewed.

授業の内容 / Course Contents

まずは、制度(法律、税制)の詳細を把握する。その上で、日本における非営利・市民セクターの概要を俯瞰し、社会において非営利法人が活躍することの意義と諸課題について理解を深める。多様な非営利法人の創造的な取り組みを学ぶとともに、現場の課題を理解する。非営利セクターで活躍するゲスト講師を適宜招き、現場の知見と最新情報を得る機会も提供する。

First, students will understand the details of the systems (laws, taxes). Then, we will give an overview of the not-for-profit and civic sectors in Japan and deepen students' understanding of the significance and issues of not-for-profit corporations being active in society. Students will learn the creative efforts of various not-for-profit corporations and understand the issues in the field. We will invite guest instructors who are active in the not-for-profit sector as appropriate, and provide opportunities to gain on-the-ground insights and updated information.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 非営利とは何か、非営利セクターの概況、非営利法人の歴史的歩み
- 【2】: 公益・私益・共益・公共をめぐる
- 【3】: 特定非営利活動法人(NPO 法人)制度①
- 【4】: 特定非営利活動法人(NPO 法人)制度②
- 【5】: 特定非営利活動法人(NPO 法人)制度③
- 【6】: 非営利法人ケーススタディ①
- 【7】: 非営利法人ケーススタディ②
- 【8】: 特定非営利活動法人(NPO 法人)制度④

- 【9】: 特定非営利活動法人(NPO 法人)制度⑤
 【10】: 【ゲストレクチャー①】非営利法人の現場から
 【11】: 非営利法人の多様な形態、制度の比較(公益法人、一般法人、労働者協同組合ほか)①
 【12】: 非営利法人の多様な形態、制度の比較(公益法人、一般法人、労働者協同組合ほか)②
 【13】: 【ゲストレクチャー②】非営利法人の現場から
 【14】: 非営利法人の可能性と課題: ディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 演習への参画(発言・発表・ディスカッション): 100%

毎回のリアクションペーパー(コメント)提出で出席とします

テキスト / Textbooks

特に指定しない(随時紹介する)。

参考文献 / Readings

随時紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習8

Practical Application: Social Organization 8
(社会を眼差すアートの世界)

川口 智子(KAWAGUCHI TOMOKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM208
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5210
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

社会におけるアートの役割とは、いったい何なのか？舞台芸術を中心に、アートの側からの視点をもって、社会課題の解決を目指す企画をつくる／提案する力を身につけます。

What is the role of Art in our society? With focusing the performing arts, we will work out how we plan art projects from the art and social perspective.

授業の内容 / Course Contents

「劇場／アート」は、社会全体が取り組むべき課題について、人びとが集まり、意見を交換し、作品をつくることでどのように人びととそれを共有するかを考える「対話の場所」です。本授業では、劇場およびパフォーマンス・アーツの特性を理解した上で、アートがどのように社会課題の解決に貢献するか、実際に企画を立てながら考えていく演習の授業です。実際に受講者が企画を立案する前に、劇場および舞台芸術の事例の紹介とリサーチ、ディスカッションを通じて、企画を立てる準備を段階的に行います。必要な資料等は授業内で紹介します。

また、通常は見ることができない小学校等でのワークショップの事例を紹介し、意見交換の材料とします。

これまでに扱った 이슈として「難民」「貧困」「親密さ」「精神疾患」等さまざまなものがあり、受講生の関心に合わせて課題ごとにディスカッションをしてアウトプットまで実行していきます。

Art itself is the place for dialogue talking about social issues where people gathers and exchange ideas and creates to share. In this course, through the process to plan art project, we will find out how art will contribute to solve social issues.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション～アートって何～
- 【2】: 劇場とはどういう場所なのか リサーチと発表
- 【3】: 劇場とはどういう場所なのか 事例紹介(「くにたちオペラ」「まちクラ」ほか)
- 【4】: 舞台作品・小さな劇場『宇宙のヒト』(記録映像)鑑賞とディスカッション
- 【5】: ワークショップ実施事例『太陽のタネ』(学校でのWS事例の記録映像)をめぐるディスカッション
- 【6】: 企画を考えるための準備～これからの劇場とは？
- 【7】: ワーク① これからのアート・プロジェクトを考える
- 【8】: ワーク② これからのアート・プロジェクトを考える
- 【9】: 中間プレゼンテーション
- 【10】: 中間プレゼンテーション

【11】:ワーク③ これからのアート・プロジェクトを考える

【12】:ワーク④ これからのアート・プロジェクトを考える

【13】:発表 これからのアート・プロジェクトに関する企画提案(オンラインでの公開)

これまでの修了生や現職のホール職員・自治体職員等にプレゼンを聞いていただき、企画発表についての意見交換を行います。

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

期間中、実際に行われている劇場のプログラム等(オンラインのプログラムを含む)を紹介します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:40% 最終プレゼンテーション:30% 最終レポート割合::30%

2/3 以上の出席をしていない場合は単位習得不可。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

ハンス＝ティース・レーマン ポストドラマ演劇はいかに政治的か 白水社 2022 9784560094372

谷川道子、谷口幸代【編】 多和田葉子の〈演劇〉を読むー切り拓かれる未踏の地平 論創社 2021 9784846019877

内野儀 「J 演劇」の場所 トランスナショナルな移動性へ 東京大学出版会 2016 9784130802178

河邑 厚徳+グループ現代 エンデの遺言:「根源からお金を問うこと」 講談社 2011 9784062814195

ロラン・バルト 恋愛のディスコース 水声社 2021 9784801004894

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

他の受講者と積極的に意見交換をする。

企画立案について毎週進捗を伺います。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

プレゼンにあたって必要なもの

その他 / Others

川口智子→<https://www.tomococafe.com/>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習9

Practical Application: Social Organization 9
(持続可能社会と地域ガバナンス)

滝口 直樹 (TAKIGUCHI NAOKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM209
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5210
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

人口減社会、グローバル化の中で地域が持続可能になるとはどういうことか。経済、社会、環境の視点から検討し、21世紀の地域の持続可能性について考え、取り組んでいく糸口を探る。

Participating students will study sustainability of local communities, which suffer from population decrease and globalization, from points of view on economy, society and the environment.. Participants will obtain clues for investigating and implementing sustainability of local communities of 21 century.

授業の内容 / Course Contents

持続可能性を身近に体感できるのは、わたしたちが生活、生業を営む「地域」においてである。この地域は、人口減、気候変動自体やカーボンニュートラルなど気候変動対策によって、地域の生活、生業の基盤が変わろうとしている。その変化に対し、地域の人たちは、主体的に立ち向かうか、変化に流されていくか。取組の方向性、取り組む主体など地域のトランスフォーメーションの位相を検討し、変化の時代の地域ガバナンスのあり方を探る。

なお、授業で扱うテーマ、その扱う順序は受講生の関心事など踏まえて変更することがあり得る。

We can understand "sustainability" with reality in the communities where we live and work. The communities are changing because of various challenges such as population decrease, climate change and the measures to combat it. Will local people succeed in fighting for changes or be swept away by them? We will analyze the situation of local changes, and try to figure out good local governance in transition..

The themes and order of the course schedule may change according to the interests and questions of the participants.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

地域とは何か、地域の持続性とは何か。地域開発の歴史を踏まえ、地域の今を考える。

【2】: 地域の持続性①人口

人口減とは何なのか、その地域社会に与える影響を検討する。

【3】: 地域の持続性②自然資源

自然資源の考え方を踏まえ、環境、自然からみた地域の持続性を考える。

【4】: 地域の持続性③地域経済

地域経済について、何がどのように回っているか、検討する。

【5】: 地域ガバナンス①地域振興政策

地域活性化、地方創生など、地域向けの振興政策の歴史と現在、持続可能性への貢献について考える。

【6】: 地域ガバナンス②国立公園/自然遺産地域

自然資源を利用した活性化 国立公園や世界自然遺産を活用した地域づくりについて考える。

【7】: 地域ガバナンス③脱炭素

カーボンニュートラル、脱プラスチック時代の地域のあり方について考える。

【8】: 地域ガバナンス④人材育成

地域を担う人材育成について、考える。

【9】: 地域ガバナンス⑤インフラストラクチャーと持続性

水道/下水道、道路などのインフラが地域のガバナンス維持に果たす役割、老朽化等によるその基盤の揺らぎを考える。

【10】: 地域のステークホルダー①地方自治体

地方自治体が地域の持続性確保に果たす役割を、ビジョンづくり、総合計画、プラットフォーム提供などを通して考えてみる。

【11】: 地域のステークホルダー②市民団体

地域で公的な役割を果たす市民団体について、現状と今後の展開を考える。

【12】: 地域のステークホルダー③ビジネス

ビジネス(企業、ベンチャーなど)は地域の持続性に貢献するのか、損なうのか考える。

【13】: 地域のステークホルダー④研究者

専門家、研究者、高等教育/研究機関が地域の持続性確保のために果たす役割について考える。

【14】: まとめ・クロージング

再度、地域の持続可能性について、検討し、21 世紀の地域のあり方を考え直してみる。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

地域活性化、地方振興など、地域を「元気に」しようとしている政策、活動を日頃からフォローし、地域の持続可能性の観点からどう評価できるか考察してみる。

受講生には、1 回程度、授業内容に合わせ発表してもらうことを予定している。発表については、受講生の状況・関心を踏まえて、授業の中で示す予定。

その他必要な事柄は授業内で提示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 振り返り:30% 発表、質疑など:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

環境省 令和 6 年版環境白書 日経印刷 2023 9784865794144

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

議論に積極的に参加すること。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習15

Practical Application: Social Organization 15
(社会調査法 I)

川本 彩花(KAWAMOTO AYAKA)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM215
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5210
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、質的調査と量的調査の双方に目配りしながら、社会調査の基本的な理論と方法について理解し、実践に向けた技法を身につけることを目標とします。

The goal of this class is to understand the basic theory and methods of social research, paying attention to both qualitative and quantitative surveys, and to acquire techniques for practical application.

授業の内容 / Course Contents

社会調査の概要等をふまえたうえで、質的調査(とくに聞き取り調査)および量的調査(とくに調査票調査)の基本的な方法について講義をします。また、社会調査を実施するうえでの倫理についても取り上げます。講義のほか、適宜、実習等の形式も取り入れる予定ですので、授業への積極的な参加を期待します。なお、受講者の人数等により、授業計画の内容・順序等を一部変更する場合があります。

Based on an overview of social research, lectures will be given on the basic methods of qualitative survey (particularly interview survey) and quantitative survey (particularly questionnaire survey). Ethics in conducting social research will also be covered. In addition to lectures, practical training will also be incorporated as appropriate, so active participation in the class is expected. Please note that the content and order of the lesson plan may be changed depending on the number of students, etc.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンス: 授業のねらいと進め方
- [2]: 社会調査とはなにか
- [3]: 社会調査の概要
- [4]: 質的調査について
- [5]: 聞き取り調査の方法①
- [6]: 聞き取り調査の方法②
- [7]: 聞き取り調査の方法③
- [8]: 量的調査について
- [9]: 調査票調査の方法: 企画～実施①
- [10]: 調査票調査の方法: 企画～実施②
- [11]: 調査票調査の方法: 実施～分析①
- [12]: 調査票調査の方法: 実施～分析②
- [13]: 社会調査の倫理

【14】:授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各講義で指示された課題に取り組むこと。また、レジュメや配布資料等を用いて授業内容を整理・復習し、各自の研究に関連する社会調査法についてはさらに理解を深めておくこと(各回約4時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的参加:30% 授業内で提出する課題:30% 最終レポート:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』 有斐閣 2016

9784641150379

大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋 『最新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』 ミネルヴァ書房 2023

9784623095247

その他の文献は、授業内で適宜紹介します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習17

Practical Application: Social Organization 17
(社会調査法Ⅱ)

川本 彩花(KAWAMOTO AYAKA)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM217
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5210
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、質的調査と量的調査の双方に目配りしながら、社会調査の基本的な理論と方法について理解し、実践に向けた技法を身につけることを目標とします。

The goal of this class is to understand the basic theory and methods of social research, paying attention to both qualitative and quantitative surveys, and to acquire techniques for practical application.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、社会調査に関する理論と方法、実践に向けた技法のさらなる習得をめざし、質的調査(とくに参与観察法、ドキュメント分析)および量的調査(とくに調査票調査)の基本的な方法について講義をします。また、社会調査を実施するうえでの倫理についても取り上げます。講義のほか、適宜、実習等の形式も取り入れる予定ですので、授業への積極的な参加を期待します。なお、受講者の人数等により、授業計画の内容・順序等を一部変更する場合があります。

This course aims to further the mastery of social research theory, methods, and techniques for practice, and will include lectures on the basic methods of qualitative surveys (especially participant observation and document analysis) and quantitative survey (especially questionnaire survey). Ethics in conducting social research will also be covered. In addition to lectures, we plan to incorporate practical training as needed, so active participation in class is expected. Please note that the content and order of the class plan may be changed depending on the number of students, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス: 授業のねらいと進め方
- 【2】: 社会調査とはなにか
- 【3】: 参与観察法①
- 【4】: 参与観察法②
- 【5】: 参与観察法③
- 【6】: ドキュメント分析①
- 【7】: ドキュメント分析②
- 【8】: 調査票の作成
- 【9】: サンプルングについて
- 【10】: データ入力の方法
- 【11】: 基本的な集計
- 【12】: 統計分析の基礎
- 【13】: 社会調査の倫理

【14】:授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワーポイント等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	☐	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各講義で指示された課題に取り組むこと。また、レジュメや配布資料等を用いて授業内容を整理・復習し、各自の研究に関連する社会調査法についてはさらに理解を深めておくこと(各回約4時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的参加:30% 授業内で提出する課題:30% 最終レポート:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

前田拓也・秋谷直矩・朴沙羅・木下衆編『最強の社会調査入門——これから質的調査をはじめる人のために』ナカニシヤ出版 2016 9784779510793

大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋『最新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』ミネルヴァ書房 2023 9784623095247

その他の文献は、授業内で適宜紹介します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習19

Practical Application:Social Organization 19
(市民社会論)

奥田 裕之 (OKUDA HIROYUKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM219
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5210
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

この授業は、下記の2点を目的とする。

- (1) NPO 法人に限らず“広義の NPO”が様々な分野で行っている、先駆的な活動実態を学ぶ
- (2) 幅広い視点から日本の市民社会の実態と課題について理解を得ることで、今後の市民社会の可能性について自らの意見を持つ。

This course aims for students to:

- (1) learn the reality of various pioneering activities of nonprofit organizations (NPOs) in a broad sense (not just NPO corporations) and,
- (2) from a broad viewpoint, have individual opinions about the possibility of a future civil society through understanding of the reality and problems of Japanese civil society.

授業の内容 / Course Contents

この演習では、NPO の基本的な知識を獲得したうえで、人権の視点を持つ様々な分野の先駆的な NPO の活動例を学ぶ。そして日本の市民社会が持つ可能性と、その課題について考えていく。

なお、授業内容は受講生の人数や希望等に沿って若干変更する場合がある。

In this course, after acquiring basic knowledge of nonprofit organizations (NPOs), students learn activities of pioneering NPOs in various fields with a human rights basis. Moreover, students also learn the potential and the problems of Japan's civil society.

Note: Course plans and content might change slightly depending on students' wishes.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション、今後の進め方・NPO 概論
- 【2】: NPO の歴史と現在の課題
- 【3】: NPO 法人の仕組みと実際
- 【4】: NPO とアドボカシー
- 【5】: NPO と資金、運営
- 【6】: 実例紹介1; 震災復興と NPO
- 【7】: 実例紹介2; LGBT と NPO
- 【8】: 実例紹介3; まちづくりと NPO
- 【9】: 実例紹介4; 宗教法人と NPO
- 【10】: 実例紹介5; 子どもや若い女性への支援と NPO

- 【11】:実例紹介6; コロナ禍とNPO
 【12】:実例紹介7; 貧困・労働問題とNPO
 【13】:実例紹介8; 多文化共生とNPO
 【14】:まとめ; NPOと現代日本の市民社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席票兼リアクションペーパー:30% 授業への積極的参加:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

ブレイディ みかこ THIS IS JAPAN :英国保育士が見た日本 太田出版 2016 10 4778315332

田口一成 9割の社会問題はビジネスで解決できる PHP 研究所 2021

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習21

Practical Application: Social Organization 21
(地方自治と社会政策)

牧 慎太郎 (MAKI SHINTARO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM221
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5210
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

人口減少、ポストコロナ、DX など地域社会を取り巻く環境変化の中で、地域の人口動態や産業構造を踏まえながら、活気あるまちづくり、コミュニティ、地域の安心安全、交通・通信インフラ、地域経済循環などの観点から地方自治体が講じるべき政策や持続可能な地域づくりのあり方を考えます。

Amidst environmental changes surrounding local communities such as population decline, post-COVID situations, and digital transformation (DX), this considers the policies local governments should adopt and the approaches for sustainable community development. It takes into account the demographics, industrial structure, vibrant town planning, community, local safety, transportation/communication infrastructure, and regional economic sustainability.

授業の内容 / Course Contents

具体的な進め方としては、地方自治体の政策や持続可能な地域づくりに関する各回のテーマに沿った講義とディスカッションを基本とし、後半では地域の活性化に向けて地方自治体が行っている政策の事例について、受講生からも発表(事例検討)してもらいます。

受講生の関心や最新の社会動向に応じて、テーマと順序は変更される場合があります。

As a specific approach, the fundamental approach involves lectures and discussions aligned with the themes concerning local government policies and sustainable regional development. In the latter part, participants will present case studies on policies implemented by local governments to revitalize the region (case study discussions). Depending on the interests of participants and the latest societal trends, themes and sequences may be subject to change.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション～今後の進め方
- 【2】: 人口減少社会の現状と課題
- 【3】: 地方自治の現状
- 【4】: 我が国における地域振興策
- 【5】: 地域おこし協力隊と地域活性化起業人
- 【6】: 移住交流、関係人口、域学連携、小さな拠点
- 【7】: DX・SNS の活用、地域公共交通
- 【8】: 地域の安心安全とコミュニティ
- 【9】: 食とツーリズム、持続可能な環境・地域経済循環
- 【10】: 事例検討(1)兵庫県豊岡市
- 【11】: 事例検討(2)徳島県神山町

- 【12】:事例発表(1)
 【13】:事例発表(2)
 【14】:クロージング～まとめと振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回テーマに沿った参考文献や Web サイトを「Canvas LMS」で指示するので、事前に読んでおくこと(各回 約1時間)。
 授業を振り返り、毎回リアクションペーパー(コメント)を送ること(各回 約10分)。
 持続可能な地域づくりや地域活性化に取り組む地方自治体の事例についてレポートにまとめ、発表してもらう予定なので、興味関心を持った事例について調べておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的参加とリアクションペーパー:40% レポート:30% 発表:30%

テキスト / Textbooks

時事通信社「地方行政」に連載している「山族公務員の視点」などから、各回テーマに関連する文献や Web サイトを「Canvas LMS」で事前に指示する。

参考文献 / Readings

牧 慎太郎 山族公務員の流儀 時事通信社 2021 9784788717503

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習22

Practical Application: Social Organization 22
(インクルーシブキャピタリズム)

谷本 有香 (TANIMOTO YUKA)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM222
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は X101 教室の利用可
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5210
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保证するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

人々の欲深き心が生み出した、歪んだ資本主義の結露としてのリーマンショックを迎えたあたりから、私たちは真剣にポスト資本主義の姿を模索してきた。それから十数年以上の歳月が流れ、いまだ新しい経済の姿を見出すことができていない。

しかし、この授業を担当させていただく講師が所属する経済誌「Forbes JAPAN」では、「Inclusive Capitalism」というコンセプトを打ち出し、経済合理性や市場システムから離れたところで生き、暮らしている者たちをも包括し、共感を生み出す社会・経済の形成を目指している。

そのような新しい仕組みには何が必要なのか。受講生の皆さんと議論を重ねながら、新しい経済や社会の形を模索したい。

From the time we faced the Lehman Shock, a condensation of distorted capitalism born from humanity's insatiable greed, we have been earnestly searching for a vision of post-capitalism. More than a decade has passed since then, and we have yet to discover a new economic model.

However, the economic magazine Forbes JAPAN, to which the lecturer in charge of this class belongs, has put forward the concept of "Inclusive Capitalism." This idea aims to create a society and economy that includes those who live outside the boundaries of economic rationality and market systems, fostering empathy and shared values.

What is needed to establish such a new framework? Together with the students of this course, I hope to engage in discussions and explore the possibilities of new forms of economy and society.

授業の内容 / Course Contents

新しい時代において大切な「社会的インパクト」という概念にフォーカスをして、次のような事例

- ・社会課題の解決と事業成長を両立している企業やリーダー
- ・日本で長きに渡って繁栄続ける長寿中小企業
- ・海外の事例
- ・文化・アートや建築
- ・サイエンス

等を用い、ビジネスを超えた領域からのアプローチも含め、時代をつくる考え方や組織や企業のあり方を通し、新しい経済の姿を探る。

Focusing on the concept of "social impact," which is important in this new era, the following case studies, we will

explore the shape of the new economy through the way of thinking, organizations, and companies that will create the era including approaches from areas beyond business.

- Companies and leaders who are both solving social issues and growing their businesses.
- Long-lived small and medium-sized enterprises that have been thriving in Japan for a long time.
- Global cases
- Art and architecture
- Science

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: チェックイン「Inclusive Capitalism」とは
【2】: 共助資本主義
【3】: 新しい資本主義への挑戦～ゼブラ: 社会課題解決と持続的な経営とは
【4】: 地域から考える Inclusive Capitalism (1)
【5】: 地域から考える Inclusive Capitalism (2)
【6】: 地域から考える Inclusive Capitalism (3)
【7】: カルチャープレナーから考える Inclusive Capitalism (1)
【8】: カルチャープレナーから考える Inclusive Capitalism (2)
【9】: テクノロジーから考える Inclusive Capitalism (1) エイジテック
【10】: テクノロジーから考える Inclusive Capitalism (2) Women in Tech
【11】: Z世代から考える Inclusive Capitalism
【12】: バーチャルで確立するインクルーシブな世界
【13】: 受講者の皆様各自が考える「Inclusive Capitalism」
【14】: チェックアウト: 講義ラップアップ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 授業内容の理解、発言・提案等の授業に対する貢献: 100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

社会の構成員たる自身の立場でどのような経済を作りたいか、作ろうとしているのか、柔軟な発想と気概をもっている方

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC 等のオンライン授業を受けられるデバイス

その他 / Others

是非一緒に議論し、豊かな社会、経済、未来を創っていきましょう。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習23

Practical Application:Social Organization 23
(コーオウンド・ビジネス)

細川 淳 (HOSOKAWA ATSUSHI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM223
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5210
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

本講義の主題は「しあわせなしごととは何か?」という事です。「しあわせな資本主義」「分かち合いの資本主義」と呼ばれ、従業員が自ら働く会社のオーナー(影響株主・支配株主)になるというコーオウンド・ビジネス。従業員や関わる人びとをハッピーにし、かつ収益性が高い事が数々の研究で明らかにされています。コーオウンド・ビジネス(従業員所有事業)は欧米で確かな潮流となっています。日本では研究、実践ともに緒についたばかりの新しい事業モデルで、今後躍進が期待されます。

多くのケース・スタディを通じて、コーオウンド・ビジネスに限定せず「しあわせなしごと」とは何か、企業とステークホルダーの関係性、起業家精神とは何か、そもそもビジネスは何のためにあるのか、などについての様相を浮き彫りにし、皆さんの問題意識の深化を図ります。

事業組織研究を目指す学生、新たな企業/組織のあり方の研究を目指す学生、ソーシャル・ビジネス/CSR/ステークホルダー論研究を目指す学生、起業や社会起業を目指す学生の皆さんとともに、本概念の深耕を目標とします。

The employee ownership model, in which employees and executives collectively become influential or controlling shareholders of the companies they work for, is known as “shared capitalism” or “happy capitalism.” According to multiple studies, the model is proven to generate happiness among employees and stakeholders, and is more profitable than non-employee owned companies. While employee ownership occupies a sound base in American and British economies, it is still at an introductory stage in Japan both in practice and academically, but shows signs of taking off. This course aims for students to study and deepen understanding of the concept, especially those in pursuit of business organization studies, social business/CSR/CSV/stakeholder studies, and entrepreneurship/intrapreneurship studies. Through case studies, the course aims to deepen students’ discussions regarding the relations between work/business and happiness, business and stakeholders, entrepreneurship, the very purpose of business, and other aspects of business activities.

授業の内容 / Course Contents

講義、ケース・スタディ、実践家からのヒアリングなどを組み合わせ、また皆さんとのディスカッションによって、コーオウンド・ビジネスのみならず、「しあわせなしごと」「しあわせな事業」にまつわる研究の深耕を図ります。

実践事例を中心にコーオウンド・ビジネスの様相や最新の動向を見て行きます。

適宜ゲスト・スピーカーによる講演を織り込み、コーオウンド・ビジネスの最新の動向を把握します。

本講義(一般社団法人従業員所有事業協会寄付講座)は日本で最初かつ唯一のコーオウンド・ビジネス(従業員所有事業)に関する講義です。

This course is conducted three dimensionally, in theoretical, institutional, and practical aspects. By combining lectures,

case studies, interviews with practitioners, and discussions with students, we will together explore the employee ownership model. Presentations by guest speakers may be made as appropriate to highlight the current state of employee ownership. Note: This course (sponsored by Japan Employee Ownership Association) is the first and only course on employee ownership in Japan.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: コーオウンド・ビジネスとは?
- 【2】: ケース・スタディ: 躍動するコーオウンド企業とそのワクワクの様相
- 【3】: 百花繚乱の事例: ハーブーン・ブルワリー、EBO グループ、スコット・バーダー、等
- 【4】: ウォール・ストリート型資本主義の真逆 ボブズ・レッド・ミルの事業構築: しごととは? 起業家精神とは?
- 【5】: ステークホルダーとガバナンス: 会社はだれのために、何のために存在するのか?
- 【6】: ステークホルダーとガバナンス: 事例から見る経営戦略のコントラスト
- 【7】: 日本のコーオウンド・ビジネス
- 【8】: ステークホルダー徹底主義 イコール・エクスチェンジ: 最高利益達成をよるこばない会社って?
- 【9】: あらためて産業革命を見つめる①: 今の私たちの生き方・経済のあり方を規定してしまった仕組み
- 【10】: あらためて産業革命を見つめる②: 第1次～第4次産業革命 今になって露呈してきたきしみ
- 【11】: 組織のあり方を考える 「成長」と「規模」の問題: ウィルキン&サンズからの学び
- 【12】: 元祖コーオウンド企業 ジョン・レイス・パートナーシップ: 理想への夢が生んだコーオウンド・カンパニー
- 【13】: コーオウンド・ビジネス・モデルだからこそ遭遇するチャレンジ: 経営のククなのか、エグみなのか?
- 【14】: コーオウンド・ビジネス研究の地平

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業参画: 質問、発言を歓迎します。:30%

テキスト / Textbooks

細川あつし しあわせな会社 一社員みんなが「オーナー」になるコーオウンド・ビジネスの世界 築地書館 2025
9784806716846

・テキストは、2025年5月刊行予定。授業初回に指示します。

・必要に応じてプリント等資料を配布します。

参考文献 / Readings

内山節(細川あつし共著:第2章 エシカル・ビジネス)『半市場経済 ー成長だけでない「共創社会」の時代』角川新書 2015 9784040820255

その他 / Others

<授業形態について>

上記にある通り対面とオンラインのハイフレックス授業に対応しますが、対面での出席を奨励します。対面では授業での議論が活発になり、また授業前後でのアドバイス等にも対応できるので。

<参考 HP>

一般社団法人従業員所有事業協会 <http://jeoa.org/>

株式会社コア・ドライビング・フォース <http://www.cdforce.co.jp/>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論特講1

Advanced Seminar on Social Organization 1
(メディア・文化の社会学)

川本 彩花(KAWAMOTO AYAKA)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM226
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5210
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、現代社会におけるメディアや文化をめぐる事象・現象について、主に社会学的な視点から学問的／批判的にとらえる知識と思考力を身につけることを目標とします。

The goal of this class is to acquire the knowledge and thinking skills to take an academic and critical view of events and phenomena surrounding media and culture in modern society, primarily from a sociological perspective.

授業の内容 / Course Contents

今日、私たちの身の回りには、様々なメディアや文化があふれています。この授業では、インターネットやそこにおける新たな文化事例・現象、メディア・リテラシー、音楽聴取の変遷など具体的な／身近なトピックを取り上げます。そして、主に社会学的な視点から考察を進めながら、現代社会におけるメディアや文化をめぐる事象・現象について、学問的／批判的にとらえなおすを行います。なお、受講者の人数等により、授業計画の内容・順序等を一部変更する場合があります。

Now we are surrounded by a wide variety of media and culture. This class will cover specific and familiar topics such as the Internet, communication and new cultural examples on the Internet, media literacy, and the evolution of music listening. The aim is to examine the events and phenomena surrounding media and culture in modern society from a sociological perspective and to rethink them academically and critically. Please note that the content and order of the class plan may change depending on the number of students, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス: 授業のねらいと進め方
- 【2】: メディア・文化とはなにか
- 【3】: インターネットとコミュニケーション①
- 【4】: インターネットとコミュニケーション②
- 【5】: インターネットとコミュニケーション③
- 【6】: 私／私たちとメディア
- 【7】: 中間総括①
- 【8】: メディア・リテラシー
- 【9】: メディアと音楽聴取の変遷①
- 【10】: メディアと音楽聴取の変遷②
- 【11】: 中間総括②
- 【12】: アートと医療・福祉①

【13】:アートと医療・福祉②

【14】:授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各講義で指示された課題に取り組むこと。また、レジュメや配布資料等を用いて授業内容を整理・復習し、各自の興味・関心を深めること(各回約 4 時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への積極的参加:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『新版 社会学』有斐閣 2019 9784641053892

中川眞『人文学のフロンティア 大阪市立大学人文選書 4 アートの力』和泉書院 2013 9784757606616

浪田陽子・福間良明編『はじめてのメディア研究[第2版]——「基礎知識」から「テーマの見つけ方」まで』世界思想社 2021 9784790717478

その他の文献は、授業内で適宜紹介します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習2

Practical Application:Community Design 2
(グループ対話と社会デザイン)

西井 開(NISHII KAI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM302
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	夏季集中講義／【日程】8月6日(水)2～6時限、8月7日(木)2～6時限、8月8日(金)2～5時限 【教室】4341 教室
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

対話という言葉が社会的に広がってきた。しかし何をすれば対話したことになるのだろうか？

私たちはどのように自身を語り、また相手の話をよりよく聞くことができるのだろうか。

本講義では、ナラティブ・アプローチをもとに対話について理論的に理解し、さまざまな対話技法を実践的に身につけることで、家族、コミュニティ、職場において対話を展開する術を学んでいく。

The word “dialogue” has become more widespread in society. But what does it mean to have a dialogue?

How can we talk about ourselves and listen to others better?

In this course, students learn how to commit dialogue in the family, community and workplace by understanding dialogue theoretically based on the narrative approach and practically acquiring various dialogue techniques.

授業の内容 / Course Contents

本授業は3日間にわたって、哲学対話、リフレクティングチーム、当事者研究など、さまざまな対話技法をグループワークで演習し、実践的に対話について学ぶ。また、話すことや聞くことについてその都度理論的な解説を行う。また、独自の領域で対話の場を開く専門家を呼んでゲストレクチャーも行う。

Over the course of three days, this course provides practical training in dialogue through group work, using various dialogue techniques such as philosophical dialogue, reflecting teams, and “tojishakenkyu”. There are theoretical explanations of speaking and listening. In addition, experts who open up dialogue in their own fields give lectures.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:講義「対話とは何か」
- 【2】:グループワーク「哲学対話」
- 【3】:講義「語るとはどういう実践か、語りに作用する権力」
- 【4】:ゲストレクチャー
- 【5】:1日のふりかえり
- 【6】:グループワーク「ライフストーリーを再構築する対話」
- 【7】:講義「聞くとは何か、新しい物語を引き出すための質問術」
- 【8】:グループワーク「リフレクティングチーム」

- 【9】: ゲストレクチャー
- 【10】: 1 日のふりかえり
- 【11】: グループワーク「修復的対話」
- 【12】: 講義「当事者運動と当事者研究」
- 【13】: グループワーク「当事者研究」
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業の間で復習をしておく、より理解が深まると思われる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指示する提出物(リアクションペーパーなど):50% 授業への積極的参加:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

マイケル・ホワイト ナラティブ実践地図 金剛出版 2009 9784772410953

その他 / Others

本授業はグループワークを中心として進むため、講義をただ聞くだけという姿勢では十分な学びは得られない。グループワークに積極的に参加することが望まれる。また自身の経験について語ることが中心となるため、その点も留意すること。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習3

Practical Application:Community Design 3
(当事者臨床論)

西井 開(NISHII KAI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM303
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

メンタルヘルスの不調、精神疾患、依存症、暴力性。こういった心理的・精神的な事象はひとりでに発生するわけではない。社会や環境との接続の中で、心理的課題がどのように生じていくのか、そのメカニズムと、解決するための臨床的なアプローチにかんして探求していく。

Mental health problems, mental illness, addiction, and violence. These psychological and spiritual events do not occur by themselves. In this course students explore how psychological issues arise in connection with society and the environment, their mechanisms, and clinical approaches to solving them.

授業の内容 / Course Contents

さまざまな心理的課題にかんして、社会構造や環境との関連で把握する視点を養うために、精神疾患を持つ当事者や社会的マイノリティの当事者の経験や、関連する文献、論文を検討する。また、実際に当事者臨床を展開している専門家の方のゲストレクチャやグループワークを通して実践的な学びを身につける。

In order to develop a perspective that understands various psychological issues in relation to social structure and the environment, this course examines the experiences of people with mental illnesses and social minorities, as well as related literature and papers. Students also acquire practical learning through guest lectures from experts who are actually developing clinical practice for people with mental illnesses and group work.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション、「当事者」とは誰か
- 【2】: 当事者運動、当事者研究、精神病理の社会構築性
- 【3】: グループワーク①当事者研究の実践
- 【4】: 社会構造とメンタルヘルスの関連性
- 【5】: 精神科診断によらないアプローチとしての PTMF 理論①
- 【6】: 精神科診断によらないアプローチとしての PTMF 理論②
- 【7】: 加害と被害の臨床論①ハラスメント、DV
- 【8】: 加害と被害の臨床論②加害者プログラム
- 【9】: グループワーク②暴力に抵抗するためのアクション
- 【10】: 災害とメンタルヘルス
- 【11】: ゲストレクチャー①
- 【12】: アディクションとは何か

【13】: ゲストレクチャー②

【14】: グループワーク③ふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業の最後に指示する文献や論文を読み、予習をしておくこと。その次の授業にて取り上げ、グループでディスカッションをする。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内で指示する提出物(リアクションペーパーなど):20%

テキスト / Textbooks

授業中適宜必要な文献を指定する。

参考文献 / Readings

中西正司／上野千鶴子 当事者主権 岩波書店 2003 9784004308607

メアリー・ボイル／ルーシー・ジョンストン 精神科診断に代わるアプローチ PTMF 北大路書房 2023 9784762832154

綾屋紗月／熊谷晋一郎 つながりの作法 NHK 出版 2010 9784140883358

その他 / Others

当事者の抱える臨床的な課題には明確な答えはなく、教員自身も正解を知っているわけではない。この授業では教員と院生が、双方向的なやりとりを通して課題の発見と解決を深めていくため、受講生には積極的な参加を求める。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習4

Practical Application:Community Design 4
(ローカリズム原論1)

中野 佳裕 (NAKANO YOSHIHIRO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM304
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

この講義では、現代日本におけるコミュニティデザインの潮流の理論と実践をテーマ別に整理し理解することを目指す。批判開発学・人文地理学・人類学・都市デザイン／建築学における空間・場所・スケールに関する学術的議論を参照しながら、コミュニティの現代的課題を検証する。そうすることで、空間デザインのミクロ・メゾ・マクロな力学を多角的に捉えながらコミュニティデザインの過去・現在・未来を考えていく。

This coursework aims to understand diverse currents of community design theory and practice in Japan. Each lecture scrutinises the history of local development and community design through the lens of the debate on space, place and scale in critical development studies, human geography, anthropology, and urban design and architecture. By doing so, students learn the past, present, and future of community design by reflecting on the multidimensionality of spatial organization and its power dynamics.

授業の内容 / Course Contents

全 14 回の講義は、(1)基本理論(第 2 回～第 4 回)、(2)アクターになる(第 5 回～第 7 回)、(3)ローカル・コモンズの政治学(第 8 回～第 10 回)、(4)都市公共空間／コモンズの再生(第 11 回～第 13 回)の 4 つのテーマに分かれる。(1)は日本のコミュニティデザインの基本理論を紹介し、鍵となる概念や理論枠組みを学ぶ。(2)～(4)では具体的事例をテーマ別に整理して学ぶ。授業は講義とディスカッションで構成される。受講生は各回のトピックに関連する文献資料に事前に目を通し、それらの内容に基づいてプレゼンテーションやディスカッションを行う。

The coursework consists of four parts: (1) Basic Theory; (2) Becoming Actor; (3) Politics of Local Commons; and (4) Remaking Urban Commons. Part I introduces basic theories of community designs in Japan, deepening our understanding of key concepts and theoretical frameworks. Parts II to IV discuss concrete cases from the vantage of specific thematic issues. Each class consists of a lecture, a short presentation and a discussion.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 玉野井芳郎の地域主義:理論的枠組み、可能性、課題について
- 【3】: 地元学の実践:その可能性と課題について
- 【4】: モビリティーズと田園回帰:ネットワーク時代のコミュニティデザインを考える
- 【5】: 協同で仕事をおこす:労働者協同組合の可能性
- 【6】: 有機農業から地域協同組合へ:愛媛県西予市・無茶々園の取り組み
- 【7】: 分解者たちの実践と思想:埼玉県見沼田んぼの実践から学ぶ
- 【8】: グローバル時代のローカル・コモンズ:日本の歴史的・制度的背景を整理する

【9】:ローカル・コモンズをめぐる社会運動:事例研究

【10】:コミュニティ・サヴァイヴァルとコモンズ:山口県上関町の地域開発史と原発建設計画を事例に

【11】:東京における広場の行方:J・サンド『東京ヴァナキュラー』を手引きに

【12】:脱住宅と地域公共圏のデザイン:山本理顕『脱住宅』を手引きに

【13】:企業主導型アーバニズムから創発的アーバニズムへ:J・アルマサン『東京の創発的アーバニズム』を手引きに

【14】:最終プレゼンテーション(*受講者数が多い場合は、グループ・プレゼンテーションとする)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業に関するリーディング・マテリアルに事前に目を通し、プレゼンテーションとディスカッションの準備をすること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終プレゼンテーション(第14回):10% 授業(第1回~第13回)の課題(リーディング、報告、討論)への積極的参加:80% 最終レポート割合::10%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。下記の参考文献リストから適宜リーディング課題を指定する。

参考文献 / Readings

広井良典編、日本労働者協同組合監修『協同で仕事をおこす—社会を変える生き方・働き方』コモンズ 2011

猪瀬浩平『分解者たち:見沼田んぼのほとりを生きる』生活書院 2019

室田武『グローバル時代のローカル・コモンズ』ミネルヴァ書房 2009

鹿熊信一郎・柳哲雄・佐藤哲編『里海学のすすめ:人と海の新たな関わり』勉誠社 2018

J・サンド『東京ヴァナキュラー』新曜社 2021

ホルヘ・アルマザン+Studiolab 著『東京の創発的アーバニズム』学芸出版社 2022

山本理顕+仲俊治『脱住宅—小さな経済圏を設計する』平凡社 2018

(8) 吉元哲郎『地元学をはじめよう』岩波ジュニア新書,2008.

(9) J・アーリ『モビリティーズ—移動の社会学』作品社,2015.

(10) 陣内秀信『東京の空間人類学』ちくま学芸文庫,1992.

(11) 広井良典『ポスト資本主義』岩波新書,2015.

(12) 山崎亮『縮充する日本—「参加」が創り出す人口減少社会の希望』PHP 新書,2017.

(13) 吉原直樹『コミュニティ・スタディーズ』作品社,2017.

(14) 陣内秀信、高村雅彦『水都学 I-V』法政大学出版局,2013-2016.

(15) 『シリーズ田園回帰』全8巻、農文協、2015-2017.

(16) 待鳥聡史・宇野重規編著『社会の中のコモンズ:公共性を超えて』白水社,2019.

(17) 榎文彦・真壁智治編著『アナザーユートピア:「オープンスペース」から都市を考える』NTT 出版,2019.

(18) 饗庭伸『都市をたたむ:人口減少時代をデザインする都市計画』花伝社,2015.

(19) 饗庭伸『平成都市計画史:転換期の30年間が残したもの・受け継ぐもの』花伝社,2021.

(20) 『玉野井芳郎著作集 1-4』学陽書房, 1990.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

* 大学院講義であることを考慮し、事例だけでなく、理論や方法論に関する議論も重視する。

* 毎週指定されている課題図書・論文を事前に読了した上で授業に参加すること。

* 国際的な研究動向の中に位置づけて議論を行うため、授業内では外国語文献を紹介することがある。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

下記の書籍については一冊の内容すべて(もしくは複数の章)に基づいてディスカッションを行う予定である。各自で準備の上、授業に参加されたい。

* 吉元哲郎『地元学をはじめよう』岩波ジュニア新書,2008.

* 猪瀬浩平『分解者たち:見沼田んぼのほとりを生きる』生活書院,2019.

* J・サンド『東京ヴァナキュラー』新曜社, 2021(*特に序章、第1章、終章).

* 山本理顕+仲俊治『脱住宅:「小さな経済圏」を設計する』平凡社,2018.

その他 / Others

* 講師のウェブ研究室:<https://postcapitalism.jp/index/>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習5

Practical Application:Community Design 5
(ローカリズム原論2)

中野 佳裕 (NAKANO YOSHIHIRO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM305
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

この講義では、コミュニティデザインの国際的動向を理論と実践の両側面から学ぶ。市民社会によるローカルな変革運動の歴史的展開と現代的意義を検証すると同時に、それらを支える国際的規範(国連の政策アジェンダ、国際法 etc)、各国政府の制度についても理解を深める。講義全体を通じて、持続可能な世界への移行シナリオをデザインできるようにすることを目指す。

This coursework discusses the diversity of community design theory and practice from an international perspective. Each lecture scrutinizes historical evolution and contemporary agendas of social innovations by citizens, whilst deepening our understanding of the role of international norms (UN policies, international law, etc) and political institutions of the state. At the end of coursework, students will be able to design scenarios of transition to a sustainable world.

授業の内容 / Course Contents

全 14 回の授業は、(1)アソシエーションの政治(第 2 回～第 4 回)、(2)豊かさを変える(第 5 回～第 6 回)、(3)地域コミュニティの再生(第 7 回～第 9 回)、(4)公共性の再構築(第 10 回～第 13 回)の 4 つのテーマに分かれる。(1)では 19 世紀以降のアソシエーション運動の歴史・理論・現代的実践について学ぶ。(2)では豊かさの再定義を試みるコミュニティデザイン思想について学ぶ。(3)では地域コミュニティの再生を目指すソーシャル・イノベーションの多様な実践について学ぶ。(4)では脱新自由主義を標榜する革新自治体の公共政策に学ぶ。毎回の授業は、講義・プレゼンテーション・ディスカッションで構成される。

The coursework consists of four parts: (1) Politics of Association; (2) Transforming Wealth; (3) Community Regeneration; and (4) Reconstructing Public Sphere. Part I discusses the history, theory, and practice of association and their implication for social innovation in the 21st century. Part II discusses diverse currents of community design that aim to create new ideas of wealth. Part III examines diverse experiments of social innovation that contribute to community regeneration. Part IV scrutinises the emerging progressive municipal politics challenging neoliberalism. Each lecture consists of lecture and discussion. Students must read reading materials and prepare for presentation and discussion. In the final presentation, students will present scenarios of socio-ecological transition based on community design theory and practice.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション

【2】: アソシエーションの政治: 欧州サードセクター(社会的経済/連帯経済)の歴史

【3】: 欧州サードセクターの制度・組織・実践(1)

- 【4】: 欧州サードセクターの制度・組織・実践(2)
 【5】: 消費社会から抜け出す(1): なぜ経済成長は幸福度を下げるのか?
 【6】: 消費社会から抜け出す(2): 脱成長のシナリオ
 【7】: 食のローカル化: イタリア・スローフード運動の理論と実践に学ぶ
 【8】: イタリア市民的経済の理論と実践: 倫理銀行の取り組みに学ぶ
 【9】: 地域レジリエンスを高める: 英国発トランジション・タウン運動の展開
 【10】: 都市農村共生社会を目指して: 韓国ソウル市の学校給食改革
 【11】: 公共サービスを取り戻す: 欧州ムニシパリズムの実践
 【12】: 子どもの権利と民主主義: 欧州の若者政策に学ぶ
 【13】: 気候民主主義: 欧州の気候市民会議の実践に学ぶ
 【14】: 最終プレゼンテーション(*受講人数が多い場合は、グループ・プレゼンテーションとする)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義に関連するリーディング・マテリアルに事前に目を通し、プレゼンテーションとディスカッションの準備をすること。*多くの場合は日本語資料であるが、英語・フランス語・イタリア語などの資料が含まれることもある(例—国連や欧州連合の報告書、フランス政府の報告書など)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終プレゼンテーション(第14回):10% 各回の授業への参加・課題発表(第2回～第13回):80% 最終レポート割合::10%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。下記の参考文献リストから適宜リーディング課題を指定する。

参考文献 / Readings

- R・ウィルキンソン、K・ピケット 『格差は心を壊す—比較という呪縛』 東洋経済新報社 2020
 A・エバース、J-L・ラヴィル 『欧州サードセクター: 歴史・理論・政策』 日本経済評論社 2007
 工藤律子 『つながりの経済を創る—スペイン発「もうひとつの世界」への道』 岩波書店 2020
 西川潤、生活経済政策研究所編著 『連帯経済—グローバル化への対案』 明石書店 2007
 S・バルトリニ 『幸せのマニフェスト—消費社会から関係の豊かな社会へ』 コモンズ 2018
 R・ホプキンス 『トランジション・ハンドブック—地域レジリエンスで脱石油社会へ』 第三書館 2013
 S・ラトゥーシュ 『脱成長』 白水社クセジュ 2020
 (8) 勝俣誠、M・アンベール編(2011)『脱成長の道: 分かち合いの社会を創る』コモンズ。
 (9) G・カリスほか著(2021)『なぜ、脱成長なのか』上原裕美子・保科京子訳、NHK 出版。
 (10) 工藤律子(2016)『雇用なしで生きる—スペイン発「もうひとつの生き方」への挑戦』岩波書店。
 (11) N・シュナイダー(2020)『ネクスト・シェア: ポスト資本主義を生み出す「協同」プラットフォーム』東洋経済新報社。
 (12) 中野佳裕編・訳、ジャン＝ルイ・ラヴィル、ホセ・レイス・コラッジオ編(2016)『21世紀の豊かさ—経済を変え、真の民主主義を創るために』コモンズ。
 (13) 藤井敦史、原田晃樹、大高研道編著(2013)『闘う社会的企業』勁草書房。
 (14) J-L・ラヴィル編(2012)『連帯経済: その国際的射程』北島健一・鈴木岳・中野佳裕訳、生活書院。
 (15) 藤井敦史編著(2022)『社会的連帯経済: 地域で社会のつながりをつくり直す』彩流社。
 (16) 三上直之(2022)『気候民主主義: 次世代の政治の動かし方』岩波書店。
 (17) 室橋祐貴(2024)『子ども若者抑圧社会・日本: 社会を変える民主主義とは何か』光文社新書。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

- * 大学院講義であることを考慮し、事例だけでなく、理論や方法論に関する議論も重視する。
- * 毎週指定されている課題図書・論文を事前に読了した上で授業に参加すること。
- * 国際的な研究動向の中に位置づけて議論を行うため、授業内では外国語文献を紹介することがある。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

下記の書籍は一冊すべて扱うので、各自準備して授業に臨むこと。

- * バルトリニ、S. (2018)『幸せのマニフェスト: 消費社会から関係の豊かな社会へ』コモンズ。
- * 室橋祐貴(2024)『子ども若者抑圧社会・日本: 社会を変える民主主義とは何か』光文社新書。

* 三上直之(2022)『気候民主主義:次世代の政治の動かし方』岩波書店。

その他 / Others

講師のウェブ研究室:<https://postcapitalism.jp/index/>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習9

Practical Application:Community Design 9
(資源と環境の経済社会論)

滝口 直樹 (TAKIGUCHI NAOKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM309
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

2050 年ネットゼロ目標が目指す社会は、産業革命以降発展してきた経済、社会に、大きな変革(transformation)をもたらすものになるはずである、おそらく 21 世紀全体をかけて取り組むことになるこの変革について、脱炭素、プラスチック資源循環の様々な局面から検討し、今後の経済/社会の進む方向を考察する。

The society, which 2050 carbon neutral target is trying to create, will require transformation of our economy and society developed since industrial revolution. Participating students will examine the 21 century transformation process from various aspects of decarbonization and plastic circulation. This study might give good image of future economy and society.

授業の内容 / Course Contents

パリ協定の 1.5°C 目標、IPCC の知見により、主要国は 2050 年前後にネットゼロを実現するとの目標を掲げるようになった。今世紀半ばには、石油、石炭、天然ガスを燃料や素材に用いることが困難になってくる。これは産業革命以降のエネルギー革命が形作ってきた経済社会を大きく変えることを意味する。その移行過程で何が起きるのか、主立った分野、技術毎に検討を加え、脱炭素、プラスチック資源循環が経済/社会に与えるインパクトを探っていく。

なお、授業で扱うテーマ、その扱う順序は受講生の関心事など踏まえて変更することがあり得る。

Guided by the 1.5 degree target of the Paris Agreement and the IPCC reports, major countries now have targets which achieve carbon neutral around 2050. Utilizing oil, coal and natural gas as fuel or material will be quite difficult by mid century. This means that the economy and society created by industrial revolution will be widely transformed in coming decades. This course will examine what will happen in this transition, review major industrial groups' activities and technologies, and will study potential impacts of decarbonization and plastic circulation on the economy and society. The themes and order of the course schedule may change according to the interests and questions of the course participants.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

気候変動対策、プラスチック資源循環対策とは何か、概観する。

【2】: 気候変動対策の国際的取組

気候変動枠組条約から京都議定書、パリ協定への国際交渉を振り返る。

【3】: 気候変動の国内対策枠組

日本の温室効果ガス削減目標と戦略の概要を過去、現在について検討、考察する。

【4】: プラスチックと環境政策/廃棄物政策

- プラスチック使用拡大を押し止めようとした環境政策、廃棄物政策の歴史を振り返る。
- 【5】: 気候変動対策の経済学
気候変動対策は経済の悪影響を及ぼすか、経済学的な論争の歴史や、カーボンプライシングの政策的意味を考える。
- 【6】: 気候変動の抵抗学
気候変動問題への市民、NPO や若者の動き、国際的な活動について、考察する。
- 【7】: 気候変動対策①電力、製造業
エネルギー転換部門(発電)、製鉄、セメントなど製造業での取組と今後の方向を探る。
- 【8】: 気候変動対策②自動車、交通
自動車の電動化、航空機燃料のグリーン化、船舶の動力源など運輸部門での取組の現状、今後について考察する。
- 【9】: 気候変動対策③家庭/オフィスでのエネルギー使用
家庭や商業ビルなどでのエネルギー(電気)使用での対策を、断熱、ZEB/ZEHなどの取組から考察する。
- 【10】: 気候変動対策④農業
農業部門での取組を、緩和策、適応策双方の視点から検討する。
- 【11】: プラスチック対策①マテリアルフロー
プラスチックのマテリアルフローを踏まえつつ、プラスチック資源の利用のあり方、途上国への輸出の問題点などを考察する。
- 【12】: プラスチック対策②素材代替
バイオマスプラスチックなど新素材の開発や、紙/金属など代替素材への移行、その問題点、政策について現状を考察する。
- 【13】: 金融・経済活動とカーボンニュートラル
ESG投資やTCFD、EUタクソミーと言った経済活動を左右するような政策と経済活動や CO2 削減へのインパクトを考察する。
- 【14】: まとめ・クロージング
脱炭素、プラスチック資源循環の今後について、予測、考察する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ネットゼロ、プラスチック資源循環に関わる政策や、企業の動きはとても速い。日頃から政策・事業・技術の状況に目を配り、興味ある分野の活動については深掘りしておくこと。
そのほかの学習関連事項については、授業の中で提示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表、発言など:30% 振り返り:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

環境省 令和6年版環境白書 日経印刷 2024 9784865794144

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

積極的な議論への参加

その他 / Others

研究科の学事・行事(報告会、進学相談会等)と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることがある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習11

Practical Application:Community Design 11
(コミュニティマネジメント論)

広石 拓司(HIROISHI TAKUJI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM311
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

現代社会において「コミュニティ」には、どのような意味と可能性があるのか？ プライバシーと自己責任が重視される中で、「コミュニティ」を構築するには何が必要なのか？ コミュニティ活動を活性化し、継続し発展するには何が必要なのか？そして、分断が進む世界の中で考えや価値観の異なる人とどうつながり、社会を共に良くすることができるのか？ これからの社会における人のつながりとコミュニティの意義と構築、運営の方法を考える。

What is the meaning and potential of "community" in modern society? What is needed to build a "community" in a world where privacy and personal responsibility are emphasized? What is needed to invigorate, sustain, and develop community activities? And in a world where division is increasing, how can we connect with people who have different ideas and values, and work together to improve society? This program considers the significance of human connections and communities in the society of the future, as well as how to build and operate them.

授業の内容 / Course Contents

これからの社会で「コミュニティ」を構築し、運営していくには、どのような発想、手法、ツールが必要なのだろうか？
かつての地域社会や職場では、そこに属する人は共同体の一員であると自覚し、行動していた。しかし、価値観もライフスタイルも多様化した現代では、同じ地域や職場であっても共同体の一員という自覚は弱く、関わり方もまちまちで、参加しないことを選ぶ場合も少なくない。そのような中で、まちづくり団体やNPOが、コミュニティの一員としての責任、参加、行動を呼びかけても、参画者は広がらず、専門家や意識の高い層に参加が限られてしまいがちだ。今の社会で人がつながり、参加するコミュニティをどう構築していけばいいのだろうか。

また、現代は異なる価値観の対立が起きたり、「意識高い人」を否定するなど、あちらこちらで「分断」が起きており、社会的な活動を進めづらい状況も起きている。社会を良くするために立場や価値観を超えて、どのように協力していけばいいのだろうか。

本授業では、これからの社会におけるコミュニティづくりとは何かを考え、講義における対話、受講者が事例分析を行い、現代社会における人と人のつながりやコミュニティの再構築に何が求められているのかを実践的に考察していく。

What kind of ideas, methods, and tools are necessary to build and manage a "community" in the society of the future? In the past, people in local communities and workplaces were aware that they were part of a community and acted accordingly. However, in today's world, where values and lifestyles have become more diverse, people in the same area or workplace have a weak sense of being part of a community, and their involvement varies, with many choosing not to participate. In such a situation, even if urban development organizations and NPOs call for people to take responsibility, participate, and act as members of a community, the number of participants does not increase, and participation tends to be limited to experts and those with a high level of awareness. How can we build a community in

which people can connect and participate in today's society?

In addition, in today's world, there are conflicts between different values, and "divisions" are occurring here and there, such as the denial of "highly conscious people," making it difficult to advance social activities. How can we cooperate beyond positions and values to improve society? In this class, we will consider what community building in the society of the future means, and through lecture dialogue and case analysis by participants, we will practically consider what is needed to rebuild connections between people and communities in modern society.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション(現代社会におけるコミュニティを考える視点、授業の概要と実施内容について解説する)
- 【2】: コミュニティが成立するための条件と条件を整える方法を学ぶ
- 【3】: 考えの違う人とつながり、協力するには?
- 【4】: 千代田区、文京区などの都心エリアにおけるコミュニティの課題と再構築の方法を考える
- 【5】: 社会起業家とコミュニティの相互に影響を与え合う関係を考える
- 【6】: 気候変動、DEIなどのめぐる分断を超え、社会を良くする活動に仲間を増やすには?
- 【7】: 受講生による事例分析の発表と討議
- 【8】: 受講生による事例分析の発表と討議
- 【9】: 受講生による事例分析の発表と討議
- 【10】: 受講生による事例分析の発表と討議
- 【11】: コレクティブ・インパクトを生み出す多様な主体の協働について考える
- 【12】: 地域における人的資本戦略～地域の力を活かすには?
- 【13】: 社会変化を起こすために人々の力を持ち寄り、変化を起こすには?
- 【14】: これからの社会に求められるコミュニティ・マネジメントの手法を考える

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

受講生は自分の関わっている・関心のあるコミュニティの事例分析を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内のリアクションペーパーの内容:30% 授業内でのワークへの参画:40% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

特定の教科書は利用しない

参考文献 / Readings

Peter Block Community: The Structure of Belonging Berrett-Koehler Pub 2008

広石拓司 専門家主導から住民主体へ エンパブリック 2020

佐藤真久・広石拓司 ソーシャルプロジェクトを成功に導く12のステップ みくに出版 2018

SSRI Japan これからの「社会の変わり方」を探しに行こう。 英知出版 2021

その他 / Others

講師の会社のホームページ <http://empubli.jp>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習14

Practical Application:Community Design 14
(文化政策論1)

若林 朋子(WAKABAYASHI TOMOKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM314
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

文化政策は公共政策であることを踏まえ、文化と社会の関係性や、具体的な文化政策の内容について理解を深める。社会デザインの視点で文化政策を捉えなおし、かつ、文化の視点から社会デザインを考える。

Based on the fact that cultural policy is public policy, students will deepen their understanding of the relationships between culture and society, and the specific content of cultural policy. Students will reconsider cultural policy from the perspective of social design, and consider social design from the perspective of culture.

授業の内容 / Course Contents

文化政策が対象とする「文化、芸術、アート」とは何かを考えることからはじめ、国や自治体による公共政策としての文化政策、企業をはじめとする民間の文化の取り組みについて概観する。特に文化政策の歴史的な変遷のなかでも、大きく様変わりした直近 30 年の展開を重点的に扱う。

なお、ここでいう「文化」の範囲は、狭義の芸術文化から、地域社会の歴史に根ざした文化、よりよく生きる人間の営みとしての文化まで、幅広いものとする。ゲストを迎えてのレクチャーや文化施設等の見学(任意参加)も行う。

Starting with thinking about what is "culture and the arts", that is the object of cultural policy, we will give an overview of public cultural policy by the national and local governments, and civic cultural efforts such as by business companies. Among historical changes in cultural policy, we will focus on developments in the last 30 years when the situation has changed dramatically.

In addition, the scope of "culture" described here shall be wide, stretching from art culture in a narrow sense, to culture rooted in the history of local communities, and culture as a human activity to live better. We will also invite guest lecturers and visit cultural facilities.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 文化、芸術、アート
- 【2】: 文化政策をめぐって: 文化政策の意義、日本の文化政策の変遷
- 【3】: 文化政策と法律: 文化芸術基本法
- 【4】: 国の文化政策①
- 【5】: 国の文化政策②
- 【6】: 国の文化政策③
- 【7】: ゲストレクチャー①

- 【8】: 地方自治体の文化政策①
- 【9】: 地方自治体の文化政策②
- 【10】: 地方自治体の文化政策③
- 【11】: 企業の文化政策①
- 【12】: 企業の文化政策②
- 【13】: ゲストレクチャー②
- 【14】: 広がる文化政策領域

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への参画(発言・発表・ディスカッション):100%

毎回のリアクションペーパー(コメント)提出で出席とします

テキスト / Textbooks

特に指定しない(随時紹介する)。

参考文献 / Readings

随時紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習16

Practical Application:Community Design 16
(社会組織とフォロワーシップ)

梅本 龍夫(UMEMOTO TATSUO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM316
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

現代社会の主役はリーダーではなくフォロワーです。民主主義の基本ルールはフォロワー(有権者)がリーダー(政治家)を選ぶことにありますが、これは政治以外の組織的な活動においても、本質的には同じです。ピラミッド型階層を前提とする企業組織でも、上司が一方向的に物事を決め命令を下し、部下は盲目的に服従するという関係は、その有効性を失いつつあります。

現代は、あらゆる場面でリーダーシップの必要性を強調する傾向が強いですが、リーダーとフォロワーは本質的に対等であり、リーダーシップはフォロワーシップと一対のものです。理念やビジョン、活動目的をリーダーと共有するフォロワーが、自律的に活動し、集散的知恵を発揮することで、はじめて組織も社会も本来もてる力を発揮できるようになります。

本授業では、フォロワーシップの位置づけを明確に定義するとともに、社会デザインの課題を実装していく段階で成功のカギを握る自律衆知型フォロワーのあり方を実践的に探求します。

補足説明:

講師(梅本龍夫)が日本のスターバックス立上げ総責任者として体験した失敗や学びのライフストーリーを共有します。それは決して成功エピソードではなく、対話的なワークを実践するための素材に過ぎません。答えのない問いを問い続ける対話の姿勢を講師自らが保持し、受講生とフラットな関係で授業を進めることを目指します。リーダーとフォロワーは固定した関係ではなく、講師もまた受講生からたくさんの学びや気づきを得るフォロワーでもあります。対話的ワークと一緒に楽しみたいと思います。

The main actors in modern society are followers, not leaders. The basic rule of democracy is that followers (voters) elect leaders (politicians), and this is essentially the same in organizational activities other than politics. Even in business organizations based on a pyramid hierarchy, the relationship in which the boss unilaterally decides things and gives orders, and the subordinates blindly obey, is losing its effectiveness.

Today, there is a strong tendency to emphasize the need for leadership in all situations, but leaders and followers are essentially equal, and leadership is a pair with followership. It is only when followers, who share the same philosophy, vision, and purpose of activities with leaders, work autonomously and demonstrate their collective wisdom, that organizations and society can realize their full potential.

In this class, we will clearly define the position of followership and practically explore how autonomous followers can be the key to success in the implementation stage of social design issues.

Supplemental Explanation:

The lecturer (Tatsuo Umemoto) will share his life story of failure and learning that he experienced as the general manager of the launch of Starbucks in Japan. They are not success stories by any means, but merely material for

practicing interactive work. The instructor himself will maintain an attitude of dialogue to keep asking unanswerable questions, and will aim to have a flat relationship with the participants in the class. Leaders and followers do not have a fixed relationship, and the instructor is also a follower who gains a lot of learning and awareness from the students. We would like to enjoy interactive work together.

授業の内容 / Course Contents

第1回のオリエンテーションは、TED 動画(Derek Sivers: How to start a movement)から始めます。「リーダーを選ぶのはフォロワー」という基本を体感し、本講座を通底する考え方と価値観を共有します。以後、下記4ステージを展開し、最後に総括の時間を持ちます。

- (1) リーダーとフォロワーの対等性(一対の存在)
- (2) パーソナリティ・タイプとチーム(社会的な関係性)
- (3) フォロワーシップの仕組みづくり(機能と構造)
- (4) フォロワーシップと社会(社会の主役としてのフォロワー)

講師による理論的枠組みと、受講生による体験的ケースおよび事例研究をつなぎあわせ、フォロワーシップ論が社会組織の活性化に寄与する可能性を多面的に探求します。毎回、グループワークを織り交ぜ、対話的プロセス(答えのない問いを問い続けるプロセス)を重視します。

The first orientation session will begin with a TED video (Derek Sivers: How to start a movement). The first orientation session will begin with a TED video (Derek Sivers: How to start a movement), followed by a presentation on the basic principle that “followers choose leaders” and a sharing of the ideas and values that underlie the course. Thereafter, the following four stages will be developed, with time for a summary at the end.

- (1) Equality of leader and follower (a pair)
- (2) Personality types and teams (social relationships)
- (3) Creation of followership structure (function and structure)
- (4) Followership and society (followers as the main actors in society)

By combining the instructor's theoretical framework with the students' own experiences and case studies, this course explores the potential of followership theory to contribute to the revitalization of social organizations from multiple perspectives. Group work will be interwoven in each session, emphasizing an interactive process (a process of continually asking unanswerable questions).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション「フォロワーシップとは何か」
- 【2】:リーダーとフォロワーの対等性1(リーダーシップ概論)
- 【3】:リーダーとフォロワーの対等性2(フォロワーシップ概論:前半)
- 【4】:リーダーとフォロワーの対等性3(フォロワーシップ概論:後半)
- 【5】:リーダーとフォロワーの対等性4(自律衆知型フォロワー論)
- 【6】:パーソナリティ・タイプとチーム1(外向型、融和型、内向型)
- 【7】:パーソナリティ・タイプとチーム2(楽観型、合理型、悲観型)
- 【8】:フォロワーシップの仕組みづくり1(一貫した主義と制度:スターバックス)
- 【9】:フォロワーシップの仕組みづくり2(オーケストラに学ぶ:ミュージックパラダイム)
- 【10】:フォロワーシップの仕組みづくり3(パブリックへの参画:討論型世論調査、裁判員制度)
- 【11】:フォロワーシップと社会1(二項対立と二項同体、タテ社会とヨコ社会)
- 【12】:フォロワーシップと社会2(二項同体とタテ社会、英語と日本語)
- 【13】:フォロワーシップと社会3(中心と中空、空気と対話)
- 【14】:総括「フォロワーシップの時代」

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% クラスディスカッションへの参加:25% リアクションメール:25%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

梅本龍夫 日本スターバックス物語——はじめて明かされる個性派集団の挑戦 早川書房 2015

バーバラ・ケラーマン ハーバード大学特別講義 リーダーシップが滅ぶ時代 ソフトバンク クリエイティブ 2013

ロバート・ケリー 指導力革命—リーダーシップからフォロワーシップへ プレジデント社 1993

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習17

Practical Application:Community Design 17
(ジェンダーとリプロダクション)

菊地 栄(KIKUCHI SAKAE)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM317
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 9202 教室の利用可。なお、第 1 回と第 14 回はハイフレックス形式(対面・オンライン併用)で授業を実施し、教室での対面参加を推奨します(教室は 9202)。
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、性差及びリプロダクションに関わる課題について、ジェンダーの視点から再考する。性役割、セクシュアリティ、リプロダクションをめぐる事象が社会的にどのように認識されてきたのか、またその現状を確認し、様々な思い込みや制度に対し、新たな視点を提供するジェンダー概念を理解することを目標とする。

In this class, we will reconsider the issues related to gender differences and reproduction that exist in our daily lives from a gender perspective. The goal of this lecture is to understand how gender roles, sexuality and reproductive events are perceived in society currently, as well as the concept of gender, leading to new perspectives on existing transitional beliefs and institutions.

授業の内容 / Course Contents

今日、性別役割のみならず、セクシュアリティもまた文化的に構築された概念であることが認識されるようになっている。セクシュアリティは SOGI(Sexual Orientation and Gender Identity:性的思考と性自認)において様々なあり方が存在し、ジェンダー概念は性の多様性へと新たな視点を提供してくれる。本授業では、これまで「女性学」の視点で捉えられがちだったジェンダー論を「男性学」「セクシュアリティ」の観点からまなざし、個人に引き寄せて思考する。また性差を特徴づけるとされてきた妊娠・出産・哺育などリプロダクションの生物学的事象と、それらに影響を与えるテクノロジーや政策について検討する。ジェンダーのまなざしは人権・環境へと広がっており、気候変動やパンデミックなど危機管理が喫緊の課題となっている社会における、持続可能性や包摂の概念を一步進めた身体性を含むケア論についても触れていきたい。

Today, society recognizes sexuality as a culturally constructed concept, along with gender roles.

SOGI (Sexual Orientation and Gender Identity) exists in a number of ways, while the concept of gender provides new perspectives on sexual diversity.

In this class, gender theory, which has tended to be seen from the perspective of 'women's studies', is looked at from the perspective of 'men's studies' and 'sexuality', and thought is drawn to the individual.

We will examine the biological events of reproduction such as pregnancy, childbirth, and breastfeeding, which have been regarded as characterizing gender differences, as well as the technologies and policies that affect these events.

Gender studies extends to human rights and the environment. In a society where there is urgency in managing crises such as climate change and pandemics, the role of care, which has been assigned largely to women, is being reexamined. Accordingly, we will touch on the theories of sustainability and inclusion, and take a step further into the concept of care, including physicality.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション、ジェンダーとは何か
- 【2】: メディアに表象されたジェンダー、規範化された性別役割
- 【3】: フェミニズム、男性学
- 【4】: セクシュアリティの多様性
- 【5】: 子どもの困難 女の子の育つ環境、児童虐待、貧困
- 【6】: 研究発表(1)
- 【7】: 研究発表(2)
- 【8】: 性の身体、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ
- 【9】: 近代家族と少子化社会
- 【10】: リプロダクション(1) 出産の歴史と身体
- 【11】: リプロダクション(2) 不妊治療と生殖産業
- 【12】: ジェンダーハラスメント 労働、セクハラ、DV、性暴力
- 【13】: 環境とジェンダー 気候変動、核・原発、エコフェミニズム
- 【14】: まとめ 人権とケア

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ジェンダー、リプロダクション、環境、ケア等、関連の図書を予習し、日頃のニュースや出来事に注目する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席:40% リアクションペーパー:10% 発表:10% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

講義時に適宜紹介する。

参考文献 / Readings

チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ 男も女もみんなフェミニストでなきゃ 河出書房新社 2017

奥野克己 はじめての人類学 講談社現代新書 2023

澁谷知美、清田隆之編 どうして男はそうなんだろうか会議:いろいろ語り合ってきた「これからの男」のこと 筑摩書房 2022

レイチェル・グリーナー ようこそ! あかちゃん:せかいじゅうの家族のはじまりのおはなし 大月書店 2021

白井千晶ほか 産み育てと助産の歴史 医学書院 2016

ケア・コレクティブ ケア宣言:相互依存の政治へ 大月書店 2021

多賀太 男子問題の時代?:錯綜するジェンダーと教育のポリティクス 学文社 2016

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習18

Practical Application:Community Design 18
(哲学対話の理論と実践)

大熊 玄(OKUMA GEN)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM318
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

哲学対話の基本的な考え方を学び、実際に体験することで習熟し、いわゆる哲学対話だけでなく、より一般的な「対話する力」を向上させること。さらに、自身で哲学対話の企画や運営、ファシリテーションが出来るようになること。

To learn the basic ideas of philosophical dialogue, to become proficient in it through actual experience, and to improve not only so-called philosophical dialogue but also the “ability to engage in dialogue” in more general terms.

Furthermore, to be able to plan, manage, and facilitate philosophical dialogues by oneself.

授業の内容 / Course Contents

参加者全員で「哲学的に対話する」という実践をくり返し、哲学対話の理論を単なる知識としてだけでなく、身体化された知恵として身につける。各回で一つのテーマを共有し、そのテーマについて「問い」を立て、みなで協力し合いその問いを深めつつも、けっして一つの正解(合意)を無理に求めることなく、その時・その場における暫定的な「答え」(共通の意味)をゆっくりと探っていく。

下記の「授業計画」には、対話のテーマが列挙されているが、それらは各回で扱われるテーマとして確定されたものではなく、受講生の興味・関心・希望に応じて変更が可能なものである(むしろ参加者には積極的にテーマや問いを出すことを期待する)。また、当研究科の講義形態が「ハイフレックス」を基本としているため、受講生の参加形態(対面・オンライン)の割合に応じて対話形態も変化することになるが、それは、「対話」をテーマとする本授業ではその内容そのものが変化することでもある。「授業の内容」を、授業参加者全員で作っていくことにより、オンラインが常態化した後の対話の方法や意味についても考えていきたい。

All participants will repeat the practice of “philosophical dialogue,” and will learn the theory of philosophical dialogue not only as general knowledge but also as their own wisdom. Each session will share a theme, formulate a “question” on that theme, and while everyone cooperates to deepen the question, never forcibly seeking a single correct answer (consensus), but slowly searching for a tentative “answer” (common sense) at that time and place.

Themes for dialogue are listed in the below “Course Schedule, but these are not fixed themes to be covered in each session, and can be changed according to the interests, concerns, and wishes of the participants (in fact, participants are encouraged to actively propose their own themes and questions). In addition, since the lecture format of this course is based on the “HyFlex” format, the dialogue format will change according to the ratio of means of student participation (face-to-face or online), which also means that the content itself will change in this class. By creating the contents of this class with all participants, we would like to consider the methods and meanings of dialogue after online used normally.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス: 哲学対話とは何か
 【2】: 「大学・大学院」
 【3】: 「働く・遊ぶ」
 【4】: 「アイデンティティ」
 【5】: 「結婚・名前」
 【6】: 「対立・争い」
 【7】: 「ジェンダー」
 【8】: 「平等・差別」
 【9】: 「宗教・信仰」
 【10】: 「国家・民族」
 【11】: 「家族・親子」
 【12】: 「幸福・福祉」
 【13】: 「事実と虚偽」
 【14】: 「社会デザイン」

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業前には、次回の授業で扱うテーマの候補をいくつか考え、自ら思考をめぐらせておく。授業後には、授業中に扱ったテーマや問いについて、思考を中断することなく考え続け、それをきっかけに周囲の者と対話し、コメント送付する。各回の授業の後に送付されるコメントは、対話することそのものについての気づきや、対話したテーマについての気づきについて、一週間後や半年後の自分や他者にも伝えたいこと、シェアしたいことを書く。授業時間外に計60時間の学修を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回の出席とコメント:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

河野哲也 他 0からはじめる哲学対話 ひつじ書房 2020 4823410327
 土屋陽介 僕らの世界を作りかえる哲学の授業 青春出版社 2019 4413045742
 梶谷真司 考えるとはどういうことか 幻冬舎 2018 4344985141
 納富信留 対話の技法 笠間書院 2020 4305709325

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ハイフレックスによる講義形態のため、対面参加者も、zoom に接続可能な機器(ノートパソコン・タブレット)を持参すること。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習20

Practical Application:Community Design 20
(CSR/ESG 金融総論－1)

河口 眞理子(KAWAGUCHI MARIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM320
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

2015 年に成立した SDGs から今年で 10 年となる。残念ながら成立当初の盛り上がりとは裏腹に、世界各地での紛争による地政学リスクの増大、頻発する世界各地の気象災害、それらがエネルギーや食料価格の高騰と移民難民問題の深刻化をもたらしている。その結果 SDGs のゴール達成は遠のいている。一方で、SDGs が目指した経済社会の在り方、ビジネス界金融界の意識の転換の流れは逆に加速している。岸田内閣が標榜した「新しい資本主義」は、単なる流行言葉ではなく 20 世紀型資本主義の変容、転換を示すと考える。人々の意識もそうであるが、資本主義の根幹である企業の目的や投資家の求める成果が変容しつつある。財務価値に加えてサステナビリティなどの非財務価値を経営課題に取り組む動きは、一部の投資家や経営者の自主的な取り組みとして今世紀初頭から広がり始めたが、2020 年以降はグローバルな金融制度や上場基準に組み込む動きが進んでいる。こうした経営や投資をサステナブル経営、サステナブルファイナンスといわれる。本講義では、新たな資本主義への転換がなぜ生まれたのか、解決すべき社会課題とはなにか？ 新たな企業経営と金融の在り方はどうなるのか、企業の立場、投資家の立場に立って考察していく。

This year marks 10 years since the SDGs were established in 2015. Unfortunately, despite the excitement at the time of its establishment, the increase in geopolitical risks and the frequent extreme weather disasters around the world have led to soaring energy and food prices and a worsening problem of immigrants and refugees. As a result, the achievement of the SDGs seems far from being achieved.

On the other hand, the trend of changing the consciousness of the economic society and the business and financial community, which is the goal of the SDGs, is accelerating. I believe that the “new capitalism” advocated by the Kishida Cabinet is not just a buzzword, but represents the transformation of 20th-century capitalism. The purpose of corporations, which are the foundation of capitalism, are now changing from maximizing shareholders returns. The movement to address non-financial values such as sustainability on management issues began to spread at the beginning of this century as a voluntary initiative by some investors and managers, but since 2020, there has been a movement to incorporate them into the global financial system and listing standards. This kind of management and investment is called sustainable management and sustainable finance. In this lecture, we will discuss why the shift to a new form of capitalism was born and what social issues need to be solved. We will consider what the new form of corporate management and finance will be from the standpoint of companies and investors.

授業の内容 / Course Contents

新たな資本主義と期待されるステークホルダー資本主義においては、気候変動などの社会課題解決が企業の目的となる。本講座では、そもそも SDGs の S(サステナビリティ=持続可能性)の考え方を理解し環境の持続可能性、社会の持続可能性について主要な課題について概観する。そして、現在のグローバル社会を持続可能に転換させるシステム SDGs

とパリ協定などの国際的なイニシアチブの目的と進捗について理解を深める。それを受けて、ビジネスの在り方(CSR・ステークホルダー資本主義)と金融(ESG 金融)の取り組みについて様々な観点から考察する。なお、本コースは VM353 と連動しているので、セットで受講することが望ましい。

Stakeholder capitalism, which is regarded as new and sustainable capitalism, will require business to solve social issues such as climate change, as their purpose of corporate activities. In order to understand such transformation, we must first ask what is the meaning of sustainability represented by SDGs? In this course we will go over the major environmental and social issues, and study about the role of the international initiatives such as SDGs and Paris Agreement, both of which are intended to transform our society. We will also study the missions and roles of business sector and also of finance to make the society more sustainable.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション:サステナビリティからウェルビーイングへ。サステナビリティ SX とはなにか? 更にその先のウェルビーイングとは何か?
- 【2】:持続可能でない社会課題1:環境問題(気候変動、生物多様性、サーキュラーエコノミー 有害化学物質)
- 【3】:持続可能でない社会課題2:人権問題
- 【4】:社会転換へのイニシアチブ SDGs、パリ協定、生物多様性
- 【5】:新たな資本主義と企業倫理
- 【6】:CSR 経営1 CSR の歴史、定義
- 【7】:CSR 経営2 環境経営
- 【8】:CSR 経営3 人的資本経営
- 【9】:CSR とコミュニケーション
- 【10】:ソーシャルファイナンス
- 【11】:ESG 金融 歴史と意義
- 【12】:ESG 評価
- 【13】:ESG 投資の実際
- 【14】:サステナブルなビジネスと金融の未来

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

VM353とセットで受講することが望ましい

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

リアクションペーパーの提出

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパー:25% 授業態度:25%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

岩井克人『資本主義から市民主義へ』ちくま文庫 2014 9784480096197
 河口真理子『ソーシャルファイナンスの教科書』生産性出版 2015 97848201204380036
 高巖他『CSR 企業価値をどう高めるか』日本経済新聞社 2004 9784532311810
 塚越寛『いい会社をつくりましょう』文屋 2004 49900858760034
 谷本寛治『SRI 社会的責任投資入門』日本経済新聞社 2003 4532350506
 名和高司『パーパス経営』東洋経済出版社 2021 9784492534366
 水口剛『ESG 投資』日本経済新聞出版社 2017 9784532357443

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習21

Practical Application:Community Design 21
(助成と評価)

若林 朋子(WAKABAYASHI TOMOKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM321
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

寄付、助成、協賛、プロボノ、クラウド・ファンディングなど、市民や非営利団体の取り組みを支援する方法は多数ある。そのなかで「助成」は、助成者(資金の出し手)側に変化を期待する課題や達成目標があり、被助成者(資金の受け手)に対して具体的な成果を求める点、一連の過程や手続きが制度化されている点に特徴がある。本演習では、助成の特質について理解を深めながら、助成プログラムや助成財団の社会的役割について実践的に学ぶ。同時に、助成と不可分の「評価」についても基本的な方法論を把握し、最新動向についても学ぶ。

There are many ways to support the efforts of citizens and nonprofit organizations such as donations, subsidies, co-sponsoring, pro bono, and crowdfunding. Among them, "subsidies" have the characteristics that the subsidy grantor (the originator of the funds) has some problem that they expect to change or has achievement goals, and desires specific outcomes from the subsidy recipient (the recipient of the funds), and that there is a series of institutionalized processes and procedures concerning the subsidies. In this course, as students deepen their understanding of the nature of subsidies, they will learn about the social role of subsidy programs and foundations in practice. At the same time, students will learn about the basic methodology of subsidies and indivisible "evaluation" and learn about the latest trends.

授業の内容 / Course Contents

助成財団の活動や、実際に運用されている「助成プログラム」を参照し、助成のミッション、政策、プログラムの構築、具体的な助成プロセス等について分析する。また、運用上の課題や、助成が持つ可能性についても考察し、今後の日本社会に必要とされる助成財団や助成プログラムのあり方、専門人材の育成についても考察する。同時に、助成プロセスに不可欠である「評価」についても、基本的事柄をおさえたうえで、バリエーションや最新の傾向を紹介する。

具体的な進め方としては、各回のテーマに沿った発題に対する意見発表、ディスカッションを基本とする。当該分野の最前線で活躍するゲストを迎えてのレクチャーも適宜行う。

Referencing the activities of subsidy foundations and "subsidy programs" that are actually operated, students will analyze the missions, policies, program construction, and specific subsidy processes, etc. of subsidies. In addition, students will consider operational issues and the possibilities of subsidies, and also consider the ideal form of foundations and subsidy programs required for Japanese society in the future, and the development of specialized human resources. At the same time, with regard to "evaluation" that is essential to the subsidy process, after covering the basics, we will introduce the variations and the latest trends.

The specific approach of the course will be based on presentation of opinions and discussions of the subjects along the theme of each class. Lectures will also be given by guests who are active at the forefront of their fields.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:助成とは何か①
- 【2】:助成とは何か②
- 【3】:助成財団の現況
- 【4】:助成プログラム事例発表①
- 【5】:助成プログラム事例発表②
- 【6】:助成プログラム事例発表③
- 【7】:ゲストレクチャー①
- 【8】:評価とは何か①:イントロダクション
- 【9】:評価とは何か②:助成における評価
- 【10】:多様な評価方法①
- 【11】:多様な評価方法②
- 【12】:多様な評価方法③
- 【13】:ゲストレクチャー②
- 【14】:助成・評価におけるプログラム・オフィサーの役割と今後の課題、可能性

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への参画(発言・発表・ディスカッション):100%

毎回のリアクションペーパー(コメント)提出で出席とします

テキスト / Textbooks

特に指定しない(随時紹介する)。

参考文献 / Readings

その他 / Others

随時紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習22

Practical Application:Community Design 22
(文化政策論2)

若林 朋子(WAKABAYASHI TOMOKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM322
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

社会デザインの視点、すなわち、社会との関係性から文化政策を捉え直す。芸術や文化、アートの多様性や創造性が、社会の諸領域とどのように共振し、時代の要請に応答し、あるいは課題提起しているのかを把握し、文化政策の今後の方向性を考える。

Students will reconsider cultural policy from the perspective of social design, that is, the relationship with society. Students will understand how art and culture, art diversity and creativity resonate with social areas, respond to the demands of the times, or pose challenges, and consider the future direction of cultural policy.

授業の内容 / Course Contents

拡張しつつある昨今の文化政策を、文化・芸術・アートと社会の関わりの領域拡大から捉えていく。各回の授業では、「文化、アート×○○○」に該当する現場の実践事例をとりあげ、そうした取り組みの意義を文化政策的観点で考える。各分野の現場で活躍するゲストを招いた講義を行いつつ、ディスカッションで理解を深めていく。

Students will understand the current cultural policies that are expanding from the growth of the area of relationships between culture, art, and society. In each class, we will take practical examples from the field corresponding to "Culture, Art + XXX", and consider the significance of such efforts from a cultural policy perspective. Discussion will be the basic format, and we will also have presentations and lectures from invited guests as appropriate.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:文化政策概論、拡張する文化政策:文化・アートと社会の関わりの領域拡大／文化・アート×社会包摂①
- 【2】:文化・アート×社会包摂②【ディスカッション】
- 【3】:文化・アート×生きづらさ支援①
- 【4】:文化・アート×生きづらさ支援②【ディスカッション】
- 【5】:文化・アート×医療・福祉①
- 【6】:文化・アート×医療・福祉②【ディスカッション】
- 【7】:文化・アート×障害者支援①
- 【8】:文化・アート×障害者支援②【ディスカッション】
- 【9】:文化・アート×まちづくり・多文化共生①
- 【10】:文化・アート×まちづくり・多文化共生②【ディスカッション】
- 【11】:文化・アート×防災①
- 【12】:文化・アート×防災②【ディスカッション】
- 【13】:文化・アート×介護・高齢者支援①

【14】:文化・アート×介護・高齢者支援②【ディスカッション】、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

コミュニティデザイン学演習 14(文化政策論1)を履修しておく、文化政策の背景を理解した上での受講が可能となる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への参画(発言・発表・ディスカッション):100%

毎回のリアクションペーパー(コメント)提出で出席とします

テキスト / Textbooks

特に指定しない(随時紹介する)。

参考文献 / Readings

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習23

Practical Application:Community Design 23
(問い直しの社会史)

小関 孝子(OZEKI TAKAKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM323
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

世間一般に浸透している通説や常識を問い直し、歴史のなかに埋もれてしまっていた市井の人々の言説分析を通して、現在の価値観が醸成されていく過程を示すことができる。さらにその結果を考察し、何が固定され何が捨象されたのかを捉えることができる。

By questioning the prevailing common sense and common opinions and by analyzing the discourses of ordinary people that have been buried in history, we can show the process by which the current values have been fostered.

Furthermore, by examining the results of this process, we are able to grasp what has been fixed and what has been discarded.

授業の内容 / Course Contents

日々の暮らしのなかでわたしたちが何気なく使っている言葉や社会常識と思われる事柄について、改めて問い直すというのがこの授業の狙いである。通説を疑う視点と、それを検証する具体的な方法について、事例を示しながら習得する。

例えば、明治時代に「生活」という言葉はどのようなニュアンスを含んでいたのか、大正時代の結婚式はどのようなものだったのか、関東大震災前の東京では何が流行っていたのか、「合理化」という言葉が普及したのはいつ頃か、1945年8月の終戦を挟んで学生たちの暮らしはどのように変化したのか、戦後のキャバレーではどんな女性が働いていたのかなど、社会史のなかでも見落とされがちな生活に密着したテーマについて考える。明治初期から現在までを時系列で扱うため、授業全体を通して近代化のうねりをとらえ直すということも授業に通底するテーマである。

生活に関する価値観は時代とともに確実に変化しているが、変化の過程や速度をとらえることは容易ではない。しかし、現在では、蔵書検索、記事検索という方法により、調べたいテーマに関する当時の言説を見つけることができるようになった。言説を時系列でたどれば、言葉の役割やニュアンスの変化を確認することも可能である。埋もれていた史料を発掘し、新たな視座でこれまでの社会史を問い直すことが、現在の社会問題に風穴を開けることにつながるに違いない。

The aim of this class is to reexamine the words we use casually in our daily lives and the things that are considered common knowledge in society. The class will provide students with perspectives to question commonly held beliefs and concrete methods to verify them, using case examples.

For example, what nuance did the word “life” have in the Meiji era, what were weddings like in the Taisho era, what was popular in Tokyo before the Great Kanto Earthquake, when did the word “rationalization” become popular, how did students’ lives change after the war ended in August 1945? How did the lives of students change between the end of the war in August 1945, and what kind of women worked in cabarets after the war? Since the class covers the period

from the early Meiji era to the present, another underlying theme of the class is to reconsider the swell of modernization throughout the course.

Values related to daily life have certainly changed over time, but it is not easy to capture the process and speed of change. However, it is now possible to find discourses of the time on the theme you wish to research by searching books and articles in the library. By tracing discourses in chronological order, it is also possible to confirm changes in the roles and nuances of words. Unearthing buried historical documents and reexamining the social history of the past from a new perspective will surely open up new avenues for addressing current social issues.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 社会デザイン学の視座から社会史を研究する意義
- 【2】: 言葉のイメージを疑う: 「家庭」という言葉の流行と西洋思想
- 【3】: 明治後期: 神前式結婚式の発明、カフェーの登場、新橋芸者
- 【4】: 大正初期: 中産階級の拡大と雑誌の創刊
- 【5】: 大正後期: 関東大震災の罹災者支援と考現学の誕生
- 【6】: 昭和初期: 新東京と大不況「大学はで出たけれど」
- 【7】: 昭和初期: アメリカ大衆文化の影響を考える(映画・ファッション・音楽)
- 【8】: 戦時中: 貯蓄奨励のキーワードとなった生活合理化
- 【9】: 終戦前後: 『大學新聞』に掲載された学生たちの声
- 【10】: 占領期: 戦後復興の時代に生きた女性たち
- 【11】: 高度経済成長期: 『暮しの手帖』商品テストを考える
- 【12】: 夕張市の「炭鉱から観光へ」をふりかえる
- 【13】: 観光立国の功罪: 外資系ホテルの乱立とステークホルダー
- 【14】: 接客と性と飲食店: いま歌舞伎町で何がおきているのか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前にテキスト指定範囲を熟読しておくこと(各回約2時間)。授業後には指示する課題を行うこと(各回2時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% リアクションペーパー: 30% 授業内に指示した提出物: 30% 最終レポート割合: 40%

テキスト / Textbooks

小関孝子 『夜の銀座史 明治・大正・昭和を生きた女給たち』 ミネルヴァ書房 2023 9784623095605

参考文献 / Readings

- 小関孝子 『生活合理化と家庭の近代』 勁草書房 2015 9784326602759
- 柳田國男 『明治大正史 世相篇』 講談社 1993 4061590820
- 前田愛 『近代読者の成立』 岩波書店 2001 4006020325
- 今和次郎編 『新版大東京案内 上』 筑摩書房 2001 4480086714
- 今和次郎編 『新版大東京案内 下』 筑摩書房 2001 4480086722
- 吉見俊哉 『都市のドラマトウルギー』 河出書房新社 2008 9784309409375

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習25

Practical Application:Community Design 25
(公共と市民社会)

亀井 善太郎 (KAMEI ZENTARO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM325
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

市民社会をテーマとした社会科学の古典等のテキストを用いた「対話」を通じて、市民(あなた自身)が社会課題に向き合うこと、その解決を担うこととはどういうことなのか、その意義を明らかにする。

社会デザインの前提とも言える「市民社会」については、ややもすればステレオタイプ的あるいは感覚的な理解に留まりがちだが、これに関する古典に立ち返ることを通じて、市民と政府の関係、社会との関係を考える機会とする。

併せて、現代における市民社会が目指していく方向の一つの具体例として、市民自らが地域社会の基本的なルール(法令)を作成した事例を採り上げ、その理念や構造等を学び、自らが社会に対して提言をする基本姿勢を作っていく。

Through "dialog" using texts on social science classics, etc. on the theme of civic society, we will clarify the meaning of what it means for citizens (yourself) to face social issues and to be responsible for their solutions.

Regarding "civic society" which can be regarded as a premise of social design, people tend to stick with stereotypes or intuitive understanding if anything, but this course will be an opportunity for students to think about the relationship of citizens with government and society.

At the same time, as a concrete example of the direction that civic society in the present day aims for, we will take up the case where citizens themselves have created the basic rules (laws) of the local community, and learn their principles and structures, to create a basic position from which students will be able to make recommendations.

授業の内容 / Course Contents

前半は、市民社会の基本的な考え方を理解するため、デモクラシー(民主制)、独立した個人、市民社会の構造等について書かれた古典を読み、受講者相互の対話を通じて、社会と個人の関係を明らかにする。

後半は、そうした理念と優れた実践の積み重ねの集大成とも言える、自治基本条例の先進地である北海道ニセコ町における住民自治の事例を採り上げ、その背景にある考え方や具体的な条文への展開および構造等について、また、条例がその後のまちづくりにどのような影響をもたらしているのかを見ていく。

In the first half, in order to understand the basic way of thinking about civic society, students will read the classics written on democracy, independent individuals, and civic society structure, etc. and identify relationships between society and individuals through dialog among students.

In the second half, we will take up the case of resident autonomy in Niseko Town, Hokkaido, which is an advanced area for autonomy basic ordinances, and which can be said to be a culmination of the accumulation of such principles and good practices. We will look at the development and structure, etc. of the way of thinking and concrete articles behind this case, and what kind of influence the regulations have had on subsequent community development.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション(「小さな政府、大きな社会」等、民による政策提言を必要とする背景等の基本認識の整理)
- 【2】: デモクラシー①(自由と平等、個人主義による危機、アソシエーションの価値、地方政治の意義、陪審制、社会に関わる意義等)
- 【3】: デモクラシー②(自由と平等、個人主義による危機、アソシエーションの価値、地方政治の意義、陪審制、社会に関わる意義等)
- 【4】: デモクラシー③(自由と平等、個人主義による危機、アソシエーションの価値、地方政治の意義、陪審制、社会に関わる意義等)
- 【5】: 独立した個人が作る社会像(独立とは何か、社会との関係等)
- 【6】: 独立した個人の意味(独立した考え、市民社会における個人像等)
- 【7】: 理想社会の実現(理想社会をどこに置くのか等)
- 【8】: 正義とは何か(正義のあり方、分配をめぐる考え方等)
- 【9】: 市民政府論(市民と政府の関係等)
- 【10】: 自治からつくるまち①(まちづくり基本条例から考える自治等)
- 【11】: 自治からつくるまち②(まちづくり基本条例から考える自治等)
- 【12】: 自治からつくるまち③(まちづくり基本条例から考える自治等)
- 【13】: 住民自治の実践例(実践者による講義、対談)
- 【14】: 民が担う政策提言の実践に向けて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定	○				

「授業の内容」に書いたとおり。前半は、市民社会の基本的な考え方を理解するため、デモクラシー(民主制)、独立した個人、市民社会の構造等について書かれた古典を読み、受講者相互の「対話」(ディスカッション・ディベートではない)を通じて、社会と個人の関係を明らかにする。

後半は、そうした理念と優れた実践の積み重ねの集大成とも言える、自治基本条例の先進地である北海道ニセコ町における住民自治の事例を採り上げ、その背景にある考え方や具体的な条文への展開および構造等について、また、条例がその後のまちづくりにどのような影響をもたらしているのかを見ていく。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト・文献については、授業時の対話において積極的に発言できるよう、事前によく読んでおくことが求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業・演習時における発表、他の参加者に対する貢献:100%

3/4以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

採り上げる文献・テキスト等としては、以下の著作を予定している。

いずれの文献も PDF ファイルにて授業支援システムにアップするので、対話で発言できるよう、しっかり読んでおくこと。

亀井「企業は社会の公器」(イントロダクション)、トクヴィル「アメリカのデモクラシー」、福沢諭吉「学問のすすめ」、ロック「市民政府論」、木佐茂雄・片山健也ほか「自治基本条例は活きているか!?!—ニセコ町まちづくり基本条例 10 年」他

参考文献 / Readings

その他 / Others

秋学期の「政策立案・評価」は、アドボカシーやその前提となる政策立案や評価に関する理論や方法を学ぶが、本授業では、その基礎となるデモクラシーや社会における意思決定のあり方(統治機構)について、各種テキストを対話形式で読み重ねることを通じて、理解を深める。

研究科の学事・行事(報告会、進学相談会等)と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる場合がある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習26

Practical Application:Community Design 26
(政策立案・評価)

亀井 善太郎 (KAMEI ZENTARO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM326
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

市民が担う社会デザインの一つとして、政策提言やアドボカシーがあるが、どのように実践するのがよいのだろうか。そもそも、政府によって行われる「政策」は社会課題解決の一つの手段であるが、社会課題解決において、どのような位置づけを占めるのだろうか。とくに持続可能な社会を考えた場合、政策とはどのようなものであり、その位置づけはどうなるのだろうか。また、市民との関係性はいかなるものであるべきなのだろうか。

様々な社会課題のケースや政策を採り上げながら、また、よりよい政策に進化させていくために不可欠な政策評価について触れながら、パブリック(公益)を担うための政策とは何か、そこに市民としてどう関わっていくのがよいか、その原則と具体的な手法について、近年、政府において導入が進む EBPM(Evidence Based Policy Making)を中心に理解する。Policy recommendation or advocacy are one aspect of social design that a citizen bears, but how should they be implemented in practice?

In the first place, "policies" implemented by government are one means of solving social problems, but what role do they occupy in solving social problems? Especially in the context of a sustainable society, what is policy and what is its position? In addition, what kind of relationship should policy have with citizens?

While taking up cases and policies of various social issues, and touching on policy evaluation that is essential to evolve better policies, we will ask, what is policy that takes responsibility for the public (public interest), and how should citizens get involved. Students will understand the principles and specific methods of policy, in particular, EBPM (Evidence Based Policy Making), which has been introduced in recent years in governments.

授業の内容 / Course Contents

政策とは何か、その構造や原則、さらには限界を踏まえながら、様々な社会課題の具体的な事例や政策を採り上げ、また、よりよい政策に進化させていくために不可欠な政策評価についても触れながら、近年、政府において導入が進む EBPM(Evidence Based Policy Making)を中心に、その理論と具体的な手法を考える。

また、新聞等の報道だけではわかりづらい日本の政策決定プロセスをよく知ることを通じて、効果的な政策提言やアドボカシーはどのように行われるのかを明らかにする(市民の立場から政策等に対してアドボカシーを行う実務家の話を聞く機会も予定している)。

講義・演習のおわりには、各自の政策提言や既存の政策に関する評価の発表を相互に行い、さらに理解を深める。

We will take up specific cases and policies of various social issues, while taking into consideration what policy is, its structure and principles, and its limits, and while also touching on policy evaluation that is essential to evolve better policies. Also, students will think about the principles and specific methods of policy, in particular, EBPM (Evidence Based Policy Making), which has been introduced in recent years in governments.

In addition, we will clarify how effective policy recommendations and advocacy is carried out by thoroughly understanding Japan's policy-making process, which is difficult to understand from newspapers and other media alone. (We also plan to hear from practitioners who are advocating policy, etc. from the perspective of citizens). At the end of the lectures and exercises, students will mutually present their own policy recommendations and evaluations on existing policies to deepen their understanding.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション(小さな政府と大きな社会、市民の役割等)
- 【2】: 政策とは何か①(様々な社会課題解決、政府の役割と弊害等)
- 【3】: 政策とは何か②(まちづくりと政策、市民主体の取り組みと政策の関係)
- 【4】: 政策立案と評価、EBPM(Evidence Based Policy Making)とロジックモデル①
- 【5】: 政策立案と評価、EBPMとロジックモデル②
- 【6】: 政策の立案や執行、さらには評価における「文書」の意味
- 【7】: 政策立案と評価、EBPMとロジックモデル③(政府における実践、アジャイルな社会への対応)
- 【8】: 政策決定プロセス(スケジュール、アプローチ先、その後のフォロー等)
- 【9】: 政策提言の具体例(亀井の経験から①、将来世代の視点の導入、独立財政機関)
- 【10】: 政策提言の具体例(亀井の経験から②、統治機構改革)
- 【11】: 政策提言・評価発表会: 社会課題の発見、分析(演習、発表、相互インプット等)
- 【12】: 政策提言・評価発表会: 社会課題の発見、分析(演習、発表、相互インプット等)
- 【13】: 政策提言・評価発表会: 社会課題の発見、分析(演習、発表、相互インプット等)
- 【14】: 全体のまとめ、これからの市民社会と政治

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。必要なテキストは授業支援システムに事前にアップする。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 授業・演習における発表、他の参加者への貢献等: 70% 独自の政策提言の作成・発表: 30%
3/4以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

亀井「EBPMの実践的活用とその意義」(評価クォーターリー2021年4月号)、Kellogg Foundation「Logic Model Development Guide」、中央および地方政府の政策文書(審議会資料等の政策立案プロセスにおける文書を含む)、各種団体等による政策提言等の公表資料を採り上げる。

必要なテキスト等はCanvas LMSに随時掲載するので事前に確認すること。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

その他 / Others

春学期の「公共と市民社会」は、デモクラシー(民主制)や統治機構といった政治や社会における意思決定に関する理解を深めるためのものであり、必ずしも受講している必要はない。

なお、本講義で学ぶEBPMやロジックモデルといった論理思考は、それぞれの研究や論文執筆にも資するものであり、その観点からの受講も歓迎する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習27

Practical Application:Community Design 27
(貧困と社会的排除1)

稲葉 剛(INABA TSUYOSHI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM327
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、現代の日本社会における貧困と社会的排除の全体像とその背景を学び、その解決の方向性を模索する。
In this course, students will study the overall picture and background of poverty and social exclusion in contemporary Japanese society, and seek directions for its solution.

授業の内容 / Course Contents

現代の日本社会における貧困と社会的排除に関する問題として、「ホームレス問題」、「生活保護制度をめぐる諸問題」、「子どもの貧困」を取り上げ、それぞれの問題の歴史的経緯や社会的な背景を考察する。また、民間の各セクターによる生活困窮者支援の取り組みに学びながら、解決の方向性を探る。

As problems related to poverty and social exclusion in contemporary Japanese society, we will take up the problems of "homelessness", "various problems concerning the welfare system", and "child poverty" and consider the historical context and social background. In addition, while learning about efforts by the private sector to support people in need, we will seek directions for solutions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション、授業意図の説明、今後の進め方など
- 【2】: 現代日本における貧困と社会的排除の現状(1)
- 【3】: 現代日本における貧困と社会的排除の現状(2)
- 【4】: 社会的企業によるホームレス支援
- 【5】: 生活保護制度をめぐる諸問題
- 【6】: 貧困とジェンダー
- 【7】: 貧困の戦後史
- 【8】: 子どもの貧困をどう捉えるか
- 【9】: 生活保護制度と子どもの貧困
- 【10】: 社会的養護のもとにある子どもたちの状況
- 【11】: 「環状島モデル」から社会的排除を考える
- 【12】: 受講生による事例分析の発表と討議(1)
- 【13】: 受講生による事例分析の発表と討議(2)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワポ等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席票兼リアクションコメント:30% 授業への積極的な参加:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

稲葉剛『貧困パンデミック』明石書店 2021 9784750352398

中塚 久美子『子どもと女性のくらしと貧困』かもがわ出版 2024 9784780313222

参考文献 / Readings

稲葉剛『閉ざされた扉をこじ開ける』朝日新聞出版 2020 9784022950598

岩田正美『社会的排除』有斐閣 2008 9784641178038

岩田正美『貧困の戦後史』筑摩書房 2017 9784480016591

生田武志『釜ヶ崎から～貧困と野宿の日本』筑摩書房 2016 9784480433145

松本伊智朗編『「子どもの貧困」を問いなおす～家族・ジェンダーの視点から』法律文化社 2017 9784589038708

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業に PC を持参すること。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習28

Practical Application:Community Design 28
(男性学基礎論)

西井 開(NISHII KAI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM328
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、日本における男性学・男性性研究の蓄積をレビューしていくことで、現代における男性たちを取り巻く課題を理論的に学ぶことを目指す。

This course reviews the studies on men and masculinities in Japan, and learn about the issues surrounding men in the modern age from a theoretical perspective.

授業の内容 / Course Contents

男性の加害性やホモソーシャル、男性特権など、男性性にかかわるトピックを扱った書籍や論文を読みながら、男性研究を始めるための基礎的な知識を学ぶ。また、各領域で男性問題をテーマにしている研究者をゲストとして呼んでレクチャーを行う。

Through reading books and papers that deal with topics related to masculinity, such as male aggression, homosociality, and male privilege, this course learns the basic knowledge needed to begin studies on men and masculinities. In addition, researchers who work on themes related to men's issues in various fields are invited as guests to give lectures.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス、男らしさとは何か
- 【2】: ジェンダー論としての男性学
- 【3】: フェミニズムの中の男性たち、性差別、男性特権
- 【4】: 男らしさと教育
- 【5】: 男らしさと家族
- 【6】: ゲストレクチャー①
- 【7】: 男らしさと労働
- 【8】: 男らしさとセクシュアリティ①ホモソーシャル、異性愛
- 【9】: 男らしさとセクシュアリティ②性的多様性
- 【10】: ゲストレクチャー②
- 【11】: 男らしさとメンタルヘルス、セルフネグレクト、孤立
- 【12】: 男性と暴力①DV、性暴力、ストーキング
- 【13】: 男性と暴力②ハラスメント、バイスタンダー
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業の最後に指示する文献や論文を読み、予習をしておくこと。その次の授業にて取り上げ、グループでディスカッションをする。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内で指示する提出物(リアクションペーパーなど):20%

テキスト / Textbooks

多賀太 男らしさの社会学 世界思想社 2006 9784790711919

テキストは購入することが望ましいが、授業内で該当箇所を事前に共有する。

参考文献 / Readings

西井開 「非モテ」からはじめる男性学 集英社新書 2021 9784087211764

その他 / Others

この授業では教員と院生が、双方向的なやりとりを通して学びを深めていくため、受講生にはグループディスカッションなどへの積極的な参加を求める。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習29

Practical Application:Community Design 29
(都市環境生活論)

滝口 直樹 (TAKIGUCHI NAOKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM329
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

都市は、大気や水、廃棄物、生物など環境の切り口からも分析することができる。環境面の切り口から都市の特性を考察し、経済や社会からは見えない課題を描き出し、都市の持続性を考える視座を得る。

Cities can be analyzed from environment aspects such as air, water, solid waste and wild life. In this course, participating students will study characteristics of cities from environmental point of view, find hidden issue which economy and society tend to ignore, and obtain good picture of sustainability of cities..

授業の内容 / Course Contents

今や都市地域に居住する人は多数派となり、都市での経済/社会のありかた抜きに現代社会は語れなくなっている。一方で、都市の持続可能性を考える際に、環境問題への取組は、軽視されがちだが欠かすことができない要素である。本授業では、都市のあり方を様々な環境の側面から検討し、その抱える問題点を明らかにし、21世紀の都市の持続性を考えるきっかけを得る。

なお、授業で扱うテーマ、その扱う順序は受講生の関心事など踏まえて変更することがあり得る。

Major population lives now in urban areas and we cannot get good insight on modern society without reviewing economy and society of cities. On the other hands, when reviewing urban sustainability, environmental issues are often overlooked but essential elements. In this course, participating students will study cities from various environment aspects, realize issued to be tackled, and obtain clues to think about sustainability of cities in 21 century. The themes and order of the course schedule may change according to the interests and questions of the course participants.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

都市の定義、都市の特性を議論し、都市の持続性、都市とその外とのつながりを考える。

【2】: 都市と環境①廃棄物

都市での廃棄物処理問題について、取組の歴史、現在の課題について検討する。

【3】: 都市と環境②水道、下水道

都市の水インフラである上水道、下水道をめぐる課題を明らかにする。

【4】: 都市と環境③エネルギー

都市でのエネルギー消費の特徴とその環境への影響、取組の方向性を検討する。

【5】: 都市と環境④自動車交通と大気汚染

都市での車、トラック利用とそれによる大気汚染について、裁判の歴史や自治体の取組を踏まえながら、考察する。

- 【6】:都市と環境⑤都市の野生生物
都市に生きる野生生物とわたしたちの都市生活との関わりを考察する。
- 【7】:都市と環境⑥土壌・地下水
都市、特に工場跡地での土壌汚染、地下水汚濁とその除去対策を考える。
- 【8】:都市と環境⑦気候変動とその適応
都市での気温上昇、都市型洪水への「適応」の可能性を探る。
- 【9】:都市と環境⑧都市と建築物、アスベスト
都市景観の構成要素でもある建築物のあり方や、多くの建築物に残されてるアスベストといった都市建築物をめぐる問題について検討する。
- 【10】:都市の土地利用・都市農業
都市計画と土地利用のあり方、都市農業について考える。
- 【11】:都市の持続性を担う人々
市民やNPO、町内会といった市民活動、地域活動を担う人々について、その現状、支援や育成について考察する。
- 【12】:都市と海外とのつながり
都市の生活は海外で生産、採取されたものによって支えられており、サプライチェーンによるつながりの現状、問題点を検討する。
- 【13】:都市と地方とのつながり
都市は、地方の自然が提供する生態系サービス(水、大気、防災など)の恵みを受けている。その関係を地域循環共生圏の考えなども踏まえて考察する。
- 【14】:まとめ・クロージング
都市の持続可能性を環境をベースに考え、これからの持続可能な都市づくりの方向性について、検討する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日々の都市生活について、日頃から環境の視点で見つめ直してみる。
そのほか必要なことは、授業内で提示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発言、質疑応答など:30% 振り返り:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

環境省 令和6年版環境白書 日経印刷 2024 9784865794144

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

議論への積極的な参加

その他 / Others

研究科の学事・行事(報告会、進学相談会等)と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることもある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習32

Practical Application:Community Design 32
(ソーシャル・マーケティング論)

高宮 知数(TAKAMIYA TOMOKAZU)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM332
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

「ソーシャル・マーケティング」は、企業が消費者マーケティング分野で長年培ってきた、人々の意識や行動を変容させるための知見から出発した、社会課題解決のための実践ツールです。実は、クラウドファンディングやブランドパーパス、さらには CI やブランディング、CSR などソーシャル・マーケティングに起源を持つ取り組みです。ソーシャル・マーケティングという概念が、マーケティングの大家フィリップ・コトラーたちによって提唱されてから既に半世紀、この間に企業だけでなく行政や市民セクターの取組や応用の中で、消費者マーケティングにはないツールやテクニックも生まれ、気候変動や頻発する大規模な災害、貧困や格差、差別、パンデミックなど深刻な社会課題が山積する現在、その有効性や可能性が再認識される状況にもあります。

この授業では、以下の 3 点を獲得目標とします。まずはソーシャル・マーケティングの基本的知識を得ること。次に内外の優れた事例を材料に、ソーシャル・マーケティングの作用やその効果のメカニズムを理解すること。3 点目として授業内での発表や議論を通じて、修了後に皆さんがソーシャル・マーケティングを実践のツールとして使えるようその発想や技法の習得を目指します。

"Social marketing" is a practical tool for solving social issues, which originates from the knowledge that companies have cultivated for many years in the consumer marketing to change people's awareness and behavior. In fact, crowdfunding, brand purpose, and even CI, branding, and CSR are also initiatives that originated from social marketing. It has been half a century since the concept of social marketing was proposed by marketing guru Philip Kotler and others. During this time, tools and techniques not found in consumer marketing have been born in the efforts and applications of not only companies but also the government and civil sectors, and its effectiveness and potential are being reaffirmed in the current situation where serious social issues such as climate change, frequent large-scale disasters, poverty, inequality, discrimination, and pandemics are piling up.

In this class, the following three points are aimed at. First, to acquire basic knowledge of social marketing. Second, to understand the mechanism of social marketing and its effects using excellent examples from Japan and abroad. Third, through presentations and discussions in class, we aim to acquire ideas and techniques for social marketing so that you can use it as a practical tool after completion of the course.

授業の内容 / Course Contents

大学院レベルの基礎的な知識として、その定義や概念、起源や代表的な論考などを押さえることは重要ですが、いたずらに抽象的な知識習得で終わらないよう、皆さんが修了後に取り組む様々な活動に役立つような内外の様々な事例をなるべく多く紹介していきます。

また狭義のソーシャル・マーケティングとその事例にとどまらず、従来型の企業マーケティングにおけるソーシャルグッドな

取り組みやナッジやインセンティブなど隣接する行動科学的アプローチなども紹介していきます。また、タイパ、推し活といった社会現象について、ソーシャル・マーケティングの視点からそれらが盛んになった社会的背景や課題などを考察することで、ソーシャル・マーケティングを分析ツールとして活用し様々な社会課題解決の手掛かりにできるようにします。なお、学部や実務でマーケティングに触れる機会の少なかった受講生でも理解・議論参加できるよう、マーケティングや関連分野の主要な概念や理論については、講義中に適宜解説していきます。

As basic knowledge at the graduate level, it is important to understand the definition, concept, origin, and representative theories, but in order to avoid ending up with unnecessary abstract knowledge, we will introduce as many domestic and international examples as possible that will be useful for the various activities you will be involved in after graduating.

In addition to social marketing in the narrow sense and its examples, we will also introduce social good initiatives in traditional corporate marketing and adjacent behavioral science approaches such as nudges and incentives. In addition, by considering the social background and issues that led to the popularity of social phenomena such as "taipa" and "oshikatsu" from the perspective of social marketing, we will be able to use social marketing as an analytical tool to provide clues for solving various social issues.

In addition, we will explain the main concepts and theories of marketing and related fields as appropriate during the lectures so that even students who have had few opportunities to come into contact with marketing at their undergraduate or work level can understand and participate in the discussions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション マーケティングで社会課題に向き合う
- 【2】:マーケティングとソーシャル・マーケティングの基礎を 100 分で
- 【3】:カンヌ受賞事例等に見る世界のソーシャル・マーケティングの最前線
- 【4】:ソーシャル・マーケティングが誕生した時代と現在の危機意識の近似性
- 【5】:ブランディング、CSR、パーパスを生んだ誕生から現在までの 50 年間
- 【6】:日本におけるソーシャル・マーケティングの受容とその展開
- 【7】:ネット社会出現によるマーケティング全体の大きな変化とその影響
- 【8】:企業セクターのソーシャル・マーケティング
- 【9】:行政セクターのソーシャル・マーケティング
- 【10】:市民セクターのソーシャル・マーケティング
- 【11】:ソーシャル・マーケティングのツールやモデル ファンドレイジング、アドボカシー、BCOS
- 【12】:エシカル投資、グリーン消費:社会的購買行動とソーシャル・マーケティング
- 【13】:DEI バックラッシュ、アンチ・ウオークキャピタリズムとソーシャル・マーケティング
- 【14】:まとめ 社会デザインツールとしてのソーシャル・マーケティング

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド ^(パワポ等) の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて授業時間中に行います。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席や講義内容への質問:40% 授業中の議論における発言や見解表明などディスカッションへの参加度:30% 授業時のレポート・発表:30%

テキスト / Textbooks

決まったテキストは使用しません。都度必要な文献や講義資料を配布する他、参考文献や資料を紹介していきますが、初期の基本文献の多くは絶版であり、容易に入手可能な資料は限られているので、大学図書館等を利用してください。

参考文献 / Readings

フィリップ・コトラー, ナンシー・リー ソーシャル・マーケティング:行動変容の科学とアート メディカル・サイエンス・インターナショナル 2021 4815730245

フィリップ コトラー, アラン・R. アンドリーセン 非営利組織のマーケティング戦略 第一法規株式会社 2005 年 4474017595

P.F.ドラッカー 非営利組織の経営 ダイヤモンド社 1991 4478370621

C・K・プラハラード,ベンカト・ラワスマミ 価値共創の未来へー顧客と企業の Co-Creation ランダムハウス講談社 2004

4270000430

ジェフリー・クロシツク, パトリツィア・カジンスカ 芸術文化の価値とは何か 個人や社会にもたらす変化とその評価 水曜社 2022 4880655325

古谷誠章、馬場正尊、高宮知数他 待ち直し屋 晶文社 2017 4794969619

中村陽一、高宮知数、五十嵐太郎、槻橋修 21.5 世紀の社会と空間のデザイン 誠文堂新光社 2022 9784416521014

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習34

Practical Application:Community Design 34
(子どもと若者の社会福祉論)

西井 開(NISHII KAI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM334
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、社会の中で何かしらの困難を抱える当事者の問題を、コミュニティデザイン学演習3(当事者臨床論)に引き続き扱い、とりわけ子どもや若者の課題や、問題解決の方法について取り上げる。授業で得た知見を活かして、当事者をめぐる様々な社会課題について自ら探索していく姿勢を身につける。

This course continues to deal with the issues of people who have difficulties in society, and in particular, focuses on the issues and methods of solving problems for children and young people. By utilizing the knowledge gained in class, students learn to take the initiative in exploring various social issues surrounding people.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、貧困や学力不振、ひきこもりや不登校といった子どもや若者が抱える課題について具体的な事例をもとに理解を進めていく。ゲストレクチャーも実施する。春学期のコミュニティデザイン学演習3(当事者臨床論)の授業で身につけた知見も合わせて、社会福祉の課題を一つ選び、グループで検討・発表を行う。

This course deepens our understanding of the issues faced by children and young people, such as poverty, poor academic performance, hikikomori and school refusal by dealing with case study and guest lectures. Using the knowledge gained in the first semester, students choose one social welfare issue and study it in groups.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス、子どもの権利
- 【2】: 子どもと貧困、困窮者支援
- 【3】: 子どもと障害、障害者運動
- 【4】: 若年層とLGBTQ+①
- 【5】: 若年層とLGBTQ+②
- 【6】: ゲストレクチャー
- 【7】: 不登校、ひきこもり①
- 【8】: 不登校、ひきこもり②
- 【9】: ゲストレクチャー
- 【10】: 子どもと虐待
- 【11】: 社会的擁護とライフストーリーワーク
- 【12】: グループワーク①課題の探究
- 【13】: グループワーク②問題解決の手段
- 【14】: グループワーク③発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業の最後に指示する文献や論文を読み、予習をしておくこと。その次の授業にて取り上げ、グループでディスカッションをする。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内で指示する提出物(リアクションペーパーなど):20%

テキスト / Textbooks

授業中適宜必要な文献を指定する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

この授業では教員と院生が、双方向的なやりとりを通して学びを深めていくため、受講生にはグループディスカッションなどへの積極的な参加を求める。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習39

Practical Application:Community Design 39
(ジェンダーとコミュニティ)

倉本 由紀子(KURAMOTO YUKIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM339
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

ジェンダーとは何かについて、その背景にあるフェミニズム運動の歴史、理論や研究を学び、ジェンダーの視点から様々な社会的問題を分析することの重要性について理解します。

This course aims to provide students with essential tools to explore key topics within the broader field of gender. These tools include theories, approaches, and research methods needed to integrate information and articulate their ideas effectively.

授業の内容 / Course Contents

ジェンダーという概念を用い、現代社会に、どのような問題や課題が生じているのか分析します。

ジェンダー視点は、身近な日常における新たな「気づき」を可能にすることも確認します。「社会構築主義」や「社会集団」などの社会学の基礎概念も学びながら、日本の社会をジェンダー視点で分析し客観的に考察します。

This course provides an overview of both classic and contemporary scholarship on gender. By examining gender through various sociological perspectives, students gain essential skills to analyze social issues using theoretical frameworks.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: ジェンダーとは
- 【3】: ジェンダーの社会的構築
- 【4】: ジェンダー構造と実践
- 【5】: ジェンダー秩序
- 【6】: ジェンダー体制
- 【7】: ジェンダーとメディア
- 【8】: ジェンダー知の産出と流通
- 【9】: ジェンダーと性支配
- 【10】: ジェンダーの再生産・変動・フェミニズム
- 【11】: ジェンダー視点: 日米比較
- 【12】: ジェンダー視点と社会デザインについて発表
- 【13】: ジェンダー視点と社会デザインについて発表
- 【14】: 総括・まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワーポイント等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表		ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に配布した資料や指定した参考図書の前読をして出席してください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への参加度、課題発表など:50%

テキスト / Textbooks

江原由美子『ジェンダー秩序』勁草書房 2021 9784326654314

参考文献 / Readings

加藤周一『はじめてのジェンダー論』有斐閣ストゥディア 2017 9784641150397

上野千鶴子『家父長制と資本制』岩波書店 2009 9784006002169

ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』青土社 2009 4791757033

江原由美子『持続するフェミニズムのために』有斐閣 2022 9784641174788

辻村みよ子『壁を超える——政治と行政のジェンダー主流化』岩波書店 2011 9784000284738

江原由美子・山田昌弘『ジェンダーの社会学入門』岩波書店 2008 9784000280488

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習45

Practical Application:Community Design 45
(親密性と現代社会)

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM345
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

家族や友人、恋人などの親密な関係は、現代社会を理解するための重要な要素の一つである。本授業では、親密な関係が近代以降にどのような変化を遂げていて、また現在いかなる状況にあるのかを講義する。そうすることで、主に社会学の立場から、親密性を分析する視座を修得することを目指す。

Intimate relationships such as family, friends and lovers are one of the key elements to understanding modern society. In this course, we will give lectures on what kind of changes have occurred to intimacy since the modern age and what the current situation of intimacy is. By doing so, the aim is that students acquire the perspectives required to analyze intimacy, mainly from the standpoint of sociology.

授業の内容 / Course Contents

具体的には、以下の手順で授業を進める。まず、いくつかの親密性の定義を紹介したうえで、現代社会における親密性の特徴を捉えるための、「個人化」や「純粋な関係性」といったキー概念を説明する。次に、家族や友人、恋人といった関係をそれぞれ取り上げ、具体的な事例を交えつつ、上述の観点から分析する。そのうえで、現代の親密性のあり方にどのような問題性や課題が存在するのかを、共依存やDVといった現象を取り上げつつ、受講生と共に議論する。

Specifically, the class will proceed as follows: First, we will introduce some definitions of intimacy and then explain key concepts such as "individualization" and "pure relationships" to capture the characteristics of intimacy in modern society. Next, we will take up relationships such as family, friends, and lovers, and analyze them from the above perspectives, using specific examples. After that, we will discuss with students what kind of problems and issues exist in intimacy in the modern world, taking up phenomena such as codependence and DV.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 親密性とは何か
- 【3】: 親密な関係の両義性——「無縁」という言葉から考える
- 【4】: 後期近代としての現代社会
- 【5】: ギデنزの親密性論
- 【6】: ディスカッション——家族のイメージの変化について
- 【7】: 家族社会学の基礎
- 【8】: 家族① 家族の戦後史
- 【9】: 家族② 家族の現代史
- 【10】: 恋愛の変容と現在

- 【11】:友人関係の変容と現在
 【12】:親密圏は家族を代替しうるか
 【13】:親密性の現代的な事例① ケアと共依存
 【14】:親密性の現代的な事例② シェアハウス

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

特に自らが関心を持った回のテーマについては、復習を行い、理解を深めておくが良い。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への積極的参加:30%

平常点は授業時の積極性や出席状況で評価する。

テキスト / Textbooks

資料を授業時に毎回配布する。

参考文献 / Readings

落合恵美子 21世紀家族へ――家族の戦後体制の見かた・超えかた 第4版 有斐閣 2019 9784641281462

中森弘樹 失踪の社会学――親密性と責任をめぐる試論 慶応義塾大学出版会 2017 9784766424812

中森弘樹 「死にたい」とつぶやく――座間9人殺害事件と親密圏の社会学 慶應義塾大学出版会 2022

9784766428186

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習48

Practical Application:Community Design 48
(社会問題の分析理論)

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM348
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

より良い社会やコミュニティを構想するにあたって、社会問題や社会病理とされている現象を研究することは重要な手段の一つである。そこで本授業では、主に社会学における、社会問題を分析するための様々な理論枠組を紹介する。そのうえで、どのような視座が自らの関心や研究目的に合っているのかを、受講者が自身で判断できるようになることを目指す。

In order to design better societies and communities, studying social problems and phenomena called social pathology is one of the important tools. In this course, we will introduce various theoretical frameworks for analyzing social problems, mainly from sociology. In addition, the aim is that students will be able to decide for themselves what perspectives are suitable for their own interests and research objectives.

授業の内容 / Course Contents

まず、社会問題を研究する視座が、大別すると実証主義と解釈主義の二つに分かれることを説明する。次に、それぞれの視座に対応する理論枠組み(実証主義の場合は社会解体論や逸脱行動論や機能主義など、解釈主義の場合はラベリング理論や構築主義アプローチなど)を、有名な研究の事例を取り上げつつ解説する。加えて、多変量解析やテキストマイニングなどの研究手法についても概観する。最終的には、受講者に各自が関心のある社会問題を一つ選んでもらい、紹介したいいずれかの理論枠組みを用いて分析・報告をしてもらう。

First, we will explain that the perspective to study social problems is roughly divided into positivism and interpretivism. Next, we will introduce the theoretical frameworks corresponding to each perspective (in the case of positivism, social disintegration theory, deviant behavior theory, and functionalism; in the case of interpretivism, labeling theory and constructivism approach) using examples of famous pieces of research. In addition, research methods such as multivariate analysis and text mining will be reviewed. Finally, the students will select one social problem that they are interested in and analyze and report on it using any of the theoretical frameworks introduced.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 社会問題／社会病理とは何か
- 【3】: 実証主義アプローチと解釈主義アプローチ
- 【4】: 起源としてのデュルケム社会学
- 【5】: マーソンの機能主義
- 【6】: ディスカッション——逸脱行動について
- 【7】: 逸脱行動論① 社会解体論、学習理論、漂流理論

- 【8】:逸脱行動論② コントロール理論
 【9】:実証主義と統計分析
 【10】:逸脱行動論③ ラベリング論
 【11】:構築主義
 【12】:医療化
 【13】:言説／内容分析の方法
 【14】:社会問題研究と社会デザイン

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

特に関心を持ったアプローチや理論に関しては、積極的に復習を行い、理解を深めるようにすると良い。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への積極的参加:30%

平常点は講義時の積極性や出席状況で評価する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

岡邊健(編) 犯罪・非行の社会学 ― 常識をとらえなおす視座 補訂版 有斐閣 2020 9784641184534

日本社会病理学会(監修) 社会病理学の足跡と再構成 学文社 2019 9784762029363

荻上チキ 社会問題のつくり方 困った世界を直すには? 翔泳社 2023 9784798174488

ほか、授業内で適宜紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習52

Practical Application:Community Design 52
(アフリカ地域研究)

村尾 るみこ(MURAO RUMIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM352
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は7302教室の利用可
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、アフリカの社会文化について、多様なテーマから総合的に理解することを目標とします。特に、市場や資源供給地として注目されがちなアフリカ地域ですが、アフリカ各地の価値観や地域性を知り、異文化を捉えなおす姿勢を重要とします。

This course aims to give students a comprehensive understanding of the social and cultural context of Africa from diverse themes. In particular, we will place importance on the perspectives of knowing different values and understanding different cultures. Through above, students will seek pluralistic understanding on social design.

授業の内容 / Course Contents

現代のアフリカ社会はウクライナ紛争や気候変動の波及を受け、激動の渦中にあります。同時に、市場や資源供給地として昨今の世界情勢のなか重要な地位を占めています。今後 100 年のうちに、アフリカ大陸の人口は世界人口のうち 4 割を占めると推計され、アフリカ社会への注目はますます高まるものと考えられます。そのため、生態環境、民族、歴史、言語、家族、宗教、生業、食文化等のテーマごとに学び、アフリカ社会を総合的に理解する講義内容となっています。

Modern African society is in the midst of turmoil and at the same time occupies an important position in the world. In the next 100 years, it is estimated that the population of the African continent will account for 40% of the world's population, and the focus on African society is expected to increase further. Therefore, this course teaches themes such as ecological environment, ethnicity, history, language, family, religion, livelihood, and food culture to understand African society comprehensively.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:アフリカの社会文化とグローバル化
- 【2】:生態と地理から捉える「資源供給地」
- 【3】:10 億人市場を歴史から再考する
- 【4】:政治経済は安定したか
- 【5】:アフリカ開発援助と社会福祉
- 【6】:自然保護と観光産業
- 【7】:古くから他地域と交流した食文化
- 【8】:宗教生活
- 【9】:ポピュラーアート
- 【10】:ジェンダー、結婚と家族

- 【11】:紛争・難民
 【12】:教育は充実してきたのか
 【13】:公衆衛生と医療
 【14】:総論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・テキストはかならず事前に読むこと
- ・受講生の人数や希望、講師との相談によって、授業計画・内容を若干変更することがある
- ・必要に応じて資料を作成することを求める

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義での取り組み等:50% 発表・議論:50%

全回オンラインで実施します

テキスト / Textbooks

松田素二 アフリカを学ぶ人のために 世界思想社 2023 9784790717829

参考文献 / Readings

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習53

Practical Application:Community Design 53
(CSR/ESG 金融総論-2)

河口 眞理子(KAWAGUCHI MARIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM353
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

SDGs では持続可能な社会づくりのため 17 のゴールと 169 のターゲットという「すべきこと」が提示されている。目標年度の 30 年まであと5年となる中で、達成状況は危ぶまれている。今後活動を加速させることが求められるが、その中で重要なのは企業と金融の役割である。本講座は、VM320 と連動している。VM320 では、気候変動などの社会課題、および CSR と ESG 金融について理論的に学ぶが、本講座では、それら CSR,ESG 金融を発展させる契機となったレポートや、資料を読み込み、そのメッセージを自分なりに理解解釈する力をつける。

SDGs defines 17goals and 169 targets to be achieved by 2030. In order to achieve these goals, the role of finance is inevitable. Goal 17 refers to partnership, indicating the importance of business and finance. This course is linked with VM320, which focus on the theoretical development of CSR and ESG finance, while this course will read epoch making reports and articles promoting CSR and ESG finance. So, it is preferable to take VM320 as well.

授業の内容 / Course Contents

社会人になると、政策に関する論文や政府の提言書などを直接読み込み勉強する機会は意外に少ない。要約文であったりコンサルタントなどの資料から内容を理解することが多い。業務上はそれで事足れることが多いからだ。しかし、その要約にはかならず要約した人のバイアスがはいり、現物のメッセージとは違っていることも少なくない。現物を読んでみることで新たな気づきも得られる。そこでこの講義では、基礎となる一次資料を読み込み、そのメッセージについて議論する。想定する教材は ESG 投資発展に寄与したエボックメイキングな報告書や提言に加えて、最新の報告書なども状況に応じて随時とりあげる。毎回の授業で取り上げるレポートは、参考までに、昨年の授業で取り上げたものを記載しているが、状況に応じてよりタイムリーなものを取り上げる。

Being business persons, there are few chance to read reports and proposals directly. Usually, summarized documents by consultants will be enough for business use. But summarized documents are biased and reading full documents may have different messages and giving different messages/ In this course, we take time to read some of the epoch making reports and articles which promotes development of ESG finance as well as up-to-date reports and proposals. The below is the list of texts read in previous years class, which will be update, if necessary.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:経済同友会や経団連の報告書やガイドブック
- 【2】:地球環境問題と経済との関連についての文献:英国『スターン報告』米国『リスク・ビジネス』日本『GX 基本戦略』など
- 【3】:経済産業省『成長志向型の資源自律経済戦略』、サーキュラーエコノミー関連資料など
- 【4】:経産省『責任あるサプライチェーン等における 人権尊重のためのガイドライン』ILO『公共調達を通じた人権の保護・

尊重と持続可能な社会づくり』など

【5】:経営倫理、日本の商人道徳に関する文献など

【6】:CSR 関連:経済同友会の各種 CSR 報告書、経産省『伊藤レポートシリーズ』、経団連企業行動憲章など

【7】:CSR 関連:国際連合『SDGs進捗レポート』など

【8】:CSR 関連:『男女共同参画白書』『WEPs女性のエンパワーメント原則』など

【9】:金融教育関連 文献:日銀の金融関係資料、拙論『お金の規律を考える』など

【10】:ESG 投資関連:『21世紀金融行動原則』、三井住友信託銀行『持続可能な社会の形成に向けた金融機関の役割』など

【11】:ESG 投資関連:『ESG 金融懇談会 提言』、事業会社のサステナビリティレポートなど

【12】:ESG 投資関連:金融庁『金融リテラシー報告』など

【13】:ESG 投資関連 GPIF『ESG 活動報告』、運用会社『スチュワードシップレポート』など

【14】:ソーシャルファイナンス関連:SIIF「新しいフィナンソロフィーを発展させるためのエコシステム」JSIF『日本サステナブル投資白書』など

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

リアクションペーパーを提出すること

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 出席率・授業態度・発言など:25% リアクションペーパー:25%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習54

Practical Application:Community Design 54
(エシカル・ビジネス論)

細川 淳 (HOSOKAWA ATSUSHI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM354
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

本講義の主題は「しあわせな事業とは何か?」という事です。近年、ソーシャル・ビジネスの台頭、営利企業の CSR 戦略化、非営利組織の事業化、というように、異なる基盤を持つ多くの組織が「社会性」と「事業性」の両ミッション(デュアル・ミッション)追求という共通の方向性を見出すようになってきています。また一般企業においても SDGs やパーパス経営への関心が高まっています。

本講義ではデュアル・ミッション追求の事業モデルを「エシカル・ビジネス」と定義し、その関連する諸概念であるソーシャル・ビジネス、ソーシャル・エンタープライズ、CSR、CSV、ステークホルダー論等の内容や発展過程をわかりやすく解説した上で、経営の実際、課題を検討して行きます。

事業組織研究を目指す学生、ソーシャル・ビジネス/CSR/CSV/SDGs/ステークホルダー論研究を目指す学生、起業や社内起業を目指す学生の皆さんとともに、本概念の考察と深耕を目標とします。

In recent years, multiple organizations with different foundations have come to find a common direction in pursuing both "social" and "business" missions (dual missions), such as the rise of social businesses, CSR strategies of for-profit companies, and commercialization of nonprofit organizations.

In this course, we define the business model of dual mission pursuit as "ethical business", and will examine the related concepts, development process, management practices and issues.

The course is designed for students to study and deepen understanding of the concept, who are in pursuit of business organization studies, social business/CSR/CSV/stakeholder studies, and entrepreneurship/intrapreneurship studies.

授業の内容 / Course Contents

理論と実践の両側面からのアプローチによって、エシカル・ビジネスの様相を浮き彫りにして行きます。

講義、ケース・スタディ、実践家からのヒアリングなどを組み合わせ、また皆さんとのディスカッションと創発によって、ともにエシカル・ビジネスの地平を探究していきます。ともに「しあわせなしごと」「しあわせな事業」「しあわせな組織」について議論し、分かちあって行きます。

適宜ゲスト・スピーカーによる講演を織り込み、エシカル・ビジネスの現状を浮き彫りにします。

The class will be conducted bi-dimensionally, highlighting theoretical and practical approaches of ethical business models.

By combining lectures, case studies, interviews to entrepreneurs, and discussions with students, we will together explore the world of ethical business.

Presentations by guest speakers may be conducted as appropriate, to highlight the current state of ethical business.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:よいコトをビジネスにするー エシカル・ビジネスとは? : 林立する諸概念
- 【2】:躍動するエシカル・ビジネス組織: ワクワクの事例
- 【3】:いろいろな概念をわかりやすく整理する: グラデーションで把握
- 【4】:元祖 グレゴリー・ディーズのソーシャル・エンタープライズ論
- 【5】:ソーシャル・ビジネス論
- 【6】:マイケル・ポーターの CSV 論
- 【7】:事例を通してポーターの CSV 論を検討すると・・・
- 【8】:ステークホルダー論: ここまで進んだ「関係性」の世界
- 【9】:事例を通してステークホルダー論を検討する
- 【10】:エシカル・ビジネス論
- 【11】:エシカル・ビジネス組織の実際
- 【12】:コーオウンド・ビジネス(従業員所有事業)
- 【13】:産業革命に端を発する私たちの社会
- 【14】:エシカル・ビジネス・アントレプレナーの行状

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業参画:質問、発言を歓迎します。:30%

テキスト / Textbooks

細川あつし しあわせな会社ー社員みんなが「オーナー」になるコーオウンド・ビジネスの世界 築地書館 2025
9784806716846

- ・テキストは 2025 年 5 月刊行予定。授業初回に指示します。
- ・必要に応じてプリント等資料を配布します。

参考文献 / Readings

内山節(細川あつし共著:第2章 エシカル・ビジネス)『半市場経済ー成長だけでない「共創社会」の時代』角川新書
2015 9784040820255

必要に応じてプリント等資料を配布します。

その他 / Others

<授業形態について>

上記にある通り対面とオンラインのハイフレックス授業に対応しますが、対面での出席を奨励します。対面では授業での議論が活発になり、また授業前後でのアドバイス等にも対応できるので。

<参考 HP>

一般社団法人従業員所有事業協会 <http://jeoa.org/>

株式会社コア・ドライビング・フォース <http://www.cdforce.co.jp/>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習55

Practical Application:Community Design 55
(看取り・弔いの社会デザイン)

星野 哲 (HOSHINO SATOSHI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM355
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

少子高齢化や非婚者の増加、大都市圏への人口集中といった家族関係や地域社会の変化を背景として、看取りや弔いを担う主体の不在が顕在化している。不在を補うかのように様々なビジネスも誕生する中、国は 2024 年度にようやく本格的に「高齢者等終身サポート事業」への関与を始めた。そうした時代の変化を押さえながら、主体のありようを考えることを通じて人と人との、人と社会との関係性について考え、理解を深める。

Against the backdrop of changes in family dynamics and community structures, such as declining birthrates and an aging population, the increase in unmarried individuals, and the concentration of populations in metropolitan areas, the absence of entities responsible for end-of-life care and funeral arrangements has become increasingly apparent. Amid the emergence of various businesses aimed at addressing this gap, the government finally began its full-scale involvement in the "Lifelong Support Project for the Elderly and Others" in fiscal year 2024. By considering the roles and responsibilities of these entities in light of these societal changes, we aim to reflect on and deepen our understanding of relationships between individuals, and between individuals and society.

授業の内容 / Course Contents

死は万人に不可避の自然現象だが、それをどう受け止めるかは、社会的・文化的に規定される。コロナ禍では事実上「いのち」の順位付けが行われる一方、最後のお別れができない「あいまいな喪失」が広がった。現在、死をどう受容するかが喫緊の社会的課題となっている。尊厳死や安楽死、孤立死、葬儀や墓の変容…。現代日本で死がどのように扱われているのかを考察することで、日本社会の構造、家族やコミュニティの現状を明らかにする。死は、社会学や哲学、民俗学、宗教学など様々な学問的アプローチが可能なら、できるだけ文献や資料を共有したい。

Death is a natural phenomenon that is inevitable for all, but how to accept it is socially and culturally regulated. While the corona wreck has effectively ranked "life", the "ambiguous loss" of the last farewell has spread. Currently, how to accept death is an urgent social issue. Dignified death, euthanasia, isolated death, funerals and grave transformations ... By considering how death is treated in modern Japan, we will clarify the structure of Japanese society and the current state of families and communities. Death wants to share literature and materials as much as possible because various academic approaches such as sociology, philosophy, folklore, and religion are possible.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 死をどうとらえるか(1)
- 【3】: 死をどうとらえるか(2)
- 【4】: 死に関する社会意識の表象(1)

- 【5】:死に関する社会意識の表象(2)
 【6】:死に関する社会意識の表象(3)
 【7】:死はだれのものか(1)
 【8】:死はだれのものか(2)
 【9】:死はだれのものか(3)
 【10】:看取り・弔いの主体を考える(1)
 【11】:看取り・弔いの主体を考える(2)
 【12】:看取り・弔いの主体を考える(3)
 【13】:看取り・弔いの主体を考える(4)
 【14】:まとめ 看取り・弔いの社会デザインの可能性

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業時に、必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業での発言など参加度:40%

忌引きなどやむを得ない事情以外で欠席が4回以上となった場合、単位修得不可。

テキスト / Textbooks

トニー・ウォルター 『いま、死の意味とは』 岩波書店 2020

内山節 『増補 共同体の基礎理論』 農文協 2015

ジークムント・バウマン 『リキッド・モダニティ』 大槻書店 2001

島藺進・竹内整一 『死生学』1-5 東京大学出版会 2008

ノベルト・エリアス 『死にゆく者の孤独』 法政大学出版 1990

テキストは購入を前提とするものではないが、本講座の基礎的文献と位置付ける。可能な範囲で目を通して欲しい。その他文献は適宜、指示する。

参考文献 / Readings

加藤泰史・後藤玲子 『尊厳と生存』 法政大学出版局 2022

近内悠太 『世界は贈与でできている 資本主義の「すきま」を埋める倫理学』 NEWSPICKSPUBLISHING 2020

森岡正博 『生まれてこないほうが良かったのか？ 生命の哲学へ！』 筑摩書房 2020

井上治代 『墓と家族の変容』 岩波書店 2003

松田純 『安楽死・尊厳死の現在』 中公新書 2018

浮ヶ谷幸代・田代志門・山田慎也 『現代日本の「看取り文化」を構想する』 東京大学出版会 2022

アラン・ケレハー 『コンパッション都市 公衆衛生と終末期ケアの融合』 慶応義塾大学出版会 2022

テキスト同様、可能な範囲で目を通してほしい。

その他 / Others

パワーポイントを使った講義形式が中心。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習58

Practical Application:Community Design 58
(「新しい公共」の社会学)

仁平 典宏 (NIHEI NORIHIRO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM358
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

計量社会調査の基礎を学ぶことを通じて、社会課題や市民活動に関するデータを理解し調査を行うスキルを向上させる。

Students will improve their skills in understanding quantitative data by learning the basics of quantitative social research in the civic sector.

授業の内容 / Course Contents

市民セクターの領域では、これまで理念や規範をめぐる議論が重要な役割を果たしてきたが、近年では、数値によってエビデンスを示し、それを活動や評価の指針にすることを望ましいとする動きもめだつ。

しかし、このようなエビデンス至上主義は、データの意味を的確に理解しないと、逆に現実を歪めてしまうリスクもある。本授業では、量的なデータを収集・分析・理解する基本的な知識を身につけることをめざす。

具体的には、調査票はどのように作るのか、信頼できるサンプリングとは何か、原因と結果を分析するにはどうしたらいいのか、「差がある」とはどういうことかといったことについて学ぶ。

授業の前半では講義を行い、後半では、jamovi というフリーの統計ソフト(卒業後も使用可能で操作も簡単！)を用いた 2 次データの分析実習を通じて、計量社会調査の基礎を習得する。

以上に加え、KH コーダーを用いて、自由記述欄などのテキストデータの計量的な分析を行う実習も行い、計量テキスト分析(テキストマイニング)の基礎も習得する。

In the field of the civic sector, discussions on philosophies and norms have played an important role in the past, but in recent years there is a clear trend that it has become desirable to show numerical evidence and use data to guide activities and evaluations.

However, such evidence-based principles have the risk of distorting reality unless the meaning of the data is properly understood.

In this course, the aim is that students acquire basic knowledge to collect, analyze and understand quantitative data from the perspective of positivist sociology.

Specifically, students will learn: how to make a questionnaire; what is reliable sampling; how is it possible to estimate the population from a small number of samples; how to understand the relationships between multiple variables; and what it means to say there is a statistical difference.

In the first half of the course, lectures will be given, and in the second half, students will learn the basics of quantitative social research through practical training in analysis of secondary data (cross-table analysis, multiple regression analysis, etc.) using statistical software ("jamovi").

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 質問紙調査の作成の基礎—「変なアンケート調査」をしないために
- 【3】: サンプルングはなぜ重要か
- 【4】: コーディングの基礎—質問紙が戻ってきたらどうするの？
- 【5】: 2つの変数の間に関連はあるか？—クロス集計について学ぶ
- 【6】: 相関係数と回帰分析
- 【7】: 重回帰分析とロジスティック回帰分析1
- 【8】: 重回帰分析とロジスティック回帰分析2
- 【9】: 計量社会調査の研究を読む
- 【10】: jamovi 実習1
- 【11】: jamovi 実習2
- 【12】: jamovi 実習3
- 【13】: 計量テキスト分析(テキストマイニング) 実習1
- 【14】: 計量テキスト分析(テキストマイニング) 実習2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

購読文献の指示がある場合は、読んでくること。

復習をしっかりと、分からなかった点を確認しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 文献検討への積極的参加:50% 計量社会調査実習への積極的参加:50%

テキスト / Textbooks

授業時に指示する。

参考文献 / Readings

後房雄・坂本治也編『現代日本の市民社会：サードセクター調査による実証分析』法律文化社 2019

轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法[第4版]: 2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社 2021

樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して【第2版】』ナカニシヤ出版 2020

ボーンシュテット&ノーク『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社 1996

授業時に指示する。

その他 / Others

担当者の経歴・研究

<https://researchmap.jp/nihenori>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習59

Practical Application:Community Design 59
(社会課題と企業経営)

亀井 善太郎 (KAMEI ZENTARO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM359
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

CSR(Corporate Social Responsibility)は、企業の社会貢献であって、寄付やボランティア等、本業とは異なるものと理解されることが多いが本当にそうなのだろうか。一方、CSRは「経営そのもの」とであると位置付け、企業の社会における存在意義から企業のバリューチェーンから見た様々な関わり方を見ている企業もある。そこにはどんな違いがあるのだろうか。「CSR経営」は“企業”にとってどんな意味があるのだろうか。そしてなにより、私たちの“社会”にとっての意味はなんだろうか。

事業活動にとっての利益と社会にとっての利益の“統合”は難しいと言われるが、それでよいのだろうか。統合させるためには具体的に何が必要なのだろうか。

グローバル化や社会の分断が進むポスト近代社会において、CSRは企業経営そのものであり、社会にとっても必要不可欠なもののはずだが、社会のリーダーや企業経営者はもちろんのこと、あなた自身もその確信は持てているだろうか。企業にとっての社会との関わりであり、具体的な実践である「CSR経営」を題材に、パブリック(公益)の実現のため、社会課題の解決のために企業が担うべきことについて、明らかにしていく。

また、そのためには、①社会課題の発見をどのように行うのか(課題発見)、②発見した社会課題の解決を企業のミッションとしていかに落とし込むか(内包化)、③組織力や技術力を用いた具体的な社会課題の解決(課題解決)のそれぞれのプロセスについて、企業経営や事業運営において何が具体的に必要なのかを考える。

CSR(Corporate Social Responsibility) is a corporate social contribution, and is often understood as something different from the main business, like a donation or voluntary work, but is it really so? On the other hand, some companies position CSR as “management itself” and look at various ways of involvement from the perspective of the company’s value chain based on the meaning of existence of the company in society. What kind of differences are there?

What does “CSR management” mean to companies? And above all, what is the meaning for our society?

It is said that “integration” of profit for business and profit for society is difficult, but is that acceptable? What specifically is needed to integrate?

In our post-modern society where globalization and social divisions are progressing, CSR is business management itself and must be indispensable to society, but do you yourself have confidence that this is true, not just social leaders and business owners?

Based on “CSR management,” which is both a company’s relationship with society and a set of concrete practices, we will clarify the issues that companies should be responsible for in solving social issues in order to realize the public interest.

And, we will think about what is specifically needed in corporate management and business operations for that purpose,

considering the processes: 1) How do we identify social issues? (problem identification) 2) How should we incorporate solving the identified social issues into the corporate missions of companies? (inclusion) and 3) The solution of specific social issues using organizational and technical skills (problem-solving).

授業の内容 / Course Contents

具体的な「CSR 経営」の事例分析を通じて、どのような視座や視点で取り組むのか、また、具体的な手法としてどのような取り組みがあるのか、とくに、課題発見、内包化、課題解決のそれぞれのプロセスについて、企業が取り組むにあたってどのような課題があり、これを克服するためにどのような行動が求められるのか等を明らかにする。また、これを通じて、CSR 経営の企業と社会にとっての意義も明らかにしていく。

講義のまとめとして、各自の関心領域に従い、具体的な事例を研究し、発表する機会も設けることを予定している。Through specific case studies of "CSR management", we will clarify: From what perspectives we should tackle problems; what approaches there are as specific measures; in particular in the processes of identification, inclusion, and problem-solving, what kind of issues are there as companies tackle social issues, and what actions are required to overcome them, etc. In addition, through this, we will clarify the significance of CSR management for companies and society. As a summary of the course, we plan to provide opportunities to study and present specific cases according to students' areas of interest.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:なぜ「企業は社会の公器」なのか(背景、前提等)、社会課題と企業経営の「統合」
- 【2】:日本のCSR経営の課題、潮流(内包化、人材育成等)、そもそも社会課題とは何か(SDGs、ISO24000等)
- 【3】:CSR経営はいかに実現されるか(「統合」の実現、バリューチェーンを使った社会との関係性分析等)
- 【4】:事例①社会課題解決と企業活動の統合(五常・アンド・カンパニー、ネスレジャパンほか)
- 【5】:事例②内包化:KPIやストーリーへの落とし込み(富士ゼロックス、中小企業における事例)
- 【6】:事例③会社・経営を動かすフレームワーク(武田薬品工業ほか)
- 【7】:事例④人材育成、働き甲斐(ディーセント・ワーク)の観点から(石井造園、黒木本店、伊藤忠商事、ファンケル、デンソー等)
- 【8】:事例⑤中小企業におけるCSR経営(印刷業界におけるCSR認定制度等)
- 【9】:事例⑥新しい社会課題と企業(ボラリス、N9.5、電通ダイバーシティラボなど)
- 【10】:事例⑦地域社会と企業(南山城)
- 【11】:実務家による講義と対話(ゲストスピーカー)
- 【12】:事例研究発表会:CSRとの関わり方(自分自身の課題としてCSRを改めて考える等)
- 【13】:事例研究発表会:CSRとの関わり方(自分自身の課題としてCSRを改めて考える等)
- 【14】:事例研究発表会:CSRとの関わり方(自分自身の課題としてCSRを改めて考える等)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。テキストについては授業支援システムに掲載するので、事前に確認しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業・演習時における発表(CSRに関する事例分析を含む)、他の参加者への貢献等:100% 3/4以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

授業で使うテキストは授業支援システムに予めアップする。個々の事例やCSR経営に関する考え方は亀井『企業は社会の公器』(PHP 研究所)、亀井等『CSR 白書 2014、2015、2016』(東京財団)等が詳しい。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業時に指示する。企業のCSR報告書等を使用する予定。

その他 / Others

CSR や CSV、SDGs と企業経営に関する授業が、研究科の他の授業にもあるので附言しておきたい。

この授業は、公共政策(みんなのためによいことをいかに実現していくか)の研究者である亀井が、公共政策の担い手である企業経営に着目した研究を元に行っている。また、同時に、企業経営や戦略立案に様々な形で関わってきた経験も踏まえ、現代社会における企業の競争力の源泉である人材と組織に着眼した経営論としても、CSR 経営について話題を展開する予定である。

本授業の話題について話したものがあるので、参考までに共有しておく。

<https://www.youtube.com/watch?v=twMN3uvM-Ac>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習62

Practical Application:Community Design 62

(エシカル消費総論－1)

河口 眞理子(KAWAGUCHI MARIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM362
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

今年 SDGs の発足から 10 周年を迎える。SDGs はカラフルなバッジが象徴する持続可能な取り組みとして今や日本社会に広く浸透している。しかし、2024 年段階で SDGs のうち達成に向けて進んでいるのは 17%に過ぎない。世界情勢を見るとコロナ禍に続き、ウクライナを契機に中東紛争などの地政学リスクが高まる中、地球規模での気候変動による異常気象が激化している。台風、洪水、干ばつなどの異常気象は、世界の食料生産や生活経済に大きな影響を与えるようになっている。残念ながら、この異常気象は人間の活動の結果といわれる。CO2 排出量は増加の一途をたどり、世界の平均気温は産業革命前から 1.5° C 以上上昇し、地球温暖化は着実に進行している。人類の農業が始まって以来、世界の森林面積の 1/3 が失われた。また、2050 年には海には魚よりもプラスチックが多く存在すると言われているように、経済活動によって生物多様性が損なわれている。そして経済の発展と連動し世界的な格差は広がり、現在 5000 万人が奴隷状態にあると言われている。これらの環境破壊や人権侵害の直接的な原因は企業による経済活動にあることが多いとされるが、その背景には消費者のニーズがある。SDGs が絵に描いたような餅になってしまうようなことのないよう、すべての生活者のライフスタイルを持続的に変革していく必要がある。このコースでは、消費者の視点からサステナビリティへの取り組みについて考察する。

This year marks the 10th anniversary of the launch of the SDGs. The colorful badges of SDGs and the concept of sustainability has become widespread. However, as of 2024, only 17% of the SDGs are on the path to achieving them. As geopolitical risks such as conflicts in the Middle East continue to rise following Ukraine, extreme weather events caused by climate change on a global scale are intensifying, and the world is becoming more VUCA-like. Extreme weather events such as typhoons, floods, and droughts have had a significant impact on global food production and living infrastructure. Unfortunately, this extreme weather is also a consequence of human activity. CO2 emissions continue to increase, the average global temperature has risen by more than 1.5° C above pre-industrial levels, and global warming is steadily progressing. Since the beginning of human agriculture, 1/3 of the world's forest area has been lost. In addition, as it is said that there will be more plastic than fish in the oceans in 2050, economic activities are damaging biodiversity and having a significant impact on the earth. It is said that 50 million people in the world are in a state of modern slavery behind the development of the economy. These environmental destruction and human rights violations are often directly caused by corporations, but behind them are the needs of consumers. In order not to make SDGs a failure, it is necessary to sustainably transform the lifestyles of us all consumers. This course examines sustainability initiatives from the consumer's point of view.

授業の内容 / Course Contents

そもそも SDGs の S(サステナビリティ=持続可能性)とは何か？ 本講義では環境の持続可能性、社会の持続可能性に

ついて主要な課題について概観し、現在のグローバル社会を持続可能に転換させるシステム SDGsとパリ協定や生物多様性保全の枠組みなど目的と進捗について理解を深める。それを受けて、消費生活の在り方をどのように変えるべきか検討していく。ライフスタイル全体の見直し、食・衣・住・エネルギーの3つの分野において、サプライチェーンに潜む課題と解決策を考察する。エシカル消費の専門家によるゲスト講義も予定している。なおこの授業は VM481 と連動しているのでセットで受講することが望ましい。

What is the meaning of sustainability represented by SDGs? In this course we will go over the major environmental and social issues, and study about the role of SDGs and Paris Agreement and biodiversity framework, all of which are intended to transform our society. Then we will discuss the necessary lifestyle change and also ethical consumption on each food, apparel, and housing. Lectures by professionals of ethical consumption are also planned.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:グローバルな社会課題:地球環境問題&人権・人の課題
- 【3】:SDGs、パリ協定 などグローバルなイニシアチブの動向
- 【4】:エネルギー問題
- 【5】:サーキュラーエコノミー
- 【6】:食の課題1
- 【7】:食の課題2
- 【8】:食の課題3
- 【9】:衣の課題1
- 【10】:衣の課題2
- 【11】:住の課題
- 【12】:その他消費の課題
- 【13】:エシカル金融
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

VM481 とセットで受講することが望ましい。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のリアクションペーパーの提出

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%
 平常点割合 :50% 出席率・発言:25% リアクションペーパー:25%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

ハーマン・デイリー 『持続可能な発展の経済学』 みすず書房 2005 9784622071747
 竹村真一 『地球の目線』 PHP 研究所 2008 4569700861
 アリス・ウオーターズ 『スローフード宣言』 海士の風 2022 9784909934024
 ジャック・アタリ 『食の歴史』 プレジデント社 2020 9784833423618
 河口真理子 「SDGsで「変わる経済」と「新たな暮らし」」 生産性出版 2020 9784820121077

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

VM481 の内容と連動しているので、両方履修することが望ましい。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習63

Practical Application:Community Design 63
(聞き書きとコミュニケーション)

吉田 敏浩(YOSHIDA TOSHIHIRO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM363
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

社会デザインにとって、個人と個人のコミュニケーションは重要です。様々な社会問題の当事者が何に直面し、何を悩み、何を求めているのかを理解していくためにも、コミュニケーションが大切です。そのようなコミュニケーションの力を磨くための方法として、この演習で取り組むのは、個人史(ライフヒストリー)の聞き書きです。語りに耳を傾け、その人が生きてきた歩みを知り、共感を覚えることを通じて、相手の身になって考えてみる、その人の立場から現実、社会は、世界はどう見えるのか考えてみる、という試みを体験できるでしょう。それはコミュニケーションを深めるための要点だといえます。

Communication between individuals is important for social design. Communication is also important to understand what people with social problems face, what they are troubled by, and what they are looking for.

As a way to improve the power of such communication, we will write down the life history stories that we hear in this course. We will listen to the stories, learn about the life that the person has lived, and think about it as the other person through empathy, and consider how reality, society, and the world looks from that person's point of view. We hope that students will experience through these activities. That is the point of deepening the communication.

授業の内容 / Course Contents

具体的には、聞き書きの相手(同国人でも外国人でもいい)を決め、その人に関連する事柄や歴史的背景など資料調査をし、質問を考え、インタビューをし、構成を立て、文章にまとめます。参考になる聞き書きの記事や本の輪読、ディスカッション、担当者による文章の添削などもします。

以下を主な項目として、受講生の人数や各自の進行状況に応じて複数回にわたる項目もあるので、柔軟に対応しながら進めます。完成させた聞き書きをレポートとして提出してもらいます。

Students will decide the person to be interviewed (someone from the same or a different country), conduct research on materials related to the person and their historical background, consider questions, conduct an interview, create a composition, and summarize in a document. Students will also read articles and books on writing down what one hears, hold discussions, and have their texts corrected by staff.

The following are the main items, and there are multiple items depending on the number of students and their progress, so we will respond with flexibility. Students will submit the completed writing down of what they hear.

授業計画 / Course Schedule

【1】:コミュニケーションと聞き書きのつながり、その意義。聞き書きの完成に向けての進め方。

【2】:参考になる聞き書き・インタビューの記事や本を輪読する。

なお、こうした輪読は別の回でも必要に応じてする。

聞き書きの相手を決め、何を中心に聞いてゆくのかなどを明らかにする。

【3】:受講生各自が決めた聞き書きの相手について、どのような人か、なぜその人に興味を持ったのか、何を中心的に聞いていくのかを説明し、方向性を定めるための短文を書く。

【4】:それぞれの短文を読み合い、検討をする。

【5】:インタビューに備えて、相手に関連する事柄や歴史背景などの資料調査、関連年表の作成。

【6】:インタビューの質問表作り、インタビュー・聞き書きをする際のポイント。

【7】:インタビューした内容、どんな発見があったかなど、各自の進行状況の報告と検討。

【8】:インタビューした内容、どんな発見があったかなど、各自の進行状況の報告と検討。

【9】:インタビューした内容、どんな発見があったかなど、各自の進行状況の報告と検討。

【10】:インタビューした内容、どんな発見があったかなど、各自の進行状況の報告と検討。

【11】:構成表作り、インタビューした内容と資料を組み合わせて文章化するときのポイント。

【12】:構成表作り、インタビューした内容と資料を組み合わせて文章化するときのポイント。

【13】:インタビューした内容、どんな発見があったかなど、各自の進行状況の報告と検討。

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に、必要に応じて指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業時の課題(短文、関連年表、質問表、構成表など)の提出:40%

テキスト / Textbooks

特に指定しません。資料プリントを配布します。

参考文献 / Readings

宮本常一著『忘れられた日本人』(岩波文庫 1984年)

その他は随時、授業時に紹介します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習65

Practical Application:Community Design 65
(映像ジャーナリズム論)

丸山 俊一 (MARUYAMA SHUNICHI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM365
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

戦後アメリカの歩みを、映画作品も含む様々な映像を通して検証することを通して(1)映像表現／映像記録の可能性を考察する。(2)日本、欧州との比較の視点も踏まえて、アメリカ社会の文化、風土について仮説を立てる。(3)比較文化の方法論について考究を深める。

"The objectives of the course are: (1)To examine the possibilities of visual expression and documentation through the scrutiny of the post-war history of the United States, including various visual media, including film. (2)To formulate hypotheses regarding the culture and ethos of American society, considering a comparative perspective with Japan and Europe. (3)To deepen the study of the methodology of cross-cultural analysis, taking into account comparative viewpoints with Japan and Europe."

授業の内容 / Course Contents

自他ともに認める「世界の盟主」として、民主主義国家としての「理想」を追究したアメリカは、いかにして現在の姿へと至ったのでしょうか？ともすれば分断が叫ばれ、不透明感が高まるとされる「超大国」の本質は？戦後アメリカの歩みを、サブカルチャー的な視点も含めて、フィクション／ノンフィクション、様々な映像表現の記録から辿ることを軸に、国の形とその文化風土を探究していきます。同時に、映像を通して社会や歴史、集団の論理を考察することの意義を発見していきます。ヨーロッパ、日本との文化比較の視点も交えて、「実験国家」アメリカの実像を多角度から考察してみましょう。オルタナティブなものの方考え方を習得することで、社会の新たな読み解き方の可能性を発見することも狙いです。

"What is the essence of the 'superpower,' often characterized by calls for division and a heightened sense of opacity, and how did the United States, acknowledged as the undisputed 'leader of the world' and an ideal democracy, evolve into its present form?

This course will explore the trajectory of post-war America, incorporating a subcultural perspective, by tracing the records of various visual expressions, including fiction/non-fiction, to investigate the form of the nation and its cultural ethos. Simultaneously, we will discover the significance of examining society, history, and group dynamics through visual media.

With a comparative cultural perspective, including Europe and Japan, let's consider the reality of the 'experimental nation' America from multiple angles. The aim is also to discover possibilities for new interpretations of society by acquiring alternative viewpoints and ways of thinking."

授業計画 / Course Schedule

【1】:はじめに 第二次世界大戦後の世界 アメリカの「理想」とは何だったのか？

- 【2】:60年代①テレビの時代の「正義」と夢
 【3】:60年代②闘争の果ての「卒業」
 【4】:70年代①幻想の「自由」を求めて
 【5】:70年代②「タクシードライバー」の憂鬱
 【6】:80年代①再び「偉大な国」への葛藤
 【7】:80年代②「強欲は善」の時代
 【8】:90年代①失われた「美德」
 【9】:90年代②虚構の中のリアル
 【10】:2000年代①「不信」の時代の幕開け
 【11】:2000年代②「アメリカンドリーム」の終焉？
 【12】:2010年代①システムの中の「孤独」
 【13】:2010年代②「分断」はなぜ起きたか？
 【14】:まとめ アメリカとは？実像と虚像の狭間で～映像ジャーナリズムの可能性とは？～

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義で扱う事象、文献など一部、受講生の皆さんにリサーチと報告を行ってもらいディスカッション、そこから議論を深めていく予定です。ことさらに構える必要はありませんが、様々な映像メディアの報じ方などに、日々少し意識を高めて過ごしてもらえればうれしく思います。講義内容の性格上、その都度、時にジャーナルな素材も取り上げ、受講生の皆さんの志向性も見極めつつ、議論となるテーマ、教材選びも柔軟に進めていきたいと考えます。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義内での小レポート／報告:30% 講義内での討議への参加:40% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

丸山俊一＋NHK 制作班 『映画から読む超大国の欲望 アメリカ流転の1950－2010』 祥伝社 2023

丸山俊一＋NHK 制作班 『世界サブカルチャー史 欲望の系譜 アメリカ 70－90s「超大国」の憂鬱』 祥伝社 2022

参考文献 / Readings

ジェニファー・ラトナー＝ローゼンハーゲン 『アメリカを作った思想』 ちくま学芸文庫 2021

丸山俊一 『ハザマの思考』 講談社 2025

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

必修ではありませんが、「VM371 コミュニティデザイン学特講1(現代文化と社会デザイン)」も併せて履修されると、さらに理解が深まると思います。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコン、イヤホンの携帯を毎回お願いできるとありがたく存じます。

その他 / Others

初回受講生の皆さんと対話し、それぞれの学びの志向性、背景、目指す目標などを確かめた上で、講義の進め方など柔軟に調整していきたいと思います。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習67

Practical Application:Community Design 67
(メディア研究方法論)

丸山 俊一 (MARUYAMA SHUNICHI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM367
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	夏季集中講義／【日程】8月1日(金)2～6限、8月4日(月)2～6限、8月5日(火)2～5限 【教室】A202 教室
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

(1)様々なメディアの基本的な性質を捉え直し、その背後にある論理への理解を深めること。(2)現代社会にあって、どのようなメディアをどう機能させることが望ましいのか？メディアの定義を更新することでビジョンを持つ。そして、(3)自らの表現の手法についても意識を高める。

"The objectives of the course are: (1) To reevaluate the fundamental nature of various media and deepen understanding of the underlying logic. (2) In contemporary society, to consider what kind of media functions are desirable and how to achieve them. To develop a vision by redefining the concept of media. (3) To raise awareness of one's own methods of expression."

授業の内容 / Course Contents

メディアとは何か？新聞、テレビ、週刊誌…、21世紀以降、近年では様々なネットメディアを思い浮かべる方も多いでしょう。「媒体」として、人と人、人と社会をつなぐメディア。しかし現代では、時につなぐどころか、むしろ分断を招くものになってしまうことも少なくありません。19世紀末以降、主として20世紀から21世紀へ、大衆の欲望がメディアを通して爆発した時代の「メディア」のありようを考察します。メディアの出現が人々のものの見方を変え、また同時に、大衆の欲望が無意識が、メディアを社会を変えていく…。そのあざなえる縄のような関係性から何を学び、どう対応していくべきなのでしょう？社会学、哲学、AI社会論、記号論、表象文化論などの方法論を意識しつつ、現代社会にあってメディアの可能性を考えると同時に、社会で有効な表現の可能性を高めていくことについても探究します。

"What is media? In recent years, especially since the 21st century, many might think of various online media in addition to traditional forms like newspapers, television, and magazines. Media serves as a 'medium' connecting people to people and individuals to society. However, in contemporary times, instead of fostering connections, it sometimes becomes a source of division.

We will examine the nature of 'media' during the era when the desires of the masses exploded through the media, primarily from the late 19th century to the 21st century. The emergence of media has altered people's perspectives, and simultaneously, the unconscious desires of the masses, through media, have been shaping society. What can we learn from this intricate relationship, and how should we respond?

Conscious of methodologies such as sociology, philosophy, AI social theory, semiotics, and representation culture theory, we will explore the possibilities of media in contemporary society. Simultaneously, we will delve into enhancing

the potential for effective expression in society.”

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:イントロダクション 言葉で、映像で、社会を「切りとる」ということ
- 【2】:表象文化論① 新聞、映画、テレビ、ネットの誕生…メディアが社会の読み方を変える
- 【3】:表象文化論② 現前性とは？ ヌーベルヴァーグが問いかけたものとは？
- 【4】:AI社会論① 人間を模倣する「メディア」AIの意識と倫理
- 【5】:AI社会論②「心はどこにあるのか？」AIの自律と進化～デネット他～
- 【6】:時代と哲学① マルクス・ガブリエル「新実在論」が問うもの
- 【7】:時代と哲学② 実存から構造へ、ポスト構造主義へ 思想とメディア
- 【8】:メディアの社会学① 大衆の欲望が爆発した時代の力学
- 【9】:メディアの社会学② ニクラス・ルーマンの問題提起
- 【10】:メディアの現在、過去、未来を考える～ゲーム／メタバースの時代に～
- 【11】:課題発表①
- 【12】:課題発表②
- 【13】:ディスカッション
- 【14】:まとめ 21世紀型社会の中でのメディアとは？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

3日間の集中講義を通して、考察、思考の幅を広げていきます。最終日には、参加者それぞれその成果をコンパクトに発表してもらい、討議を行う予定です。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義内での小レポート／報告:30% 講義内での討議への参加:40% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

丸山俊一＋NHK 取材班 AI以後 NHK 出版新書 2019

丸山俊一＋NHK 制作班 マルクス・ガブリエル欲望の時代を哲学する NHK 出版新書 2018

参考文献 / Readings

丸山俊一 『ハザマの思考』 講談社 2025

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

様々なメディアに対する、日常的な、基礎的な関心。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義の際にパソコン、イヤホンを持参くださればありがたく存じます。

その他 / Others

最初に受講生の志向性、背景などを確かめ、講義のテーマ、内容、素材など、柔軟に対応していきたいと思います。土日を含み3日間の集中講義です。週末に課題を提示し週明け発表してもらうなど、週末を挟んだ短期のスケジュールであることを学習効果を高める為に利用したいと考えています。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習69

Practical Application:Community Design 69
(「デジタル化」と社会デザイン)

佐野 敦子(SANO ATSUKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM369
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

AI の発展や ICT の普及といった「デジタル化」は多分野に影響を及ぼし、領域を超えた取組を促す。このようなデジタル化の特性は、社会をデザインするにあたってどのような課題と変革を迫るのか、受講者自身のテーマを題材に掘り下げる。

“Digitalization,” which is defined as the development of Artificial Intelligence (AI) and the expansion of Internet Communication Tools (ICTs), engenders a major impact on society in many different fields. Furthermore, it encourages us to tackle cross-border challenges, which has never been done before.

In terms of social design studies, what kinds of efforts and tasks are needed facing to such characteristics of “Digitalization”? In accordance with the participants’ research interests, this course aims to deepen the understanding of “Digitalization” and social design studies.

授業の内容 / Course Contents

この講義では「デジタル化」の定義および性質を皮切りに、「デジタル化」は社会デザインを考えるにあたり、どのような影響を及ぼすかを議論する。

そして、前半の講義内容・議論をもとに、受講者自身の抱える研究テーマが「デジタル化」の視点から見るといかにとらえられるかを考えるとともに、領域を超える「デジタル化」の性質をふまえて、他分野や視点からはどのように考察できるかを、受講者同士の議論で掘り下げる機会とする。

In this course, we will consider what kinds of influences “Digitalization” brings us and how to transform or re-design society via its adoption. Starting with its definition and phenomena regarding “Digitalization”, we will consider how these paradigms could be captured from the perspective of social design studies and connect to each participant’s research interest. After that we will make the opportunity to realize the breadth and depth of social design studies through sharing with other participants’ views.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:「デジタル化」の定義とその背景、社会デザインとのつながり
- 【2】:「デジタル化」の性質1 正負の影響(Double Edged Sword)
- 【3】:「デジタル化」の性質2 結びつける、分断する(Networking、Divide)
- 【4】:「デジタル化」の性質3 変革を促す(Transformation)
- 【5】:「デジタル化」の性質4 領域を超える(Cross Border)
- 【6】:「デジタル化」と社会デザイン1 リスクガバナンス
- 【7】:「デジタル化」と社会デザイン2 コミュニティデザイン

- 【8】:「デジタル化」と社会デザイン3 社会組織理論
 【9】:「デジタル化」と社会デザイン4 事例を用いた考察
 【10】:受講者による発表(デジタル化の視点から見た自分の研究テーマ)
 【11】:受講者による発表(デジタル化の視点から見た自分の研究テーマ)
 【12】:受講者による発表(デジタル化の視点から見た自分の研究テーマ)
 【13】:受講者による発表(デジタル化の視点から見た自分の研究テーマ)
 【14】:まとめの議論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本講義は、「デジタル変容」「Society5.0」「SDGs」「AI」といった、現在、動向が目まぐるしく変化している内容を扱う。授業で積極的に議論に加わるように、新聞やネットなどでこれらのキーワードに常にアンテナをはっておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への貢献:25% プレゼンテーション:25% 中間レポート:10% 最終レポート割合::40%
 議論への貢献(平常点)、授業内での発表、中間レポートおよびそれらをもとに作成・提出する最終レポートの総合評価

テキスト / Textbooks

参考文献の一部抜粋や、インターネット経由で入手できるニュース・公式文書等を主に使用する予定。講義内で適宜配布、もしくは指示する。

参考文献 / Readings

ウルリッヒ・ベック 危険社会: 新しい近代への道 法政大学出版局 1998 9784588006098
 ウルリッヒ・ベック 変態する世界 岩波書店 2017 9784000247214
 伊藤 美登里 ウルリッヒ・ベックの社会理論: リスク社会を生きるということ 勁草書房 2017 9784326654093
 ミシェル・フーコー 監獄の誕生 ― 監視と処罰 新潮社 1977 9784105067038
 キャロライン・クリアド＝ペレス 存在しない女たち: 男性優位の世界にひそむ見せかけのファクトを暴く 河出書房新社 2020 9784309249834
 板津木綿子・久野愛編 AI から読み解く社会一権力化する最新技術 東京大学出版会 2023 9784130530330
 佐野敦子 デジタル化時代のジェンダー平等―メルケルが拓いた未来の社会デザイン 春風社 2023 9784861108594

その他 / Others

講義や受講者の興味・人数に応じて授業の順番や内容が入れ替わる可能性もある。また、議論に刺激を与えるために、受講者の興味や要望とあえばゲストスピーカーによるコメントも検討する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習70

Practical Application:Community Design 70
(文化財保護と社会デザイン)

森屋 雅幸(MORIYA MASAYUKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM370
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、文化財保護と社会デザインという視角から文化財と現代社会の関わり、そしてコミュニティ形成や地域づくりに文化財がどのように関係するのかについて、日本国内を中心にさまざまな事例を通して理解を深めることを目標とする。

This class understands cultural properties and relations with the modern society from the viewpoint of cultural properties conservation and the social design through various examples in Japan. In addition, I aim for deepening understanding how cultural properties are related to the formation and community development of the community.

授業の内容 / Course Contents

1. 近年の文化財保護の動向と社会デザインとの関係性を理解する。
2. 文化財のもつ経済的な価値と地域の中で果たす役割と価値を理解する。
3. 実践事例を通して、文化財とコミュニティの関係性と地域づくりへのつながりを理解する。
1. Understand the relationship with a trend of the recent cultural properties conservation and the social design.
2. Understand the economic value to have of cultural properties and a role and value to achieve in an area.
3. Understand cultural properties and a relationship of the community and a relationship of cultural properties and the community development through a practice example.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:文化財とは何か
- 【2】:文化財保護の歴史と仕組み
- 【3】:地域開発と文化財保存運動
- 【4】:地域主義にもとづく文化財保存と活用の展開
- 【5】:日本における近年の文化財保護の動向
- 【6】:文化財保護と観光のかかわり
- 【7】:文化財保護と災害
- 【8】:文化財保護とコミュニティのかかわり
- 【9】:文化財保護の担い手と現状
- 【10】:文化財を活用した地域づくり
- 【11】:文化財保護と市民参加
- 【12】:文化財保護と博物館活動

- 【13】:文化財保護と社会デザイン
【14】:まとめ ※授業計画は予定であり、一部変更となることがある。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文化財保護をめぐる国内の動向について最近の報道内容を調べておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席および授業への参加:40% 授業内課題(個人発表等):30% 最終レポート割合::30%
個人発表は1人につき1、2回を予定している。欠席・遅刻の場合はあらかじめ担当教員に一報していただきたい。また、理由なく遅刻・早退、欠席を繰り返す場合は、成績は評価しない。

テキスト / Textbooks

特になし。必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

森屋雅幸 地域文化財の保存・活用とコミュニティ山梨県の擬洋風建築を中心にー 岩田書院 2018 9784866020204
松本茂章他 ヘリテージマネジメントー地域を変える文化遺産の活かし方ー 学芸出版社 2022 4761528176
馬場憲一 地域文化政策の新視点ー文化遺産保護から伝統文化の継承へー 雄山閣 1998 4639015577
山崎功他 地域文化の再創造ー暮らしのなかの表現空間ー 水曜社 2024 9784880655727
村上隆 文化財の未来図ー〈ものづくり文化〉をつなぐー 岩波書店 2023 4004319986

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本国内の文化財や博物館に興味があることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノートPC

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学特講1

Advanced Seminar on Community Design 1
(現代文化と社会デザイン)

丸山 俊一 (MARUYAMA SHUNICHI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM371
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

日本の戦後社会の変化を、主に 60 年代から 90 年代までサブカルチャーを含む様々な事象から多面的に考察する。そのことによって(1)日本社会の性質、特徴について仮説を立てられるようになること。(2)歴史の因果関係について考察できる眼を養うこと。(3)オルタナティブなものの見方、多角度からの柔軟な視点を身につけること。

This course aims to comprehensively examine the changes in post-war Japanese society, primarily from the 1960s to the 1990s, through various phenomena, including subcultures. By doing so, students will develop the ability to: (1) formulate hypotheses about the nature and characteristics of Japanese society; (2) cultivate an analytical perspective on the causal relationships within history; and (3) acquire alternative viewpoints and ways of interpreting events.

授業の内容 / Course Contents

私たちは今、どんな社会に生きているのでしょうか？複雑化する現代社会、そして世界情勢。その中で日本は時に「ガラパゴス」などとも呼ばれ、様々な意味で諸外国とは異なる「空気」の中にあるかのように表現されることも多いのはご存知の通りです。日本社会の底に流れる思考様式には、何か独特なものがあるのでしょうか？それを解く為に、意識を過去へと飛ばし、現代との対話を試みませんか？戦後の日本社会の変遷を、特に 60 年代から 90 年代の変化に焦点を当てて考えます。サブカルチャーを含む様々な文化的な要素を、残された映像や言葉を通して味わい、時代の「空気」を解読する試みです。戦後の日本人の「自画像」、日本人の「無意識」を読み解き、今これからの社会を考える手がかりをつかむ為の思考の旅に出ましょう。今当たり前前に感じる光景から新たな意味を引き出し、歴史や社会を見る遠近法が少しでも変わる体験を皆さんと一緒にできればうれしく思います。

"What kind of society do we live in today? In the complex modern society and global circumstances, Japan is sometimes referred to as "Galapagos," suggesting a unique atmosphere that differs from other countries in various ways. Are there distinctive thought patterns underlying Japanese society?

To unravel this, why not shift our awareness to the past and attempt a dialogue with the present? We will contemplate the transformations in post-war Japanese society, with a particular focus on the changes from the 1960s to the 1990s. This endeavor involves experiencing various cultural elements, including subcultures, through remaining images and words, attempting to decode the "atmosphere" of the times.

Let's embark on a journey of thought to decipher the "self-image" and "unconscious" of post-war Japanese people, grasping clues to contemplate the society that lies ahead. I hope that together, we can derive new meanings from seemingly ordinary scenes and share experiences that may alter our perspective on history and society, even if only slightly."

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション 日本社会とは？日本にあってサブカルチャーの可能性とは？
 【2】: 60年代①「青春残酷物語」と「ニッポン無責任時代」
 【3】: 60年代②「天才バカボン」と「にっぽん昆虫記」
 【4】: 60年代③「任侠映画」と「日本の思想」
 【5】: 70年代①モータリズムからビューティフルへ
 【6】: 70年代②オカルトブームと「仁義なき戦い」
 【7】: 70年代③ニューファミリーと「モータリウム人間の時代」
 【8】: 80年代①YMOと「おいしい生活」
 【9】: 80年代②お笑いブームとコムデギャルソン論争
 【10】: 80年代③トレンドドラマと「構造と力」
 【11】: 90年代①バブルの余韻の中で
 【12】: 90年代②95年という「切断」
 【13】: 90年代③「戦後日本社会」とは？
 【14】: まとめ サブカルチャー的な思考から見えてくる「この国」の形

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

講義で扱う事象、文献など受講生の皆さんに時にリサーチと報告も行ってもらい、そこから議論を深めていく予定です。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義、映像で扱う事象、文献などについて、一部受講生の皆さんにその背景などをリサーチしてもらい、その報告をきっかけに議論を深めていくことも予定しています。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義内での小レポート／報告:30% 講義内での討議への参加:40% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

丸山眞男『日本の思想』岩波新書 1961
 小此木啓吾『モータリウム人間の時代』中公文庫 2010
 浅田彰『構造と力』ちくま学芸文庫 2023

参考文献 / Readings

丸山俊一『ハザマの思考』講談社 2025
 丸山俊一『14歳からの個人主義』大和書房 2021
 丸山俊一『結論は出さなくていい』光文社新書 2017

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

必修ではありませんが、「VM365 コミュニティデザイン学演習65(映像ジャーナリズム論)」も併せて履修されると、さらに理解が立体的になると思います。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回、パソコン、イヤホンを携帯してもらえるとありがたいと存じます。

その他 / Others

初回受講生の皆さんと対話し、それぞれの学びの背景、目指す目標などを確かめた上で、講義の進め方など調整していきたいと考えます。

また、研究科の学事・行事(報告会、進学相談会等)と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることがあります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学特講2

Advanced Seminar on Community Design 2
(持続可能な開発と教育・学習)

二ノ宮リム さち (NINOMIYA-LIM SACHI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM372
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

あなたにとって、わたしたちにとって、「持続可能性」とは、「教育」「学習」とは、なんだろうか。この科目では、これまでのESD(持続可能な開発のための教育)の発展と、わたしたちが生きる社会のあり方をふりかえりつつ、持続可能な未来へ向けた人間や社会の変容・変革プロセスとしてのESDについて考え、この問いに自分なりの答えを導きだすことを目指す。

What do “education,” “learning,” and “sustainability” mean for you, and for all of us? In this course, we will explore this question by reflecting on the development of education for sustainable development (ESD) and reviewing the world that we live in, while discussing ESD as a transformative process of people and society.

授業の内容 / Course Contents

1980年代以降の「持続可能な開発(発展)」概念の広がりとともに、環境・経済・社会の問題を長期的・全体的視野から理解し行動するための教育として議論と実践が発展してきたESD(Education for Sustainable Development/持続可能な開発のための教育)。いま、持続可能な開発目標(SDGs)の広がりも背景に、持続可能な未来の実現へ向けた学習と教育の必要性がますます注目される。

本科目では、ESDを取り巻く議論や実践に関する講義のほか、関連文書の精読、ESDプログラムの体験、身近な地域や組織に必要なESD計画の構想、それらにもとづくディスカッションやプレゼンテーションなどを通じ、上記授業目標に向けて受講者全員で学び合う。

なお、授業で扱うテーマや順序は、受講生の関心等を踏まえて変更する場合がある。

In this course, the students will collaboratively learn from each other through not only lectures and readings but also groupworks, discussions, role-plays, and other diverse methods.

Since the concept of sustainable development was introduced in the 1980s, discussion and practice to promote education for sustainable development (ESD) has evolved in the international community. ESD plays a role to create greater awareness of the interplay of environmental, economic, and social issues using a long-term, holistic perspective, and to facilitate action for sustainability. With Sustainable Development Goals (SDGs: 2016–2030), the importance of ESD has been recognized further, as a transformative process of people and society in a borderless collaboration of diverse stakeholders.

Topics to be focused in each class are subject to change based on students' interest.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション～授業の詳細を確認し履修者の関心を共有する
- 【2】: 持続可能な開発とは何か～普遍的理念? 空っぽの記号?

- 【3】:持続可能な開発は「教える」「学ぶ」ことができるのか
 【4】:持続可能な開発のための教育(ESD)の発展～「環境教育」「学習権保障」二つの経緯をたどる
 【5】:ESDの実像:環境教育の視点から～ESDとしての環境教育実践を知る
 【6】:ESDの実像:シティズンシップ教育の視点から～ESDとしてのシティズンシップ教育実践を知る
 【7】:ESDの内容と方法～ESD アクティビティを体験する
 【8】:ESDの内容と方法～ESD アクティビティを体験する
 【9】:ESDの内容と方法～4つのアプローチ「in/about/for/as」
 【10】:ESDのいま:国内編～関連する国内の政策文書を読み解く
 【11】:ESDのいま:国際編～関連する国際文書を読み解く
 【12】:学生発表:身近な地域や組織に必要なESD計画の構想またはESDワークショップ
 【13】:学生発表:身近な地域や組織に必要なESD計画の構想またはESDワークショップ
 【14】:全体のふりかえり～わたし(たち)にとっての「持続可能性」「教育」「学習」とはなにか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習: 各回授業のリアクションペーパー作成および学生発表の計画・準備は授業時間外におこなう。授業を通じて気がついたこと、気になったことを、都度、自らの生活や仕事の中でふりかえり、必要なESDのあり方について自分なりに考えていく。そのほかの学習については、必要に応じて別途提示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業・ディスカッションへの参加・貢献:20% 各回のふりかえり:20% 学生発表:30% 最終レポート:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

阿部治・野田恵(編著) 知る・わかる・伝える SDGs I 貧困・食料・健康・ジェンダー・水と衛生 学文社 2019
 9784762029233

阿部治・二ノ宮リムさち(編著) 知る・わかる・伝える SDGsII エネルギー・しごと・産業と技術・平等・まちづくり 学文社 2021 9784762031090

阿部治・岩本泰(編著) 知る・わかる・伝える SDGsIII 生産と消費・気候変動・海の豊かさ・陸の豊かさ・平和と公正 学文社 2022 9784762031106

阿部治・朝岡幸彦(編著) 知る・わかる・伝える・伝える SDGsIV 教育・パートナーシップ・ポストコロナ 学文社 2022
 9784762031168

二ノ宮リムさち・朝岡幸彦(編著) 社会教育・生涯学習入門―誰ひとり置き去りにしない未来へ 人言洞 2023
 9784910917030

日本社会教育学会(編) SDGsと社会教育・生涯学習 日本の社会教育 第67集 東洋館出版社 2023
 9784491053219

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

オンラインで受講する場合は、ディスカッションやアクティビティに参加するためマイクやカメラを準備すること。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習2

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 2
(経済学と人間学)

丸山 俊一 (MARUYAMA SHUNICHI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM452
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5410
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

(1) 不透明感を増している資本主義、その本質をつかむ。(2) 歴史上の経済学、社会思想の巨人たちの発想のエッセンスを理解する。その上で、人間の本質と現代の経済、社会の構造との関係性を探究する。

"The objectives of the course are: (1) To grasp the essence of capitalism, which is becoming increasingly opaque. (2) To understand the essence of economic thought and social ideas from historical giants in the field. Subsequently, to explore the relationship between human nature and the structures of contemporary economics and society."

授業の内容 / Course Contents

現代の経済学と人間に関わる問題の本質を、欲望、市場、合理性などをキーワードに、多角度から考えていきます。その時、人間の居場所はどこにあるのか？システムが強大化し、人々の疎外感が高まっているかに見える現代社会にどこからどのようにアプローチすべきか？かつての「経済学の巨人」たちの思想の可能性を探究し、併せて社会学、哲学など社会思想のフレームでも問題を捉え直すことで、大きな視野で現代社会の構図の読み解きを目指します。「経済学の父」アダム・スミスの真意はどこにあったのか？ ケインズ、マルクス、シュンペーター、ハイエク、ヴェブレンなど、巨人たちの思想を吟味、現代的な意義を考えます。「経済」という事象も、人と社会と時代が織りなす「物語」として捉え直す時、新たな光景が広がります。人と経済と、人と社会の関係の再構築の為に、皆さんと一緒に考える機会となれば幸いです。

"We will explore the essence of contemporary economics and issues related to human beings by examining concepts such as desire, the market, and rationality from multiple perspectives. At this juncture, where does the place of humans lie? How should we approach the seemingly escalating alienation in modern society, where systems are becoming more powerful?

By delving into the possibilities of the thoughts of past 'giants of economics' and reconsidering issues through the frameworks of sociology, philosophy, and other social sciences, we aim to decipher the composition of contemporary society with a broad perspective. Where did the true intention of the 'father of economics,' Adam Smith, lie? We will critically examine the ideas of giants such as Keynes, Marx, Schumpeter, Hayek, Veblen, and contemplate their contemporary significance.

When we reinterpret the phenomenon of 'economics' as a narrative woven by individuals, society, and the times, new perspectives emerge. I hope that this will be an opportunity for us to think together about the reconstruction of the relationships between individuals and economics, as well as individuals and society."

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション 「経済」とは？「近代経済学」とは？今資本主義が直面する問題
 【2】: 「アダム・スミスは間違っていた？」「経済学の父」の真意は？
 【3】: 「ケインズの発想に今何を学ぶ？」大衆社会の本質を考察したその着想の本質は？
 【4】: 「マルクスの可能性をどこに見出す？」“革命家”ではなく哲学者としてのマルクス
 【5】: 「シュンペーターの預言」イノベーションの提唱者が見抜いていた社会構造の変化
 【6】: 「ハイエクが市場に賭けた真意」“新自由主義の教祖”の素顔
 【7】: 「ヴェブレン“異端”の眼差しが捉えていた真理」逆説の経済と人間
 【8】: 「再びスミスへ“見えざる手”を可視化する時」あらためて欲望とは？
 【9】: マルクス・ガブリエル「倫理資本主義」の可能性
 【10】: 無形資産／AI／ポスト産業資本主義 時代の経済と人間
 【11】: 中間報告／ディスカッション 現代資本主義の可能性と限界 人間の行方
 【12】: デジタル経済時代の倫理と貨幣論
 【13】: 20世紀アメリカ型資本主義と大衆社会論の系譜
 【14】: まとめ 最終報告とディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*（パワポ等）の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

時に、講義で扱う事象、文献など受講生の皆さんにリサーチと報告を行ってもらい、そこから議論を深めていく予定です。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義内での小レポート／報告:30% 講義内での討議への参加:40% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

丸山俊一 これからの時代を生き抜くための資本主義入門 辰巳出版 2025

丸山俊一 14歳からの資本主義 大和書房 2017

丸山俊一 働く悩みは「経済学」で答えがみつかる SB 新書 2022

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義の際は、パソコン、イヤホンを持参していただけましたら幸いです。

その他 / Others

初回受講生の皆さんと対話し、それぞれの学びの志向性、背景、目指す目標などを確かめた上で、講義の進め方など柔軟に調整していきたいと思います。

また、研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることがあります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習10

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 10
(リスクガバナンス論)

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM460
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5410
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

リスク学の知見を踏まえ、様々な領域で展開されているリスク管理やリスク政策の事例を分析し、リスクガバナンス(多様なステークホルダーによるリスクの社会的な協治)上の課題を明らかにし、あるべきリスクガバナンスについて考究する。

Risk governance is a social co-operation of risk management among diverse stakeholders. In order for society to respond to risks with uncertainties, it is essential to enhance risk governance.

The aims of this course are to understand risk management and risk policy based on the theory and knowledge of risk science from a risk governance perspective.

授業の内容 / Course Contents

授業では、講義とディスカッションを実施する。講義ではリスク学の基礎的知見や理論を批判的に考察する。ケーススタディでは、超長期の不確実性を特徴とする高レベル放射性廃棄物の地層処分、福島原発事故の被災者のふるさと喪失、石巻市立大川小学校の津波避難を巡る学校危機管理、災害ボランティアと公民連携、避難生活の QOL の向上、防災気象情報の民間開放などの事例を扱う。映像資料や判例、議事録、報告書等を用いて分析し考察を深める。

Students are expected to understand theories and applications of risk management, risk communication, and risk governance through literature review and discussion. This course deals with the following case studies:

- The geological disposal of high-level radioactive waste;
- The Fukushima nuclear power plant accident;
- School risk management for tsunami disaster;
- The role of disaster volunteers;
- The provision of temporary housing for disaster victims and Compensation for damage caused by elderly people with dementia.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション:リスクガバナンスの理論と分析枠組み

【2】:リスク学の基礎理論(1):リスク評価

- リスクの定義
- リスクと社会
- リスク評価

【3】:リスク学の基礎理論(2):リスク管理

- リスクマネジメント
- リスクベネフィット

- ・リスクトレードオフ
- ・リスク比較
- ・予防原則
- ・残余リスク
- ・リスクファナシス

【4】:リスク学の基礎理論(3):リスクコミュニケーション

- ・リスク認知とバイアス
- ・社会的増幅
- ・社会的受容
- ・自発的・非自発的リスク
- ・自己決定権
- ・リスク管理者の信頼
- ・風評被害

【5】:リスク学の基礎理論(4):共生社会のリスクガバナンス

- ・社会的排除と貧困
- ・障がい者の意思決定支援、パターンリズム
- ・マイノリティと差別
- ・多文化共生
- ・リスクの地域的偏在

【6】:リスク学の基礎理論(5):雇用・フリーランスのリスクガバナンス

- ・労働者の保護(解雇、過労死、過労自殺)
- ・フリーランス、副業・兼業者の安全配慮義務とリスク創出者管理責任原則

【7】:リスク学の基礎理論(6)

- ・消費者保護
- ・消費者の権利と責任

【8】:事例分析:高レベル放射性廃棄物の地層処分

【9】:事例分析:福島原発事故の被災者のふるさと喪失(原子力事故の賠償)

【10】:事例分析:石巻市立大川小学校の津波被害(学校危機管理と組織的過失)

【11】:事例分析:災害ボランティアの保護と公民連携

【12】:事例分析:避難生活の QOL 向上と被災者生活再建支援(公的支援とモラルハザード)

【13】:事例分析:防災気象情報の民間開放(シングルボイス、パニック論、情報統制)

【14】:総括:リスクガバナンスと社会デザイン

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

上記の項目を相互に関連づけて理解を深めるため順序を変更する場合がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的参加:80% 授業内小レポート:20%

テキスト / Textbooks

なし。授業内にレジュメ、資料を配布する。また、授業に授業内に必要な Web サイトを指示する。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習11

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 11
(リスクコミュニケーション論)

長坂 俊成(NAGASAKA TOSHINARI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM461
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5410
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

リスクコミュニケーションは、市民がリスクを民主的にガバナンスするためのステークホルダー間の社会的相互作用過程として発展してきた。授業ではリスクコミュニケーションの理論と戦略、方法を理解するとともに、合意形成や政策提言、意思決定との連続性を踏まえ、現代社会におけるリスクコミュニケーションの意義や課題について考究する。

The aim of this course is to help students acquire the basic concepts of risk communication. The goals of this course for students are to be able to explain major theories, evaluate practices, and apply theories or findings to real-world situations.

授業の内容 / Course Contents

授業では、講義とディスカッションを実施する。様々な分野の事例分析を通じて、リスクコミュニケーションの意義と課題を分析し、リスクガバナンスの視点から適用場面に応じたリスクコミュニケーションの新たな戦略と方法を検討する。

This course deals with the following case studies: natural disasters, BSE, GMO technology, GMO food, the geological disposal of high-level radioactive waste, nuclear power plant accidents, infectious disease control, pesticide regulations and risk trade-offs, global warming, and the precautionary principle. All students are expected to discuss the presentations on actual cases. Students are required to submit two small papers in this course.

授業計画 / Course Schedule

[1]:オリエンテーション:市民社会とリスクコミュニケーション**[2]:**リスクコミュニケーションと市民参加:

- ・熟議民主主義、社会的意思決定、知る権利、パブリックコメント、パブリックインボルブメント、合意形成、紛争解決、仲裁、裁判

- ・市民参加と科学コミュニケーション:テクノロジーアセスメント、コンセンサス会議、市民陪審

[3]:リスクコミュニケーションの基礎理論(1)

- ・リスクとハザードの定義、リスク管理のフレームワーク、政策決定とリスク比較、コスト・ベネフィット、リスクベネフィット、リスクトレードオフと倫理、基準、規制、裁量権、政策的介入と自由意志・自己決定

[4]:リスクコミュニケーションの基礎理論(2)

- ・リスク認知と受容、ゼロリスク、許容レベル、自発的・非自発的リスク、意思決定と認知バイアス、メディアとフレーミング、風評被害、パニック

[5]:リスクコミュニケーションの基礎理論(3)

- ・ステークホルダー、当事者性、第三者性、リスク管理者の信頼、市民知と専門知、リスクリテラシー、欠陥モデル、パターンリズム

【6】:リスクコミュニケーションの基礎理論(4)

- ・予防原則の科学性と社会性、不確実性を巡る科学的判断と社会的価値判断
- ・水俣病(因果関係の照明と予防的措置)

【7】:事例研究:BSE:全頭検査神話**【8】:事例研究:遺伝子組み換え食品:リスク管理と自己決定権****【9】:事例研究:高レベル放射性廃棄物の地層処分:超長期の不確実性と世代間倫理****【10】:事例研究:認知症高齢者の他害リスクと権利擁護****【11】:事例研究:残留農薬、食品添加物:自然由来 VS 人工****【12】:事例研究:災害リスクと自己責任:避難生活支援と人権****【13】:事例研究:災害情報とシングルボイス****【14】:総括:リスクコミュニケーションの有効性と課題****活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

上記の項目を相互に関連づけて理解を深めるため順序を変更する場合がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的参加:80% 授業内小レポート:20%

授業内小レポートによって評価する。

テキスト / Textbooks

なし。授業内にレジュメ、資料を配布する。また、授業に授業内に必要な Web サイトを指示する。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習12

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 12
(権利と法と科学:持続可能社会のガバナンス)

滝口 直樹 (TAKIGUCHI NAOKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM462
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5410
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、持続可能な社会作りを支える重要な3つの概念である権利、法、科学について、国際社会、政府や市民のガバナンスと関わらせて理解を深めることを目標とする。

This course aims to deepen the understanding on on rights,law and science for sustainable society.These three are important factors for the governance for international society, governments and civil society.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、権利と法と科学と題し、持続可能な社会作りを支える重要な3つの概念について検討を深める。一人一人が尊重される権利を持ち、その実限のための仕組みとして法がある。一方、現代社会は環境問題や健康問題をはじめ、科学をベースとした分析、取り組みが不可欠になっている。社会の仕組みである権利や法の考え方と科学との関わりについて、国際社会、政府、企業、市民の間のガバナンスとして議論する。なお、授業で扱うテーマ、その扱う順序は受講生の関心事など踏まえて変更することがあり得る。

In this course, we will review three important factors for sustainable society, namely rights,law and science.We all have human rights and they should be respected, Law is the important guardian of rights. On the other hands, the modern society relies on scientific analysis and measures. We will discuss on the governance among international society, governments, private companies and citizens. The theme of each session may change according to the participants' interests.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

今日の経済社会における権利、法、科学の役割についてブレインストーミングをする。

【2】: 具体的事例検討①

公害問題への取組における、権利と法と科学の関わりを検討する。

【3】: 具体的事例検討②

自然環境問題への取組での権利、法、科学の関わりを検討する。

【4】: 1992年リオサミット、その後の国際的枠組での扱われ方

リオ宣言、アジェンダ2において、権利、法、科学がどう扱われ、国際的な持続可能な取り組みの中で展開してきたかを検討する。

【5】: 権利的アプローチと環境権

環境問題への取り組みにおける「人の権利」の扱いについて検討する。

- 【6】: 自然の権利、動物の権利
自然や生態系、動物にも「権利」を認める考えについて、NPO の活動、海外の事例なども踏まえて、検討する。
- 【7】: 持続可能な社会作りにおける法律の役割
法律が持続可能な社会作りに果たしてきた役割について検討する。
- 【8】: 裁判と持続可能な社会
公害訴訟をはじめとする裁判が、持続可能な社会の形成に果たしてきた役割、可能性について検討する。
- 【9】: 国際法と持続可能な社会作り
持続可能な開発に関わる各種の国際条約の整備、進展、成果について検討する。
- 【10】: 国際経済ルールと持続可能な社会
環境と経済に関わる条約以外のいわゆるソフトロー（ガイドライン、宣言等）が果たしてきた役割と可能性を検討する。
- 【11】: 科学的知見、技術と持続可能な社会作り
科学的知見の集積、技術の開発が、持続可能な社会作りに与えた影響（プラスもマイナスも）と今後の可能性について検討する。
- 【12】: 科学の限界と持続可能な社会作り
不確実性など科学の持つ限界をどう扱うか、予防原則、リスク管理の考え方に触れながら検討する。
- 【13】: 気候正義と、権利・法・科学
持続可能な社会に向け、権利・法・科学の相互関係が最も厳しく表れるのが、気候変動問題への取り組みである。気候正義の観点から、その現状と課題を検討する。
- 【14】: まとめ・クロージング
持続可能な社会づくりと権利・法・科学が果たすべき役割について、今後の方向性を探る。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*（パワポ等）の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

持続可能性や環境問題に関する社会、経済の動きを常日頃から意識し、課題と思われる事例、興味を持った事例については背景、関係者の反応/動きなどを観察していくこと。
受講生には、1 回程度、授業内容に合わせ発表してもらうことを予定している。発表については、受講生の状況・関心を踏まえて、授業の中で示す予定。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表、質疑:30% 振り返り:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

環境省 令和 6 年版環境白書 日経印刷株式会社 2024 9784865794144

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

積極的に議論に参加してください。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習18

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 18
(少子高齢化社会と社会デザイン)

三浦 建太郎 (MIURA KENTARO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM468
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	ハイフレックス/HyFlex
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5410
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

日本の 65 歳以上の高齢者の人口比率は 29.3%。超高齢社会と称される 21%を遥かに上回る。一方、年間出生数は 1973 年の 206 万人から減少を続け 70 万人を切った(ともに 2024 年)。この少子高齢化社会は、介護、子育て、教育、雇用など、人々の日常生活に関わる多くの領域で、社会で暮らす人々の生活に影響を与え、様々な「生きづらさ」を生み出す。福祉とは「生きづらさ」を抱える人を支え、人の幸福を高めるためのフォーマル、インフォーマルを問わない様々な取組と考える。少子高齢化の進む社会で求められる福祉はどういうものなのか。その在り方には、明確な正解があるわけではなく、社会で暮らす私たち自身が、どのような社会を望むのかという意味を持ち、試行錯誤を重ねることで進化させていくことが必要である。まさに社会デザインの発想と取組が求められている。

この講義は、福祉に携わる専門家としての知識の習得を目標とするものではなく、社会で暮らしている私たち自身が、少子高齢化社会における様々な福祉的課題を、ジブンゴトとして認識し、どう対応していくべきか、自らの意見と行動の判断ができるようになることを目標とする。

※シラバスは、履修人数に応じて、ケーススタディ・ワークショップの形を変更することがある。

There is no right answer in the welfare system.

We have our own will of trial and error, evolution, and the kind of society we want.

This course aims to help students recognize the various welfare issues that exist in modern society and make decisions about how they think and respond.

授業の内容 / Course Contents

- ・福祉の発展の経緯と現状の課題の基本的な知識を学ぶ
- ・時事ニュースや様々な言説を元に、議論を重ね、多様な視点から考える
- ・福祉的課題の解決のための方法について、自分の意見をまとめる
- ・講義の後半では、履修学生同士数名のグループで、現代社会の福祉課題への取組の提案を検討し発表する。
- ・ Learn the background of welfare development and basic knowledge of current issues.
- ・ Continue discussions and think from various perspectives about welfare issues.
- ・ Summarize your individual opinions on methods for solving welfare issues.
- ・ In the final session of the lecture, students will work in groups to discuss proposals to solve the welfare issues of

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション

【2】:「社会デザイン」と「福祉」の視点

- 【3】: 社会保障と福祉制度の誕生と発展
 【4】: 超高齢社会を考える
 【5】: 人口減少社会を考える
 【6】: 雇用と労働を考える(非正規雇用・働き方改革・外国人労働者・移民)
 【7】: 子どもの生きづらさ、育てづらさを考える(妊娠出産・子育て・教育・児童養護)
 【8】: 民間からの新たな福祉の可能性を考える(グリーフケア・児童養護・生活困窮者支援等)
 【9】: 地域社会の在り方を考える(超高齢社会シミュレーションゲーム体験)
 【10】: 企画提案のテーマ決め(社会の福祉課題を選び、その解決の方法を考えて提案する)
 【11】: 福祉課題を解決するための取組を企画する1(グループワーク)
 【12】: 福祉課題を解決するための取組を企画する2(グループワーク)
 【13】: 福祉課題を解決するための取組を企画する3(グループワーク)
 【14】: 企画提案発表会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

時事問題等を通じて、社会の福祉的課題について、関心を払い、自分の意見を考えておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への出席と理解:60% 議論への参加と貢献度:20% グループワークへの貢献度と発表内容:20%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

高橋紘士 地域包括ケアを現場で語る 木星舎 2022 9784909317254
 岡村重夫 社会福祉原論 全国社会福祉協議会 1997 9784793502705
 広井良典 創造的福祉社会 ちくま新書 2011 9784480066190

講義の中で適宜紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ZOOM でのブレイクアウトセッションや資料の共有を行う。

教室で受講する場合も、PC・タブレットおよびイヤホンマイクを要する

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習19

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 19
(グローバル社会から考える人権)

寺中 誠 (TERANAKA MAKOTO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM469
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	各自の研究の進展具合を確認しつつ、人権の観点からの補足と、必要な教養や研究情報を提供する。そのため、演習形式での授業を基本とする。
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5410
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化とネーション＝ステートという近代社会を特徴づける二つの方向性が、人権や安全保障に影響するさまざまな危機を生み出している構造を理解する。

権利と義務の体系として作られた人権保障制度について、各国や国際社会がそれぞれどのような仕組みを講じているかを理解する。特に犯罪や人権侵害に関わる法学、社会学、心理学、国際人権論の理論的実践を修得する。

Students will understand the structure, in which the two directions of modern society; globalization and nation-state system create various crises affecting human rights and security.

Students will understand how each country and the international community have adopted human rights protection systems formulated as systems of rights and obligations.

Students will understand the theoretical expertise on crimes and human rights violations from judicial, sociological, psychological and international human rights law perspectives.

授業の内容 / Course Contents

人権は、近代社会を規律する重要な法的概念である。

グローバル化の時代を迎えて、世界規模での戦争や武力紛争が生み出した国際刑事司法や難民保護の制度は、従来の国境管理を基本とした国家の枠を超えてきている。一方で、移民排斥に見られるような排除型社会の進展は、従来の民族国家概念を頑なに守ろうとしている。また、世界経済の大きな流れは、従来の国家を超える存在としての世界企業を生み出し、人びとの生活に直接の影響を及ぼしている。

後期近代とも言われる現在、国や国際社会は、こうしたグローバルな動きに対して、人権という制度をどのように用いて対応しようとしているのか。特に犯罪学の知見を通じて、問題の構造と、どのような対策を講じるかを考える。

受講者の研究内容に応じて、強弱を設ける予定。

Human rights are important legal concepts that govern modern society.

In the age of globalization, the international criminal justice and refugee protection systems created by world wars and armed conflicts have come to transcend national borders based on traditional border control. On the other hand, the development of exclusionary societies as seen in immigration exclusion is a stubborn attempt to keep the traditional nation-state concept. In addition, the great flow of the world economy has created global companies that are more

powerful than traditional states, and this has a direct impact on people's lives.

How are governments and the international community trying to respond to such global movements using the human rights system, in this period which is said to be late modernity? We will consider the structure of the problem and what action to take in various cases, especially based on criminological perspectives.

We plan to change the priority of the topics as appropriate according to the study content of the students.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: グローバル化とネーション＝ステートで考える人権
- 【2】: 権利基盤アプローチ論: 開発分野における権利義務の構造
- 【3】: グローバル化する企業を取り巻く国際的な人権基準
- 【4】: 移民政策とグローバル危機
難民／入管政策と刑事司法の国際化
- 【5】: 安全保障政策と刑事政策、人権政策
「国際組織犯罪」と「テロリズム」をめぐる
- 【6】: 国際刑事裁判所と戦争の違法化
安全保障政策と「法の支配」
- 【7】: 紛争地域と「保護する責任」
人道的介入と非軍事的措置
- 【8】: 修復的司法(正義)と「和解」プロセス
- 【9】: 「紛争下のジェンダー」を考える
- 【10】: 「紛争鉱物」を考える
- 【11】: 「児童労働」を考える
- 【12】: 国際社会における人権基準化プロセス(死刑／拷問)
- 【13】: 人権分野の NGO が果たすアドボカシー機能
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自必ず講義ノートを作成すること。

- ①事前に概説書等を参考にする。(参考文献に挙げた資料などを読んでみる)
- ②授業に参加し、ノートに必要事項を記録する。
- ③ノートの内容を確認しつつ、疑問点があれば質問する。
- ④授業中に示された参考図書等を調べて、ノートに反映させる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% コメントカード兼出席票:20% 授業中の発言等の参加度:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

アムネスティ・インターナショナル日本・国際人権法チーム 編著 ぼくのお母さんを殺した大統領をつかまえて。一人権を守る新しいしくみ・国際刑事裁判所 合同出版 2014 9784772611923
藤岡美恵子・越田清和・中野憲志 国家・社会変革・NGO 新評論 2006 4794807198
ジョック・ヤング 排除型社会 洛北出版 2007 9784903127040
ソーシャルジャスティス基金 民主主義をつくるお金 ハンズオン! 埼玉出版部 2015 9784990679125
ロイック・ヴァカン 貧困という監獄ーグローバル化と刑罰国家の到来 新曜社 2008 9784788511408
ハワード・S・ベッカー 完訳アウトサイダーズ 現代人文社 2011 9784877984946

その他 / Others

<http://www.teramako.jp/>
<http://www.ohchr.org/>
<http://www.amnesty.or.jp/>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成

果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習20

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 20
(イスラム社会と国際協力)

景平 義文(KAGEHIRA YOSHIFUMI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM470
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	夏季集中講義／【日程】8月1日(金)2～6限、8月4日(月)2～6限、8月5日(火)2～5限 【教室】6205 教室
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	SDS5410
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

シリアやアフガニスタンなど中東地域の混乱は、政治的あるいは軍事的なマクロな課題だけではなく、大規模な難民の流出に代表されるように、その地域で生きる人々をどのように支援するのかというミクロな課題を国際社会に突き付けている。しかしながら、日本における中東地域に対する理解は必ずしも高くない。その要因としては、中東地域に関する情報が十分に流通していないことと、同地域における「イスラム」に基づいた社会規範が日本にとって馴染みのないものであることが挙げられる。本授業では、中東地域およびイスラム社会への理解を深め、援助や難民支援に関する知識を得ることを目的とするとともに、援助者にとって馴染みのない「他者」を支援すること、そして被援助者にとってなじみのない「他者」によって支援されることに生じる諸課題について考察を加える。

Recent unrest in the Middle East region, such as Syria and Afghanistan, has been posing a lot of challenges to the world. These challenges are not limited to political or military issues in a macro perspective, but also include how the world is able to support the people of the region in a micro perspective. For instance, the world needs to seek for the better supporting mechanism to respond massive scale of displacement of refugees. However, knowledge and understanding on the Middle East is not always sufficient. This is simply because that quantity of information about the Middle East is low in Japan, and also because of unfamiliarity to social norms based on "Islam" in the region for Japanese people. This course aims to give the basic picture of the Middle East region and also to give knowledge on international aid and assistance for refugees. In addition, this course gives a focus on practical challenges when aid workers support the people with different culture and norms.

授業の内容 / Course Contents

現在の中東地域の混乱は、歴史に多くの原因を見ることができる。特に、オスマントルコ帝国崩壊前後の歴史について概観することで、中東地域の現代的課題を明らかにする。また、イスラム教を社会の基盤としている中東地域において、西洋的価値観を基盤とした開発あるいは国際協力を進める上での課題について説明する。その後、アフガニスタンとシリアの2カ国を例として、その歴史や社会について詳細に説明し、これらの国の現在の状況、そして国際社会の対応について掘り下げる。また、シリア危機によって生み出された大量の難民は、現代の世界が直面する大きな課題となっているため、難民支援および難民政策についても論じる。

The roots of recent unrest in the Middle East can be found in the history. In particular, by examining the history before and after the fall of the Ottoman Empire, we will clarify the challenges of the Middle East at present. In addition, we will

clarify the thresholds to conduct development assistant based on Western concept of values in the Middle East where Islam is the foundation of society. We will look into the past and current situation of Afghanistan and Syria as examples to have deeper understanding how international society took actions for these countries. .We will also discuss assistance for refugees, as it is a major challenge the world is now facing.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 中東地域の保守的な社会規範に見る日本社会との隔たり
- 【2】: 保守的な社会規範は改められるべきか否かについて考えてみる
- 【3】: アラブ民族主義やイスラム主義の淵源を歴史からたどる
- 【4】: アラブ民族主義やイスラム主義的な考え方は単に「過激」で「危険」なのか
- 【5】: 難民に関する基礎知識
- 【6】: 難民を支援すること-トルコはどのようにシリア難民を支援しているのか-
- 【7】: 難民はどのような支援を必要としているのか
- 【8】: 国際社会は難民支援において何ができて、何ができないのか
- 【9】: 日本における難民受け入れ論争について考えてみる
- 【10】: アフガニスタンにおける紛争の歴史を振り返る
- 【11】: タリバン政権は「邪悪」であり「打倒」されなければならないのか
- 【12】: 国際社会によるアフガニスタン復興支援が破綻に至るまで
- 【13】: アフガニスタンの農村地域における調査から見える復興支援のほころび
- 【14】: まとめ-「他者」が「他者」を支援すること-

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コメントカード兼出席票:60% 最終レポート:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

山内昌之 民族と国家-イスラム史の視覚から 岩波新書 1993 9784004302605

池内恵 サイクス=ピコ協定 百年の呪縛 新潮選書 2016 9784106037863

酒井啓子 <中東>の考え方 講談社現代新書 2010 9784062880534

墓田桂 難民問題 - イスラム圏の動揺、EU の苦悩、日本の課題 中公新書 2016 9784121023940

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習22

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 22
(ホロコースト再考)

長 有紀枝 (OSA YUKIE)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM472
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5410
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

研究者あるいは市民として、人類が経験したジェノサイド(集団殺害)や類似の事例を学ぶことにより、事件の再発防止や予防に寄与することを目的とする。

The course aims to contribute to the prevention of genocide and related atrocities by learning about the genocide experienced by humanity, as a researcher as well as a citizen.

授業の内容 / Course Contents

国際社会の危機管理を考える本講座では、ナチ・ジェノサイドに焦点を当て、現代に生きる私たちとの接点を探りつつ再考していく。これは同時に、私たちが、日中戦争や第二次世界大戦の加害者としての歴史と改めて対峙するための試みであり、いじめや体罰、ヘイトスピーチなど私たちの日常生活に潜む暴力とジェノサイド的思想との連関を探る試みでもある。

In this course, which considers crisis management in the international community, we will focus on Nazi Genocide and reconsider the issues while exploring nexus with us. This is at the same time an attempt to confront our own history as perpetrators of the second world war as well as to discover the relationships with bullying, corporal punishment, hate speech, and other forms of violence and genocide lurking in our daily lives.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入:ジェノサイドから、何を学び、考えるか
ドキュメンタリー映像鑑賞①:アラン・レネの「夜と霧」(仏 1955 年、31 分)
- 【2】:ドキュメンタリー映像鑑賞②:「ジェノサイド ナチスの虐殺-ホロコーストの真実」(米 1981 年、83 分)
- 【3】:テキスト講読①
- 【4】:テキスト講読②
- 【5】:テキスト講読③
- 【6】:ハンナ・アーレント「イスラエルのアイヒマン」～凡庸な悪・普通の人々の犯罪・ユダヤ人評議会の存在
- 【7】:ヒトラーとスターリンの大虐殺～ブラッドランド(ウクライナ、ポーランド、ベラルーシ、バルト3国)
- 【8】:ナチ・ジェノサイドを支えた近代と科学、障がい者への対応
- 【9】:歴史修正主義とホロコースト～プリーモ・レーヴィによる批判から
- 【10】:ホロコースト産業:企業とジェノサイド、ネットワーク
- 【11】:過去の克服、記憶・忘却とホロコースト記念碑・博物館
- 【12】:文学・哲学・音楽とナチ・ジェノサイド、テレビ、映画となったホロコースト
- 【13】:犠牲者意識ナショナリズムとジェノサイド

【14】: 日常生活に潜むジェノサイドの芽〜いじめ、体罰、ハラスメント、優性思想と障害者

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内での発表:25% ディスカッションへの参加度・貢献度:25%

テキスト / Textbooks

芝健介 『ホロコースト ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』 中央公論新社 2008 4121019431

ハンナ・アーレント 『イェルサレムのアイヒマン―悪の陳腐さについての報告』新版 みすず書房 2017 462208628

加えて、授業中に適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

長有紀枝 『スレブレニツァ・ジェノサイド』 東信堂 2020 9784887138858

石田勇治他編 『ジェノサイドと現代世界』 勉誠出版 2011

ダン・ストーン 『ホロコースト・スタディーズ 最新研究への手引き』 白水社 2012

プリーモ・レヴィ 『溺れるものと救われるもの』 朝日新聞出版 2014

マイケル R.マラス 『ホロコースト 歴史的考察』 時事通信社 1996

ティモシー・スナイダー 『ブラッドランド ヒトラーとスターリン 大虐殺の真実』 筑摩書房 2015/2022

林 志弦 『犠牲者意識ナショナリズム』 東洋経済新報社 2022 9784492212523

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習25

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 25
(気候変動とリスクマネジメント)

指田 朝久(SASHIDA TOMOHISA)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM475
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5410
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

人為的な温室効果ガスの排出による気候変動はほぼ確実といわれている。未来の地球を救うためにどのような政策をとってきたのか、またどのように考えればよいかを学ぶ。また増加する異常気象や気象災害から身を守るために気象現象の基礎を学び、天気予報や警報、避難指示などの制度を理解する。

Climate change due to anthropogenic greenhouse gas emissions is said to be almost certain. Students will learn what policies have been implemented to save the future Earth and how to think about them. Also, students will learn the basics of weather phenomena to protect themselves from the increasing number of extreme weather incidents and meteorological disasters, and understand systems such as weather forecasts, warnings, and evacuation advisories.

授業の内容 / Course Contents

気候変動を引き起こす二酸化炭素などの温室効果ガスによる気温上昇のメカニズムを学ぶ。その温室効果ガスを減らす国際的枠組みであるパリ協定や COP およびエネルギー政策の現状を学ぶ。太陽光発電や風力発電の可能性には気象の理解が大きくかわってくる。また、異常気象や気象災害から身を守るために、気象現象の基礎を学ぶ。気象予報士として、天気予報の仕組み、雨や雲、高気圧や低気圧、台風や梅雨のメカニズムをわかりやすく解説する。大雨警報や避難指示などの制度の解説を行う。授業当日の天気予報についても適宜解説する。

Students will learn about the mechanisms of rising temperatures due to greenhouse gases such as carbon dioxide that cause climate change. Students will learn about the current state of Paris Agreement, the international framework for reducing greenhouse gases, COP, and the current state of energy policies. An understanding of the weather is greatly relevant to the possibilities of solar and wind power. Students will also learn the basics of weather phenomena to protect themselves from extreme weather and weather disasters. As a weather forecaster, the lecturer will explain the mechanism of weather forecasts, rain and clouds, high pressure and low pressure, and the mechanism of typhoons and rainy seasons in an easy-to-understand manner. We will provide commentary on systems such as heavy rain warnings and evacuation advisories. We will provide commentary on the weather forecast on the day of class as appropriate.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:気候変動とリスクマネジメント ガイダンス、教科書の説明、気候変動に関する国際的枠組みの概要、近年の気象災害(2018年西日本豪雨、令和元年東日本台風災害)猛暑など
- 【2】:地球温暖化の科学(第1章) 気温上昇で困ること、なぜ起きるのか
- 【3】:気候変動枠組みの国際交渉(第2章) COP21, 京都議定書、パリ協定ができるまで
- 【4】:日本のエネルギー政策(第3章) 代替エネルギーと気候、太陽光発電、風力発電
- 【5】:私たちに何ができるか(第4章) 日本の取り組み、気候変動適応法

- 【6】: 気象災害に備える: 天気予報の基礎、過去の気候、日本の四季
 【7】: 天気予報の仕組み、高層天気図、大気の大循環、海洋の熱塩循環、世界の気候
 【8】: 偏西風、高気圧・低気圧
 【9】: 温帯低気圧とは、前線とは
 【10】: 雨はなぜ降るのか、ゲリラ豪雨、雲の種類、上空の寒気とは
 【11】: 梅雨のメカニズム、線状降水帯、その他の気象災害
 【12】: 台風のメカニズム、温暖化と台風、高潮、強風、過去の台風災害
 【13】: 気象災害に遭わないために、ハザードマップ、警報・注意報、避難指示などの基礎知識
 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日々の新聞などで気候変動に関するニュースを確認すること、授業期間中に開催される COP 会議の内容につき確認すること、天気予報・天気図を確認すること

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業時の積極的な発言・意見交換への参加:40%

テキスト / Textbooks

小西雅子 地球温暖化は解決できるのかーパリ協定から未来へ 岩波書店 2016 9784005008377

参考文献 / Readings

岩谷忠幸 史上最強カラー図解プロが教える気象・天気図のすべてがわかる本 ナツメ社 2013 9784816350108

筆保弘徳、芳村圭 天気と気象についてわかっていること知らないこと ペレ出版 2011 9784860643515

ニュートン ニュートン別冊天気と気象 ニュートンプレス 2011 9784315519044

渡部雅浩 絵で分かる地球温暖化 講談社 2018 9784065119464

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

地球温暖化に興味を持っている方、異常気象が気になるので天気予報などの仕組みを知りたい方にお薦めする。一般教養レベルの講義を行うので事前の勉強などは必要ありません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義資料を Canvas LMS で配布するのでダウンロードまたは閲覧できること。また意見交換や討論を行うため発表資料を投稿できるためのパソコンなどを準備すること

その他 / Others

気候変動に関する国際情勢は日々変化しています。様々なニュースに注目してください。空を見上げて雲など興味を持って眺めてみてください。なお、顕著な気象災害が発生した場合および COP 会議で重要な方針が発表された場合は、その解説を行うなどにより授業内容を組み替えることがあります。各種情報提供および論文なども掲載しているので適宜以下の URL を参照するとよい。 <https://www.tokio-dr.jp>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習29

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 29
(災害と事業継続計画 BCP)

指田 朝久(SASHIDA TOMOHISA)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM479
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5410
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

2024 年能登半島地震、2016 年の熊本地震、また 2018 年は西日本豪雨、台風 21 号、北海道胆振東部地震、2019 年は台風 15 号、19 号など、風水害や地震が相次ぎ自治体と企業が被災したことは記憶に新しい。地震、津波、台風、水害、火山など自然災害について東日本大震災などの事例と今後発生しうる首都直下地震、などの被害想定を取り上げ、人的被害および経済的被害の極小化の最新の経営管理手法である事業継続計画BCPにつき解説する。また、災害発生時の組織の危機管理手法を学ぶ。災害対応における国、自治体、企業、NPO/NGO、自治会・市民などそれぞれの役割と関係性を理解する。

In recent memory, local governments and companies have been damaged by storms, floods and earthquakes, such as the 2024 Noto Peninsula Earthquake, the 2016 Kumamoto Earthquake, the 2018 West Japan heavy rain, typhoon 21, and the Hokkaido Iburi Eastern Earthquake, and the 2019 typhoon15, typhoon19. Regarding natural disasters such as earthquakes, tsunamis, typhoons, floods and volcanoes, we will explain business continuity plans (BCP), which are the latest business management method of minimizing human and economic damage, considering cases such as the Great East Japan Earthquake and possible future damage caused by the Tokyo Inland Earthquake, etc. In addition, students will learn crisis management methods of organizations at the time of disaster occurrence. Students will understand the roles and relationships of Government, local governments, companies, NPOs/NGOs, community associations, and citizens, etc.

授業の内容 / Course Contents

一度に多くの被害が発生している災害として、地震とこれに付随する災害、気象災害、感染症などがあり、日本においてはこれらの災害のいずれについても歴史上の記録がある。東日本大震災や阪神・淡路大震災などでは多くの人的被害が発生し、必ずしも防災、減災対策が機能していないことが明らかとなった。気象災害などでは予兆をとらえることができ、災害発生メカニズムや地域社会の特性を知ることにより、人命安全をはじめとする適切な回避行動をとることができる場合もあるが、2018 年の西日本豪雨のように多くの人が逃げ遅れて救助される結果となっている。一方、東日本大震災でも明らかのように、人命が助かってもその後の経済活動の復旧がなければ生活は厳しいものとなる。本科目では自然災害について事例を取り上げ、人的被害の極小化とともに、組織の事業継続計画(BCP)についてグローバル・リスクガバナンスおよび危機管理の視点で研究し、地域社会の継続に向けた社会デザインを考える。

授業は国の被害想定や各種報告書、対策大綱、国際標準規格などを読み解くとともに、災害の時系列に伴う諸事情と被災の関係性を適宜議論およびディスカッションしていく。また、ゲームも実施することにより、事業継続計画をはじめとする組織としての危機管理や災害対応につき受講生の理解を深める。

As disasters where much damage occurs at one time, we can consider earthquakes and associated disasters,

meteorological disasters, and infectious diseases, etc., and in Japan, there is a historical record of all of these disasters. The Great East Japan Earthquake, the Hanshin-Awaji Earthquake, etc. caused a large amount of human damage, and it became clear that disaster prevention and mitigation measures did not necessarily work. In the case of meteorological disasters, etc., it is possible to see the signs, and by knowing the mechanism of disaster occurrence and the characteristics of the local community, it may be possible to take appropriate evasive actions including saving lives. However, in the heavy rains of 2018 in West Japan, many people were too slow to escape and had to be rescued as a result. On the other hand, as is clear from the Great East Japan Earthquake, even if lives are saved, life will be difficult unless economic activity is restored. In this course, we will consider cases of natural disasters, research organization's business continuity plans (BCP) from the perspective of global risk governance and crisis management while minimizing human damage, and think about social design for the continuity of local communities.

In the classes, we will interpret the Government's damage assumptions, various reports, measures guidelines, and international standards, etc., and will discuss the relationships between circumstances and disasters that accompany the time series of disasters as appropriate. In addition, by playing games, students will deepen their understanding of crisis management and disaster response for organizations including business continuity plans.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション、能登半島地震および東日本大震災を振り返る
- 【2】:気象災害、ハザードマップ・警報と避難;西日本豪雨を振り返る
- 【3】:被害想定を読み解く;首都直下地震被害想定
- 【4】:被害想定を読み解く;南海トラフ地震被害想定
- 【5】:被害想定を読み解く:火山災害、富士山噴火被害想定、破局噴火
- 【6】:人命安全の基礎;建築基準法の基礎、帰宅困難者問題と組織、要援護者の保護
- 【7】:事業継続計画(BCP)の基礎
- 【8】:事業継続計画のコア概念:代替戦略、重要製品の選択、サプライチェーン
- 【9】:事業継続計画:企業の新型コロナ対応
- 【10】:政府・自治体の業務継続計画、応援受援体制
- 【11】:企業の地域貢献、地域との協調
- 【12】:危機管理と意思決定:意思決定ゲーム(クロスロード)
- 【13】:地域継続計画(DCP)および市町村地域継続計画(MCP)について
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業の進行とともに立教オンライン授業支援システム CanvasLMS に講義に関連する政府の各種被害想定および報告書、大綱、ガイドラインなどを適宜提供してゆく。これらを閲覧し予習しておくこと。自然災害の現状や国の取り組みなどにつき把握し、組織としてどのように対応を考えるべきか自分の意見をまとめておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業における発言の積極性および内容:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

東京海上日動リスクコンサルティング 『企業の地震リスクマネジメント入門』 日科技連 2013 9784817194985

東京海上日動リスクコンサルティング 実践事業継続マネジメント第4版 同文館 2018 9784495376444

東京海上ディーアール株式会社 これだけは知っておきたいリスクマネジメントと危機管理ガイドブック 同文館 2022 9784495390662

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

自然災害や防災に関心がある方、命の安全に加えて経済の復旧も社会デザインの一部として興味を持っている方にお薦めする。一般教養レベルの講義を行うため、先行履修や事前知識の習得は必要ありません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義資料を Canvas LMS で配信するため、ダウンロードまたは閲覧できること

その他 / Others

各種情報提供および論文なども掲載しているので適宜参照するとよい <https://www.tokio-dr.jp>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習31

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 31
(エシカル消費総論-2)

河口 眞理子(KAWAGUCHI MARIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM481
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5410
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

今年 SDGs の発足から 10 周年を迎える。SDGs のカラフルなバッジが象徴する持続可能性の概念は日本社会でも広く浸透してきた。しかし、2024 年段階で SDGs のうち達成に向けて進んでいるのは 17%に過ぎない。世界情勢をみると、コロナ化に続き、ウクライナを契機に中東紛争などの地政学リスクが高まっている。更に地球規模での気候変動による異常気象が激化している。台風、洪水、干ばつなどの異常気象は、世界の食料生産や生活インフラに大きな影響を与えている。残念ながら、この異常気象は人間の活動の結果でもある。CO2 排出量は増加の一途をたどり、世界の平均気温は産業革命前から 1.5° C 以上上昇し、地球温暖化は着実に進行している。人類の農業が始まって以来、世界の森林面積の 1/3 が失われた。また、2050 年には海には魚よりもプラスチックが多く存在すると言われているように、経済活動によって生物多様性が損なわれている。そして経済発展の陰で格差は広がり、現在 5000 万人が奴隷状態にあると言われている。これらの環境破壊や人権侵害は、直接的な原因は企業にあることが多いが、その背景には消費者のニーズがある。SDGs が絵に描いたような餅になってしまうようなことのないよう、すべての生活者のライフスタイルを持続的に変革していく必要がある。このコースは、VM362 と連動しており消費者の立場からのサステナビリティの在り方について、政府の報告書や企業発の情報を読み解くことで、考察していく。

This year marks the 10th anniversary of the launch of the SDGs. The colorful badges of SDGs and the concept of sustainability has become widespread. However, as of 2024, only 17% of the SDGs are on the path to achieving them. As geopolitical risks such as conflicts in the Middle East continue to rise following Ukraine, extreme weather events caused by climate change on a global scale are intensifying, and the world is becoming more VUCA-like. Extreme weather events such as typhoons, floods, and droughts have had a significant impact on global food production and living infrastructure. Unfortunately, this extreme weather is also a consequence of human activity. CO2 emissions continue to increase, the average global temperature has risen by more than 1.5° C above pre-industrial levels, and global warming is steadily progressing. Since the beginning of human agriculture, 1/3 of the world's forest area has been lost. In addition, as it is said that there will be more plastic than fish in the oceans in 2050, economic activities are damaging biodiversity and having a significant impact on the earth. It is said that 50 million people in the world are in a state of modern slavery behind the development of the economy. These environmental destruction and human rights violations are often directly caused by corporations, but behind them are the needs of consumers. In order not to make SDGs a failure, it is necessary to sustainably transform the lifestyles of us all consumers. Together with VM362, his course examines sustainability initiatives from the consumer's point of view by reading various related reports and documents by public authorities, business entities, and civil society.

授業の内容 / Course Contents

この授業は VM362 と連動し、サステナビリティの各側面について政府の政策の元となる報告書などを読むことに主眼を置く。社会人になると論文や提言など政策の前提となる文献を読んで勉強する機会は意外に少ない。要約文であったりコンサルタントなどの資料から内容を理解すれば業務上の要件は満たすことが多い。しかし、要約にはかならず要約した人のバイアスがあるし、現物のメッセージとは違っていることも少なくない。現物を読んでみて気が付くことも少なくない。

そこでこの講義では①持続可能な社会づくりにエポックメイキングな提言となっている文献を時間内にしっかり読み、その内容について議論していくことで、持続可能な社会づくりのために必要な基礎知識を得る。この講座は VM320 の講義に合致する文献を読むので、できれば両方受講することが望ましい。文献は、サステナビリティの基礎となる文献も読むが、状況に応じて最新の文献も目を通したい。よって、以下の文献は、前年までの講義で使ったものを掲載しており、必要に応じて変更する。

Being business persons, there are few chance to read reports and proposals directly. Usually, summarized documents by consultants will be enough for business use. But summarized documents are biased and reading full documents may have different messages and giving different messages/ In this course , we take time to read some of the epoch making reports in sustainability arena and discuss over the contents of these documents, and will acquire better knowledge and perspectives of each sustainability issues. This course is related to VM320, so it is preferable to take both course, since VM320 will cover the theoretic part and this course offers time to read reports related to the topic covered in VM320. The candidates of the reports and sometimes interesting articles are those related to SDGs, environmental issues, and social issues. The list is the candidate of reports to cover, since updated reports are more preferable.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: サステナビリティ全般: 国際連合『環境と開発に関するリオ宣言』、『持続可能な開発に関するヨハネスブルグ宣言』、『私たちの共通の課題(Our Common Agenda)』など
- 【2】: 環境問題: 『IPCC 第六次評価報告書の概要』、『IPBES 生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書』など
- 【3】: 人権問題: 『ラギー報告企業と人権に関するガイディング原則』、『ビジネスと人権に関する行動計画』など
- 【4】: SDGsについて: 『2030 アジェンダの履行に関する 自発的国家レビュー2021』、『SDGsアクションプラン』およびパブリックコメントなど
- 【5】: エネルギー問題: 『第六次エネルギー基本計画』、『脱炭素の日本の自然エネルギー戦略』、『一次産業としての再生可能エネルギー』など
- 【6】: サーキュラーエコノミー: 『プラスチックアトラス・アジア 2022』、『循環型社会形成推進基本計画』など
- 【7】: エシカル消費: 消費者庁『「倫理的消費」調査研究会報告書』など食: 『緑の食料戦略』、NGO などによる食品会社の評価レポートなど
- 【8】: 食: 『緑の食料戦略』、NGO などによる食品会社の評価レポートなど食品会社各社のサステナビリティレポートなど
- 【9】: ファッション: 経産省『これからのファッションを考える研究会報告書』 環境省『サステナブルファッション』など
- 【10】: 物流: 『交通政策白書』『都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会中間とりまとめ』など
- 【11】: 住: 『国土交通白書』、住宅メーカーの「サステナビリティレポート」など
- 【12】: ファイナンス: 『お金の規律を考える』全銀協・証券業協会などの金融教育資料など
- 【13】: ファイナンス: NPO による『寄付白書』 投資型クラウドファンディングの「セキュリティ」のサイト情報など
- 【14】: 環境省『1. 5℃ライフスタイル』、国際連合『持続可能な開発に関するグローバル・レポート 2023』など

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

VM362 とセットで受講が望ましい。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回リアクションペーパーを提出すること

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 出席率・発言:25% リアクション:25%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習33

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 33
(アジアと平和1)

倉本 由紀子(KURAMOTO YUKIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM483
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5410
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

日本を取り巻くアジア情勢は、多様な価値観や考え方が衝突することが多く、国内外での対立が絶えません。国際政治学の重要なテーマの一つである「戦争と平和」について学びながら、戦争や紛争は、なぜなくなるのか、平和な社会には、何が必要なのかという「問い」へ答えを考察し、追求することを目標とします。

How can we achieve world peace? To address this question, this course aims to equip students with relevant academic tools to analyze "war and peace" as a dominant theme of international relations.

授業の内容 / Course Contents

授業では、戦争や紛争が起こる要因や解決方法について、国際政治の歴史や先行研究から学びます。冷戦終結後 30 年以上経過した国際社会において、平和や平和主義の概念についてあらためて考察し議論することで、日本の安全保障政策や「日本の平和外交」についても検証します。

This course aims to help students understand the causes of war and how military conflicts can be prevented by surveying world history and reviewing research literature on international relations. Students will study conflict resolution and peacebuilding concepts and methods, examine Japanese pacifism, and evaluate future security policies.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 国際政治学と「戦争と平和」について
- 【2】: 国家の安全と個人の安全は両立するのか
- 【3】: 新自由主義的グローバル化は暴力をもたらしているのか
- 【4】: 差別・排除の克服は平和の礎となるのか
- 【5】: ジェンダー平等は平和の基礎か
- 【6】: 国連は普遍的平和を目指せるか
- 【7】: 市民や NGO による国境を越えた連帯は国際平和に貢献しているのか
- 【8】: 人道介入は正当か
- 【9】: 援助は貧困削減に有効なのか
- 【10】: 紛争後の社会の平和を再建するには謝罪と償いが必要か
- 【11】: 被爆地の訴えは核軍備を促進したか
- 【12】: 日米安全保障条約は日本の平和の礎であるのか
- 【13】: 日本国憲法の平和主義は日本の安全と世界平和に貢献しているのか
- 【14】: 戦後補償問題はすでに解決済みであるか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの章立てに沿って授業を進めるので、該当箇所を読んで授業に臨んで下さい。
また、授業に実施するディスカッションに参加するためにも、国際問題に興味を持ち、国内外から発信される信頼可能な情報を積極的に入手するようにしましょう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業参加度・課題発表など:50%

テキスト / Textbooks

日本平和学会 編『平和をめぐる 14 の論点』法律文化社 2018 9784589039545

参考文献 / Readings

篠田英朗『国際紛争を読み解く五つの視座』講談社 2018 9784062586177

宮城大蔵『戦後日本とアジア外交』ミネルヴァ書房 2019 9784623072163

石井明・朱建栄 編『東アジア国境紛争の歴史と論理』藤原書店 2022 9784865783605

ジョセフ ナイ Jr・デイヴィッド ウェルチ『国際紛争 理論と歴史 原著第 10 版』有斐閣 2017 9784641149175

大矢根聡 編『国際関係理論と日本外交史』勁草書房 2020 9784326302857

山田満『平和構築のトリロジー』明石書店 2021 9784750352046

石田淳・長有紀枝・山田哲也『国際平和論』有斐閣 2024 9784641149533

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習44

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 44
(自己決定権と意思決定支援)

水島 俊彦(MIZUSHIMA TOSHIHIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM494
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5410
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

障害者権利条約に基づく障害のある人の支援付き意思決定の考え方と厚生労働省等が発出したガイドラインにおける意思決定支援プロセスについての理解を深めること、本人の表出された意思・心からの希望(expressed wish)や選好や価値観(values and preferences)を把握するための基礎的な実践手法を学ぶこと、そして、社会デザインとしての自己決定権のあり方について議論すること、が本授業の目的です。

前記目的達成のため、以下の目標を設定します。

- (1) 障害のある人の自己決定権の重要性と本人中心アプローチが必要な根拠や背景を知る。
- (2) 認知症の人の日常生活・社会生活、障害福祉サービス、人生の最終段階における医療ケア(身寄りのない人を含む)、成年後見など、それぞれの場面に適用される「意思決定支援」ガイドラインを概観し、その共通点及び課題を理解する。
- (3) 障害者権利条約及び同委員会による日本への総括所見の内容を踏まえ、日本の司法、福祉現場等における最善の利益に基づく代行決定型のアプローチに対する問題点を理解する。
- (4) 本人の意思、選好や価値観を把握するための実践手法及び意思決定への本人参加を保障するための具体例を知る。
- (5) 受講者が現場や日常生活に戻って意思決定支援に取り組むためのヒントを得る。
- (6) 国内の意思決定支援、代行決定に関わる制度・実務上の課題を発見・整理し、人権モデルに基づく支援付き意思決定の理念を広く社会に浸透させるために必要な社会デザインを考える。

This course aims to improve students' understanding of the concept of supported decision-making by persons with disabilities based on the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities (UNCRPD), and the decision-making support process in the guidelines published by the Ministry of Health, Labor and Welfare, and so on. Students can also learn basic practical methods for grasping persons' expressed wishes, values, and preferences and also discuss the rights of self-determination as social design.

The following goals are set to achieve the aims above:

- (1) Understand the importance of the rights of decision-making by persons with disabilities and the rationale and background for the need for person-centered approach.
- (2) Understand the commonalities and challenges the "Guidelines of decision-making support" in the field of the daily and social life of persons with dementia, disability welfare services, medical care in the end of life (including persons without relatives), adult guardianship.
- (3) Understanding problems with the substitute decision-making based on the best interest approach in judicial and

welfare fields in Japan, according to the UNCRPD and concluding observations for Japan.

(4) Learning practical methods for finding will, value and preferences of persons with disabilities and concrete examples of how to guarantee their right of participation in the decision-making process.

(5) Acquire hints regarding supported decision-making in practice for students in the field of their work and daily life.

(6) Discover systems and practical issues related to decision-making support and substituted decision-making in Japan and consider the social design necessary to spread the philosophy of supported decision-making based on the human rights model widely.

授業の内容 / Course Contents

授業では、学生は意思決定支援の基本的姿勢と具体的スキルを学びます。講義は原則としてパワーポイントを使用し、映像資料や現物資料なども適宜活用します。さらに、各意思決定支援に関するガイドラインをよりよく理解するために、テキスト及びビデオ素材等を使用したロールプレイングやグループディスカッション等を取り入れて演習を行います。

In this course, students learn the basic attitude and specific skills of supported decision-making. The lecturer principally uses PowerPoint slides but also video and actual materials as appropriate. In addition, for students to understand better the guidelines for each decision-making support, exercises incorporate role-playing and group discussions using text and video materials.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:【ガイダンス】自己決定権と意思決定支援について ー表出された意思(expressed wish) vs 最善の利益(best interests)ー
- 【2】:【全般】意思決定支援に関わる制度と実践 ー英国意思決定能力法(MCA2005)と障害者権利条約(UNCRPD)ー
- 【3】:【高齢障害領域】認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン(1)講義
- 【4】:【高齢障害領域】認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン(2)演習
- 【5】:【障害領域】障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン(1)講義
- 【6】:【障害領域】障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン(2)演習
- 【7】:【障害領域】障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン(3)トーキングマツト演習
- 【8】:【医療領域】人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン
- 【9】:【医療領域】身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン
- 【10】:【司法福祉領域】司法ソーシャルワークと意思決定支援
- 【11】:【司法福祉領域】意思決定支援を踏まえた後見事務のガイドライン(1) 講義
- 【12】:【司法福祉領域】意思決定支援を踏まえた後見事務のガイドライン(2) 演習
- 【13】:【全般】意思決定支援・代行決定における濫用を防止するための権利擁護(アドボカシー)
- 【14】:【まとめ】自己決定権と意思決定支援について

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

厚生労働省等が発出した以下の意思決定支援に関わるガイドラインについて、各回の前に目を通しておくことを推奨します。そのほか、必要に応じて、授業内で都度指示します。

- ・障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン(2017.3 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部)
- ・認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン(2018.6 厚生労働省老健局総務課認知症施策推進室)
- ・人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン (2018.3 厚生労働省医政局地域医療計画課)
- ・身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン(2019.5 厚生労働省 2018年度厚生労働行政推進調査事業費補助地域医療基盤開発推進研究事業)
- ・意思決定支援を踏まえた後見事務のガイドライン(2020.10 意思決定支援ワーキング・グループ)

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:30% 授業への積極的な参加・グループディスカッションにおける寄与度:40% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

名川勝・水島俊彦・菊本圭一=編著 事例で学ぶ 福祉専門職のための意思決定支援ガイドブック 中央法規 2019 9784805859698

テキストのほか、授業内で追加資料を配布します。なお、テキスト内の事例や各ガイドラインの事例を活用して演習を行う場合があります。

参考文献 / Readings

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟=編集 最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座9 権利擁護を支える法制度【第2版】 中央法規 2024 4824301521

平野隆之, 田中千枝子, 佐藤彰一, 上田晴男, 小西加保留 編著 権利擁護がわかる意思決定支援:法と福祉の協働 ミネルヴァ書房 2018 9784623083787

公益社団法人日本社会福祉士会 編 ソーシャルワーク実践における意思決定支援:ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的变化に向けたエンパワメント 中央法規出版 2023 9784805889220

水島俊彦・児玉洋子 (論文)「成年後見制度と意思決定支援」(実践成年後見 73号, 56-66) 民事法研究会 2018

水島俊彦 (論文)「障害者権利条約 12条の趣旨に照らした意思決定支援制度の構築のための留意点:南オーストラリア州支援付き意思決定モデル(S.A.-SDM)から学ぶ(特集 知的障害のある人に対する「意思決定支援」をめぐる)」(発達障害研究:日本発達障害学会機関紙 40号(2), 126-135) 日本発達障害学会 2018

水島俊彦 (論文)「司法ソーシャルワークと成年後見制度拡充活動:「佐渡モデル」からみる地域支援への発展プロセス」(総合法律支援論叢 4号, 25-49) 日本司法支援センター 2014

水島俊彦 (論文)「特集:権利擁護を「当事者参加」の観点から再検証する「意思決定支援を踏まえた後見事務のガイドライン」が目指すもの(社会福祉研究 142号, 45-54) 公益財団法人鉄道弘済会 2021

日本弁護士連合会第58回(2015年)人権擁護大会・シンポジウム第2分科会基調報告書・資料集、同第65回(2023年)人権擁護大会・シンポジウム第2分科会基調報告書ダウンロード資料(8-1~8)も適宜ご参照ください。

https://www.nichibenren.or.jp/document/symposium/jinken_taikai.html

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

法律知識や支援経験等は特に不要ですが、授業ごとに提供される様々な事例を通じて、他者の考えを受け入れつつ、自問自答しながら考える能力が求められます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

オンライン接続が可能なPC、タブレットをご準備ください。

その他 / Others

第一回目授業「ガイダンス」にて、授業の方針・進め方を説明します。その際に、履修者全員の了承が取れた場合には、「オンラインのみ」で授業を行うことがあります。ただし、その場合でも「トーキングマット演習」に関しては対面での実施を予定しておりますので、あらかじめご承知おきください。実施日は学生の希望を踏まえて決定します。

講義・演習それぞれにおいて動画教材等を適宜活用しながら、初学者の方にもできるだけわかりやすい授業を心がけます。

担当教員が所属する一般社団法人日本意思決定支援ネットワーク HP(<https://sdm-japan.net/>)もご参照ください。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習45

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 45
(環境人文学)

森田 系太郎 (MORITA KEITARO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM495
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5410
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

環境人文学における代表的な理論や研究アプローチを理解することを目標とする。

This course aims for students to understand relevant theories and research approaches within the environmental humanities.

授業の内容 / Course Contents

毎回、環境人文学の代表的なトピックを1つ取り上げる。受講生は事前に指定文献を読み、また各回の指定発表者は授業時にレジュメを発表(受講生数によっては応相談)、クラスでは積極的にディスカッションに参加する。

Each class picks one relevant topic within the environmental humanities. Students are expected to read the designated literature in advance, present a summary in class when assigned as a presenter (to be discussed depending on the number of students), and actively engage in in-class discussion.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: イントロダクション
- [2]: 環境人文学・序説(1)
- [3]: 環境人文学・序説(2)
- [4]: 環境人文学・序説(3)
- [5]: 環境文学批評(エコクリティシズム)(1)
- [6]: 環境文学批評(エコクリティシズム)(2)
- [7]: 環境文学批評(エコクリティシズム)(3)
- [8]: 環境地理学(空間と場所)
- [9]: マルチスピーシーズ
- [10]: マルチスピーシーズ
- [11]: マルチスピーシーズ
- [12]: 環境とジェンダー(エコフェミニズム)
- [13]: 環境とセクシュアリティ/LGBTQ+(クィアエコロジー)
- [14]: 人新世

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は履修登録時に CanvasLMS 上で履修者に対して行う。各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内の発表:25% 授業内ディスカッションへの貢献:15%

3分の2以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

初回の授業時に指示する。

参考文献 / Readings

野田研一・山本洋平・森田系太郎・編著『環境人文学Ⅰ——文化のなかの自然』勉誠出版 2017 9784585291282

野田研一・山本洋平・森田系太郎・編著『環境人文学Ⅱ——他者としての自然』勉誠出版 2017 9784585291299

結城正美・著『文学は地球を想像する——エコクリティシズムの挑戦』岩波書店(岩波新書) 2023 9784004319887

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回、ご自身の PC をご持参ください。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス特講1

Advanced Seminar on Global Governance-Risk Governance 1
(森林列島再生と社会デザイン)

塩地 博文(SHIOCHI HIROFUMI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM498
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5410
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

カーボンニュートラル社会の実現に向けて、日本国内に満ちてきた森林資源を生かすべく、木造建築との一体成長の具体例を解き明かしながら、その社会行動を牽引する人材養成を目標とする。本講義を通じて、木材や建築の専門領域に止まらない、その行間をつなぐ、接続領域を具体化し、「動かす社会デザイン」を考察する。受講生が潜在する行動力の解放こそが、本授業の目標である。

For the achievement of carbon neutrality, forestry resources and wooden buildings grow together for the same direction. In order to perform this target in the real society, practical skills are required. Able person is nurtured through the course.

授業の内容 / Course Contents

社会人として事業経験を有し、今尚、経営者としてカーボンニュートラル実現へ、その社会実装に挑んでいる授業担当者として、以下の講義し、具体的な方法論を事例紹介する。①森林資源、特に我が国の実情と最先端ICT化の動き②木造建築の可能性と課題点の抽出③森林資源と木造建築の融合、そして同時成長の具体化の検証④再造林がもたらす社会デザイン。

Through experience of business-man and top management in venture company, the lecture is provided as follows.

- 1.Forestry resources and ICT growth in Japan
- 2.Task and challenge of wooded buildings in Japan
- 3.Integrate between forestry and wooden building
- 4.Reforestation makes the coming society

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション ～ 年間スケジュールの提示と共有
- 【2】: 森林資源の理解と社会課題の抽出① ～ 海外木材との対比含めて
- 【3】: 森林資源の理解と社会課題の抽出② ～ 国内森林資源の実情
- 【4】: 森林資源の理解と社会課題の抽出③ ～ 林業デジタル化
- 【5】: 建築生産に於ける社会課題① ～ 木造建築の広がり
- 【6】: 建築生産に於ける社会課題② ～ 大工の機能の歴史と社会的役割
- 【7】: 建築生産に於ける社会課題③ ～ デジタル化の広がり
- 【8】: 森林と建築の融合① ～ 通底する社会課題の抽出と検証
- 【9】: 森林と建築の融合② ～ 双方の異質分野の抽出と検証
- 【10】: 森林と建築の融合③ ～ 同時解決の処方と具体化

- 【11】:森林と建築の融合④ ～ 融合事例の社会提案
 【12】:森林列島再生と社会デザイン① ～ 再造林の現状と未来
 【13】:森林列島再生と社会デザイン② ～ 森林は誰のもの
 【14】:総括 ～ 講座の総括と未来課題の共有

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

「森林列島再生論」の予習。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指示する小レポート提出:30% 授業参加:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

塩地博文 他 森林列島再生論 日経 BP 2022

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

社会の複雑な利害関係に消耗せず、具体的で実践可能な社会実装の在り方を探っている学生を求めています。

その他 / Others

実業界での経験を生かし、「誰でもすぐにでも開始できる」社会実装の提案を講義します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス特講2

Advanced Seminar on Global Governance-Risk Governance 2
(メディアリテラシーとファクトチェック)

宮本 聖二(MIYAMOTO SEIJI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM499
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS5410
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

私たちが目指すべきの一つは、さまざまなステークホルダーが協力して、それぞれの能力を出し合うことで社会課題の解決を前に進めることだ。しかし、偽情報の蔓延によって、アジェンダそのものが設定できない事態や、分断が深まって話し合うことができないことが世界で起きている。

ロシアのウクライナ侵攻、ハマス・イスラエルの武力衝突、福島第一原発の処理水、災害、さらに選挙。こうした出来事のたびに、膨大な量の情報が行き交い、そこに誤情報/偽情報があふれ、私たちの社会を混乱させている。

また、LGBTQ やジェンダー、貧困格差、気候変動、国内にいる外国人などの課題に対して、そもそもそうした問題はない、外国人が犯罪を起こしているなどといったデマが拡散する。情報汚染は、社会デザインを進める上でも、排除や分断を引き起こしている。

ソーシャルネットワーク、動画配信プラットフォームは、もはや私たちが生きていく上で欠かせないインフラとなっている。兵庫県知事選挙ではそこに多くの根拠のない情報や映像が拡散し、選挙に大きな影響を与えたと考えられる。情報空間の健全化はもはや待ったなしだと言える。

この演習では、現代の情報生成、流通の特性と課題を確認しながら、鍵を握るプラットフォームの成り立ちやその構造について知識を深める。

さらに、誤情報や偽の情報はどのように生成され、どのように共有・拡散されるのかを把握する。

まず、このメディアリテラシーを身につける。次にメディア・情報空間を健全化するための「ファクトチェック」の基礎から手法を獲得する。

受講者は、情報リーダー、ファクトチェッカーとして活躍できることを目指す。

Disruption in the media and information space is a major problem.

Russia's invasion of Ukraine, Hamas-Israel armed clashes, treated water at the Fukushima Daiichi nuclear power plant, major earthquakes. With each of these events, a huge amount of information comes and goes, and there is a flood of misinformation/false information that causes real harm to our society.

In addition, falsehoods about social issues such as LGBTQ, gender, poverty inequality and climate change are spread, saying that such issues do not exist in the first place. Information pollution also causes social exclusion and fragmentation in the advancement of social design.

Social networks and video distribution platforms have become an indispensable infrastructure for our lives. It is our important role to ensure the health of the spaces where this information comes and goes.

In this exercise, we will review the characteristics of modern information and the current state and challenges of its distribution, while deepening our knowledge of the origins and algorithms of the platforms that hold the key.

Furthermore, you will gain an understanding of how misinformation and false information is generated and how it is shared and spread.

Our society faces a wide range of challenges. In order to correctly identify these challenges and to ensure that everyone looks in the direction of solutions to them, we must also put false information that is incorrect or deliberately false behind us.

The first step is to learn the basics and applications of 'fact-checking' in order to make the media and information space healthier and to become a leader in 'improving literacy'.

授業の内容 / Course Contents

まず、現代の情報空間の特性を概観する。SNS や動画配信プラットフォームでは、膨大な情報が日々飛び交うこと。その中で、アテンションエコノミーやフィルターバブルといった現象が起きて、ユーザーが気づかないうちに、望んでもいない情報や言説に取り囲まれる状況になっていることなどを各種研究やデータで確認する。

情報の中には、ユーザー個人や社会に有害でコストをもたらすものを多く含むものがあり、それらをどのような感知して、より分けるのか、といったリテラシーを獲得する。

さらに能動的に情報を精査して共有できるようになるためにファクトチェックの手法を学ぶ。世界的には専門家だけでなく草の根のファクトチェックが広がっている。教員自身は日本にわずかしらないファクトチェッカーとして日々検証、記事・動画の編集、公開に取り組んでいる。

ファクトチェックについては講義で基本を身につけ、その後探索、検証、テキスト化、共有まで実習を行う。これらの手法は、教員が基礎から応用まで実例を提示しながら講義しワークショップ方式で身につけるようにする。

First, an overview of the characteristics of the contemporary information space is given: the vast amount of information flying around on social networking and video distribution platforms on a daily basis. Various studies and data confirm that phenomena such as the attention economy and filter bubbles are occurring in this context, and that users are surrounded by information and discourse that they do not want, without even realising it.

Learn that some information can be harmful and costly to the individual user and society, and acquire literacy in how to detect and separate it from the rest.

Learn fact-checking techniques to be able to further actively scrutinise and share information. Globally, fact-checking is spreading to individual grassroots as well as experts.

The basics of fact-checking are taught in lectures, followed by practical training in exploration, verification, textualisation and sharing. These methods are taught in a workshop format, with teachers lecturing on the basics as well as on applications, presenting real-life examples.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション

「情報とは何か」から現代の情報生成と流通の環境を知り、その上で民主主義の基盤たる正しい情報のありようを追求する学びであることを学ぶ。

【2】: 情報氾濫の時代 : アテンションエコノミーとプラットフォーム 情報流通の主要なインフラとなった様々なプラットフォームとそこで起きている現象を確認する。

【3】: 情報氾濫の時代 : プラットフォームのアルゴリズム、フィルターバブル〜エコーチェンバー プラットフォームの特性によって起きているフィルターバブルと思考を先鋭化、あるいは時に過激化するエコーチェンバー現象について知る。

【4】: 私たちの情報処理能力と認知バイアス : プラットフォームの特性による情報流通の中で、時にデマや陰謀論を受容して拡散するのは、私たちの中にある情報と向き合った時のこころのありようがある。

【5】: マスメディアとUGC : インターネットの登場で、従来のマスメディアがどのような課題を抱えているのか、一方でさらにその役割が重要になっていることを確認する。また、ネット、特にソーシャルネットワークによって個人が作成、発信する情報が存在感を増している。マスメディアと個人生成のコンテンツの関係を分析する。

【6】: 検索エンジンと動画配信プラットフォーム : 情報流通のかぎを今握っているのは Google などの検索エンジンと X やテレグラム、Facebook などの SNS だ。その成り立ちや構造、何を社会にもたらしめているのか、さらにどのような(自主、法ともに)基準が議論されているかも確認する。

【7】: Disinformation(フェイクニュース) : 急激に進む情報汚染とはどういうことなのか、一体情報空間で何が起きているのか、氾濫する誤情報・偽情報について学ぶ。

【8】: 誤情報 / 偽情報 : 災害、選挙、紛争など情報汚染のテーマ別の具体例を見ていく。ハマス・イスラエル紛争、ロシアによりウクライナ侵攻、災害、政治(兵庫県知事選挙で何が起きたのか)。どのような Disinformation がどのような組織によって発信、拡散されているのか、各種研究をもとに考える。

【9】: パンデミックと陰謀論 : 新型コロナウイルスをめぐって膨大に現れた偽情報は、時に陰謀論と結びついていく。それら、ディープステート説などともつながっていき、世界を混乱させて、分断を招きつつある。個々の事象で見ていく。

【10】: クリティカルシンキング(吟味思考) : このような Disinformation の時代に私たちはどう振る舞えば良いのか、「クリティカルシンキング」をキーワードに考えていく。

【11】: 「ファクトチェック」とは何か : 情報汚染に対して世界でファクトチェックの営みが始まっている。有効とも、情報汚染の悪化のスピードに追いついていないとも言われる。そもそもファクトチェックとは何か、世界でどのように行われている

かを先行研究や世界の取り組みとともに見ていく。

【12】: 言説の検証 : ここからファクトチェックの具体手法を学ぶ。まずは、言説を扱う。ウクライナからハマスに武器が渡った、コロナワクチンは益より害が大きい、地震は人工的に起こされた、…。容易に作り出されるこうした言説をどのように検証していくのかを学ぶ。Google 検索のサーチオペレータースキル、画像検索ツールを使いこなせるようにする。

【13】: 画像、動画の検証手法 : ここ数年で、急激に増えたのが映像による偽情報である。それはどのように、誰が作っているのかを各種研究や報道で学ぶ。さらに AI 加工や生成の映像が登場しているが、それらはどのように作成されているのかを知り、検証手法を各ファクトチェック団体の営みや Google など事業者の研究開発から確認していく。

【14】: ファクトチェックとリテラシーの連携 : ファクトチェック手法を身につけることは、メディア、情報リテラシーの手法を主体的に身につけることでもあり、情報リーダー(デジタルシチズンシップの獲得)になることでもある。教員が各地の社会教育、図書館、中等教育の場で実施している講座を受講者自身が進められるようになることを獲得してまとめとする。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

普段から、SNS やネットの情報、さらにマスメディアの報じ方に気を配っておくこと。気になる誤情報や偽情報、言説があれば、メモやアーカイブツールで蓄積しておく。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% レポート:10% 発表:20% ファクトチェック実習(記事作成):20%

実習の際は、ファクトチェッカーでもある教員が具体的にアドバイス、指導する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

坂本旬、山脇武志 メディアリテラシー 吟味思考を育む 時事通信出版局 2021 9784788717978

琉球新報編集局 これだけは知っておきたい 沖縄フェイク(偽)の見破り方 高文研 2017 9784874986363

立岩陽一郎、楊井人文 ファクトチェックとは何か 岩波書店 2013 9784002709826

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

情報摂取で通常のネット利用ができれば大丈夫です。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

デバイスとして PC とスマホ、さらに Google 画像検索などツールを活用するが、教員が使い方を指導する。

その他 / Others

SNS が主要な情報インフラになりながら、そこが情報汚染の発信源になっています。しかも、民主主義の基盤を揺るがしかねない偽情報を氾濫させています。しかし、インフラですから無くすわけにはいきません。だとすると私たち、コミュニティのリーダーや主要なアクターであるみなさんが情報健全化の主役になることが求められます。ぜひ、この授業を履修して情報の今を把握しながらリテラシーとファクトチェックに担い手になってもらいたいと考えます。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習1A

Seminar on Social Design Studies 1A

長 有紀枝 (OSA YUKIE)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM521
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

受講者一人ひとりが、自らの立ち位置を意識し、独自の問題関心に沿って、自分自身や社会と誠実に向き合いつつ、独創性に富んだ修士論文・研究報告書を作成することを目標とする。

To develop student capacity to carry out academic research to write master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

ジェノサイド研究、難民・移民、国際協力、地球規模課題、平和構築、人間の安全保障、紛争と和解、移行期正義、記憶、NGOの諸活動、国際人道法などに関する研究領域を主な指導対象とし、個別指導およびグループ指導双方に重点を置いて、論文執筆のための指導を行う。

The course is designed to provide students with a comprehensive guide to writing master thesis.

The research areas will be those related to genocide studies, refugees and immigrants, international cooperation, global issues, peacebuilding, human security, conflict and reconciliation, transitional justice, memory, NGO activities, and international humanitarian law, etc. We will provide guidance on writing an academic paper with emphasis on both individual teaching and group teaching.

授業計画 / Course Schedule

【1】:【ガイダンス】:学術論文と他の文章(評論、報告書、エッセイ、散文など)、修士論文と学部の卒業論文との違い、剽窃・研究不正の防止について

演習参加者による問題意識・関心の発表(1年次生)

【2】:学術論文の書き方(1)～研究テーマと研究手法の設定について(講義)

【3】:「研究テーマ口頭試問会」レジュメ発表①(2年次生～)

【4】:「研究テーマ口頭試問会」レジュメ発表②(2年次生～)

【5】:学術論文の書き方(2)～先行研究と分析枠組みについて(講義)

【6】:学術論文の書き方について(3)～引用文献の表示方法・注釈の付け方、剽窃や研究不正の防止について

【7】:「研究状況報告会」レジュメ発表①(1年次生)

【8】:「研究テーマ口頭試問会」の指導を受けての修正内容の発表(2年次生～)

【9】:「研究状況報告会」レジュメ発表②(1年次生)

【10】:学術論文の書き方について(4)～調査の方法と分析枠組みについて(講義)

【11】:共同文献講読／学生中間発表

【12】:共同文献講読／学生中間発表

【13】:「研究状況報告会」の指導を受けての修正内容の発表(1年次生)

【14】:進捗状況の確認・夏休みの研究計画発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の報告:100%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

長 有紀枝 入門 人間の安全保障(増補版) 中央公論新社 2021 412192195

参考文献 / Readings

個別に指示・紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習4A

Seminar on Social Design Studies 4A

丸山 俊一 (MARUYAMA SHUNICHI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM524
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

それぞれの研究課題について、発表、討論を重ね、論文および報告書の作成を行う。
参加者それぞれが、独自のテーマを設定し考究を深め、新たな視野が広がる論文および研究報告書の完成を目指す。
自らの心の底に眠る想いに気づき、同時に他者との対話を繰り返す中で、新たな視座の発見へと到ることを目標とする。
"The course objectives are to engage in presentations and discussions for each research topic, culminating in the creation of research papers and reports. Participants will individually select and delve into unique themes, aiming to complete papers and research reports that offer new perspectives. The goal is to awaken personal thoughts and, through ongoing dialogue with others, reach the discovery of new viewpoints."

授業の内容 / Course Contents

メディアの意義をどう捉え、そのあり方をどう考えるか？組織あるいは共同体と個人との関係性はどうか？AI時代に、人間の意識はどう定義されるのか？その時、倫理は更新されるのか？…社会とは？人間とは？…など、現代社会を生きる上で避けられない課題などから、受講者がそれぞれが「問い」を発見する過程を大事にしたいと思います。調査、資料の分析の経過を発表し合い、議論を重ね、異なる視座を相互に発見し合い、論文および研究報告書の内容へと反映させていきましょう。それぞれの個性、思考法に合ったテーマ、進め方を尊重し、多様な成果が生まれる場となるよう配慮したいと思います。

"How do we perceive the significance of media, and how do we contemplate its existence? What should be the relationship between organizations or communities and individuals? In the age of AI, how is human consciousness defined? In that context, will ethics be renewed? What is society? What is humanity? These are unavoidable challenges in living in contemporary society, and I hope that participants will cherish the process of discovering their own 'questions.'

By presenting the progress of research and analysis of materials, engaging in discussions, discovering different perspectives mutually, let's incorporate these insights into the content of research papers and reports.

I aim to respect each participant's individuality and thought processes, considering themes and approaches that align with their personality, creating a space where diverse outcomes can emerge."

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 課題の設定①
- 【3】: 課題の設定②
- 【4】: 課題の設定③
- 【5】: 中間発表と討議①

- 【6】: 関連文献、映像資料などの研究①
 【7】: 関連文献、映像資料などの研究②
 【8】: 関連文献、映像資料などの研究③
 【9】: 関連文献、映像資料などの研究④
 【10】: 中間発表と討議②
 【11】: 関連文献、映像資料などの研究⑤
 【12】: 関連文献、映像資料などの研究⑥
 【13】: 関連文献、映像資料などの研究⑦
 【14】: 研究発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験	☐	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	☐
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

それぞれの研究課題について情報収集、研究、その成果を基に発表、対話する、一連の過程を基本とします。参加者の皆さんの背景、志向性などを理解した上で、状況に応じ、各回の進め方など、柔軟に対応したいと考えています。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への参加:50% 研究成果:50%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回、パソコンを携帯されることを期待します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習5A

Seminar on Social Design Studies 5A

若林 朋子(WAKABAYASHI TOMOKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM525
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

各々が自らの問題意識に基づいて研究テーマと研究工程を主体的に定め、教員の助言のもと、日々研究を深めていく。研究成果を論文にまとめ、個人の問題意識を世に問い、他者と共有できるところまで到達することを目標とする。
Based on their own awareness of the issue, each student will decide their research theme and research process independently, and will deepen their research on a daily basis based on the advice of faculty members. The goal is to write up the research results in an academic paper, bring to society the student's problem-awareness, and reach a place where it can be shared with others.

授業の内容 / Course Contents

【M1】毎回のテーマを設定し、学術研究・学術論文の思考や作法の基礎習得を目指して、自身の研究テーマにおける問題の所在や研究目的、仮説、研究方法等を言語化する。研究テーマを掘り下げるにあたっては、社会通念や前例、自身が考える常識や「普通」について注意深く検証することを重視する。また、日頃から言語化・文章化の訓練を重ね、早い段階から着実に論文執筆の準備を行うことを基本的な方針とする。毎回、ゼミ生によるミニ発表も行う。

【M2】研究の進捗(研究の過程で新たに得た知見や課題等)を文書化して発表を行う。教員およびゼミメンバーと討論を重ね、各々の研究を段階的に深めていく。理論と実践の両面から先行研究を深く検討するとともに、調査、執筆を計画的に進める。毎回、ゼミ生によるミニ発表も行う。

[M1] Through each piece of work, students will learn the basics of thinking and methods to create academic research and academic papers, and clearly express the location of problems, the research purpose, hypotheses, and research methods, etc. in their research themes. When exploring research themes, students should focus on carefully examining social concepts, precedents, and their idea of common sense and "normality". In addition, the basic policy of the course is to regularly prepare for academic paper writing from an early stage by repeating the training of expressing ideas and writing text on a daily basis.

[M2] Document the progress of research (new findings and issues, etc. obtained in the course of the research) and make a presentation. Students will repeat discussions with faculty and seminar members to gradually deepen the research. Students will examine the preceding research deeply from both theory and practice, and proceed with research and writing systematically.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 初回ガイダンス、各々の関心領域、研究テーマ発表
- 【2】: 学術論文の構造／章立て、研究(論文)のタイプ
- 【3】: 研究背景と目的、リサーチクエスション、仮説の設定、研究の方法①
- 【4】: 研究背景と目的、リサーチクエスション、仮説の設定、研究の方法②

- 【5】: 先行研究とは、先行研究の探し方、先行研究の検討①
 【6】: 先行研究とは、先行研究の探し方、先行研究の検討②
 【7】: 研究状況報告会レジュメ確認①
 【8】: 研究状況報告会レジュメ確認②
 【9】: 調査方法の選択と設計①
 【10】: 調査方法の選択と設計②
 【11】: 研究状況報告会発表リハーサル
 【12】: 報告会振り返り、研究テーマの探索(新聞データベースの活用)
 【13】: 用語の定義
 【14】: 春学期のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミでの発表と議論への参加:100%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

井下千以子 思考を鍛えるレポート・論文作成法(第3版第3刷) 慶應義塾大学出版会 2021 9784766425772

上記テキストは2021年2月刊行版が最新版。ゼミに毎回持参のこと。

参考文献 / Readings

授業内で紹介する

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習6A

Seminar on Social Design Studies 6A

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM526
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

修士論文または研究報告書の作成に向けて、受講生が設定したテーマに基づき研究指導を行う。対象領域は主として、以下の研究領域とする。

リスク学、リスクガバナンス、リスクコミュニケーション、防災政策、危機管理、災害医療・福祉、放射性廃棄物、防災教育、災害情報、情報政策、地理空間情報、オープンデータ、ソーシャルウェア、コミュニティガバナンス、地域活性化、まちづくり、デジタルアーカイブ、オーラルヒストリー、ワークスタイル、テレワーク、モバイル建築など

In this course, students are expected to prepare their master's thesis or research report based on their research theme.

授業の内容 / Course Contents

ゼミ形式での論文の進捗報告と討論及び個別面談指導を行う。

In this course, students are expected to select and set the theme for their master's thesis or research report and conduct individual research under the guidance and advice of the faculty.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 論文作成方法
- 【2】: 研究指導
- 【3】: 研究指導
- 【4】: 研究指導
- 【5】: 研究指導
- 【6】: 研究指導
- 【7】: 研究指導
- 【8】: 研究指導
- 【9】: 研究指導
- 【10】: 研究指導
- 【11】: 研究指導
- 【12】: 研究指導
- 【13】: 研究指導
- 【14】: 研究指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミでの報告と討論への参加:100%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

使用しない

参考文献 / Readings

使用しない

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習8A

Seminar on Social Design Studies 8A

河口 真理子 (KAWAGUCHI MARIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM528
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	基本的に、対面で実施
校地	池袋	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

本ゼミでは主にサステナビリティに関する問題意識を持つゼミ生の研究をサポートする。M1 は、毎週対面でそれぞれの研究テーマを発表しブラッシュアップしつつ論文の骨子を作成すると同時に、論文作成の心構えと手法について学ぶ。M2 は、月 1 回程度の合同ゼミのほかは自身の研究について個別面談を月 1－2 回行う。

M1 students will meet every week at the class to discuss each research theme and develop the skeleton of the thesis, while learning the method of report writing. M2 students will meet once a month to brush up their reports, and one on one meeting will be held once or twice a month,

授業の内容 / Course Contents

ゼミ生同士のコミュニケーションを図りつつ、各自の研究テーマについて、お互いに議論しながらブラッシュアップを行い、必要な先行研究分野を絞り込んでいく。M1 と M2 のゼミは基本的に別々に行うが、定期的に合同ゼミを行い、M1 と M2 の交流も図る。またゼミ生の意向に応じて夏休み中にゼミ合宿を行う。

While communicating with each other, seminar students brush up on their research themes while discussing with each other, and narrow down the necessary advanced research fields. M1 and M2 seminars are basically held separately, but joint seminars are held regularly to promote exchange between M1 and M2. In addition, according to the wishes of the seminar students, a seminar camp will be held during the summer vacation.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 自己紹介と自身の研究テーマの紹介。
- 【2】: それぞれの研究テーマの深堀り
- 【3】: 論文作成法のテキストの読み込み 1
- 【4】: 論文作成法のテキストの読み込み 2
- 【5】: 論文作成法のテキストの読み込み 3
- 【6】: 論文作成法のテキストの読み込み 4
- 【7】: 研究状況報告会の準備: 各自の研究計画の発表 1
- 【8】: 研究状況報告会の準備: 各自の研究計画の発表 2
- 【9】: 研究状況報告会の準備: 各自の研究計画の発表 3
- 【10】: 研究状況報告会の準備: 口頭試問の練習 1
- 【11】: 研究状況報告会の準備: 口頭試問の練習 2
- 【12】: 研究状況報告会の準備: 口頭試問の練習 3
- 【13】: 研究状況報告会の準備: 口頭試問の練習 4
- 【14】: 夏休み以降の 研究計画の発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

特になし。ゼミ生の都合希望により夏休みに合宿を計画

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点:100%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習9A

Seminar on Social Design Studies 9A

亀井 善太郎 (KAMEI ZENTARO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM529
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

市民自らが社会の課題を発見し、その解決のための分析と方法論の検討を行い、さらには解決プロセスそのものを自ら担うという、あるべき「社会デザイン」の実現に向けて、受講者自らが社会の中からテーマを選択・設定し、教員の指導の下に個別研究を実施し、修士論文ないし研究報告書につながる研究成果をまとめられるようにすることを目的とする。私は、シンクタンクにおける政策の研究と具体的な政策等への反映(公共政策、CSR 経営、政策評価・立案、財政・社会保障政策、統治機構等)、NPO マネジメントとして社会デザインの実践や資金調達等に取り組んできた実務家としての経験等を有しており、そうした経験を踏まえ、各自の研究を指導していきたい。とくに市民セクター、企業セクター、行政セクターが使うそれぞれの言語の違いを踏まえ、社会デザインを具体的に進める上で、市民として何をしていかなければならないのか、そこで求められる意識や能力についても考えていければと考えている。

The goal is for the student themselves to select and set a theme from within society, conduct individual research under the supervision of faculty, and organize the research results into a master's thesis or research report toward the realization of "social design" where citizens themselves discover social problems, carry out analysis and examination of methodologies for the solutions, and take responsibility for carrying out the solution process themselves.

I have experience as a practitioner who has been involved in policy research in think tanks and its reflection to specific policies, etc. (public policy, CSR management, policy evaluation and planning, fiscal and social security policy, governance mechanisms, etc.), and practice and fundraising of social design as NPO management, and I would like to guide students' research based on these experiences.

In particular, based on the differences between the languages used by the civil sector, the corporate sector, and the government sector, I think it is a good idea to think about what we need to do as citizens in advancing social design specifically, and the awareness and abilities required.

授業の内容 / Course Contents

個別指導とグループ演習を組み合わせた指導を行う。

それぞれの研究のフェーズに応じた個別指導に取り組む一方、全体の進捗に応じて、研究の進め方、論文の書き方、調査の方法等の具体的な手法についても、課題発見と課題解決のフレームワークを用いながら指導を行う。

グループ演習では、各自の研究(文献・資料調査や定性的・定量的調査)の進捗に応じて、研究報告会形式で各自のテーマ、関心に沿った報告をしてもらい、受講者の多様な経験等を活かした討議や対話、また、教員からのインプットを行い、それぞれの研究の進化と深化を図っていく。

夏期には研究の参考になると思われる実地調査等を兼ねた合宿を予定している(過去には、住民自治の先進地である北海道ニセコ町、NPO による住民自治やコミュニティ・サポータード・アグリカルチャーの実践地である宮城県大崎市にて開

催)。
 We will provide instruction combining individual teaching and group exercises.
 While working on individual instruction according to each research phase, we will provide instruction on specific methods such as how to proceed with the research, writing of the paper, and methods of surveying, etc. according to the overall progress. In this process we will use the frameworks of problem discovery and problem solution.
 In the group exercises, depending on the progress of the student's research (literature and material research and qualitative and quantitative research), the student will be required to make reports according to their theme and interest in the form of research report meetings, and we will promote the evolution and deepening of the research through discussions and dialog that make use of the student's diverse experiences, etc. and input from faculty.
 In the summer, we plan to have a training camp with field surveys that will be useful for research (in the past, we visited Niseko Town in Hokkaido, an advanced area of resident autonomy, and Osaki City, Miyagi Prefecture, which is a practical site of NPO-based resident autonomy and community supported agriculture).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:テーマ設定1
- 【2】:テーマ設定2
- 【3】:テーマ設定3
- 【4】:研究計画の詳細化1
- 【5】:研究計画の詳細化2
- 【6】:研究計画の詳細化3
- 【7】:研究報告1
- 【8】:研究報告2
- 【9】:研究報告3
- 【10】:研究報告4
- 【11】:個別指導1
- 【12】:個別指導2
- 【13】:個別指導3
- 【14】:全体のふりかえり、総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

合宿の実施についてはゼミ生の皆さんと学期開始時に相談したい。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習における報告、他者への貢献:100%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

必要に応じて指示する。

参考文献 / Readings

それぞれの研究テーマに応じて適宜紹介する。

その他 / Others

春学期は1年生と2年生合同でのゼミを主体としお互いに切磋琢磨しながら、それぞれの研究を進める。

秋学期は1年生はゼミ主体、2年生は個別指導主体で、それぞれの研究をサポートしていく。

亀井の専門は公共政策だが、これまでのゼミ生は、この専門と重ならない学生が多い。むしろ、研究の骨格(研究手法の見極めを含む)、具体的な研究方法の設計、実施、分析のサポートをロジカルシンキングを用いてサポートしてきた。こうした点を踏まえ、主指導(ゼミ)を選択されたい。

なお、夏休みと春休みに、他のゼミとの合同ゼミを開催する予定である。

ゼミの具体的な進め方については、春学期の初回に、ゼミ生の皆さんと相談したい。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習10A

Seminar on Social Design Studies 10A

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM530
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保证するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

それぞれの研究課題について、発表・討論を重ね、論文および報告書作成にむけた助言をおこなう。その過程で、自身の研究課題とその背景に関して必要な知識を修得することを目指す。加えて、自分以外の発表者の報告内容に対して、批判的かつ建設的なコメントを行うための能力を養うことを目指す。

Students will repeat presentations and discussions on each research subject, and we will give advice on writing papers and reports. Through this process, the goal is for the student to acquire the necessary knowledge about their research subject and its background. In addition, we will aim to develop the student's ability to make critical and constructive comments on the content of other presenters' reports.

授業の内容 / Course Contents

各回の発表者が、各自の研究課題に関する報告を繰り返しおこない研究を進めてゆく。特に本演習では、各自の研究課題に関連する文献について、報告してもらうことを中心とする。なお、研究のスケジュールや扱う文献については、それぞれの研究関心に沿ったものとなるよう配慮する。

Each presenter will repeatedly report on their research subject to advance the research. In particular, in this exercise, we will focus on having students report on documents related to their research subject. The research schedule and documents to be handled should be considered in line with each research interest.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 研究課題の設定 1
- 【3】: 研究課題の設定 2
- 【4】: 研究課題の設定 3
- 【5】: 中間発表
- 【6】: 関連文献の講読 1
- 【7】: 関連文献の講読 2
- 【8】: 関連文献の講読 3
- 【9】: 関連文献の講読 4
- 【10】: 研究方法の設定 1
- 【11】: 研究方法の設定 2
- 【12】: 個別論文指導 1
- 【13】: 個別論文指導 2
- 【14】: 研究発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自身の研究課題について積極的に情報収集することを基本とするが、詳細は授業内に個別に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的参加:50% 発表内容:50%

平常点は演習時の積極性や出席状況で評価する。

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

特に指定しない。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習11A

Seminar on Social Design Studies 11A

西井 開 (NISHII KAI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM531
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保证するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

本授業は、各受講生が修士論文・研究報告書を完成することを目標とする。そのために、各受講生の進捗に応じた指導を行う。

The aim of this class is for each student to complete their master's thesis. To achieve this, guidance tailored to each student's progress is provided.

授業の内容 / Course Contents

ゼミ形式での論文の進捗報告と討論及び個別面談指導を行い、以下の流れで進めていく。

- ・自身が最も関心のあるテーマの発見
- ・関連する先行研究の調査
- ・リサーチクエスションの創造
- ・研究計画書の作成
- ・論文執筆

This course provide progress reports and discussions on papers in seminar format, as well as individual guidance, and proceed as follows.

- ・Discover the theme that interests you the most
- ・Investigate related previous research
- ・Create a research question
- ・Create a research plan
- ・Write a paper

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション、自己紹介
- 【2】:関心のあるテーマの発表
- 【3】:関心のあるテーマの発表
- 【4】:研究フィールドの探索
- 【5】:研究フィールドの探索
- 【6】:研究フィールドの探索
- 【7】:リサーチクエスションの創造
- 【8】:リサーチクエスションの創造
- 【9】:研究計画書の作成と発表

- 【10】:研究計画書の作成と発表
 【11】:研究計画書の作成と発表
 【12】:研究指導
 【13】:研究指導
 【14】:研究指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミでの報告と討論への参加:100%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習13A

Seminar on Social Design Studies 13A

倉本 由紀子(KURAMOTO YUKIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM533
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

学生が各々の研究テーマに基づいた修士論文・研究報告書を作成します。

Students will conduct their research for their master's thesis or research report.

授業の内容 / Course Contents

修士論文・研究報告書作成に向けて、各受講者がテーマを選択・設定し、教員の指導・助言のもと、個別研究を行います。

Each student will select a topic and create a research proposal for their master's thesis. They will conduct independent research with guidance from the faculty.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:指導内容についての説明
- 【2】:各受講者の関心ある分野、研究テーマ、研究方法について個別に協議
- 【3】:受講者全員で各受講者の研究テーマについて発表し、情報共有
- 【4】:各受講者の研究スケジュールについて協議
- 【5】:中間報告会において研究発表を行い、発表内容について全員で討論を行い、研究内容、方法等の見直しを行い、論文作成に必要なものの見方、考え方を身につける。
- 【6】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【7】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【8】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【9】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【10】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【11】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【12】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【13】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【14】:仮提出に向け、論文作成に必要な作法等の指導など

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

論文作成法に関するテキスト、立教大学の論文作成のガイドライン等を入手し、事前に学習することをお願いします。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の報告:100%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

佐藤郁哉『社会調査の考え方 上』東京大学出版会 2015 9784130520263

佐藤郁哉『社会調査の考え方 下』東京大学出版会 2015 9784130520270

佐藤郁哉『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社 2008 9784788510951

大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松 洋(編集)『新・社会調査へのアプローチ:論理と方法』ミネルヴァ書房 2013 9784623066544

上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房 2023 9784480071675

各受講者の研究テーマに応じて、随時紹介します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習15A

Seminar on Social Design Studies 15A

滝口 直樹 (TAKIGUCHI NAOKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM535
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

受講者が、その関心をベースにしつつ、社会へのインパクトのあるテーマについて、自立的に研究を行い、独創性に富む修士論文、研究報告書を作成することを目標とする。

Participating students will study and create master thesis/research reports based on their intellectual interests. The study will have good originality based on the independent and socially meaningful research..

授業の内容 / Course Contents

持続可能な社会づくり、環境保全、行政の仕組み/機能、政府や地域のガバナンスなどに関する研究分野を主な指導テーマとし、個別指導、グループ指導を必要に応じ組み合わせ、論文執筆のための指導を行う。

We will provide guidance for master thesis preparation, which covers such research areas as building sustainable society, environmental protection, structure and function of administration, and governance of government and local communities. These guidance will be given through individual and/or group guidance.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

学術論文の特徴について説明

演習参加者による問題意識、関心事の発表(1 年次)

【2】: 研究テーマ、研究手法の選び方

【3】: 研究テーマの発表と相互レビュー(2 年次)

①環境テーマ中心

【4】: 研究テーマの発表と相互レビュー(2 年次)

②ガバナンス中心

【5】: 先行研究、データなど資料の集め方、整理の仕方について指導、議論

【6】: 論文のロジックの立て方についての指導、議論

【7】: 研究計画の発表(1 年次)

①環境テーマ中心

【8】: 研究計画の発表(1 年次)

②ガバナンス中心

【9】: 相互レビュー以降の研究の進捗状況の発表(2 年次) ①環境中心

【10】: 相互レビュー以降の研究の進捗状況の発表(2 年次) ②ガバナンス中心

【11】: 剽窃防止、研究不正防止について指導、議論

【12】: 共同研究報告の議論

- ①環境に関わるものを中心に
【13】: 共同研究報告の議論
②ガバナンスに関わるものを中心に
【14】: 夏休みの研究計画のレビュー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に、個別に提示する。
論文作成のどこについて指導を受けたいか整理しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業内の報告:100%
集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

環境省 令和6年版環境白書 日経印刷 2024 9784865794144
授業の中で適宜、提示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

議論への積極的な参加

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習16A

Seminar on Social Design Studies 16A

大熊 玄 (OKUMA GEN)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM536
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

学生が選んだテーマをもとに、最終的に修士論文・研究報告書の完成を目標として、基礎的な知識や研究方法を身につける。

The student will acquire basic knowledge and research methods with the goal of finally completing a master's thesis or research report on the theme they have chosen.

授業の内容 / Course Contents

学生は、自身が最も関心のあるテーマを選択し、実際の修士論文・研究報告書のタイトルへと落とし込み、自らの研究を導いてくれる「リサーチクエスチョン」を創る。また、参考文献(先行研究)を収集・読解・批評しながら、それらを参考に自らの論文・報告書のアウトライン(骨格)を作成し、執筆を開始し、最終的に論文・報告書の体裁を整えていく。講師は、そのつど学生から研究の進捗状況を聞きながら、研究計画や内容に対して助言・指導・討議を行い、学生はそこから新たな視点を得るとともに、自らの研究を進め深めていく。

The student will select the theme in which they are interested, express it in the title of their actual master's thesis or research report, and create a "research question" that guides their research. In addition, the student will create an outline (framework) of their own academic paper or report referring to references (preceding studies) that they collect, read and criticize, will start writing and finally prepare the format of an academic paper or report. The lecturer will provide advice and guidance and discuss the research plan and its contents while hearing about the progress of the research from the student regularly, giving the student new perspectives to advance and deepen their research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 全体テーマ(方向)の選択
- 【3】: 具体的目標と規模の決定
- 【4】: リサーチクエスチョンの確認
- 【5】: 論文構成(序/本/結)の検討
- 【6】: アウトライン(目次)の作成
- 【7】: 研究データベース作成
- 【8】: 文献の調査・探索
- 【9】: 文献目録の作成
- 【10】: 序の検討
- 【11】: 本論の検討(1)

- 【12】: 本論の検討(2)
 【13】: 本論の検討(3)
 【14】: 結論・全体の検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期中の進捗状況:50% 学期末の研究成果:50%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

授業内で別途指示する。

参考文献 / Readings

授業内で別途指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

対面参加者も、zoom 接続可能な機器(ノートパソコン・タブレット)持参が望ましい。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習17A

Seminar on Social Design Studies 17A

川本 彩花(KAWAMOTO AYAKA)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM537
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、各自の研究テーマについて報告と議論を重ねることを通して、互いに切磋琢磨しながら研究テーマを深め、論文作成へとつなげていくことを目標とします。

The goal of this class is for students to report and discuss their own research themes, to learn from each other and to deepen their understanding of the topic, leading to the writing of a dissertation.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、受講者のみなさんが各自の研究テーマに関する報告と議論を繰り返し行うかたちで進めていきます。とくにここでは、研究テーマの設定、先行研究の収集・検討について報告してもらい議論を行います。なお、受講者の人数等により、授業計画の内容・順序等を一部変更する場合があります。

In this class, students will report and discuss their research themes repeatedly. In particular, students will be asked to set their research themes, collect and review previous researches, and report on their progress. Please note that the content and order of the class plan may change depending on the number of students, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 自己紹介・ガイダンス
- 【2】: 研究テーマの設定①
- 【3】: 研究テーマの設定②
- 【4】: 研究テーマの設定③
- 【5】: 先行研究の収集・整理方法について
- 【6】: 研究テーマに関する文献講読①
- 【7】: 研究テーマに関する文献講読②
- 【8】: 研究テーマに関する文献講読③
- 【9】: 研究テーマに関する文献講読④
- 【10】: 研究テーマに関する文献講読⑤
- 【11】: 研究テーマに関する文献講読⑥
- 【12】: 研究計画を考える①
- 【13】: 研究計画を考える②
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	○
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

研究を進め授業での報告準備を行うこと。また、授業後は、議論やアドバイスをふり返り次の報告や作業等に活かすこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的参加:50% 発表内容:50%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

とくに指定しない。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習1B

Seminar on Social Design Studies 1B

長 有紀枝 (OSA YUKIE)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM551
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

受講者一人ひとりが、自らの立ち位置を意識し、独自の問題関心に沿って、自分自身や社会と誠実に向き合いつつ、独創性に富んだ修士論文・研究報告書を作成することを目標とする。

To develop student capacity to carry out academic research to write master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

ジェノサイド研究、難民・移民、国際協力、地球規模課題、平和構築、人間の安全保障、紛争と和解、移行期正義、記憶、NGO の諸活動、国際人道法などに関する研究領域を主な指導対象とし、個別指導およびグループ指導双方に重点を置いて、論文執筆のための指導を行う。

The course is designed to provide students with a comprehensive guide to writing master's thesis.

The research areas will be those related to genocide studies, refugees and immigrants, international cooperation, global issues, peacebuilding, human security, conflict and reconciliation, transitional justice, memory, NGO activities, and international humanitarian law, etc. We will provide guidance on writing an academic paper with emphasis on both individual teaching and group teaching.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 夏休み期間中の研究成果、調査報告の発表(1 年次生)

仮提出に向けた進捗状況の確認①(2 年次生～)

【2】: 学術論文の書き方について(確認)

仮提出に向けた進捗状況の確認②(2 年次生～)

【3】: 引用文献の表示方法・注釈の付け方、剽窃や研究不正の防止について(確認)

【4】: 先行研究の整理方法について(確認)

【5】: 調査の方法と分析枠組みについて(確認)

【6】: 本論文作成に向けた個別指導(2 年次生～)

先行研究・参考文献の書評発表①(1 年次生)

【7】: 本論文作成に向けた個別指導(2 年次生～)

先行研究・参考文献の書評発表②(1 年次生)

【8】: 本論文作成に向けた個別指導(2 年次生～)

先行研究・参考文献の書評発表③(1 年次生)

【9】: 本論文作成に向けた個別指導(2 年次生～)

先行研究・参考文献の書評発表④(1 年次生)

- 【10】:本論文作成に向けた個別指導(2年次生～)
「研究テーマ口頭試問会」レジュメ作成準備について(講義)(1年次生)
【11】:引用文献の表示方法・注釈の付け方, 剽窃や研究不正の防止について(確認)
【12】:要旨の作成方法について(2年次生～)
「研究テーマ口頭試問会」レジュメ・ドラフト発表①(1年次生)
【13】:「研究テーマ口頭試問会」レジュメ・ドラフト発表②(1年次生)
【14】:春休みの調査・研究計画の発表(1年次生)
総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の報告:100%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

長 有紀枝 入門 人間の安全保障(増補版) 中央公論新社 2021 412192195

参考文献 / Readings

個別に指示・紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習4B

Seminar on Social Design Studies 4B

丸山 俊一 (MARUYAMA SHUNICHI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM554
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

それぞれの研究課題について、発表、討論を重ね、論文および報告書の作成を行う。
参加者それぞれが、独自のテーマを設定し考究を深め、新たな視野が広がる論文および研究報告書の完成を目指す。
自らの心の底に眠る想いに気づき、同時に他者との対話を繰り返す中で、新たな視座の発見へと到ることを目標とする。
"The course objectives are to engage in presentations and discussions for each research topic, culminating in the creation of research papers and reports. Participants will individually select and delve into unique themes, aiming to complete papers and research reports that offer new perspectives. The goal is to awaken personal thoughts and, through ongoing dialogue with others, reach the discovery of new viewpoints."

授業の内容 / Course Contents

メディアの意義をどう捉え、そのあり方をどう考えるか？組織あるいは共同体と個人との関係性はどうか？AI時代に、人間の意識はどう定義されるのか？その時、倫理は更新されるのか？…社会とは？人間とは？…など、現代社会を生きる上で避けられない課題などから、受講者がそれぞれが「問い」を発見する過程を大事にしたいと思います。調査、資料の分析の経過を発表し合い、議論を重ね、異なる視座を相互に発見し合い、論文および研究報告書の内容へと反映させていきましょう。それぞれの個性、思考法に合ったテーマ、進め方を尊重し、多様な成果が生まれる場となるよう配慮したいと思います。

"How do we perceive the significance of media, and how do we contemplate its existence? What should be the relationship between organizations or communities and individuals? In the age of AI, how is human consciousness defined? In that context, will ethics be renewed? What is society? What is humanity? These are unavoidable challenges in living in contemporary society, and I hope that participants will cherish the process of discovering their own 'questions.'

By presenting the progress of research and analysis of materials, engaging in discussions, discovering different perspectives mutually, let's incorporate these insights into the content of research papers and reports.

I aim to respect each participant's individuality and thought processes, considering themes and approaches that align with their personality, creating a space where diverse outcomes can emerge."

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 課題の設定①
- 【3】: 課題の設定②
- 【4】: 課題の設定③

- 【5】: 中間発表と討議①
 【6】: 関連文献、映像資料などの研究①
 【7】: 関連文献、映像資料などの研究②
 【8】: 関連文献、映像資料などの研究③
 【9】: 関連文献、映像資料などの研究④
 【10】: 中間発表と討議②
 【11】: 関連文献、映像資料などの研究⑤
 【12】: 関連文献、映像資料などの研究⑥
 【13】: 関連文献、映像資料などの研究⑦
 【14】: 研究発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

それぞれの研究課題について情報収集、研究、その成果を基に発表、対話する、一連の過程を基本とします。参加者の皆さんの背景、志向性などを理解した上で、状況に応じ、各回の進め方など、柔軟に対応したいと考えています。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への参加:50% 研究成果:50%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回、パソコンを携帯されることを期待します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習5B

Seminar on Social Design Studies 5B

若林 朋子(WAKABAYASHI TOMOKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM555
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

各々が自らの問題意識に基づいて研究テーマと研究工程を主体的に定め、教員の助言のもと、日々研究を深めていく。研究成果を論文にまとめ、個人の問題意識を世に問い、他者と共有できるところまで到達することを目標とする。
Based on their own awareness of the issue, each student will decide their research theme and research process independently, and will deepen their research on a daily basis based on the advice of faculty members. The goal is to write up the research results in an academic paper, bring to society the student's problem-awareness, and reach a place where it can be shared with others.

授業の内容 / Course Contents

【M1】毎回のワークを通じて、学術研究・学術論文の思考や作法の基礎を一通り習得し、自身の研究の方向性や内容を確立する。研究テーマを掘り下げるにあたっては、社会通念や前例、自身が考える常識や「普通」について注意深く検証することを重視する。日常的な文献研究と、言語化・文章化の訓練を基本的な方針とする。毎回、ゼミ生によるミニ発表を行う。

【M2】調査結果や仮説検証について教員と討論し、研究をさらに深いレベルにまで掘り下げ、論文執筆を計画的に進める。

[M1] Through each piece of work, the student will learn the basics of thinking and methods to create academic research and academic papers, and establish the direction and contents of their own research. When exploring research themes, students should focus on carefully examining social concepts, precedents, and their idea of common sense and "normality". The basic policy of the course is to conduct daily literature research and training in expressing ideas and writing.

[M2] The student will discuss the results of their survey and hypothesis verification with the faculty, take their research to a deeper level, and proceed with the writing of the academic paper systematically.

授業計画 / Course Schedule

【1】:研究テーマの再確認、研究の進捗と秋学期の研究工程表発表

【2】:研究領域の社会調査・統計資料①

【3】:研究領域の社会調査・統計資料②

【4】:論文らしい表現①

【5】:論文らしい表現②

【6】:モデル論文(先行研究)の研究①

【7】:モデル論文(先行研究)の研究②

【8】:調査内容・手法の検討①

- 【9】: 調査内容・手法の検討②
 【10】: 研究倫理の踏まえ方
 【11】: 引用作法
 【12】: 文献一覧、図表一覧
 【13】: 章立ての再検討と目次
 【14】: 秋学期のまとめ／M2・M1 最終合同ゼミ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミでの発表と議論への参加:100%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

井下千以子 思考を鍛えるレポート・論文作成法(第3版第3刷) 慶應義塾大学出版会 2021 9784766425772
 テキストは毎回持参のこと。

参考文献 / Readings

授業内で紹介する

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習6B

Seminar on Social Design Studies 6B

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM556
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

修士論文または研究報告書の作成に向けて、受講生が設定したテーマに基づき研究指導を行う。対象領域は主として、以下の研究領域とする。

リスク学、リスクガバナンス、リスクコミュニケーション、防災政策、危機管理、災害医療・福祉、放射性廃棄物、防災教育、災害情報、情報政策、地理空間情報、オープンデータ、ソーシャルウェア、コミュニティガバナンス、地域活性化、まちづくり、デジタルアーカイブ、オーラルヒストリー、ワークスタイル、テレワーク、モバイル建築など

Students are expected to prepare their master's thesis or research report based on their research theme.

授業の内容 / Course Contents

ゼミ形式での論文の進捗報告と討論及び個別面談指導を行う。

Students are expected to select and set the theme for their master's thesis or research report and conduct individual research under the guidance and advice of the faculty.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 研究指導
- 【2】: 研究指導
- 【3】: 研究指導
- 【4】: 研究指導
- 【5】: 研究指導
- 【6】: 研究指導
- 【7】: 研究指導
- 【8】: 研究指導
- 【9】: 研究指導
- 【10】: 研究指導
- 【11】: 研究指導
- 【12】: 研究指導
- 【13】: 研究指導
- 【14】: 研究指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミでの報告と討論への参加:100%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

使用しない

参考文献 / Readings

その他 / Others

使用しない

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習8B

Seminar on Social Design Studies 8B

河口 真理子 (KAWAGUCHI MARIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM558
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	教室での対面、および教室あるいはオンラインでの個別指導
校地	池袋	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

M1 は自身の研究テーマについて先行研究や、現地調査、インタビューの段取りなどの活動を行う。
M1 students will read documents and reports while prepare for interviews and field survey if necessary.

授業の内容 / Course Contents

自身の研究テーマを深掘りしはじめる。研究テーマに沿った先行研究文献を探して読み込む。また現地調査やインタビュー、アンケートなどについては具体的な対象を探したり、インタビュー内容の準備などを進める。

Start reading necessary documents and reports,while prepare for field work and survey,

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 夏休みの成果発表1
- 【2】: 夏休みの成果発表2
- 【3】: 研究内容のブラッシュアップ
- 【4】: 研究内容のブラッシュアップ
- 【5】: 研究内容のブラッシュアップ
- 【6】: 研究内容のブラッシュアップ
- 【7】: 研究内容のブラッシュアップ
- 【8】: 研究内容のブラッシュアップ
- 【9】: 研究内容のブラッシュアップ
- 【10】: 研究内容のブラッシュアップ
- 【11】: 研究内容のブラッシュアップ
- 【12】: 春休みの研究計画
- 【13】: 春休みの研究計画
- 【14】: 春休みの研究計画

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

春休み中に要望に合わせて合宿する。卒業が決まった M2 の研究報告会を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点:100%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習9B

Seminar on Social Design Studies 9B

亀井 善太郎 (KAMEI ZENTARO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM559
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

市民自らが社会の課題を発見し、その解決のための分析と方法論の検討を行い、さらには解決プロセスそのものを自ら担うという、あるべき「社会デザイン」の実現に向けて、受講者自らが社会の中からテーマを選択・設定し、教員の指導の下に個別研究を実施し、修士論文ないし研究報告書につながる研究成果をまとめられるようにすることを目的とする。私は、シンクタンクにおける政策の研究と具体的な政策等への反映(公共政策、CSR 経営、政策評価・立案、財政・社会保障政策、統治機構等)、NPO マネジメントとして社会デザインの実践や資金調達等に取り組んできた実務家としての経験等を有しており、そうした経験を踏まえ、各自の研究を指導していきたい。とくに市民セクター、企業セクター、行政セクターが使うそれぞれの言語の違いを踏まえ、社会デザインを具体的に進める上で、市民として何をしていかなければならないのか、そこで求められる意識や能力についても考えていければと考えている。

The goal is for the student themselves to select and set a theme from within society, conduct individual research under the supervision of faculty, and organize the research results into a master's thesis or research report toward the realization of "social design" where citizens themselves discover social problems, carry out analysis and examination of methodologies for the solutions, and take responsibility for carrying out the solution process themselves.

I have experience as a practitioner who has been involved in policy research in think tanks and its reflection to specific policies, etc. (public policy, CSR management, policy evaluation and planning, fiscal and social security policy, governance mechanisms, etc.), and practice and fundraising of social design as NPO management, and I would like to guide students' research based on these experiences.

In particular, based on the differences between the languages used by the civil sector, the corporate sector, and the government sector, I think it is a good idea to think about what we need to do as citizens in advancing social design specifically, and the awareness and abilities required.

授業の内容 / Course Contents

個別指導とグループ演習を組み合わせた指導を行う。

それぞれの研究のフェーズに応じた個別指導に取り組む一方、全体の進捗に応じて、研究の進め方、論文の書き方、調査の方法等の具体的な手法についても、課題発見と課題解決のフレームワークを用いながら指導を行う。

グループ演習では、各自の研究(文献・資料調査や定性的・定量的調査)の進捗に応じて、研究報告会形式で各自のテーマ、関心に沿った報告をしてもらい、受講者の多様な経験等を活かした討議や対話、また、教員からのインプットを行い、それぞれの研究の進化と深化を図っていく。

夏期には研究の参考になると思われる実地調査等を兼ねた合宿を予定している(過去には、住民自治の先進地である北海道ニセコ町、NPO による住民自治やコミュニティ・サポータード・アグリカルチャーの実践地である宮城県大崎市にて開

催)。
 We will provide instruction combining individual teaching and group exercises.
 While working on individual instruction according to each research phase, we will provide instruction on specific methods such as how to proceed with the research, writing of the paper, and methods of surveying, etc. according to the overall progress. In this process we will use the frameworks of problem discovery and problem solution.
 In the group exercises, depending on the progress of the student's research (literature and material research and qualitative and quantitative research), the student will be required to make reports according to their theme and interest in the form of research report meetings, and we will promote the evolution and deepening of the research through discussions and dialog that make use of the student's diverse experiences, etc. and input from faculty.
 In the summer, we plan to have a training camp with field surveys that will be useful for research (in the past, we visited Niseko Town in Hokkaido, an advanced area of resident autonomy, and Osaki City, Miyagi Prefecture, which is a practical site of NPO-based resident autonomy and community supported agriculture).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:テーマ設定1
- 【2】:テーマ設定2
- 【3】:テーマ設定3
- 【4】:研究計画の詳細化1
- 【5】:研究計画の詳細化2
- 【6】:研究計画の詳細化3
- 【7】:研究報告1
- 【8】:研究報告2
- 【9】:研究報告3
- 【10】:研究報告4
- 【11】:個別指導1
- 【12】:個別指導2
- 【13】:個別指導3
- 【14】:全体のふりかえり、総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習における報告、他者への貢献:100%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

必要に応じて指示する。

参考文献 / Readings

それぞれの研究テーマに応じて適宜紹介する。

その他 / Others

春学期は1年生と2年生合同でのゼミを主体としお互いに切磋琢磨しながら、それぞれの研究を進める。

秋学期は1年生はゼミ主体、2年生は個別指導主体で、それぞれの研究をサポートしていく。

亀井の専門は公共政策だが、これまでのゼミ生は、この専門と重ならない学生が多い。むしろ、研究の骨格(研究手法の見極めを含む)、具体的な研究方法の設計、実施、分析のサポートをロジカルシンキングを用いてサポートしてきた。こうした点を踏まえ、主指導(ゼミ)を選択されたい。

なお、夏休みと春休みに、他のゼミとの合同ゼミを開催する予定である。

ゼミの具体的な進め方については、春学期の初回に、ゼミ生の皆さんと相談したい。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成

果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習10B

Seminar on Social Design Studies 10B

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM560
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

それぞれの研究課題について、発表・討論を重ね、論文および報告書作成にむけた助言をおこなう。出席者には、報告者の発表内容について積極的にコメントすることを期待する。その過程で、自身の研究および他者の研究に対して、批判的かつ発展的に検討しうる視座を身に着けることを目標とする。

Students will repeat presentations and discussions on each research subject, and we will give advice on writing papers and reports. Attendees are expected to actively comment on the content of the speaker's presentation. Through this process, the aim is for the student to gain the perspective of being able to consider their own research and that of others critically and developmentally.

授業の内容 / Course Contents

各回の発表者が、各自の研究課題に関する報告を繰り返しおこない研究を進めてゆく。特に本演習では、研究課題にまつわる調査や資料の分析の経過について、報告してもらうことを中心とする。その際には、社会調査を用いた研究方法についても適宜解説する。なお、研究のスケジュールや扱う文献については、それぞれの研究関心に沿ったものとなるよう配慮する。

Each presenter will repeatedly report on their research subject to advance the research. In particular, this exercise focuses on having students report on the progress of their survey and analysis of materials related to the research subject. In addition, research methods using social surveys will be explained as appropriate. The research schedule and documents to be handled should be considered in line with each research interest.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 研究発表 1
- 【3】: 研究発表 2
- 【4】: 研究・調査計画の設定 1
- 【5】: 研究・調査計画の設定 2
- 【6】: 研究・調査計画の設定 3
- 【7】: 中間報告
- 【8】: 資料の分析 1
- 【9】: 資料の分析 2
- 【10】: 資料の分析 3
- 【11】: 資料の分析 4
- 【12】: 個別論文指導 1

【13】:個別論文指導 2

【14】:研究発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自分の研究課題について積極的に情報収集をすることを基本とするが、詳細は授業内に個別に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的参加:50% 発表内容:50%

平常点は演習時の積極性や出席状況で評価する。

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

特に指定しない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、Microsoft Office、Zoom

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習11B

Seminar on Social Design Studies 11B

西井 開 (NISHII KAI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM561
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

本授業は、各受講生が修士論文・研究報告書を完成することを目標とする。そのために、各受講生の進捗に応じた指導を行う。

The aim of this class is for each student to complete their master's thesis. To achieve this, guidance tailored to each student's progress is provided.

授業の内容 / Course Contents

ゼミ形式での論文の進捗報告と討論及び個別面談指導を行い、以下の流れで進めていく。

- ・自身が最も関心のあるテーマの発見
- ・関連する先行研究の調査
- ・リサーチクエスションの創造
- ・研究計画書の作成
- ・論文執筆

This course provide progress reports and discussions on papers in seminar format, as well as individual guidance, and proceed as follows.

- ・Discover the theme that interests you the most
- ・Investigate related previous research
- ・Create a research question
- ・Create a research plan
- ・Write a paper

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:研究指導
- 【2】:研究指導
- 【3】:研究指導
- 【4】:研究指導
- 【5】:研究指導
- 【6】:研究指導
- 【7】:研究指導
- 【8】:研究指導
- 【9】:研究指導

- 【10】:研究指導
 【11】:研究指導
 【12】:研究指導
 【13】:研究指導
 【14】:研究指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミでの報告と討論への参加:100%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習13B

Seminar on Social Design Studies 13B

倉本 由紀子(KURAMOTO YUKIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM563
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

学生が各々の研究テーマに基づいた修士論文・研究報告書を作成します。

Students will conduct their research for their master's thesis or research report.

授業の内容 / Course Contents

修士論文・研究報告書作成に向けて、各受講者がテーマを選択・設定し、教員の指導・助言のもと、個別研究を行います。

Each student will select a topic and create a research proposal for their master's thesis. They will conduct independent research with guidance from the faculty.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 指導内容についての説明
- 【2】: 各受講者の関心ある分野、研究テーマ、研究方法について個別に協議
- 【3】: 受講者全員で各受講者の研究テーマについて発表し、情報共有
- 【4】: 各受講者の研究スケジュールについて協議
- 【5】: 中間報告会において研究発表を行い、発表内容について全員で討論を行い、研究内容、方法等の見直しを行い、論文作成に必要なものの見方、考え方を身につける。
- 【6】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【7】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【8】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【9】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【10】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【11】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【12】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【13】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【14】: 本提出に向け、論文作成に必要な作法等の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

論文作成法に関するテキスト、立教大学の論文作成のガイドライン等を入手し、事前に学習することをお願いします。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の報告:100%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松 洋 編著『新・社会調査へのアプローチ:論理と方法』ミネルヴァ書房 2013
9784623066544

佐藤郁哉『社会調査の考え方 上』東京大学出版会 2015 9784130520263

佐藤郁哉『社会調査の考え方 下』東京大学出版会 2015 9784130520270

佐藤郁哉『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社 2008 9784788510951

上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房 2023 9784480071675

各受講者の研究テーマに応じて、随時紹介します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習15B

Seminar on Social Design Studies 15B

滝口 直樹 (TAKIGUCHI NAOKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM565
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

受講者が、その関心をベースにしつつ、社会へのインパクトのあるテーマについて、自立的に研究を行い、独創性に富む修士論文、研究報告書を作成することを目標とする。

Participating students will study and create master thesis/research reports based on their intellectual interests. The study will have good originality based on the independent and socially meaningful research..

授業の内容 / Course Contents

持続可能な社会づくり、環境保全、行政の仕組み/機能、政府や地域のガバナンスなどに関する研究分野を主な指導テーマとし、個別指導、グループ指導を必要に応じ組み合わせ、論文執筆のための指導を行う。

We will provide guidance for master thesis preparation, which covers such research areas as building sustainable society, environmental protection, structure and function of administration, and governance of government and local communities. These guidance will be given through individual and/or group guidance.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 夏休み研究活動の報告
- 【2】: 仮提出に向けた進捗状況の確認(2 年次)
- 【3】: 先行研究、データなど資料の集め方、整理の仕方(確認)
- 【4】: 論文のロジックの立て方(確認)
- 【5】: 剽窃防止、研究不正防止(確認)
- 【6】: 本論文作成に向けた個別指導(2 年次)
- 研究関心事についての中間発表(1 年次)① 環境保全を中心に
- 【7】: 本論文作成に向けた個別指導(2 年次)
- 研究関心事についての中間発表(1 年次)② 環境保全を中心に
- 【8】: 本論文作成に向けた個別指導(2 年次)
- 研究関心事についての中間発表(1 年次)③ ガバナンスを中心に
- 【9】: 本論文作成に向けた個別指導(2 年次)
- 研究関心事についての中間発表(1 年次)④ ガバナンスを中心に
- 【10】: 本論文作成に向けた個別指導(2 年次)
- 研究テーマ選定についての確認(1 年次)
- 【11】: 引用文献、注釈の付け方(確認)
- 【12】: 研究要旨の作成について指導(2 年次)
- 研究テーマ発表会(1 年次)① 環境保全を中心に

【13】:研究テーマ発表会(1年次)② ガバナンスを中心に
【14】:春休みの研究計画(1年次)
まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ [®] 等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中、個別に提示する

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業での発表:100%
集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

特に定めない。

参考文献 / Readings

環境省 令和6年版環境白書 日経印刷 2024 9784865794144

授業で個別に提示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

積極的な議論への参加

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習16B

Seminar on Social Design Studies 16B

大熊 玄 (OKUMA GEN)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM566
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

学生が選んだテーマをもとに、最終的に修士論文・研究報告書の完成を目標として、基礎的な知識や研究方法を身につける。

The student will acquire basic knowledge and research methods with the goal of finally completing a master's thesis or research report on the theme they have chosen.

授業の内容 / Course Contents

学生は、自身が最も関心のあるテーマを選択し、実際の修士論文・研究報告書のタイトルへと落とし込み、自らの研究を導いてくれる「リサーチクエスション」を創る。また、参考文献(先行研究)を収集・読解・批評しながら、それらを参考に自らの論文・報告書のアウトライン(骨格)を作成し、執筆を開始し、最終的に論文・報告書の体裁を整えていく。講師は、春学期に引き続き、そのつど学生から研究の進捗状況を聞きながら、研究計画や内容に対して助言・指導・討議を行い、学生はそこから新たな視点を得るとともに、自らの研究を進め深めていく。

The student will select the theme in which they are interested, express it in the title of their actual master's thesis or research report, and create a "research question" that guides their research. In addition, the student will create an outline (framework) of their own academic paper or report referring to references (preceding studies) that they collect, read and criticize, will start writing and finally prepare the format of an academic paper or report. Following on from the spring semester, the lecturer will provide advice and guidance and discuss the research plan and its contents while hearing about the progress of the research from the student regularly, giving the student new perspectives to advance and deepen their research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 全体テーマ(方向)の選択
- 【3】: 具体的目標と規模の決定
- 【4】: リサーチクエスションの確認
- 【5】: 論文構成(序/本/結)の検討
- 【6】: アウトライン(目次)の作成
- 【7】: 研究データベース作成
- 【8】: 文献の調査・探索
- 【9】: 文献目録の作成
- 【10】: 序の検討
- 【11】: 本論の検討(1)

- 【12】:本論の検討(2)
 【13】:本論の検討(3)
 【14】:結論・全体の検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期中の進捗状況:50% 学期末の研究成果:50%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

授業内で別途指示する。

参考文献 / Readings

授業内で別途指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

対面参加者も、zoom 接続可能な機器(ノートパソコン・タブレット)持参が望ましい。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学集中演習17B

Seminar on Social Design Studies 17B

川本 彩花(KAWAMOTO AYAKA)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VM567
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	SDS6010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保证するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。		

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、各自の研究テーマについて報告と議論を重ねることを通して、互いに切磋琢磨しながら研究テーマを深め、論文作成へとつなげていくことを目標とします。

The goal of this class is for students to report and discuss their own research themes, to learn from each other and to deepen their understanding of the topic, leading to the writing of a dissertation.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、受講者のみなさんが各自の研究テーマに関する報告と議論を繰り返し行うかたちで進めていきます。とくにここでは、研究計画の設定、研究方法の検討、資料収集、分析について報告してもらい議論を行います。なお、受講者の人数等により、授業計画の内容・順序等を一部変更する場合があります。

In this class, students will be asked to report and discuss their research themes repeatedly. In particular, students will be asked to set up a research plan, consider research methods, collect and analyze data, and report on their progress. Please note that the content and order of the class plan may change depending on the number of students, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 研究方法の検討①
- 【3】: 研究方法の検討②
- 【4】: 研究方法の検討③
- 【5】: 研究計画の設定①
- 【6】: 研究計画の設定②
- 【7】: 研究計画の設定③
- 【8】: 資料収集と分析①
- 【9】: 資料収集と分析②
- 【10】: 資料収集と分析③
- 【11】: 資料収集と分析④
- 【12】: 資料収集と分析⑤
- 【13】: 資料収集と分析⑥
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	○
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

研究を進め授業での報告準備を行うこと。また、授業後は、議論やアドバイスをふり返り次の報告や作業等に活かすこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的参加:50% 発表内容:50%

集中演習は担当教員の授業運営方針に沿い、担当教員と十分なコミュニケーションをとって参加すること。それを満たさない場合は単位を付与しない場合があるので十分注意すること。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

とくに指定しない。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論特別研究1A

Directed study:Social Organization 1A

大熊 玄 (OKUMA GEN)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM131
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生自身が、自らの研究テーマをより深化させ、「社会デザイン学」としての「博士論文」を完成させることを目標とする。
The student will acquire basic knowledge and research methods with the goal of finally completing a doctor thesis on the theme that they have chosen.

授業の内容 / Course Contents

博士論文の執筆者は、自らの論文テーマの意味を常に問い続けなければならない。今自らが行っている研究が、その研究者自身にとって、その研究分野において、そしてこの社会にとって、どのような意味を持つのか。また、この博士論文によって得られる学位の名称が「博士(社会デザイン学)」である以上、「社会デザイン学」とは何なのか、それが自らの研究とどのような位置関係にあるのか、これらを問い続ける必要がある。講師は、そのつど学生から研究の進捗状況を聞きながら、研究計画や内容に対して助言・指導・討議を行い、学生は、それによって自らの研究を進めていくとともに、その研究の意味も深めていく。

The student will select the theme in which they are interested, express it in the title of their actual doctor thesis or research report, and create a "research question" that guides their research. In addition, the student will create an outline (framework) of their own academic paper referring to references (preceding studies) that they collect, read and criticize, will start writing and finally prepare the format of an academic paper or report. The lecturer will provide advice and guidance and discuss the research plan and its contents while hearing about the progress of the research from the student regularly, giving the student new perspectives to advance and deepen their research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 全体テーマ(方向)の選択
- 【3】: 具体的目標と規模の決定
- 【4】: リサーチクエスションの確認
- 【5】: 論文構成(序/本/結)の検討
- 【6】: アウトライン(目次)の作成
- 【7】: 研究データベース作成
- 【8】: 文献の調査・探索
- 【9】: 文献目録の作成
- 【10】: 序の検討
- 【11】: 本論の検討(1)
- 【12】: 本論の検討(2)
- 【13】: 本論の検討(3)
- 【14】: 結論・全体の検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指定する

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期中の進捗状況による評価:50% 学期末における研究成果による評価:50%

学期中の発表や提出物の内容を考慮して評価する

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

特になし

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

対面参加者も、zoom 接続可能な機器(ノートパソコン・タブレット)持参が望ましい。

コミュニティデザイン学特別研究1A

Directed Study:Community Design 1A

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM133
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、受講生が、博士論文執筆に向けた研究を進捗・完成させることにある。そのために、各受講生の段階に合わせた、研究指導を行う。

授業の内容 / Course Contents

博士論文の作成にあたっては、論文を執筆するための基本的な枠組に加えて、自身のテーマに対応する学問分野の整理、国内外の先行研究の批判的検討、複数の投稿論文からなる博士論文全体の構成など、より高度な要素が求められることになる。本授業では、それらのスキルを習得するために必要な指導や助言を行う。なお、本授業では、受講者の状況に合わせた個別指導に加えて、定期的にゼミ形式の発表・討議の機会を設ける。受講生には、それらの機会を積極的に活用し、学会発表や論文執筆に活かすことを期待する。

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: リサーチクエスションの確認
- 【3】: 研究計画の作成
- 【4】: プレゼンテーション・ディスカッション ①
- 【5】: 専門分野の研究動向整理
- 【6】: 先行研究の収集
- 【7】: 先行研究の批判的検討
- 【8】: プレゼンテーション・ディスカッション ②
- 【9】: 研究方法の検討
- 【10】: 研究の実施状況の整理
- 【11】: 研究結果の整理
- 【12】: プレゼンテーション・ディスカッション ③
- 【13】: 博士論文の構想
- 【14】: プレゼンテーション・ディスカッション ④

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

個別指導や研究発表の機会に向けて、各自の研究を進めておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期中の進捗状況による評価:50% 学期末における研究成果による評価:50%

学期中の発表や提出物の内容を考慮して評価する

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、Microsoft Office、Zoom

コミュニティデザイン学特別研究4A

Directed Study:Community Design 4A

倉本 由紀子(KURAMOTO YUKIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM136
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生が各々の研究テーマに基づいた博士論文を執筆します。

The doctoral students will conduct their research and write their dissertations.

授業の内容 / Course Contents

博士論文作成に向けて、各受講者がテーマを選択・設定し、教員の指導・助言のもと、個別研究を行います。

Doctoral students work on their research projects for their dissertations and receive guidance and advice from their faculty members.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 博士論文研究についての説明
- 【2】: 各受講者の関心ある分野、研究テーマ、研究方法について個別に協議
- 【3】: 受講者全員で各受講者の研究テーマについて発表し、情報共有
- 【4】: 各受講者の研究スケジュールについて協議
- 【5】: 中間報告会において研究発表を行い、発表内容について全員で討論を行い、研究内容、方法等の見直しを行い、論文作成に必要なものの見方、考え方を身につける。
- 【6】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【7】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【8】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【9】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【10】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【11】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【12】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【13】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【14】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

博士論文執筆に関する調査を進め、論文作成法に関するテキスト、立教大学の論文作成のガイドライン等入手し、学習しておくことが望ましいです。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の報告:100%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

各受講者の研究テーマに応じて、随時紹介します。

危機管理学特別研究1A

Directed Study:Crisis Management 1A

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM137
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

博士論文の作成に向けて、受講生が設定したテーマに基づき研究指導を行う。対象領域は主として、以下の研究領域とする。

リスク学、リスクガバナンス、リスクコミュニケーション、防災政策、危機管理、災害医療・福祉、放射性廃棄物、防災教育、災害情報、情報政策、オープンデータ、ソーシャルウェア、コミュニティガバナンス、地域プロデュース、デジタルアーカイブ、オーラルヒストリー、ワークスタイル、テレワーク、モバイル建築など

授業の内容 / Course Contents

博士論文の進捗報告に基づき個別面談指導を行う。

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:研究指導
- 【2】:研究指導
- 【3】:研究指導
- 【4】:研究指導
- 【5】:研究指導
- 【6】:研究指導
- 【7】:研究指導
- 【8】:研究指導
- 【9】:研究指導
- 【10】:研究指導
- 【11】:研究指導
- 【12】:研究指導
- 【13】:研究指導
- 【14】:研究指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 博士論文の進捗報告と討論に基づき評価する。:100%

テキスト / Textbooks

使用しない

参考文献 / Readings

使用しない

危機管理学特別研究2A

Directed Study:Crisis Management 2A

長 有紀枝 (OSA YUKIE)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM138
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

受講者一人ひとりが、自らの立ち位置を意識し、独自の問題関心に沿って、自分自身や社会と誠実に向き合いつつ、独創性に富んだ研究を行うことを目標とする。

To develop student capacity to carry out academic research to write a doctoral dissertation with originality.

授業の内容 / Course Contents

人口 80 億人を超える今日の国際社会。しかし世界には本当に 80 億もの人間が存在しているのだろうか。実際には数億の人間と数十億のそうでない個からなっているのではないかと。こうした問いかけがなされるほど、今日の世界は階層化が進んでいる。格差が生まれ、弱者がますます困難な状況に追い込まれているのは日本社会も同様である。

では、こうした課題・問題を前に、研究者としての私たちは、どのような対策を講じ、どのような社会をデザインし、構築していくのか。戦後 80 年を迎える時代に生きる私たちが、学問や「知」を通じて果たすべき役割とは何か。こうした問題関心に基づき、個別指導に重点を置いて、学位論文執筆のための指導を行う。

The course is designed to provide students with a comprehensive guide to writing a doctoral dissertation, exploring the concept of originality.

授業計画 / Course Schedule

【1】:【ガイダンス】博士学位論文と他の学術論文との違い・剽窃と研究不正に関する注意

演習参加者による問題意識・関心の発表

【2】:博士学位論文に求められるものとは(講義)(1)

【3】:博士学位論文に求められるものとは(講義)(2)

【4】:博士学位論文に求められるものとは(講義)(3)

【5】:剽窃と研究不正に関する注意

【6】:研究・調査の方法と分析枠組みについて(1)

【7】:研究・調査の方法と分析枠組みについて(2)

【8】:博士論文作成指導

【9】:先行研究・参考文献の書評発表

【10】:学生中間発表

【11】:博士論文作成指導

【12】:先行研究・参考文献の書評発表

【13】:博士論文作成指導

【14】:進捗状況の確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内または個別に指示する

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究活動の報告状況:50% 指導中に提出された内容をもとに評価:50%

テキスト / Textbooks

長有紀枝 入門 人間の安全保障 中央公論新社 2021 412192195

長有紀枝 スレブレニツァ・ジェノサイド 東信堂 2020 4798916463

特に指定しない

参考文献 / Readings

個別に指示・紹介する。

社会組織理論特別研究1B

Directed study:Social Organization 1B

大熊 玄 (OKUMA GEN)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM151
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位		科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生自身が、自らの研究テーマをより深化させ、「社会デザイン学」としての「博士論文」を完成させることを目標とする。
The student will acquire basic knowledge and research methods with the goal of finally completing a doctor thesis on the theme that they have chosen.

授業の内容 / Course Contents

博士論文の執筆者は、自らの論文テーマの意味を常に問い続けなければならない。今自らが行っている研究が、その研究者自身にとって、その研究分野において、そしてこの社会にとって、どのような意味を持つのか。また、この博士論文によって得られる学位の名称が「博士(社会デザイン学)」である以上、「社会デザイン学」とは何なのか、それが自らの研究とどのような位置関係にあるのか、これらを問い続ける必要がある。講師は、春学期に引き続き、そのつど学生から研究の進捗状況を聞きながら、研究計画や内容に対して助言・指導・討議を行い、学生は、それによって自らの研究を進めていくとともに、その研究の意味も深めていく。

The student will select the theme in which they are interested, express it in the title of their actual doctor thesis or research report, and create a "research question" that guides their research. In addition, the student will create an outline (framework) of their own academic paper referring to references (preceding studies) that they collect, read and criticize, will start writing and finally prepare the format of an academic paper or report. The lecturer will provide advice and guidance and discuss the research plan and its contents while hearing about the progress of the research from the student regularly, giving the student new perspectives to advance and deepen their research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 全体テーマ(方向)の選択
- 【3】: 具体的目標と規模の決定
- 【4】: リサーチクエスションの確認
- 【5】: 論文構成(序/本/結)の検討
- 【6】: アウトライン(目次)の作成
- 【7】: 研究データベース作成
- 【8】: 文献の調査・探索
- 【9】: 文献目録の作成
- 【10】: 序の検討
- 【11】: 本論の検討(1)
- 【12】: 本論の検討(2)
- 【13】: 本論の検討(3)
- 【14】: 結論・全体の検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指定する

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期中の進捗状況による評価:50% 学期末における研究成果による評価:50%

学期中の発表や提出物の内容を考慮して評価する

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

特になし

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

対面参加者も、zoom 接続可能な機器(ノートパソコン・タブレット)持参が望ましい。

コミュニティデザイン学特別研究1B

Directed Study:Community Design 1B

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM153
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位		科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、受講生が、博士論文執筆に向けた研究を進捗・完成させることにある。そのために、各受講生の段階に合わせた、研究指導を行う。

授業の内容 / Course Contents

博士論文の作成にあたっては、論文を執筆するための基本的な枠組に加えて、自身のテーマに対応する学問分野の整理、国内外の先行研究の批判的検討、複数の投稿論文からなる博士論文全体の構成など、より高度な要素が求められることになる。本授業では、それらのスキルを習得するために必要な指導や助言を行う。なお、本授業では、受講者の状況に合わせた個別指導に加えて、定期的にゼミ形式の発表・討議の機会を設ける。受講生には、それらの機会を積極的に活用し、学会発表や論文執筆に活かすことを期待する。

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 研究計画の作成
- 【3】: 論文の目次作成
- 【4】: プレゼンテーション・ディスカッション ①
- 【5】: 専門分野の研究動向整理
- 【6】: 先行研究の収集
- 【7】: 先行研究の批判的検討
- 【8】: プレゼンテーション・ディスカッション ②
- 【9】: 研究結果の報告
- 【10】: 研究結果の分析・考察
- 【11】: プレゼンテーション・ディスカッション ③
- 【12】: 論文の執筆
- 【13】: フィードバック
- 【14】: 論文の修正

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

個別指導や研究発表の機会に向けて、各自の研究を進めておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期中の進捗状況による評価:50% 学期末における研究成果による評価:50%

学期中の発表や提出物の内容を考慮して評価する

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、Microsoft Office、Zoom

コミュニティデザイン学特別研究4B

Directed Study:Community Design 4B

倉本 由紀子(KURAMOTO YUKIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM156
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位		科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生が各々の研究テーマについて研究調査し博士論文を作成します。

The doctoral students will conduct their research and write their dissertations.

授業の内容 / Course Contents

博士論文作成に向けて、各受講者がテーマを選択・設定し、教員の指導・助言のもと、個別研究を行います。

The doctoral students work on their research projects for their dissertations and receive guidance and advice from faculty members.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【2】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【3】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【4】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【5】:各受講者の研究進捗状況を把握し、調査研究のスケジュールを確認
- 【6】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【7】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【8】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【9】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【10】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【11】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【12】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【13】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【14】:予定論文提出に向け、個別指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

博士論文執筆のための調査研究を遂行し、指導教員とのコミュニケーションも適宜行ってください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の報告:100%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

各受講者の研究テーマに応じて、随時紹介します。

危機管理学特別研究1B

Directed Study:Crisis Management 1B

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM157
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位		科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

博士論文の作成に向けて、受講生が設定したテーマに基づき研究指導を行う。対象領域は主として、以下の研究領域とする。

リスク学、リスクガバナンス、リスクコミュニケーション、防災政策、危機管理、災害医療・福祉、放射性廃棄物、防災教育、災害情報、情報政策、オープンデータ、ソーシャルウェア、コミュニティガバナンス、地域プロデュース、デジタルアーカイブ、オーラルヒストリー、ワークスタイル、テレワーク、モバイル建築など

授業の内容 / Course Contents

博士論文の進捗報告に基づき個別面談指導を行う。

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:研究指導
- 【2】:研究指導
- 【3】:研究指導
- 【4】:研究指導
- 【5】:研究指導
- 【6】:研究指導
- 【7】:研究指導
- 【8】:研究指導
- 【9】:研究指導
- 【10】:研究指導
- 【11】:研究指導
- 【12】:研究指導
- 【13】:研究指導
- 【14】:研究指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 博士論文の進捗報告と討論に基づき評価する。:100%

テキスト / Textbooks

使用しない

参考文献 / Readings

使用しない

危機管理学特別研究2B

Directed Study:Crisis Management 2B

長 有紀枝 (OSA YUKIE)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM158
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位		科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

受講者一人ひとりが、自らの立ち位置を意識し、独自の問題関心に沿って、自分自身や社会と誠実に向き合いつつ、独創性に富んだ研究を行うことを目標とする。

To develop student capacity to carry out academic research to write a doctoral dissertation with originality.

授業の内容 / Course Contents

個別指導に重点を置いて、学位論文執筆のための指導を行う。

The course is designed to provide students with a comprehensive guide to writing a doctoral dissertation, exploring the concept of originality.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 演習参加者による夏季休暇中の研究の進捗状況報告(1)
- 【2】: 演習参加者による夏季休暇中の研究の進捗状況報告(2)
- 【3】: 剽窃と研究不正に関する注意
- 【4】: 研究・調査の方法と分析枠組みについて(1)
- 【5】: 研究・調査の方法と分析枠組みについて(2)
- 【6】: 博士論文作成指導
- 【7】: 博士論文作成指導
- 【8】: 学生研究発表
- 【9】: 博士論文作成指導
- 【10】: 博士論文作成指導
- 【11】: 学生研究発表
- 【12】: 博士論文作成指導
- 【13】: 学生研究発表
- 【14】: 進捗状況の確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内または個別に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究活動の報告状況:50% 指導中に提出された内容をもとに評価:50%

テキスト / Textbooks

長有紀枝 入門 人間の安全保障 中央公論新社 2021 412192195

長有紀枝 スレブレニツァ・ジェノサイド 東信堂 2020 4798916463

特に指定しない。

参考文献 / Readings

個別に指示・紹介する。

社会デザイン学主題別研究1A

Special Topics:Social Design 1A
(音楽と社会デザイン)

川本 彩花(KAWAMOTO AYAKA)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM171
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、音楽をめぐる様々な事象・現象に関する知識を身につけ、音楽について広く社会との関係のなかで考察するとともに、音楽文化を通して社会のありようを読み解く視点を習得することを目標とします。

The goal of this class is to acquire knowledge of various events and phenomena surrounding music in modern society, to be able to consider music in its broader relationship to society, and to develop a perspective for interpreting the state of society through music.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、音楽作品やアーティストそのものではなく、音楽をめぐる様々な事象や現象——音楽をテーマにした映画と観光現象、まちづくり、音楽フェスティバルなど——について取り上げます。そして、音楽と人間／社会との関係、およびその変容について考察し、音楽文化を通して社会のありようを読み解く視点を提示します。ここでは、ポピュラー音楽や芸術音楽(クラシック音楽)など、幅広い音楽文化を対象にします。なお、受講者の人数等により、授業計画の内容・順序等を一部変更する場合があります。

This class will focus on various events and phenomena surrounding music in modern society, such as music-themed films and tourism, urban development, and music festivals. Students will also consider the relationship between music and society, as well as its transformation, and learn how to interpret society through music. In doing so, a wide range of music culture will be covered, including popular music and classical music. Please note that the content and order of the lesson plan may change depending on the number of students, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス: 授業のねらいと進め方
- 【2】: 音楽と社会を考える
- 【3】: 音楽をテーマにした映画について
- 【4】: 映画・観光・まちづくり①
- 【5】: 映画・観光・まちづくり②
- 【6】: 映画・観光・まちづくり③
- 【7】: 中間総括①
- 【8】: 音楽フェスティバルに集う人びと①
- 【9】: 音楽フェスティバルに集う人びと②
- 【10】: 音楽フェスティバルに集う人びと③
- 【11】: 中間総括②
- 【12】: コミュニケーションについて
- 【13】: 災害と音楽

【14】:授業のまとめ**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各講義で指示された課題に取り組むこと。また、レジュメや配布資料等を用いて授業内容を整理・復習し、各自の興味・関心を深めること(各回約4時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への積極的参加:30%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

遠藤英樹・寺岡伸悟・堀野正人編 『[シリーズ]メディアの未来4 観光メディア論』 ナカニシヤ出版 2014

9784779508554

南田勝也・辻泉編 『文化社会学の視座——のめりこむメディア文化とそこにある日常の文化』 ミネルヴァ書房 2008

9784623051588

宮入恭平 『ライブカルチャーの教科書——音楽から読み解く現代社会』 青弓社 2019 9784787274229

その他の文献は、授業内で適宜紹介します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究2A

Special Topics:Social Design 2A
(文化政策論1)

若林 朋子(WAKABAYASHI TOMOKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM172
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

文化政策は公共政策であることを踏まえ、文化と社会の関係性や、具体的な文化政策の内容について理解を深める。社会デザインの視点で文化政策を捉えなおし、かつ、文化の視点から社会デザインを考える。

Based on the fact that cultural policy is public policy, students will deepen their understanding of the relationships between culture and society, and the specific content of cultural policy. Students will reconsider cultural policy from the perspective of social design, and consider social design from the perspective of culture.

授業の内容 / Course Contents

文化政策が対象とする「文化、芸術、アート」とは何かを考えることからはじめ、国や自治体による公共政策としての文化政策、企業をはじめとする民間の文化の取り組みについて概観する。特に文化政策の歴史的な変遷のなかでも、大きく様変わりした直近 30 年の展開を重点的に扱う。

なお、ここでいう「文化」の範囲は、狭義の芸術文化から、地域社会の歴史に根ざした文化、よりよく生きる人間の営みとしての文化まで、幅広いものとする。ゲストを迎えてのレクチャーや文化施設等の見学(任意参加)も行う。

Starting with thinking about what is "culture and the arts", that is the object of cultural policy, we will give an overview of public cultural policy by the national and local governments, and civic cultural efforts such as by business companies. Among historical changes in cultural policy, we will focus on developments in the last 30 years when the situation has changed dramatically.

In addition, the scope of "culture" described here shall be wide, stretching from art culture in a narrow sense, to culture rooted in the history of local communities, and culture as a human activity to live better. We will also invite guest lecturers and visit cultural facilities.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 文化、芸術、アート
- 【2】: 文化政策をめぐって: 文化政策の意義、日本の文化政策の変遷
- 【3】: 文化政策と法律: 文化芸術基本法
- 【4】: 国の文化政策①
- 【5】: 国の文化政策②
- 【6】: 国の文化政策③
- 【7】: ゲストレクチャー①
- 【8】: 地方自治体の文化政策①
- 【9】: 地方自治体の文化政策②

【10】:地方自治体の文化政策③

【11】:企業の文化政策①

【12】:企業の文化政策②

【13】:ゲストレクチャー②

【14】:広がる文化政策領域

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への参画(発言・発表・ディスカッション):100%

毎回のリアクションペーパー(コメント)提出で出席とします

テキスト / Textbooks

特に指定しない(随時紹介する)。

参考文献 / Readings

随時紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究3A

Special Topics:Social Design 3A
(エシカル消費総論－1)

河口 真理子 (KAWAGUCHI MARIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM173
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

今年 SDGs の発足から 10 周年を迎える。SDGs はカラフルなバッジが象徴する持続可能な取り組みとして今や日本社会に広く浸透している。しかし、2024 年段階で SDGs のうち達成に向けて進んでいるのは 17%に過ぎない。世界情勢をみるとコロナ禍に続き、ウクライナを契機に中東紛争などの地政学リスクが高まる中、地球規模での気候変動による異常気象が激化している。台風、洪水、干ばつなどの異常気象は、世界の食料生産や生活経済に大きな影響を与えるようになっている。残念ながら、この異常気象は人間の活動の結果といわれる。CO2 排出量は増加の一途をたどり、世界の平均気温は産業革命前から 1.5° C 以上上昇し、地球温暖化は着実に進行している。人類の農業が始まって以来、世界の森林面積の 1/3 が失われた。また、2050 年には海には魚よりもプラスチックが多く存在すると言われてるように、経済活動によって生物多様性が損なわれている。そして経済の発展と連動し世界的な格差は広がり、現在 5000 万人が奴隷状態にあると言われている。これらの環境破壊や人権侵害の直接的な原因は企業による経済活動にあることが多いとされるが、その背景には消費者のニーズがある。SDGs が絵に描いたような餅になってしまうようなことのないよう、すべての生活者のライフスタイルを持続的に変革していく必要がある。このコースでは、消費者の視点からサステナビリティへの取り組みについて考察する。

This year marks the 10th anniversary of the launch of the SDGs. The colorful badges of SDGs and the concept of sustainability has become widespread. However, as of 2024, only 17% of the SDGs are on the path to achieving them. As geopolitical risks such as conflicts in the Middle East continue to rise following Ukraine, extreme weather events caused by climate change on a global scale are intensifying, and the world is becoming more VUCA-like. Extreme weather events such as typhoons, floods, and droughts have had a significant impact on global food production and living infrastructure. Unfortunately, this extreme weather is also a consequence of human activity. CO2 emissions continue to increase, the average global temperature has risen by more than 1.5° C above pre-industrial levels, and global warming is steadily progressing. Since the beginning of human agriculture, 1/3 of the world's forest area has been lost. In addition, as it is said that there will be more plastic than fish in the oceans in 2050, economic activities are damaging biodiversity and having a significant impact on the earth. It is said that 50 million people in the world are in a state of modern slavery behind the development of the economy. These environmental destruction and human rights violations are often directly caused by corporations, but behind them are the needs of consumers. In order not to make SDGs a failure, it is necessary to sustainably transform the lifestyles of us all consumers. This course examines sustainability initiatives from the consumer's point of view.

授業の内容 / Course Contents

そもそも SDGs の S(サステナビリティ=持続可能性)とは何か？ 本講義では環境の持続可能性、社会の持続可能性について主要な課題について概観し、現在のグローバル社会を持続可能に転換させるシステム SDGsとパリ協定や生物多様性保全の枠組みなど目的と進捗について理解を深める。それを受けて、消費生活の在り方をどのように変えるべき

か検討していく。ライフスタイル全体の見直し、食・衣・住・エネルギーの3つの分野において、サプライチェーンに潜む課題と解決策を考察する。エンカル消費の専門家によるゲスト講義も予定している。なおこの授業は VM481 と連動しているのでセットで受講することが望ましい。

What is the meaning of sustainability represented by SDGs? In this course we will go over the major environmental and social issues, and study about the role of SDGs and Paris Agreement and biodiversity framework, all of which are intended to transform our society. Then we will discuss the necessary lifestyle change and also ethical consumption on each food, apparel, and housing. Lectures by professionals of ethical consumption are also planned.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:グローバルな社会課題:地球環境問題&人権・人の課題
- 【3】:SDGs、パリ協定 などグローバルなイニシアチブの動向
- 【4】:エネルギー問題
- 【5】:サーキュラーエコノミー
- 【6】:食の課題1
- 【7】:食の課題2
- 【8】:食の課題3
- 【9】:衣の課題1
- 【10】:衣の課題2
- 【11】:住の課題
- 【12】:その他消費の課題
- 【13】:エンカル金融
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

VM481 とセットで受講することが望ましい。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のリアクションペーパーの提出

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%
 平常点割合 :50% 出席率・発言:25% リアクションペーパー:25%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

ハーマン・デイリー 『持続可能な発展の経済学』 みすず書房 2005 9784622071747
 竹村真一 『地球の目線』 PHP 研究所 2008 4569700861
 アリス・ウオーターズ 『スローフード宣言』 海土の風 2022 9784909934024
 ジャック・アタリ 『食の歴史』 プレジデント社 2020 9784833423618
 河口真理子 「SDGsで「変わる経済」と「新たな暮らし」」 生産性出版 2020 9784820121077

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

VM481 の内容と連動しているので、両方履修することが望ましい。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究4A

Special Topics:Social Design 4A
(現代文化と社会デザイン)

丸山 俊一 (MARUYAMA SHUNICHI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM174
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

日本の戦後社会の変化を、主に 60 年代から 90 年代までサブカルチャーを含む様々な事象から多面的に考察する。そのことによって(1)日本社会の性質、特徴について仮説を立てられるようになること。(2)歴史の因果関係について考察できる眼を養うこと。(3)オルタナティブなものの方見方、多角度からの柔軟な視点を身につけること。

This course aims to comprehensively examine the changes in post-war Japanese society, primarily from the 1960s to the 1990s, through various phenomena, including subcultures. By doing so, students will develop the ability to: (1) formulate hypotheses about the nature and characteristics of Japanese society; (2) cultivate an analytical perspective on the causal relationships within history; and (3) acquire alternative viewpoints and ways of interpreting events.

授業の内容 / Course Contents

私たちは今、どんな社会に生きているのでしょうか？複雑化する現代社会、そして世界情勢。その中で日本は時に「ガラパゴス」などとも呼ばれ、様々な意味で諸外国とは異なる「空気」の中にあるかのように表現されることも多いのはご存知の通りです。日本社会の底に流れる思考様式には、何か独特なものがあるのでしょうか？それを解く為に、意識を過去へと飛ばし、現代との対話を試みませんか？戦後の日本社会の変遷を、特に 60 年代から 90 年代の変化に焦点を当てて考えます。サブカルチャーを含む様々な文化的な要素を、残された映像や言葉を通して味わい、時代の「空気」を解読する試みです。戦後の日本人の「自画像」、日本人の「無意識」を読み解き、今これからの社会を考える手がかりをつかむ為の思考の旅に出ましょう。今当たり前に感じる光景から新たな意味を引き出し、歴史や社会を見る遠近法が少しでも変わる体験を皆さんとご一緒にできればうれしく思います。

"What kind of society do we live in today? In the complex modern society and global circumstances, Japan is sometimes referred to as "Galapagos," suggesting a unique atmosphere that differs from other countries in various ways. Are there distinctive thought patterns underlying Japanese society?

To unravel this, why not shift our awareness to the past and attempt a dialogue with the present? We will contemplate the transformations in post-war Japanese society, with a particular focus on the changes from the 1960s to the 1990s. This endeavor involves experiencing various cultural elements, including subcultures, through remaining images and words, attempting to decode the "atmosphere" of the times.

Let's embark on a journey of thought to decipher the "self-image" and "unconscious" of post-war Japanese people, grasping clues to contemplate the society that lies ahead. I hope that together, we can derive new meanings from seemingly ordinary scenes and share experiences that may alter our perspective on history and society, even if only slightly."

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:イントロダクション 日本社会とは？日本にあってサブカルチャーの可能性とは？
【2】:60 年代①「青春残酷物語」と「ニッポン無責任時代」

- 【3】:60年代②「天才バカボン」と「につぼん昆虫記」
 【4】:60年代③「任侠映画」と「日本の思想」
 【5】:70年代①モーレツからビューティフルへ
 【6】:70年代②オカルトブームと「仁義なき戦い」
 【7】:70年代③ニューファミリーと「モラトリアム人間の時代」
 【8】:80年代①YMOと「おいしい生活」
 【9】:80年代②お笑いブームとコムデギャルソン論争
 【10】:80年代③トレンドドラマと「構造と力」
 【11】:90年代①バブルの余韻の中で
 【12】:90年代②95年という「切断」
 【13】:90年代③「戦後日本社会」とは？
 【14】:まとめ サブカルチャー的な思考から見えてくる「この国」の形

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

講義で扱う事象、文献など受講生の皆さんに時にリサーチと報告も行ってもらい、そこから議論を深めていく予定です。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義、映像で扱う事象、文献などについて、一部受講生の皆さんにその背景などをリサーチしてもらい、その報告をきっかけに議論を深めていくことも予定しています。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義内での小レポート／報告:30% 講義内での討議への参加:40% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

丸山眞男 『日本の思想』 岩波新書 1961
 小此木啓吾 『モラトリアム人間の時代』 中公文庫 2010
 浅田彰 『構造と力』 ちくま学芸文庫 2023

参考文献 / Readings

丸山俊一 『ハザマの思考』 講談社 2025
 丸山俊一 『14歳からの個人主義』 大和書房 2021
 丸山俊一 『結論は出さなくていい』 光文社新書 2017

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

必修ではありませんが、「VM365 コミュニティデザイン学演習65(映像ジャーナリズム論)」も併せて履修されると、さらに理解が立体的になると思います。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回、パソコン、イヤホンを携帯してもらえるとありがたいと存じます。

その他 / Others

初回受講生の皆さんと対話し、それぞれの学びの背景、目指す目標などを確かめた上で、講義の進め方など調整していきたいと考えます。

また、研究科の学事・行事(報告会、進学相談会等)と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることがあります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究5A

Special Topics:Social Design 5A
(当事者臨床論)

西井 開(NISHII KAI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM175
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

メンタルヘルスの不調、精神疾患、依存症、暴力性。こういった心理的・精神的な事象はひとりでの発生するわけではない。社会や環境との接続の中で、心理的課題がどのように生じていくのか、そのメカニズムと、解決するための臨床的なアプローチにかんして探求していく。

Mental health problems, mental illness, addiction, and violence. These psychological and spiritual events do not occur by themselves. In this course students explore how psychological issues arise in connection with society and the environment, their mechanisms, and clinical approaches to solving them.

授業の内容 / Course Contents

さまざまな心理的課題にかんして、社会構造や環境との関連で把握する視点を養うために、精神疾患を持つ当事者や社会的マイノリティの当事者の経験や、関連する文献、論文を検討する。また、実際に当事者臨床を展開している専門家の方のゲストレクチャーやグループワークを通して実践的な学びを身につける。

In order to develop a perspective that understands various psychological issues in relation to social structure and the environment, this course examines the experiences of people with mental illnesses and social minorities, as well as related literature and papers. Students also acquire practical learning through guest lectures from experts who are actually developing clinical practice for people with mental illnesses and group work.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション、「当事者」とは誰か
- 【2】: 当事者運動、当事者研究、精神病理の社会構築性
- 【3】: グループワーク①当事者研究の実践
- 【4】: 社会構造とメンタルヘルスの関連性
- 【5】: 精神科診断によらないアプローチとしての PTMF 理論①
- 【6】: 精神科診断によらないアプローチとしての PTMF 理論②
- 【7】: 加害と被害の臨床論①ハラスメント、DV
- 【8】: 加害と被害の臨床論②加害者プログラム
- 【9】: グループワーク②暴力に抵抗するためのアクション
- 【10】: 災害とメンタルヘルス
- 【11】: ゲストレクチャー①
- 【12】: アディクションとは何か
- 【13】: ゲストレクチャー②
- 【14】: グループワーク③ふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業の最後に指示する文献や論文を読み、予習をしておくこと。その次の授業にて取り上げ、グループでディスカッションをする。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内で指示する提出物(リアクションペーパーなど):20%

テキスト / Textbooks

授業中適宜必要な文献を指定する。

参考文献 / Readings

中西正司／上野千鶴子 当事者主権 岩波書店 2003 9784004308607

メアリー・ボイル／ルーシー・ジョンストン 精神科診断に代わるアプローチ PTMF 北大路書房 2023 9784762832154

綾屋紗月／熊谷晋一郎 つながりの作法 NHK 出版 2010 9784140883358

その他 / Others

当事者の抱える臨床的な課題には明確な答えはなく、教員自身も正解を知っているわけではない。この授業では教員と院生が、双方向的なやりとりを通して課題の発見と解決を深めていくため、受講生には積極的な参加を求める。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究6A

Special Topics:Social Design 6A
(公共と市民社会)

亀井 善太郎 (KAMEI ZENTARO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM176
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

市民社会をテーマとした社会科学の古典等のテキストを用いた「対話」を通じて、市民(あなた自身)が社会課題に向き合うこと、その解決を担うこととはどういうことなのか、その意義を明らかにする。

社会デザインの前提とも言える「市民社会」については、ややもすればステレオタイプ的あるいは感覚的な理解に留まりがちだが、これに関する古典に立ち返ることを通じて、市民と政府の関係、社会との関係を考える機会とする。

併せて、現代における市民社会が目指していく方向の一つの具体例として、市民自らが地域社会の基本的なルール(法令)を作成した事例を採り上げ、その理念や構造等を学び、自らが社会に対して提言をする基本姿勢を作っていく。

Through "dialog" using texts on social science classics, etc. on the theme of civic society, we will clarify the meaning of what it means for citizens (yourself) to face social issues and to be responsible for their solutions.

Regarding "civic society" which can be regarded as a premise of social design, people tend to stick with stereotypes or intuitive understanding if anything, but this course will be an opportunity for students to think about the relationship of citizens with government and society.

At the same time, as a concrete example of the direction that civic society in the present day aims for, we will take up the case where citizens themselves have created the basic rules (laws) of the local community, and learn their principles and structures, to create a basic position from which students will be able to make recommendations.

授業の内容 / Course Contents

前半は、市民社会の基本的な考え方を理解するため、デモクラシー(民主制)、独立した個人、市民社会の構造等について書かれた古典を読み、受講者相互の対話を通じて、社会と個人の関係を明らかにする。

後半は、そうした理念と優れた実践の積み重ねの集大成とも言える、自治基本条例の先進地である北海道ニセコ町における住民自治の事例を採り上げ、その背景にある考え方や具体的な条文への展開および構造等について、また、条例がその後のまちづくりにどのような影響をもたらしているのかを見ていく。

In the first half, in order to understand the basic way of thinking about civic society, students will read the classics written on democracy, independent individuals, and civic society structure, etc. and identify relationships between society and individuals through dialog among students.

In the second half, we will take up the case of resident autonomy in Niseko Town, Hokkaido, which is an advanced area for autonomy basic ordinances, and which can be said to be a culmination of the accumulation of such principles and good practices. We will look at the development and structure, etc. of the way of thinking and concrete articles behind this case, and what kind of influence the regulations have had on subsequent community development.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション(「小さな政府、大きな社会」等、民による政策提言を必要とする背景等の基本認識の整理)

【2】: デモクラシー①(自由と平等、個人主義による危機、アソシエーションの価値、地方政治の意義、陪審制、社会に関

わる意義等)

【3】: デモクラシー②(自由と平等、個人主義による危機、アソシエーションの価値、地方政治の意義、陪審制、社会に関わる意義等)

【4】: デモクラシー③(自由と平等、個人主義による危機、アソシエーションの価値、地方政治の意義、陪審制、社会に関わる意義等)

【5】: 独立した個人が作る社会像(独立とは何か、社会との関係等)

【6】: 独立した個人の意味(独立した考え、市民社会における個人像等)

【7】: 理想社会の実現(理想社会をどこに置くのか等)

【8】: 正義とは何か(正義のあり方、分配をめぐる考え方等)

【9】: 市民政府論(市民と政府の関係等)

【10】: 自治からつくるまち①(まちづくり基本条例から考える自治等)

【11】: 自治からつくるまち②(まちづくり基本条例から考える自治等)

【12】: 自治からつくるまち③(まちづくり基本条例から考える自治等)

【13】: 住民自治の実践例(実践者による講義、対談)

【14】: 民が担う政策提言の実践に向けて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定	○				

「授業の内容」に書いたとおり。前半は、市民社会の基本的な考え方を理解するため、デモクラシー(民主制)、独立した個人、市民社会の構造等について書かれた古典を読み、受講者相互の「対話」(ディスカッション・ディベートではない)を通じて、社会と個人の関係を明らかにする。

後半は、そうした理念と優れた実践の積み重ねの集大成とも言える、自治基本条例の先進地である北海道ニセコ町における住民自治の事例を採り上げ、その背景にある考え方や具体的な条文への展開および構造等について、また、条例がその後のまちづくりにどのような影響をもたらしているのかを見ていく。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト・文献については、授業時の対話において積極的に発言できるよう、事前によく読んでおくことが求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業・演習時における発表、他の参加者に対する貢献:100%

3/4以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

採り上げる文献・テキスト等としては、以下の著作を予定している。

いずれの文献も PDF ファイルにて授業支援システムにアップするので、対話で発言できるよう、しっかり読んでおくこと。亀井「企業は社会の公器」(イントロダクション)、トクヴィル「アメリカのデモクラシー」、福沢諭吉「学問のすすめ」、ロック「市民政府論」、木佐茂雄・片山健也ほか「自治基本条例は活きているか!?!—ニセコ町まちづくり基本条例 10 年」他

参考文献 / Readings

その他 / Others

秋学期の「政策立案・評価」は、アドボカシーやその前提となる政策立案や評価に関する理論や方法を学ぶが、本授業では、その基礎となるデモクラシーや社会における意思決定のあり方(統治機構)について、各種テキストを対話形式で読み重ねることを通じて、理解を深める。

研究科の学事・行事(報告会、進学相談会等)と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる場合がある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究7A

Special Topics:Social Design 7A

中野 佳裕 (NAKANO YOSHIHIRO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM177
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、社会デザイン学の先端分野の一つであるトランジション・デザインについて学ぶ。特に欧州を中心に議論が進む脱成長／ポスト成長論の研究動向を整理・検証する。

This course examines Transition Design, one of the latest research areas in social design studies. In particular the course investigates the European debate on degrowth / post-growth, scrutinizing its research trend as well as theoretical and methodological orientations.

授業の内容 / Course Contents

毎週の演習では、脱成長／ポスト成長論に関する主要な英語論文(1～2本)を読み、当該分野に関する問題群や研究方法を議論する。科学認識論、エコロジー経済学、政治経済学、人類学、社会関係資本、科学・技術・社会(STS)、エコフェミニズムなど幅広いアプローチを網羅する。

Students will read key research articles on degrowth or postgrowth every week and discuss related research agendas and methods in the classroom. The reading materials cover a variety of approaches including historical epistemology, ecological economics, political economy, anthropology, social capital, STS, ecofeminism, and others.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction: What is transition design?
- 【2】:Renewal of eco-politics in the Anthropocene
- 【3】:What is degrowth? A short history and key research agendas
- 【4】:Ecological economics approach
- 【5】:Social capital approach
- 【6】:Decolonial approach
- 【7】:Ecofeminist approach
- 【8】:Innovation without growth
- 【9】:Food for degrowth
- 【10】:Discourse theory and degrowth
- 【11】:Traditional popular culture
- 【12】:State and degrowth
- 【13】:Infrastructure and degrowth
- 【14】:The future of degrowth/post-growth research: problems and perspectives

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド*(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎週の課題論文を事前に読み、議論の準備をすること。(Students are required to read indicated reading materials and prepared for in-class discussion and presentation.)

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内プレゼンテーション:40% 議論への参加:40% 出席:20%

テキスト / Textbooks

教科書は指定しない。講師が各回に必要な課題論文を事前に配布する。(No textbook is specified. Lecturer provides reading materials every week.)

参考文献 / Readings

ラトゥーシュ, S. 脱成長 白水社クセジュ文庫 2020

松田毅・藤木篤・新川拓哉 応用哲学 昭和堂 2023

カリス, G. 他 なぜ、脱成長なのか NHK 出版 2021

Kallis, G. et al. The case for degrowth Polity 2020

ヒッケル, J. 資本主義の次に来る世界 東洋経済新報社 2023

Hickel, J. Less is more: how degrowth will save the world Penguin 2022

Schmelzer, M. et al. The future is degrowth Verso 2022

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

(1) 当該分野の英語論文を読むのに十分な英語力を有していること。(Students are expected to have a good ability of reading academic literature in English.)

(2) 当該分野に関して専門的な議論を行えるだけの基礎知識を有していること。(Students are expected to have basic knowledge about the subject topic.)

その他 / Others

国際的な研究動向の変化に応じて扱うトピックを若干変更する場合がある。

社会デザイン学主題別研究8A

Special Topics:Social Design 8A
(権利と法と科学:持続可能社会のガバナンス)

滝口 直樹 (TAKIGUCHI NAOKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM178
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、持続可能な社会作りを支える重要な3つの概念である権利、法、科学について、国際社会、政府や市民のガバナンスと関わらせて理解を深めることを目標とする。

This course aims to deepen the understanding on on rights,law and science for sustainable society.These three are important factors for the governance for international society, governments and civil society.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、権利と法と科学と題し、持続可能な社会作りを支える重要な3つの概念について検討を深める。一人一人が尊重される権利を持ち、その実現のための仕組みとして法がある。一方、現代社会は環境問題や健康問題をはじめ、科学をベースとした分析、取り組みが不可欠になっている。社会の仕組みである権利や法の考え方と科学との関わりについて、国際社会、政府、企業、市民の間のガバナンスとして議論する。なお、授業で扱うテーマ、その扱う順序は受講生の関心事など踏まえて変更することがあり得る。

In this course, we will review three important factors for sustainable society, namely rights,law and science.We all have human rights and they should be respected, Law is the important guardian of rights. On the other hands, the modern society relies on scientific analysis and measures. We will discuss on the governance among international society, governments, private companies and citizens. The theme of each session may change according to the participants' interests.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

今日の経済社会における権利、法、科学の役割についてブレインストーミングをする。

【2】: 具体的事例検討①

公害問題への取組における、権利と法と科学の関わりを検討する。

【3】: 具体的事例検討②

自然環境問題への取組での権利、法、科学に関わりを検討する。

【4】: 1992年リオサミット、その後の国際的枠組での扱われ方

リオ宣言、アジェンダ2において、権利、法、科学がどう扱われ、国際的な持続可能な取り組みの中で展開してきたかを検討する。

【5】: 権利的アプローチと環境権

環境問題への取り組みにおける「人の権利」の扱いについて検討する。

【6】: 自然の権利、動物の権利

自然や生態系、動物にも「権利」を認める考えについて、NPOの活動、海外の事例なども踏まえて、検討する。

- 【7】:持続可能な社会作りにおける法律の役割
法律が持続可能な社会作りに果たしてきた役割について検討する。
- 【8】:裁判と持続可能な社会
公害訴訟をはじめとする裁判が、持続可能な社会の形成に果たしてきた役割、可能性について検討する。
- 【9】:国際法と持続可能な社会作り
持続可能な開発に関わる各種の国際条約の整備、進展、成果について検討する。
- 【10】:国際経済ルールと持続可能な社会
環境と経済に関わる条約以外のいわゆるソフトロー（ガイドライン、宣言等）が果たしてきた役割と可能性を検討する。
- 【11】:科学的知見、技術と持続可能な社会作り
科学的知見の集積、技術の開発が、持続可能な社会作りに与えた影響（プラスもマイナスも）と今後の可能性について検討する。
- 【12】:科学の限界と持続可能な社会作り
不確実性など科学の持つ限界をどう扱うか、予防原則、リスク管理の考え方に触れながら検討する。
- 【13】:気候正義と、権利・法・科学
持続可能な社会に向け、権利・法・科学の相互関係が最も厳しく表れるのが、気候変動問題への取り組みである。気候正義の観点から、その現状と課題を検討する。
- 【14】:まとめ・クロージング
持続可能な社会づくりと権利・法・科学が果たすべき役割について、今後の方向性を探る。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

持続可能性や環境問題に関する社会、経済の動きを常日頃から意識し、課題と思われる事例、興味を持った事例については背景、関係者の反応/動きなどを観察していくこと。
受講生には、1 回程度、授業内容に合わせ発表してもらうことを予定している。発表については、受講生の状況・関心を踏まえて、授業の中で示す予定。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表、質疑:30% 振り返り:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

環境省 令和 6 年版環境白書 日経印刷株式会社 2024 9784865794144

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

積極的に議論に参加してください。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。
本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究1B

Special Topics:Social Design 1B
(メディア・文化の社会学)

川本 彩花(KAWAMOTO AYAKA)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM181
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、現代社会におけるメディアや文化をめぐる事象・現象について、主に社会学的な視点から学問的／批判的にとらえる知識と思考力を身につけることを目標とします。

The goal of this class is to acquire the knowledge and thinking skills to take an academic and critical view of events and phenomena surrounding media and culture in modern society, primarily from a sociological perspective.

授業の内容 / Course Contents

今日、私たちの身の回りには、様々なメディアや文化があふれています。この授業では、インターネットやそこにおける新たな文化事例・現象、メディア・リテラシー、音楽聴取の変遷など具体的な／身近なトピックを取り上げます。そして、主に社会学的な視点から考察を進めながら、現代社会におけるメディアや文化をめぐる事象・現象について、学問的／批判的にとらえなおすことを行います。なお、受講者の人数等により、授業計画の内容・順序等を一部変更する場合があります。

Now we are surrounded by a wide variety of media and culture. This class will cover specific and familiar topics such as the Internet, communication and new cultural examples on the Internet, media literacy, and the evolution of music listening. The aim is to examine the events and phenomena surrounding media and culture in modern society from a sociological perspective and to rethink them academically and critically. Please note that the content and order of the class plan may change depending on the number of students, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス: 授業のねらいと進め方
- 【2】: メディア・文化とはなにか
- 【3】: インターネットとコミュニケーション①
- 【4】: インターネットとコミュニケーション②
- 【5】: インターネットとコミュニケーション③
- 【6】: 私／私たちとメディア
- 【7】: 中間総括①
- 【8】: メディア・リテラシー
- 【9】: メディアと音楽聴取の変遷①
- 【10】: メディアと音楽聴取の変遷②
- 【11】: 中間総括②
- 【12】: アートと医療・福祉①
- 【13】: アートと医療・福祉②
- 【14】: 授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各講義で指示された課題に取り組むこと。また、レジュメや配布資料等を用いて授業内容を整理・復習し、各自の興味・関心を深めること(各回約4時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への積極的参加:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『新版 社会学』有斐閣 2019 9784641053892

中川眞『人文学のフロンティア 大阪市立大学人文選書4 アートの力』和泉書院 2013 9784757606616

浪田陽子・福間良明編『はじめてのメディア研究[第2版]——「基礎知識」から「テーマの見つけ方」まで』世界思想社 2021 9784790717478

その他の文献は、授業内で適宜紹介します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究2B

Special Topics:Social Design 2B
(文化政策論2)

若林 朋子(WAKABAYASHI TOMOKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM182
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

社会デザインの視点、すなわち、社会との関係性から文化政策を捉え直す。芸術や文化、アートの多様性や創造性が、社会の諸領域とどのように共振し、時代の要請に応答し、あるいは課題提起しているのかを把握し、文化政策の今後の方向性を考える。

Students will reconsider cultural policy from the perspective of social design, that is, the relationship with society. Students will understand how art and culture, art diversity and creativity resonate with social areas, respond to the demands of the times, or pose challenges, and consider the future direction of cultural policy.

授業の内容 / Course Contents

拡張しつつある昨今の文化政策を、文化・芸術・アートと社会の関わりの領域拡大から捉えていく。各回の授業では、「文化、アート×〇〇〇」に該当する現場の実践事例をとりあげ、そうした取り組みの意義を文化政策的観点で考える。各分野の現場で活躍するゲストを招いた講義を行いつつ、ディスカッションで理解を深めていく。

Students will understand the current cultural policies that are expanding from the growth of the area of relationships between culture, art, and society. In each class, we will take practical examples from the field corresponding to "Culture, Art + XXX", and consider the significance of such efforts from a cultural policy perspective. Discussion will be the basic format, and we will also have presentations and lectures from invited guests as appropriate.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 文化政策概論、拡張する文化政策: 文化・アートと社会の関わりの領域拡大／文化・アート×社会包摂①
- 【2】: 文化・アート×社会包摂②【ディスカッション】
- 【3】: 文化・アート×生きづらさ支援①
- 【4】: 文化・アート×生きづらさ支援②【ディスカッション】
- 【5】: 文化・アート×医療・福祉①
- 【6】: 文化・アート×医療・福祉②【ディスカッション】
- 【7】: 文化・アート×障害者支援①
- 【8】: 文化・アート×障害者支援②【ディスカッション】
- 【9】: 文化・アート×まちづくり・多文化共生①
- 【10】: 文化・アート×まちづくり・多文化共生②【ディスカッション】
- 【11】: 文化・アート×防災①
- 【12】: 文化・アート×防災②【ディスカッション】
- 【13】: 文化・アート×介護・高齢者支援①
- 【14】: 文化・アート×介護・高齢者支援②【ディスカッション】、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

コミュニティデザイン学演習 14(文化政策論1)を履修しておくこと、文化政策の背景を理解した上での受講が可能となる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への参画(発言・発表・ディスカッション):100%

毎回のリアクションペーパー(コメント)提出で出席とします

テキスト / Textbooks

特に指定しない(随時紹介する)。

参考文献 / Readings

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究3B

Special Topics:Social Design 3B
(CSR/ESG 金融総論－1)

河口 真理子 (KAWAGUCHI MARIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM183
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

2015 年に成立した SDGs から今年で 10 年となる。残念ながら成立当初の盛り上がりとは裏腹に、世界各地での紛争による地政学リスクの増大、頻発する世界各地の気象災害、それらがエネルギーや食料価格の高騰と移民難民問題の深刻化をもたらしている。その結果 SDGs のゴール達成は遠のいている。一方で、SDGs が目指した経済社会の在り方、ビジネス界金融界の意識の転換の流れは逆に加速している。岸田内閣が標榜した「新しい資本主義」は、単なる流行言葉ではなく 20 世紀型資本主義の変容、転換を示すと考える。人々の意識もそうであるが、資本主義の根幹である企業の目的や投資家の求める成果が変容しつつある。財務価値に加えてサステナビリティなどの非財務価値を経営課題に取り組む動きは、一部の投資家や経営者の自主的な取り組みとして今世紀初頭から広がり始めたが、2020 年以降はグローバルな金融制度や上場基準に組み込む動きが進んでいる。こうした経営や投資をサステナブル経営、サステナブルファイナンスといわれる。本講義では、新たな資本主義への転換がなぜ生まれたのか、解決すべき社会課題とはなにか？ 新たな企業経営と金融の在り方はどうなるのか、企業の立場、投資家の立場に立って考察していく。

This year marks 10 years since the SDGs were established in 2015. Unfortunately, despite the excitement at the time of its establishment, the increase in geopolitical risks and the frequent extreme weather disasters around the world have led to soaring energy and food prices and a worsening problem of immigrants and refugees. As a result, the achievement of the SDGs seems far from being achieved.

On the other hand, the trend of changing the consciousness of the economic society and the business and financial community, which is the goal of the SDGs, is accelerating. I believe that the "new capitalism" advocated by the Kishida Cabinet is not just a buzzword, but represents the transformation of 20th-century capitalism. The purpose of corporations, which are the foundation of capitalism, are now changing from maximizing shareholders returns. The movement to address non-financial values such as sustainability on management issues began to spread at the beginning of this century as a voluntary initiative by some investors and managers, but since 2020, there has been a movement to incorporate them into the global financial system and listing standards. This kind of management and investment is called sustainable management and sustainable finance. In this lecture, we will discuss why the shift to a new form of capitalism was born and what social issues need to be solved. We will consider what the new form of corporate management and finance will be from the standpoint of companies and investors.

授業の内容 / Course Contents

新たな資本主義と期待されるステークホルダー資本主義においては、気候変動などの社会課題解決が企業の目的となる。本講座では、そもそも SDGs の S(サステナビリティ=持続可能性)の考え方を理解し環境の持続可能性、社会の持続可能性について主要な課題について概観する。そして、現在のグローバル社会を持続可能に転換させるシステム SDGs とパリ協定などの国際的なイニシアチブの目的と進捗について理解を深める。それを受けて、ビジネスの在り方(CSR・ステークホルダー資本主義)と金融(ESG 金融)の取り組みについて様々な観点から考察する。なお、本コースは VM353 と

連動しているので、セットで受講することが望ましい。

Stakeholder capitalism, which is regarded as new and sustainable capitalism, will require business to solve social issues such as climate change, as their purpose of corporate activities. In order to understand such transformation, we must first ask what is the meaning of sustainability represented by SDGs? In this course we will go over the major environmental and social issues, and study about the role of the international initiatives such as SDGs and Paris Agreement, both of which are intended to transform our society. We will also study the missions and roles of business sector and also of finance to make the society more sustainable.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション:サステナビリティからウェルビーイングへ。サステナビリティ SX とはなにか? 更にその先のウェルビーイングとは何か?
- 【2】:持続可能でない社会課題1:環境問題(気候変動、生物多様性、サーキュラーエコノミー 有害化学物質)
- 【3】:持続可能でない社会課題2:人権問題
- 【4】:社会転換へのイニシアチブ SDGs、パリ協定、生物多様性
- 【5】:新たな資本主義と企業倫理
- 【6】:CSR 経営1 CSR の歴史、定義
- 【7】:CSR 経営2 環境経営
- 【8】:CSR 経営3 人的資本経営
- 【9】:CSR とコミュニケーション
- 【10】:ソーシャルファイナンス
- 【11】:ESG 金融 歴史と意義
- 【12】:ESG 評価
- 【13】:ESG 投資の実際
- 【14】:サステナブルなビジネスと金融の未来

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

VM353とセットで受講することが望ましい

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

リアクションペーパーの提出

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパー:25% 授業態度:25%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 岩井克人『資本主義から市民主義へ』ちくま文庫 2014 9784480096197
- 河口真理子『ソーシャルファイナンスの教科書』生産性出版 2015 97848201204380036
- 高巖他『CSR 企業価値をどう高めるか』日本経済新聞社 2004 9784532311810
- 塚越寛『いい会社をつくりましょう』文屋 2004 49900858760034
- 谷本寛治『SRI 社会的責任投資入門』日本経済新聞社 2003 4532350506
- 名和高司『パーパス経営』東洋経済出版社 2021 9784492534366
- 水口剛『ESG 投資』日本経済新聞出版社 2017 9784532357443

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究4B

Special Topics:Social Design 4B
(経済学と人間学)

丸山 俊一 (MARUYAMA SHUNICHI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM184
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

(1) 不透明感を増している資本主義、その本質をつかむ。(2) 歴史上の経済学、社会思想の巨人たちの発想のエッセンスを理解する。その上で、人間の本質と現代の経済、社会の構造との関係性を探究する。

"The objectives of the course are: (1) To grasp the essence of capitalism, which is becoming increasingly opaque. (2) To understand the essence of economic thought and social ideas from historical giants in the field. Subsequently, to explore the relationship between human nature and the structures of contemporary economics and society."

授業の内容 / Course Contents

現代の経済学と人間に関わる問題の本質を、欲望、市場、合理性などをキーワードに、多角度から考えていきます。その時、人間の居場所はどこにあるのか？システムが強大化し、人々の疎外感が高まっているかに見える現代社会にどこからどのようにアプローチすべきか？かつての「経済学の巨人」たちの思想の可能性を探究し、併せて社会学、哲学など社会思想のフレームでも問題を捉え直すことで、大きな視野で現代社会の構図の読み解きを目指します。「経済学の父」アダム・スミスの真意はどこにあったのか？ ケインズ、マルクス、シュンペーター、ハイエク、ヴェブレンなど、巨人たちの思想を吟味、現代的な意義を考えます。「経済」という事象も、人と社会と時代が織りなす「物語」として捉え直す時、新たな光景が広がります。人と経済と、人と社会の関係の再構築の為に、皆さんと一緒に考える機会となれば幸いです。

"We will explore the essence of contemporary economics and issues related to human beings by examining concepts such as desire, the market, and rationality from multiple perspectives. At this juncture, where does the place of humans lie? How should we approach the seemingly escalating alienation in modern society, where systems are becoming more powerful?

By delving into the possibilities of the thoughts of past 'giants of economics' and reconsidering issues through the frameworks of sociology, philosophy, and other social sciences, we aim to decipher the composition of contemporary society with a broad perspective. Where did the true intention of the 'father of economics,' Adam Smith, lie? We will critically examine the ideas of giants such as Keynes, Marx, Schumpeter, Hayek, Veblen, and contemplate their contemporary significance.

When we reinterpret the phenomenon of 'economics' as a narrative woven by individuals, society, and the times, new perspectives emerge. I hope that this will be an opportunity for us to think together about the reconstruction of the relationships between individuals and economics, as well as individuals and society."

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション 「経済」とは？「近代経済学」とは？今資本主義が直面する問題
- 【2】: 「アダム・スミスは間違っていた？」「経済学の父」の真意は？

- 【3】:「ケインズの発想に今何を学ぶ？」大衆社会の本質を考察したその着想の本質は？
 【4】:「マルクスの可能性をどこに見出す？」“革命家”ではなく哲学者としてのマルクス
 【5】:「シュンペーターの預言」イノベーションの提唱者が見抜いていた社会構造の変化
 【6】:「ハイエクが市場に賭けた真意」「新自由主義の教祖」の素顔
 【7】:「ヴェブレン“異端”の眼差しが捉えていた真理」逆説の経済と人間
 【8】:「再びスミスへ“見えざる手”を可視化する時」あらためて欲望とは？
 【9】:マルクス・ガブリエル「倫理資本主義」の可能性
 【10】:無形資産／AI／ポスト産業資本主義 時代の経済と人間
 【11】:中間報告／ディスカッション 現代資本主義の可能性と限界 人間の行方
 【12】:デジタル経済時代の倫理と貨幣論
 【13】:20世紀アメリカ型資本主義と大衆社会論の系譜
 【14】:まとめ 最終報告とディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

時に、講義で扱う事象、文献など受講生の皆さんにリサーチと報告を行ってもらい、そこから議論を深めていく予定です。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義内での小レポート／報告:30% 講義内での討議への参加:40% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

丸山俊一 これからの時代を生き抜くための資本主義入門 辰巳出版 2025

丸山俊一 14歳からの資本主義 大和書房 2017

丸山俊一 働く悩みは「経済学」で答えがみつかる SB 新書 2022

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義の際は、パソコン、イヤホンを携帯していただけましたら幸いです。

その他 / Others

初回受講生の皆さんと対話し、それぞれの学びの志向性、背景、目指す目標などを確かめた上で、講義の進め方など柔軟に調整していきたいと思います。

また、研究科の学事・行事(報告会、進学相談会等)と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることがあります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究5B

Special Topics:Social Design 5B
(子どもと若者の社会福祉論)

西井 開(NISHII KAI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM185
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、社会の中で何かしらの困難を抱える当事者の問題を、コミュニティデザイン学演習3(当事者臨床論)に引き続き扱い、とりわけ子どもや若者の課題や、問題解決の方法について取り上げる。授業で得た知見を活かして、当事者をめぐる様々な社会課題について自ら探索していく姿勢を身につける。

This course continues to deal with the issues of people who have difficulties in society, and in particular, focuses on the issues and methods of solving problems for children and young people. By utilizing the knowledge gained in class, students learn to take the initiative in exploring various social issues surrounding people.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、貧困や学力不振、ひきこもりや不登校といった子どもや若者が抱える課題について具体的な事例をもとに理解を進めていく。ゲストレクチャーも実施する。春学期のコミュニティデザイン学演習3(当事者臨床論)の授業で身につけた知見も合わせて、社会福祉的課題を一つ選び、グループで検討・発表を行う。

This course deepens our understanding of the issues faced by children and young people, such as poverty, poor academic performance, hikikomori and school refusal by dealing with case study and guest lectures. Using the knowledge gained in the first semester, students choose one social welfare issue and study it in groups.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス、子どもの権利
- 【2】: 子どもと貧困、困窮者支援
- 【3】: 子どもと障害、障害者運動
- 【4】: 若年層とLGBTQ+①
- 【5】: 若年層とLGBTQ+②
- 【6】: ゲストレクチャー
- 【7】: 不登校、ひきこもり①
- 【8】: 不登校、ひきこもり②
- 【9】: ゲストレクチャー
- 【10】: 子どもと虐待
- 【11】: 社会的擁護とライフストーリーワーク
- 【12】: グループワーク①課題の探究
- 【13】: グループワーク②問題解決の手段
- 【14】: グループワーク③発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業の最後に指示する文献や論文を読み、予習をしておくこと。その次の授業にて取り上げ、グループでディスカッションをする。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内で指示する提出物(リアクションペーパーなど):20%

テキスト / Textbooks

授業中適宜必要な文献を指定する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

この授業では教員と院生が、双方向的なやりとりを通して学びを深めていくため、受講生にはグループディスカッションなどへの積極的な参加を求める。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究6B

Special Topics:Social Design 6B
(対話と社会デザイン)

亀井 善太郎 (KAMEI ZENTARO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM186
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

社会課題を巡ってはさまざまな見方が社会に存在しているが、すべてのステークホルダーから見た真の課題認識とその解決はきわめて困難なのが現代の実情だ。

しばしば「対話」の重要性が説かれるが、私たちは「対話」の本当の意味を理解しているだろうか。そして、その意味を我が身のものとして日々実践できているだろうか。日本人は対話を重ねるのが苦手だというのが本当だろうか。対話と議論の違いは具体的になんだろうか。

「対話」をテーマとした古今東西のテキストを題材に、実際に「対話」を体験することを通じて、現代の社会課題に向き合うために不可欠な「対話」とは何か、その本質を探り、身体感覚としての「対話」を自分のものにするプロセスを経ることを目的とする。

There are various views regarding social issues in society, but it is the reality of today that it is extremely difficult to realize the real issues and solutions from the perspective of all stakeholders.

Although the importance of "dialog" is often described, do we understand the true meaning of "dialog"? And can we practice that meaning in our own everyday lives? It is true that Japanese people are not good at building up dialogs? What is the difference between dialog and discussion specifically?

Based on texts from all times and places on the theme of "dialog" as the subject, the aim of the course is to ask what is the essential "dialog" to face contemporary social problems by actually experiencing "dialog", search for the essence, and go through the process of making "dialog" one's own via the physical senses.

授業の内容 / Course Contents

「対話」をめぐる古今東西のテキストを一緒に読みながら、対話に求められること、対話の本質等を明らかにする。なにより、「対話」は、ある種の身体感覚を伴うものであり、自ら体験するしかない。

また、「対話」を通じた社会課題解決についても考える機会を設け、現代社会における課題の本質を明らかにすると共に、「対話」をもって臨む社会課題への向き合い方についても考えていきたい。

While reading texts on "dialog" from all times and places together, we will clarify what is required for dialog and the essence of dialog, etc. Above all, "dialog" involves some kind of physical sensation, and you have to experience it for yourself.

In addition, we would like to provide opportunities to consider about social problem solution cases through "dialog", clarify the essence of the problems in modern society, and think about how to deal with social issues through "dialog".

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:総論(いまなぜ「対話」が求められているのか、小さくなる社会と分断・・・)
- 【2】:考えること、感じること(小林秀雄『美を求める心』から)
- 【3】:対話とは何か(猪木武徳『自由をめぐる思想史』から)

- 【4】:対話とは何か(猪木武徳『自由をめぐる思想史』から)
 【5】:対話のエッセンス、作法等(モンテーニュ『エッセー』から)
 【6】:よく「聴く」ことを考える(鷺田清一『「聴く」ことの力』から)
 【7】:よく「聴く」ことを考える(鷺田清一『「聴く」ことの力』から)
 【8】:日本における対話の源泉(宮本常一「忘れられた日本人」から)
 【9】:コミュニケーションとは(デヴィッド・ボーム『ダイアログ:対立から共生へ、議論から対話へ』)
 【10】:対話とは(デヴィッド・ボーム『ダイアログ:対立から共生へ、議論から対話へ』)
 【11】:自己との対話、考え続けることの意味(映画『ハンナ・アーレント』、アーレントの著作から)
 【12】:対話とは何だろうか①、対話を社会課題の解決に活かすとはどういうことだろう
 【13】:対話とは何だろうか②、対話を社会課題の解決に活かすとはどういうことだろう
 【14】:対話とは何だろうか③、対話を社会課題の解決に活かすとはどういうことだろう

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定	○				

授業のタイトルのとおり、「対話」を実践する。いわゆるディスカッションやディベートとは異なる。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。対話で用いるテキスト(上記文献の抜粋、各回 20～30 ページ程度)は PDF ファイルの形で Canvas LMS にアップする。

文献・テキストについては、対話において積極的に発言できるよう、事前に熟読しておくことが求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業・演習における発表や他の発言者への貢献等:100%

3/4以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

授業計画のとおり。

参考文献 / Readings

採り上げる文献は上記授業計画にあるものを予定している。小林秀雄『美を求める心』、猪木武徳『自由の思想史』、鷺田清一『聴くことの力』、モンテーニュ『エッセー』、宮本常一『忘れられた日本人』、デヴィッド・ボーム『ダイアログ:対立から共生へ、議論から対話へ』、ハンナ・アーレントを扱った映画等を採り上げる。対話の材料とするテキストについては、PDF ファイルで事前に授業支援システムにアップする。

その他 / Others

研究科の学事・行事(報告会、進学相談会等)と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる場合がある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究8B

Special Topics:Social Design 8B
(持続可能社会と地域ガバナンス)

滝口 直樹 (TAKIGUCHI NAOKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM188
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

人口減社会、グローバル化の中で地域が持続可能になるとはどういうことか。経済、社会、環境の視点から検討し、21 世紀の地域の持続可能性について考え、取り組んでいく糸口を探る。

Participating students will study sustainability of local communities, which suffer from population decrease and globalization, from points of view on economy, society and the environment.. Participants will obtain clues for investigating and implementing sustainability of local communities of 21 century.

授業の内容 / Course Contents

持続可能性を身近に体感できるのは、わたしたちが生活、生業を営む「地域」においてである。この地域は、人口減、気候変動自体やカーボンニュートラルなど気候変動対策によって、地域の生活、生業の基盤が変わろうとしている。その変化に対し、地域の人たちは、主体的に立ち向かうか、変化に流されていくか。取組の方向性、取り組む主体など地域のトランスフォーメーションの位相を検討し、変化の時代の地域ガバナンスのあり方を探る。

なお、授業で扱うテーマ、その扱う順序は受講生の関心事など踏まえて変更することがあり得る。

We can understand "sustainability" with reality in the communities where we live and work. The communities are changing because of various challenges such as population decrease, climate change and the measures to combat it. Will local people succeed in fighting for changes or be swept away by them? We will analyze the situation of local changes, and try to figure out good local governance in transition..

The themes and order of the course schedule may change according to the interests and questions of the participants.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

地域とは何か、地域の持続性とは何か。地域開発の歴史を踏まえ、地域の今を考える。

【2】: 地域の持続性①人口

人口減とは何なのか、その地域社会に与える影響を検討する。

【3】: 地域の持続性②自然資源

自然資源の考え方を踏まえ、環境、自然からみた地域の持続性を考える。

【4】: 地域の持続性③地域経済

地域経済について、何がどのように回っているか、検討する。

【5】: 地域ガバナンス①地域振興政策

地域活性化、地方創生など、地域向けの振興政策の歴史と現在、持続可能性への貢献について考える。

【6】: 地域ガバナンス②国立公園/自然遺産地域

自然資源を利用した活性化 国立公園や世界自然遺産を活用した地域づくりについて考える。

【7】: 地域ガバナンス③脱炭素

カーボンニュートラル、脱プラスチック時代の地域のあり方について考える。

【8】: 地域ガバナンス④人材育成

地域を担う人材育成について、考える。

【9】: 地域ガバナンス⑤インフラストラクチャーと持続性

水道/下水道、道路などのインフラが地域のガバナンス維持に果たす役割、老朽化等によるその基盤の揺らぎを考える。

【10】: 地域のステークホルダー①地方自治体

地方自治体が地域の持続性確保に果たす役割を、ビジョンづくり、総合計画、プラットフォーム提供などを通して考えてみる。

【11】: 地域のステークホルダー②市民団体

地域で公的な役割を果たす市民団体について、現状と今後の展開を考える。

【12】: 地域のステークホルダー③ビジネス

ビジネス(企業、ベンチャーなど)は地域の持続性に貢献するのか、損なうのか考える。

【13】: 地域のステークホルダー④研究者

専門家、研究者、高等教育/研究機関が地域の持続性確保のために果たす役割について考える。

【14】: まとめ・クロージング

再度、地域の持続可能性について、検討し、21世紀の地域のあり方を考え直してみる。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

地域活性化、地方振興など、地域を「元気に」しようとしている政策、活動を日頃からフォローし、地域の持続可能性の観点からどう評価できるか考察してみる。

受講生には、1回程度、授業内容に合わせ発表してもらうことを予定している。発表については、受講生の状況・関心を踏まえて、授業の中で示す予定。

その他必要な事柄は授業内で提示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 振り返り:30% 発表、質疑など:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

環境省 令和6年版環境白書 日経印刷 2023 9784865794144

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

議論に積極的に参加すること。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究11A

Special Topics:Social Design 11A
(自然科学の方法)

大熊 玄(OKUMA GEN)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM271
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

(1)「自然」に関する“哲学的”文章を読み、多様な「自然」についての基礎知識と思考方法を身につけること。(2)各々の思想について簡単に説明・批評ができるようになること。また、(3)それらを援用または批判することで、自らの問題意識に合わせた説得力のある意見を述べる技能を身につけること。

(1) To acquire basic knowledge and thinking about various types of “shizen(nature)” by reading “philosophical” texts on “shizen(nature)”. (2) To become able to briefly explain and comment on each thought. Also, (3) To acquire the skills to express persuasive opinions in line with the student’s own awareness of problems by using or criticizing other theories on “shizen(nature)”.

授業の内容 / Course Contents

私たちの社会は、人と人との関わりだけでなく、人と自然との関わりの中で成り立っていると言える。しかし、そもそも自然は、人と「と」で結ばれるような「別の何か」なのだろうか。自然を「人とは別の利用対象や周囲環境」とみなす前提それ自体を検討する必要はないだろうか。自然は、人を含めた生物が生活する「居場所」でもあり、あるいは人を含むすべてであるかもしれない。授業を通してさまざまな視点による「自然」を学び、講師および他の参加者の考えも検討することで、人間と現代社会について考える。

学生は、事前に指定の文章を読み、授業内で講師による解説を聞いて質疑・討議を行い、授業後に簡単なコメントを書く。そのコメントを次の授業でフィードバックし、参加者全員で共有することで、授業を、循環する複方向型の「対話の場」、「知的探求の共同体」としたい。

It can be said that our society is made up not only of human-human relationships but also of human-nature relationships. But is nature, in the first place, “something else” that connects “with” people? Isn’t it necessary to consider the premise itself that nature is “a different object for use or the surrounding environment”? Nature is also the “place to live” where living things including people live, or it may be everything including people. Students will learn about “nature” from various viewpoints through the classes and think about human beings and modern society by examining the thoughts of the lecturer and other participants.

Students must read the designated texts in advance, listen to the commentary by the lecturer in the classes, ask questions and debate, and write brief comments after the classes. By feeding back the comments in the next class and sharing them with all the participants, we hope to make the class a multi-directional and circulatory “place of dialogue” and “community of intellectual inquiry”.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

- 【2】: 星野道夫／本当の野生
 【3】: 寺田寅彦／天災と日本人
 【4】: 桑子敏雄／原生自然と空間の履歴
 【5】: アルド・レオポルド／環境倫理(ランドエシックス)
 【6】: 討議1
 【7】: 日高敏隆／ユクスキュルの環世界・イリュージョン
 【8】: 上野誠／日本人の聖なる自然
 【9】: 鈴木大拙／機心と自然
 【10】: 竹内整一／「おのずから」と「みずから」のあわい
 【11】: 討議2
 【12】: 西岡常一／木のいのち木のころ
 【13】: 内山節／自然と人間の哲学
 【14】: 山尾三省／アニミズムという希望

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習／指定した文章を読んでおき、自らの興味・疑問を整理しておく。

復習／授業を振り返り、コメント(客観＋主観)を送る。

次の授業で扱う箇所についての事前学修、授業後に送付するコメント作成、最終の授業内レポート作成、その他授業内容に関わる自学等によって、授業外に全体で計 60 時間(各回平均4時間)以上の学修を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回の出席とコメント:70% 授業内レポート(最終コメント):30%

テキスト / Textbooks

CanvasLMS 上にアップする。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

対面参加者も、zoom 接続可能な機器(ノートパソコン・タブレット)持参が望ましい。

その他 / Others

第一回目授業「ガイダンス」にて、授業の方針・進め方を説明します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究12A

Special Topics:Social Design 12A
(親密性と現代社会)

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM272
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

家族や友人、恋人などの親密な関係は、現代社会を理解するための重要な要素の一つである。本授業では、親密な関係が近代以降にどのような変化を遂げていて、また現在いかなる状況にあるのかを講義する。そうすることで、主に社会学の立場から、親密性を分析する視座を修得することを目指す。

Intimate relationships such as family, friends and lovers are one of the key elements to understanding modern society. In this course, we will give lectures on what kind of changes have occurred to intimacy since the modern age and what the current situation of intimacy is. By doing so, the aim is that students acquire the perspectives required to analyze intimacy, mainly from the standpoint of sociology.

授業の内容 / Course Contents

具体的には、以下の手順で授業を進める。まず、いくつかの親密性の定義を紹介したうえで、現代社会における親密性の特徴を捉えるための、「個人化」や「純粋な関係性」といったキー概念を説明する。次に、家族や友人、恋人といった関係をそれぞれ取り上げ、具体的な事例を交えつつ、上述の観点から分析する。そのうえで、現代の親密性のあり方にどのような問題性や課題が存在するのかを、共依存やDVといった現象を取り上げつつ、受講生と共に議論する。

Specifically, the class will proceed as follows: First, we will introduce some definitions of intimacy and then explain key concepts such as "individualization" and "pure relationships" to capture the characteristics of intimacy in modern society. Next, we will take up relationships such as family, friends, and lovers, and analyze them from the above perspectives, using specific examples. After that, we will discuss with students what kind of problems and issues exist in intimacy in the modern world, taking up phenomena such as codependence and DV.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 親密性とは何か
- 【3】: 親密な関係の両義性——「無縁」という言葉から考える
- 【4】: 後期近代としての現代社会
- 【5】: ギデنزの親密性論
- 【6】: ディスカッション——家族のイメージの変化について
- 【7】: 家族社会学の基礎
- 【8】: 家族① 家族の戦後史
- 【9】: 家族② 家族の現代史
- 【10】: 恋愛の変容と現在
- 【11】: 友人関係の変容と現在
- 【12】: 親密圏は家族を代替しうるか

【13】:親密性の現代的な事例① ケアと共依存

【14】:親密性の現代的な事例② シェアハウス

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

特に自らが関心を持った回のテーマについては、復習を行い、理解を深めておく和良好的。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への積極的参加:30%

平常点は授業時の積極性や出席状況で評価する。

テキスト / Textbooks

資料を授業時に毎回配布する。

参考文献 / Readings

落合恵美子 21世紀家族へ -- 家族の戦後体制の見かた・超えかた 第4版 有斐閣 2019 9784641281462

中森弘樹 失踪の社会学——親密性と責任をめぐる試論 慶応義塾大学出版会 2017 9784766424812

中森弘樹 「死にたい」とつぶやく——座間9人殺害事件と親密圏の社会学 慶應義塾大学出版会 2022

9784766428186

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究13A

Special Topics:Social Design 13A
(アジアと平和1)

倉本 由紀子(KURAMOTO YUKIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM273
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

日本を取り巻くアジア情勢は、多様な価値観や考え方が衝突することが多く、国内外での対立が絶えません。国際政治学の重要なテーマの一つである「戦争と平和」について学びながら、戦争や紛争は、なぜなくなるのか、平和な社会には、何が必要なのかという「問い」へ答えを考察し、追求することを目標とします。

How can we achieve world peace? To address this question, this course aims to equip students with relevant academic tools to analyze "war and peace" as a dominant theme of international relations.

授業の内容 / Course Contents

授業では、戦争や紛争が起こる要因や解決方法について、国際政治の歴史や先行研究から学びます。冷戦終結後 30 年以上経過した国際社会において、平和や平和主義の概念についてあらためて考察し議論することで、日本の安全保障政策や「日本の平和外交」についても検証します。

This course aims to help students understand the causes of war and how military conflicts can be prevented by surveying world history and reviewing research literature on international relations. Students will study conflict resolution and peacebuilding concepts and methods, examine Japanese pacifism, and evaluate future security policies.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 国際政治学と「戦争と平和」について
- 【2】: 国家の安全と個人の安全は両立するのか
- 【3】: 新自由主義的グローバル化は暴力をもたらしているのか
- 【4】: 差別・排除の克服は平和の礎となるのか
- 【5】: ジェンダー平等は平和の基礎か
- 【6】: 国連は普遍的平和を目指せるか
- 【7】: 市民や NGO による国境を越えた連帯は国際平和に貢献しているのか
- 【8】: 人道介入は正当か
- 【9】: 援助は貧困削減に有効なのか
- 【10】: 紛争後の社会の平和を再建するには謝罪と償いが必要か
- 【11】: 被爆地の訴えは核軍備を促進したか
- 【12】: 日米安全保障条約は日本の平和の礎であるのか
- 【13】: 日本国憲法の平和主義は日本の安全と世界平和に貢献しているのか
- 【14】: 戦後補償問題はすでに解決済みであるか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの章立てに沿って授業を進めるので、該当箇所を読んで授業に臨んで下さい。

また、授業に実施するディスカッションに参加するためにも、国際問題に興味を持ち、国内外から発信される信頼可能な情報を積極的に入手するようにしましょう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業参加度・課題発表など:50%

テキスト / Textbooks

日本平和学会 編 『平和をめぐる 14 の論点』 法律文化社 2018 9784589039545

参考文献 / Readings

篠田英朗 『国際紛争を読み解く五つの視座』 講談社 2018 9784062586177

宮城大蔵 『戦後日本とアジア外交』 ミネルヴァ書房 2019 9784623072163

石井明・朱建栄 編 『東アジア国境紛争の歴史と論理』 藤原書店 2022 9784865783605

ジョセフ ナイ Jr・デイヴィッド ウェルチ 『国際紛争 理論と歴史 原著第 10 版』 有斐閣 2017 9784641149175

大矢根聡 編 『国際関係理論と日本外交史』 勁草書房 2020 9784326302857

山田満 『平和構築のトリロジー』 明石書店 2021 9784750352046

石田淳・長有紀枝・山田哲也 『国際平和論』 有斐閣 2024 9784641149533

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究14A

Special Topics:Social Design 14A
(オーラルヒストリーとデジタルアーカイブ)

長坂 俊成(NAGASAKA TOSHINARI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM274
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	【夏季集中講義日程】8月6日(水)2～6時限、8月7日(木)2～6時限、8月8日(金)2～5時限 春学期中に事前オンライン学習あり。「授業時間外(予習・復習等)の学習」欄参照のこと。 【教室】D603 教室
校地	池袋	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

オーラル・ヒストリーとデジタル・アーカイブの戦略と方法について理論と事例から学び、ボーンデジタル時代における歴史の記録と保存、利活用、後世への伝承の方法について考察する。それらを踏まえ、オーラル・ヒストリーとデジタル・アーカイブを実践する学術的・実務的な知見を習得する。

The goal of the lesson is to learn the theory, strategies and methods of oral history and digital archiving. We consider how to record and archive history in a era of born-digital and acquire academic and practical knowledge to practice oral history and digital archiving.

授業の内容 / Course Contents

オーラル・ヒストリーは、意思決定過程を分析する研究手法として政治学(政治家や官僚など)や経営学(企業経営者)の分野において、1990年代以降実践され、それまでブラックボックスとなってきた政府や企業の実態を明らかにする上で大きな成果をあげてきている。しかしそれは性質上、聞き手と語り手の相互作用によって強く規定されるものであるために、その方法は聞き手の個人技とされ、普及が立ち後れてきた。このような状況を打破すべく本科目では、基礎的知見の習得と事例分析を通して、「オーラル・ヒストリー&デジタル・アーカイブ」の課題と方法を解明する。

Oral history has been practiced since the 1990s in the fields of political science (politicians, bureaucrats, etc.) and business administration (business managers) as a research method for analyzing decision-making processes, and has made great achievements in clarifying the actual situation of governments and companies that had been a "black box" until then. However, since oral history is characterized as being strongly defined by the interaction between the listener and the storyteller, its method has been regarded as the individual skill of the listener, and its spread has been delayed. In order to overcome this situation, in this course, we will clarify the issues and methods of "Oral History & Digital Archive" through the acquisition of basics, case analysis, and practice.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション:

- ・社会デザインから見たオーラルヒストリーとデジタルアーカイブ
- ・オーラルヒストリーの方法論: エリート・ノンエリート、マイノリティー

- ・市井の人々の語りと人類史
- ・ライフヒストリーとオーラルヒストリー
- 【2】:オーラルヒストリーの事例研究:東日本大震災(1)
- ・民生委員による避難行動と避難生活の語り
- ・学校教員による避難行動の語り
- 【3】:オーラルヒストリーの事例研究:東日本大震災(2)
- ・被災市町村の首長、行政職員の語り
- ・復興に関わった専門家の語り
- 【4】:大川小学校津波被害のドキュメンタリー
- ・検証と教訓
- 【5】:戦争体験の語りとドキュメンタリー
- 【6】:パンデミック(新型コロナウイルス)の記録のアーカイブと語り
- 【7】:コミュニティのアーカイブ
- ・思い出のお裾分け
- ・記録映画のアーカイブと公開
- 【8】:がんサバイバー、統合失調症など患者と家族の語り
- ・ピアサポート
- 【9】:ひきこもり当事者と家族の語り
- 【10】:病院ラジオとシェア
- 【11】:災害デジタルアーカイブ:311まるとアーカイブの事例
- ・メディア、図書館、行政、研究機関等の役割
- ・現物とデジタル、コレクション、ボーンデジタル
- ・震災前の映像
- ・災害遺構の記憶の伝承
- 【12】:デジタルアーカイブ:権利処理と保存公開
- ・著作権、肖像権、プライバシー権、パブリシティ権、疑似著作権(所有権)
- ・オーファンワークス、ダークアーカイブ、マスキング
- ・メタデータ、意味づけ、対価、ガイドライン、2次利用
- 【13】:発表と総合討論(1)
- 【14】:発表と総合討論(2)

総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

CANVASLMS にアップするレジュメ、参考文献、参考映像等を参照しながら指示された課題に取り組むこと。
夏季集中講義であるが春学期中に映像教材などによる事前オンライン学習あり。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指示する課題提出:80% 授業内での討論への参加:20%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

御厨貴 オーラル・ヒストリー入門 岩波書店 2007 4000280465

御厨貴 オーラル・ヒストリー 中公新書 2002 412101636

長坂俊成 記憶と記録 : 311 まるとアーカイブス 岩波書店 2012 9784000285247

福井健策監修 デジタルアーカイブ・ベーシック第1巻権利処理と法の実務 勉誠出版 2019 9784585202813

多数あるため、他は授業内で随時紹介する

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業で

の積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究15A

Special Topics:Social Design 15A
(人間の安全保障と社会デザイン)

長 有紀枝 (OSA YUKIE)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM275
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

社会をデザインする試みは、多種多様である。構成員の一部を排除、あるいは破壊してきたのも社会デザインである。本授業では社会をデザインする歴史的あるいは現代的取り組み・試みを、「人間の安全保障」の視点から分析し、設計者・企図者にとっての成功例・失敗例は構成員にとって何を意味するのか、検討を加えながら、社会デザインについて、理解を深めることを目的とする。

Social design projects are multifaceted. This course aims to deepen understanding of social design by analysing historical and contemporary attempts to design society from the perspective of 'human security'.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、まず、分析の切り口とする人間の安全保障概念について、その成り立ちや背景、概念そのものについて検討を加える。次に、1) 国家、2) 国際社会、3) 市民社会、4) 企業や財団、といったさまざまな主体による社会デザインの取り組みを紹介し、人間の安全保障の視点から検討を加えていく。

授業後半では、受講生による社会デザイン事例の発表を予定している。

The concept of human security, the basis for the analysis, will first be examined in terms of its origins, background and the concept itself. Next, social design initiatives by various actors, including 1) the state, 2) the international society, 3) civil society, and 4) corporations and foundations, will be presented and examined from the perspective of human security.

In the second half of the course, students will present case studies of social design.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 導入: 本講座における社会デザインの射程

社会デザインの失敗学(あるいは成功事例)としての紛争

【2】: 人間の安全保障概念とは何か: その成り立ちと背景

【3】: 国際社会の社会デザイン: 国際連盟と戦間期の不戦の取り組み

【4】: 国際社会の社会デザイン: 第2次世界大戦と国際連合憲章

【5】: 国家による社会デザイン: ジェノサイドや大量殺害、強制移送、強制移住、強制労働という社会デザイン(アルメニア人虐殺、ホロコースト、スターリンの粛清、毛沢東と文化大革命、ボルボト派によるカンボジア支配)

【6】: 国家による社会デザイン: 大規模人権侵害、軍部の独走、戦時下の統制(日本、ナチスドイツ、ミャンマー、アルゼンチンほか)

【7】: ノーベル財団による社会デザイン: ノーベル平和賞と社会デザイン

【8】: 企業や財団にみる社会デザイン

【9】: 市民社会による社会デザイン(軍縮): 核兵器、地雷、クラスター爆弾の(被害の)ない世界

【10】: 市民社会による社会デザイン(人権): 国際刑事裁判所の設立、貧困、人権侵害への対応

- 【11】:その他の主体による社会デザイン:行政による取り組み、社会起業家、規範起業家としての市民社会
- 【12】:学生発表
- 【13】:学生発表
- 【14】:学生発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストおよび配布資料の講読

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への積極的参加:25% 授業内での発表:25%

テキスト / Textbooks

長 有紀枝 増補改訂版『入門 人間の安全保障 恐怖と欠乏からの自由を求めて』中央公論新社 2021
9784121921956

石田淳・長 有紀枝・山田哲也編『国際平和論—驚異の認識と対応の模索』有斐閣 2024 9784641149533

参考文献 / Readings

東大作・峯陽一他『人間の安全保障と平和構築』日本評論社 2017

野田真理他編『SDGsを問い直す:ポスト/ウィズ・コロナと人間の安全保障』法律文化社 2023

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究11B

Special Topics:Social Design 11B
(宗教と社会デザイン)

大熊 玄(OKUMA GEN)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM281
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

(1) マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を通して、宗教と社会・個人にかかわる基礎的な知識や思考力・読解力を身につけること。(2) ウェーバーの思想を「社会デザイン」に結合するべく、フロムやフランクルの文章を読み、それらについて客観的な説明・批評ができるようになること。(3) 上記の二点をふまえ、学生自身が主体的に説得力のある意見を述べる技能を身につけること。

(1) To acquire basic knowledge, thinking and reading skills related to religion, society and individuals through Max Weber's "The Protestant Ethic and the Spirit of Capitalism". (2) In order to combine Weber's ideas with "social design", read the texts of Fromm and Frankl and become able to objectively explain and critique them. (3) Based on the above two points, students should acquire the skills to express their opinions independently and persuasively.

授業の内容 / Course Contents

いわゆる「宗教」が、社会とどのように関わっているのか。講義全体は、ガイダンスをのぞき、おおまかに前半と後半に分かれる。前半は、宗教と社会について考える上で必須と言えるウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』に関する解説書を通して、やや難解な文章の読解方法を学びつつ、単一テーマについて複数の文献を重ね合わせながら読む手法も学ぶ。後半は、そのつながりから、フロム、フランクルの文章を読み、宗教を通した個人と社会のあり方について考える。

学生は、事前に指定の文章を読み、授業内で講師による解説を聞いて質疑・討議を行い、授業後に簡単なコメントを書く。そのコメントを次の授業でフィードバックし、参加者全員で共有することで、授業を、循環する複方向型の「対話の場」、「知的探求の共同体」としたい。

How is so-called "religion" related to society? The whole course will be divided into the first half and the second half roughly except for the guidance. In the first half, students will learn the method of reading multiple sources on a single subject while learning how to read somewhat difficult text through the explanatory book on Weber's "The Protestant Ethic and the Spirit of Capitalism" which can be said to be essential in thinking about religion and society. In the second half, leading on from this, students will read the texts of Fromm and Frankl, and think about the ideal state of individuals and society through religion.

Students must read the designated texts in advance, listen to the commentary by the lecturer in the classes, ask questions and dialogue, and write brief comments after the classes. By feeding back the comments in the next class and sharing them with all the participants, we hope to make the class a multi-directional and circulatory "place of dialogue" and "community of intellectual inquiry".

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス、見田宗介『社会学入門』a — 関係の絶対性

【2】: 見田宗介『社会学入門』b — 魔(呪術・魅力)のない世界

- 【3】:大塚久雄『社会科学における人間』a — 資本主義の精神
 【4】:大塚久雄『社会科学における人間』b — プロテスタンティズムの倫理
 【5】:討議
 【6】:仲正昌樹『マックス・ウェーバーを読む』a — 宗教的個人と社会的労働
 【7】:仲正昌樹『マックス・ウェーバーを読む』b — 神の摂理と資本の蓄積
 【8】:山之内靖『マックス・ヴェーバー入門』a — 非合理性による合理性
 【9】:山之内靖『マックス・ヴェーバー入門』b — 不連続性と意図せざる結果
 【10】:討議
 【11】:安田一郎『フロム』a — 自由からの逃走、権威主義とナチズム
 【12】:安田一郎『フロム』b — パーソナリティと権威、人道主義的宗教
 【13】:フランクフル『夜と霧』a — 絶望との戦い
 【14】:フランクフル『夜と霧』b — 不正をする権利

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習／指定した文章を読んでおき、自らの興味・疑問を整理しておく。

復習／授業を振り返り、コメントメール(客観＋主観)を送る。

次の授業で扱う箇所についての事前学修、授業後に送付するコメント作成、最終の授業内レポート作成、その他授業内容に関わる自学等によって、授業外に全体で計 60 時間(各回平均4時間)以上の学修を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回の出席とコメント:70% 授業内レポート(最終コメント):30%

テキスト / Textbooks

CanvasLMS 上にアップする。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

人文系の比較的難解(硬質)な文章を読解し、その内容に関連して自ら思考し、自身の意見を述べる能力。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

対面参加者も、zoom 接続可能な機器(ノートパソコン・タブレット)持参が望ましい。

その他 / Others

第一回目授業「ガイダンス」にて、授業の方針・進め方を説明します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究12B

Special Topics:Social Design 12B
(社会デザインと社会学の方法)

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM282
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

社会デザインと社会学の異同を整理し、両者の関係性を理解する。そのうえで、社会学的視点を、社会デザインに活用するための方途を、テキストや実践例を通して受講者と検討してゆく。最終的には、受講生各自が社会課題に対して創造的かつ実現可能な提案を行うことを目標とする。

We will sort out the differences between social design and sociology, and understand the relationship between the two. Then, we will discuss ways to apply sociological perspectives to social design through texts and practical examples. The final goal is for each student to come up with creative and feasible proposals to address social issues.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、受講者による発表(輪読・事例検討)を中心とした演習形式で行う。具体的には、以下の3つのフェーズに分けて授業を進めてゆく。まず、社会デザインと社会学のそれぞれの視点の特徴について、科目担当教員が基本的な解説を行う(講義フェーズ)。次に、社会学の基礎となるテキストを輪読し、各回のテーマと社会デザインとの関連性についてディスカッションする(輪読フェーズ)。そして、社会デザインの諸事例・実践例を取り上げることで、それらに社会学の視点や方法がどのように活かされているのかを検討する(事例検討フェーズ)。

This class will be conducted in the form of exercises with presentations (readings and case studies) by the participants. Specifically, the class will be divided into the following three phases. First, the course instructor will give a basic explanation of the characteristics of the respective perspectives of social design and sociology (lecture phase). Next, we will read basic sociological literature, and discuss the relevance of each theme to social design (round-reading phase). Then, by taking up various examples and practices of social design, we will examine how sociological perspectives and methods are applied to them (Case Study Phase).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 社会学の基礎
- 【3】: 社会デザインとは何か
- 【4】: 文献講読① 社会学的想像力と社会デザイン
- 【5】: 文献講読② 社会学の理論と社会デザイン
- 【6】: 文献講読③ 現代社会と社会デザイン
- 【7】: 文献講読④ 社会学史と社会デザイン
- 【8】: 文献講読⑤ 社会学の問いと社会デザイン
- 【9】: 文献講読⑥ リサーチメソッドと社会デザイン
- 【10】: 文献講読⑦ 社会問題と社会デザイン

- 【11】: 文献講読⑧ 社会学から社会デザインへ
 【12】: 事例検討① 市民運動／社会的排除／居場所とサードプレイス
 【13】: 事例検討② アートと文化／学びと教育／ケアと福祉
 【14】: 事例検討③ メディアとコミュニケーション／組織とネットワーク／企業と価値／公共政策と制度設計

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

輪読・事例検討の際には、テキストの各回の範囲を、発表者以外の受講者も読んでくること(予習)。また、授業後には、各回で取り上げた社会学の発想や社会デザインの事例を、どのようにリバイスできるかを考えるとよい(復習)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加状況:30% プレゼンテーションの内容:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

ケン・プラマー 21世紀を生きるための社会学の教科書 筑摩書房 2021 9784480510310
 中村陽一(監修) 志塚昌紀・川中大輔・菅井薫・川田虎男(編著) 『社会デザインをひらく』 ミネルヴァ書房 2024
 9784623097852

参考文献 / Readings

レイ・オルデンバーグ サードプレイス——コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」 みすず書房 2013
 9784622077800
 荻上チキ 社会問題のつくり方 困った世界を直すには? 翔泳社 2023 9784798174488

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

社会学の基礎的な文献を読解するために必要な、最低限の知識と能力を有すること。具体的には、「何らかの社会学の授業を受けたことがある」または「社会学の学術書を一冊でも読んだことがある」などの経験を有していることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

学生が作成したプレゼン資料を閲覧可能な端末(ノートPCやタブレットPC)を持参することが望ましい。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究13B

Special Topics:Social Design 13B
(ジェンダーとコミュニティ)

倉本 由紀子(KURAMOTO YUKIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM283
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

ジェンダーとは何かについて、その背景にあるフェミニズム運動の歴史、理論や研究を学び、ジェンダーの視点から様々な社会的問題を分析することの重要性について理解します。

This course aims to provide students with essential tools to explore key topics within the broader field of gender. These tools include theories, approaches, and research methods needed to integrate information and articulate their ideas effectively.

授業の内容 / Course Contents

ジェンダーという概念を用い、現代社会に、どのような問題や課題が生じているのか分析します。

ジェンダー視点は、身近な日常における新たな「気づき」を可能にすることも確認します。「社会構築主義」や「社会集団」などの社会学の基礎概念も学びながら、日本の社会をジェンダー視点で分析し客観的に考察します。

This course provides an overview of both classic and contemporary scholarship on gender. By examining gender through various sociological perspectives, students gain essential skills to analyze social issues using theoretical frameworks.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: ジェンダーとは
- 【3】: ジェンダーの社会的構築
- 【4】: ジェンダー構造と実践
- 【5】: ジェンダー秩序
- 【6】: ジェンダー体制
- 【7】: ジェンダーとメディア
- 【8】: ジェンダー知の産出と流通
- 【9】: ジェンダーと性支配
- 【10】: ジェンダーの再生産・変動・フェミニズム
- 【11】: ジェンダー視点: 日米比較
- 【12】: ジェンダー視点と社会デザインについて発表
- 【13】: ジェンダー視点と社会デザインについて発表
- 【14】: 総括・まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワポ等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に配布した資料や指定した参考図書の予習をして出席してください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への参加度、課題発表など:50%

テキスト / Textbooks

江原由美子 『ジェンダー秩序』 勁草書房 2021 9784326654314

参考文献 / Readings

加藤周一 『はじめてのジェンダー論』 有斐閣ストゥディア 2017 9784641150397

上野千鶴子 『家父長制と資本制』 岩波書店 2009 9784006002169

ジュディス・バトラー 『ジェンダー・トラブル』 青土社 2009 4791757033

江原由美子 『持続するフェミニズムのために』 有斐閣 2022 9784641174788

辻村みよ子 『壁を超える——政治と行政のジェンダー主流化』 岩波書店 2011 9784000284738

江原由美子・山田昌弘 『ジェンダーの社会学入門』 岩波書店 2008 9784000280488

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究14B

Special Topics:Social Design 14B
(リスク学原論)

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM284
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

社会デザインの視点から、リスク学に隣接する哲学・思想、倫理学、社会疫学、障害学、社会学、歴史学、行動経済学、防災学に関する理論や知見、議論の状況について俯瞰的に学び、現代社会を取り巻くリスクの分析方法や新たなリスクガバナンスのフレームワークについて考究する。

The aim of this course is to understand theories in philosophy, ethics, social epidemiology, disability studies, sociology, history studies, behavioral economics, disaster prevention science, related to risk from the perspective of social design in order to build a new risk governance framework.

授業の内容 / Course Contents

授業では、政治・公共・科学・法哲学、生命・医療・公衆衛生倫理、社会疫学、障害学、社会学、歴史学、行動経済学、防災学に関する文献を講読し、受講生による課題の発表と討論を通じて、現代社会のリスクに関する事件や社会的な論争の事例を分析する。

In class, we will read literature related to political science, public philosophy, legal philosophy, bioethics, medical ethics, public health ethics, social epidemiology, disability studies, sociology, behavioral economics, history, disaster prevention science and will discuss social issues of risk.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション:リスク学と社会デザイン

リスク学:リスク学理論

【2】:社会学:リスク社会論

歴史学:歴史的事実、歴史修正主義、半ポリティカルコレクトネス

【3】:政治哲学・公共哲学・法哲学

功利主義

【4】:防災学:自己責任、モラルハザード、パターナリズム

【5】:倫理学:生命・医療・福祉(1)

・自己決定権、卵子凍結の社会的適用、AID(提供精子を用いた人工授精)、出自を知る権利

・デザインベビー、ドナーベビ、代理母ツーリズム

・出生前診断と堕胎、臓器移植

【6】:倫理学:生命・医療・福祉(2)

・命の選択、命の価値、死ぬ権利

・安楽死、尊厳死、自殺ツアー、ACP

【7】:倫理学:生命・医療・福祉(3)

・成年後見、意思決定支援と代行決定、権利擁護

・無益な治療;障がいのある生、すべり坂、パーソン論、優生思想

【8】: 災害トリアージ、パンデミック下の医療資源配分

【9】: 社会疫学: 健康・命の格差

【10】: 行動経済学: レバタリアパターナリズム、ナッジ

【11】: 科学哲学・環境哲学

【12】: 発表と討論(1)

【13】: 発表と討論(2)

【14】: 総括と総合討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各授業前に Canvas LMS にアップするレジュメと参考文献に基づき予習して授業に臨むことが望ましい。参考文献に利用し発展的に学習することを期待する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的参加:80% 授業内小レポート:20%

テキスト / Textbooks

なし。授業内にレジュメ、資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究15B

Special Topics:Social Design 15B
(ホロコースト再考)

長 有紀枝 (OSA YUKIE)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM285
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位		科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

研究者あるいは市民として、人類が経験したジェノサイド(集団殺害)や類似の事例を学ぶことにより、事件の再発防止や予防に寄与することを目的とする。

The course aims to contribute to the prevention of genocide and related atrocities by learning about the genocide experienced by humanity, as a researcher as well as a citizen.

授業の内容 / Course Contents

国際社会の危機管理を考える本講座では、ナチ・ジェノサイドに焦点を当て、現代に生きる私たちとの接点を探りつつ再考していく。これは同時に、私たちが、日中戦争や第二次世界大戦の加害者としての歴史と改めて対峙するための試みであり、いじめや体罰、ヘイトスピーチなど私たちの日常生活に潜む暴力とジェノサイド的思想との連関を探る試みでもある。

In this course, which considers crisis management in the international community, we will focus on Nazi Genocide and reconsider the issues while exploring nexus with us. This is at the same time an attempt to confront our own history as perpetrators of the second world war as well as to discover the relationships with bullying, corporal punishment, hate speech, and other forms of violence and genocide lurking in our daily lives.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:導入:ジェノサイドから、何を学び、考えるか
ドキュメンタリー映像鑑賞①:アラン・レネの「夜と霧」(仏 1955 年、31 分)
- 【2】:ドキュメンタリー映像鑑賞②:「ジェノサイド ナチスの虐殺-ホロコーストの真実」(米 1981 年、83 分)
- 【3】:テキスト講読①
- 【4】:テキスト講読②
- 【5】:テキスト講読③
- 【6】:ハンナ・アーレント「イスラエルのアイヒマン」～凡庸な悪・普通の人の犯罪・ユダヤ人評議会の存在
- 【7】:ヒトラーとスターリンの大虐殺～ブラッドランド(ウクライナ、ポーランド、ベラルーシ、バルト3国)
- 【8】:ナチ・ジェノサイドを支えた近代と科学、障がい者への対応
- 【9】:歴史修正主義とホロコースト～ブリーモ・レーヴィによる批判から
- 【10】:ホロコースト産業:企業とジェノサイド、ネットワーク
- 【11】:過去の克服、記憶・忘却とホロコースト記念碑・博物館
- 【12】:文学・哲学・音楽とナチ・ジェノサイド、テレビ、映画となったホロコースト
- 【13】:犠牲者意識ナショナリズムとジェノサイド
- 【14】:日常生活に潜むジェノサイドの芽～いじめ、体罰、ハラスメント、優性思想と障害者

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内での発表:25% ディスカッションへの参加度・貢献度:25%

テキスト / Textbooks

芝健介『ホロコースト ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』中央公論新社 2008 4121019431

ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン—悪の陳腐さについての報告』新版 みすず書房 2017 462208628

加えて、授業中に適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

長有紀枝『スレブレニツァ・ジェノサイド』東信堂 2020 9784887138858

石田勇治他編『ジェノサイドと現代世界』勉誠出版 2011

ダン・ストーン『ホロコースト・スタディーズ 最新研究への手引き』白水社 2012

プリーモ・レヴィ『溺れるものと救われるもの』朝日新聞出版 2014

マイケル R.マラス『ホロコースト 歴史的考察』時事通信社 1996

ティモシー・スナイダー『ブラッドランド ヒトラーとスターリン 大虐殺の真実』筑摩書房 2015/2022

林 志弦『犠牲者意識ナショナリズム』東洋経済新報社 2022 9784492212523

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会組織理論特別研究1A

Directed study:Social Organization 1A

大熊 玄 (OKUMA GEN)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM331
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生自身が、自らの研究テーマをより深化させ、「社会デザイン学」としての「博士論文」を完成させることを目標とする。
The student will acquire basic knowledge and research methods with the goal of finally completing a doctor thesis on the theme that they have chosen.

授業の内容 / Course Contents

博士論文の執筆者は、自らの論文テーマの意味を常に問い続けなければならない。今自らが行っている研究が、その研究者自身にとって、その研究分野において、そしてこの社会にとって、どのような意味を持つのか。また、この博士論文によって得られる学位の名称が「博士(社会デザイン学)」である以上、「社会デザイン学」とは何なのか、それが自らの研究とどのような位置関係にあるのか、これらを問い続ける必要がある。講師は、そのつど学生から研究の進捗状況を聞きながら、研究計画や内容に対して助言・指導・討議を行い、学生は、それによって自らの研究を進めていくとともに、その研究の意味も深めていく。

The student will select the theme in which they are interested, express it in the title of their actual doctor thesis or research report, and create a "research question" that guides their research. In addition, the student will create an outline (framework) of their own academic paper referring to references (preceding studies) that they collect, read and criticize, will start writing and finally prepare the format of an academic paper or report. The lecturer will provide advice and guidance and discuss the research plan and its contents while hearing about the progress of the research from the student regularly, giving the student new perspectives to advance and deepen their research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 全体テーマ(方向)の選択
- 【3】: 具体的目標と規模の決定
- 【4】: リサーチクエスションの確認
- 【5】: 論文構成(序/本/結)の検討
- 【6】: アウトライン(目次)の作成
- 【7】: 研究データベース作成
- 【8】: 文献の調査・探索
- 【9】: 文献目録の作成
- 【10】: 序の検討
- 【11】: 本論の検討(1)
- 【12】: 本論の検討(2)
- 【13】: 本論の検討(3)
- 【14】: 結論・全体の検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指定する

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期中の進捗状況による評価:50% 学期末における研究成果による評価:50%

学期中の発表や提出物の内容を考慮して評価する

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

特になし

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

対面参加者も、zoom 接続可能な機器(ノートパソコン・タブレット)持参が望ましい。

コミュニティデザイン学特別研究1A

Directed Study:Community Design 1A

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM333
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、受講生が、博士論文執筆に向けた研究を進捗・完成させることにある。そのために、各受講生の段階に合わせた、研究指導を行う。

授業の内容 / Course Contents

博士論文の作成にあたっては、論文を執筆するための基本的な枠組に加えて、自身のテーマに対応する学問分野の整理、国内外の先行研究の批判的検討、複数の投稿論文からなる博士論文全体の構成など、より高度な要素が求められることになる。本授業では、それらのスキルを習得するために必要な指導や助言を行う。なお、本授業では、受講者の状況に合わせた個別指導に加えて、定期的にゼミ形式の発表・討議の機会を設ける。受講生には、それらの機会を積極的に活用し、学会発表や論文執筆に活かすことを期待する。

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: リサーチクエスションの確認
- 【3】: 研究計画の作成
- 【4】: プレゼンテーション・ディスカッション ①
- 【5】: 専門分野の研究動向整理
- 【6】: 先行研究の収集
- 【7】: 先行研究の批判的検討
- 【8】: プレゼンテーション・ディスカッション ②
- 【9】: 研究方法の検討
- 【10】: 研究の実施状況の整理
- 【11】: 研究結果の整理
- 【12】: プレゼンテーション・ディスカッション ③
- 【13】: 博士論文の構想
- 【14】: プレゼンテーション・ディスカッション ④

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

個別指導や研究発表の機会に向けて、各自の研究を進めておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期中の進捗状況による評価:50% 学期末における研究成果による評価:50%

学期中の発表や提出物の内容を考慮して評価する

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、Microsoft Office、Zoom

コミュニティデザイン学特別研究4A

Directed Study:Community Design 4A

倉本 由紀子(KURAMOTO YUKIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM336
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生が各々の研究テーマに基づいた博士論文を執筆します。

The doctoral students will conduct their research and write their dissertations.

授業の内容 / Course Contents

博士論文作成に向けて、各受講者がテーマを選択・設定し、教員の指導・助言のもと、個別研究を行います。

Doctoral students work on their research projects for their dissertations and receive guidance and advice from their faculty members.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 博士論文研究についての説明
- 【2】: 各受講者の関心ある分野、研究テーマ、研究方法について個別に協議
- 【3】: 受講者全員で各受講者の研究テーマについて発表し、情報共有
- 【4】: 各受講者の研究スケジュールについて協議
- 【5】: 中間報告会において研究発表を行い、発表内容について全員で討論を行い、研究内容、方法等の見直しを行い、論文作成に必要なものの見方、考え方を身につける。
- 【6】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【7】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【8】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【9】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【10】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【11】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【12】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【13】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【14】: 各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

博士論文執筆に関する調査を進め、論文作成法に関するテキスト、立教大学の論文作成のガイドライン等入手し、学習しておくことが望ましいです。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の報告:100%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

各受講者の研究テーマに応じて、随時紹介します。

危機管理学特別研究1A

Directed Study:Crisis Management 1A

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM337
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

博士論文の作成に向けて、受講生が設定したテーマに基づき研究指導を行う。対象領域は主として、以下の研究領域とする。

リスク学、リスクガバナンス、リスクコミュニケーション、防災政策、危機管理、災害医療・福祉、放射性廃棄物、防災教育、災害情報、情報政策、オープンデータ、ソーシャルウェア、コミュニティガバナンス、地域プロデュース、デジタルアーカイブ、オーラルヒストリー、ワークスタイル、テレワーク、モバイル建築など

授業の内容 / Course Contents

博士論文の進捗報告に基づき個別面談指導を行う。

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:研究指導
- 【2】:研究指導
- 【3】:研究指導
- 【4】:研究指導
- 【5】:研究指導
- 【6】:研究指導
- 【7】:研究指導
- 【8】:研究指導
- 【9】:研究指導
- 【10】:研究指導
- 【11】:研究指導
- 【12】:研究指導
- 【13】:研究指導
- 【14】:研究指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 博士論文の進捗報告と討論に基づき評価する。:100%

テキスト / Textbooks

使用しない

参考文献 / Readings

使用しない

危機管理学特別研究2A

Directed Study:Crisis Management 2A

長 有紀枝 (OSA YUKIE)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM338
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

受講者一人ひとりが、自らの立ち位置を意識し、独自の問題関心に沿って、自分自身や社会と誠実に向き合いつつ、独創性に富んだ研究を行うことを目標とする。

To develop student capacity to carry out academic research to write a doctoral dissertation with originality.

授業の内容 / Course Contents

人口 80 億人を超える今日の国際社会。しかし世界には本当に 80 億もの人間が存在しているのだろうか。実際には数億の人間と数十億のそうでない個からなっているのではないかと。こうした問いかけがなされるほど、今日の世界は階層化が進んでいる。格差が生まれ、弱者がますます困難な状況に追い込まれているのは日本社会も同様である。

では、こうした課題・問題を前に、研究者としての私たちは、どのような対策を講じ、どのような社会をデザインし、構築していくのか。戦後 80 年を迎える時代に生きる私たちが、学問や「知」を通じて果たすべき役割とは何か。こうした問題関心に基づき、個別指導に重点を置いて、学位論文執筆のための指導を行う。

The course is designed to provide students with a comprehensive guide to writing a doctoral dissertation, exploring the concept of originality.

授業計画 / Course Schedule

【1】:【ガイダンス】博士学位論文と他の学術論文との違い・剽窃と研究不正に関する注意
演習参加者による問題意識・関心の発表

【2】:博士学位論文に求められるものとは(講義)(1)

【3】:博士学位論文に求められるものとは(講義)(2)

【4】:博士学位論文に求められるものとは(講義)(3)

【5】:剽窃と研究不正に関する注意

【6】:研究・調査の方法と分析枠組みについて(1)

【7】:研究・調査の方法と分析枠組みについて(2)

【8】:博士論文作成指導

【9】:先行研究・参考文献の書評発表

【10】:学生中間発表

【11】:博士論文作成指導

【12】:先行研究・参考文献の書評発表

【13】:博士論文作成指導

【14】:進捗状況の確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内または個別に指示する

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究活動の報告状況:50% 指導中に提出された内容をもとに評価:50%

テキスト / Textbooks

長有紀枝 入門 人間の安全保障 中央公論新社 2021 412192195

長有紀枝 スレブレニツァ・ジェノサイド 東信堂 2020 4798916463

特に指定しない

参考文献 / Readings

個別に指示・紹介する。

社会組織理論特別研究1B

Directed study:Social Organization 1B

大熊 玄 (OKUMA GEN)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM351
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生自身が、自らの研究テーマをより深化させ、「社会デザイン学」としての「博士論文」を完成させることを目標とする。
The student will acquire basic knowledge and research methods with the goal of finally completing a doctor thesis on the theme that they have chosen.

授業の内容 / Course Contents

博士論文の執筆者は、自らの論文テーマの意味を常に問い続けなければならない。今自らが行っている研究が、その研究者自身にとって、その研究分野において、そしてこの社会にとって、どのような意味を持つのか。また、この博士論文によって得られる学位の名称が「博士(社会デザイン学)」である以上、「社会デザイン学」とは何なのか、それが自らの研究とどのような位置関係にあるのか、これらを問い続ける必要がある。講師は、春学期に引き続き、そのつど学生から研究の進捗状況を聞きながら、研究計画や内容に対して助言・指導・討議を行い、学生は、それによって自らの研究を進めていくとともに、その研究の意味も深めていく。

The student will select the theme in which they are interested, express it in the title of their actual doctor thesis or research report, and create a "research question" that guides their research. In addition, the student will create an outline (framework) of their own academic paper referring to references (preceding studies) that they collect, read and criticize, will start writing and finally prepare the format of an academic paper or report. The lecturer will provide advice and guidance and discuss the research plan and its contents while hearing about the progress of the research from the student regularly, giving the student new perspectives to advance and deepen their research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 全体テーマ(方向)の選択
- 【3】: 具体的目標と規模の決定
- 【4】: リサーチクエスションの確認
- 【5】: 論文構成(序/本/結)の検討
- 【6】: アウトライン(目次)の作成
- 【7】: 研究データベース作成
- 【8】: 文献の調査・探索
- 【9】: 文献目録の作成
- 【10】: 序の検討
- 【11】: 本論の検討(1)
- 【12】: 本論の検討(2)
- 【13】: 本論の検討(3)
- 【14】: 結論・全体の検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指定する

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期中の進捗状況による評価:50% 学期末における研究成果による評価:50%

学期中の発表や提出物の内容を考慮して評価する

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

特になし

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

対面参加者も、zoom 接続可能な機器(ノートパソコン・タブレット)持参が望ましい。

コミュニティデザイン学特別研究1B

Directed Study:Community Design 1B

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM353
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、受講生が、博士論文執筆に向けた研究を進捗・完成させることにある。そのために、各受講生の段階に合わせた、研究指導を行う。

授業の内容 / Course Contents

博士論文の作成にあたっては、論文を執筆するための基本的な枠組に加えて、自身のテーマに対応する学問分野の整理、国内外の先行研究の批判的検討、複数の投稿論文からなる博士論文全体の構成など、より高度な要素が求められることになる。本授業では、それらのスキルを習得するために必要な指導や助言を行う。なお、本授業では、受講者の状況に合わせた個別指導に加えて、定期的にゼミ形式の発表・討議の機会を設ける。受講生には、それらの機会を積極的に活用し、学会発表や論文執筆に活かすことを期待する。

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 研究計画の作成
- 【3】: 論文の目次作成
- 【4】: プレゼンテーション・ディスカッション ①
- 【5】: 専門分野の研究動向整理
- 【6】: 先行研究の収集
- 【7】: 先行研究の批判的検討
- 【8】: プレゼンテーション・ディスカッション ②
- 【9】: 研究結果の報告
- 【10】: 研究結果の分析・考察
- 【11】: プレゼンテーション・ディスカッション ③
- 【12】: 論文の執筆
- 【13】: フィードバック
- 【14】: 論文の修正

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

個別指導や研究発表の機会に向けて、各自の研究を進めておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期中の進捗状況による評価:50% 学期末における研究成果による評価:50%

学期中の発表や提出物の内容を考慮して評価する

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、Microsoft Office、Zoom

コミュニティデザイン学特別研究4B

Directed Study:Community Design 4B

倉本 由紀子(KURAMOTO YUKIKO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM356
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生が各々の研究テーマについて研究調査し博士論文を作成します。

The doctoral students will conduct their research and write their dissertations.

授業の内容 / Course Contents

博士論文作成に向けて、各受講者がテーマを選択・設定し、教員の指導・助言のもと、個別研究を行います。

The doctoral students work on their research projects for their dissertations and receive guidance and advice from faculty members.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【2】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【3】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【4】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【5】:各受講者の研究進捗状況を把握し、調査研究のスケジュールを確認
- 【6】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【7】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【8】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【9】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【10】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【11】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【12】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【13】:各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 【14】:予定論文提出に向け、個別指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

博士論文執筆のための調査研究を遂行し、指導教員とのコミュニケーションも適宜行ってください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の報告:100%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

各受講者の研究テーマに応じて、随時紹介します。

危機管理学特別研究1B

Directed Study:Crisis Management 1B

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM357
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

博士論文の作成に向けて、受講生が設定したテーマに基づき研究指導を行う。対象領域は主として、以下の研究領域とする。

リスク学、リスクガバナンス、リスクコミュニケーション、防災政策、危機管理、災害医療・福祉、放射性廃棄物、防災教育、災害情報、情報政策、オープンデータ、ソーシャルウェア、コミュニティガバナンス、地域プロデュース、デジタルアーカイブ、オーラルヒストリー、ワークスタイル、テレワーク、モバイル建築など

授業の内容 / Course Contents

博士論文の進捗報告に基づき個別面談指導を行う。

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:研究指導
- 【2】:研究指導
- 【3】:研究指導
- 【4】:研究指導
- 【5】:研究指導
- 【6】:研究指導
- 【7】:研究指導
- 【8】:研究指導
- 【9】:研究指導
- 【10】:研究指導
- 【11】:研究指導
- 【12】:研究指導
- 【13】:研究指導
- 【14】:研究指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 博士論文の進捗報告と討論に基づき評価する。:100%

テキスト / Textbooks

使用しない

参考文献 / Readings

使用しない

危機管理学特別研究2B

Directed Study:Crisis Management 2B

長 有紀枝 (OSA YUKIE)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM358
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	SDS7810
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

受講者一人ひとりが、自らの立ち位置を意識し、独自の問題関心に沿って、自分自身や社会と誠実に向き合いつつ、独創性に富んだ研究を行うことを目標とする。
To develop student capacity to carry out academic research to write a doctoral dissertation with originality.

授業の内容 / Course Contents

個別指導に重点を置いて、学位論文執筆のための指導を行う。
The course is designed to provide students with a comprehensive guide to writing a doctoral dissertation, exploring the concept of originality.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 演習参加者による夏季休暇中の研究の進捗状況報告(1)
- 【2】: 演習参加者による夏季休暇中の研究の進捗状況報告(2)
- 【3】: 剽窃と研究不正に関する注意
- 【4】: 研究・調査の方法と分析枠組みについて(1)
- 【5】: 研究・調査の方法と分析枠組みについて(2)
- 【6】: 博士論文作成指導
- 【7】: 博士論文作成指導
- 【8】: 学生研究発表
- 【9】: 博士論文作成指導
- 【10】: 博士論文作成指導
- 【11】: 学生研究発表
- 【12】: 博士論文作成指導
- 【13】: 学生研究発表
- 【14】: 進捗状況の確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内または個別に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究活動の報告状況:50% 指導中に提出された内容をもとに評価:50%

テキスト / Textbooks

長有紀枝 入門 人間の安全保障 中央公論新社 2021 412192195

長有紀枝 スレブレニツァ・ジェノサイド 東信堂 2020 4798916463

特に指定しない。

参考文献 / Readings

個別に指示・紹介する。

社会デザイン学主題別研究7A

Special Topics:Social Design 7A

中野 佳裕 (NAKANO YOSHIHIRO)

科目設置学部	社会デザイン研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WM377
授業形態	ハイフレックス	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SDS7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、社会デザイン学の先端分野の一つであるトランジション・デザインについて学ぶ。特に欧州を中心に議論が進む脱成長／ポスト成長論の研究動向を整理・検証する。

This course examines Transition Design, one of the latest research areas in social design studies. In particular the course investigates the European debate on degrowth / post-growth, scrutinizing its research trend as well as theoretical and methodological orientations.

授業の内容 / Course Contents

毎週の演習では、脱成長／ポスト成長論に関する主要な英語論文(1～2本)を読み、当該分野に関する問題群や研究方法を議論する。科学認識論、エコロジー経済学、政治経済学、人類学、社会関係資本、科学・技術・社会(STS)、エコフェミニズムなど幅広いアプローチを網羅する。

Students will read key research articles on degrowth or postgrowth every week and discuss related research agendas and methods in the classroom. The reading materials cover a variety of approaches including historical epistemology, ecological economics, political economy, anthropology, social capital, STS, ecofeminism, and others.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction: What is transition design?
- 【2】:Renewal of eco-politics in the Anthropocene
- 【3】:What is degrowth? A short history and key research agendas
- 【4】:Ecological economics approach
- 【5】:Social capital approach
- 【6】:Decolonial approach
- 【7】:Ecofeminist approach
- 【8】:Innovation without growth
- 【9】:Food for degrowth
- 【10】:Discourse theory and degrowth
- 【11】:Traditional popular culture
- 【12】:State and degrowth
- 【13】:Infrastructure and degrowth
- 【14】:The future of degrowth/post-growth research: problems and perspectives

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド*(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎週の課題論文を事前に読み、議論の準備をすること。(Students are required to read indicated reading materials and prepared for in-class discussion and presentation.)

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内プレゼンテーション:40% 議論への参加:40% 出席:20%

テキスト / Textbooks

教科書は指定しない。講師が各回に必要な課題論文を事前に配布する。(No textbook is specified. Lecturer provides reading materials every week.)

参考文献 / Readings

ラトゥーシュ, S. 脱成長 白水社クセジュ文庫 2020

松田毅・藤木篤・新川拓哉 応用哲学 昭和堂 2023

カリス, G. 他 なぜ、脱成長なのか NHK 出版 2021

Kallis, G. et al. The case for degrowth Polity 2020

ヒッケル, J. 資本主義の次に来る世界 東洋経済新報社 2023

Hickel, J. Less is more: how degrowth will save the world Penguin 2022

Schmelzer, M. et al. The future is degrowth Verso 2022

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

(1) 当該分野の英語論文を読むのに十分な英語力を有していること。(Students are expected to have a good ability of reading academic literature in English.)

(2) 当該分野に関して専門的な議論を行えるだけの基礎知識を有していること。(Students are expected to have basic knowledge about the subject topic.)

その他 / Others

国際的な研究動向の変化に応じて扱うトピックを若干変更する場合がある。